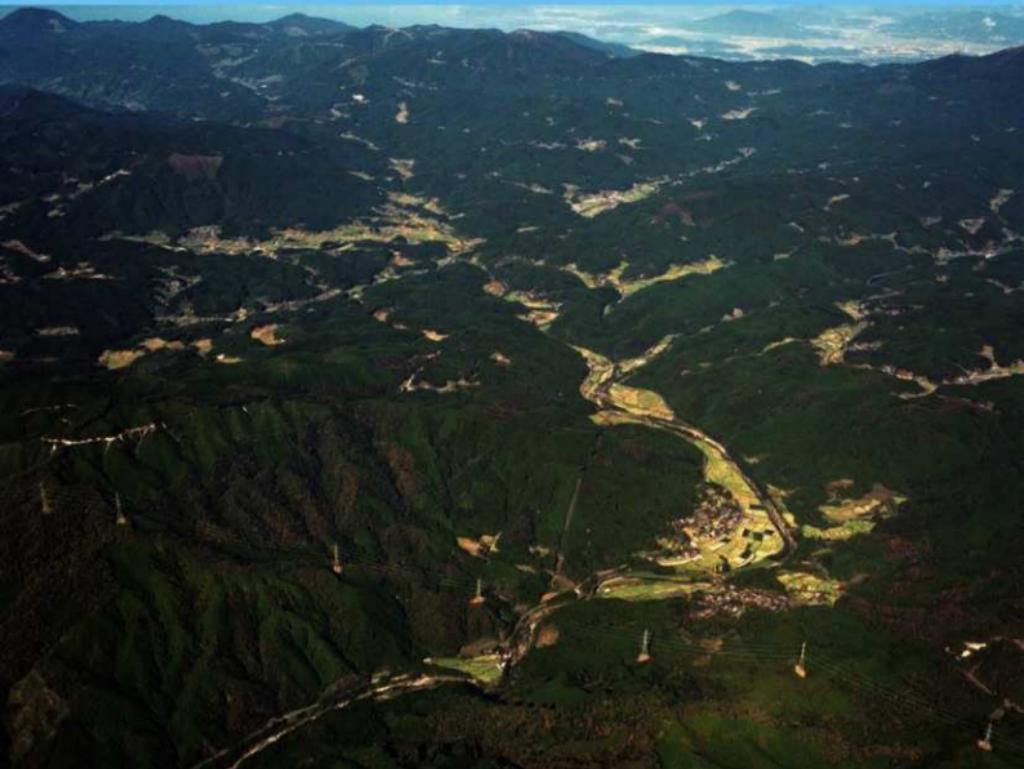


—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1 —

東畠瀬遺跡 1 大野遺跡 1

東畠瀬遺跡 1・3 区 大野遺跡 2・3 区



平成 19 (2007) 年 3 月

佐賀県教育委員会

—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1 —

東畠瀬遺跡 1

大野遺跡 1

東畠瀬遺跡 1・3 区 大野遺跡 2・3 区

平成 19 (2007) 年 3 月

佐賀県教育委員会

序

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたものです。

今回の報告は、東畠瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区に関するもので、縄文時代から弥生時代の集落跡、中世から近世の集落跡・神社跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊あたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げ、御挨拶といたします。

平成19年3月

佐賀県教育委員会

教育長 吉野健二

例　言

- 本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成12～15年度に実施した佐賀市富士町所在の東烟瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊である。
- 発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。
- 発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県土づくり本部水資源対策課）、富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）、富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）、並びに地元各位の協力を得た。
- 本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成4年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。
- 東烟瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：姉川妙子・井手稔規・内田英子・岡本君子・嬉野サツキ・江口フトセ・小田村綱代・貝野啓子
　　嘉村一美・嘉村健一・嘉村未人・嘉村ヒトミ・杵島和代・久池井朝子・坂口久美子・坂口伸己
　　坂口久江・佐保マリ子・庄島信子・立石次良・堤 繁代美・時松紗喜子・中島鶴美・中田政信
　　中原榮子・中原春己・庄島信子・西 定慶・西 里枝・納富弘子・東川福代・藤瀬サツ子・豆田正秀
　　丸山民江・無津呂明子・森 ミカノ・八段ヒフミ・吉原英輔・吉原文代・吉原松美・吉原幹夫
　　吉原美智子・浅尾日吉・新井英雄・荒木聖剛・井手口 畏・江口敏郎・江嶋 章・柿本由美子
　　古賀芳子・幸山 嶽・末次貞亮・副島 貞・副島正義・下川利信・下村静男・竹下政征・長 清一
　　鶴丸仁之・長倉眞美子・中山隼人・野口節子・野中賢之・野中静枝・秀島賢一・松藤孝幸・諸角敏子
　　山口道雄・山口裕二・山口榮次・吉岡泰士・吉成哲生

遺構実測：松尾吉高・樋口秀信・廣瀬雄一・加藤吾郎・江島賢一・大坪芳典・深澤幸江・秦 広之・田中良輔
　　前田耕輔・嬉野さつき・時松紗喜子・藤瀬サツ子・吉原文代・嬉野みつ代・野田美恵子・藤井千枝子
　　柿本由美子・長倉眞美子・（株）埋蔵文化財サポートシステム

遺構写真撮影：松尾吉高・樋口秀信・廣瀬雄一・江島賢一・大坪芳典・田中良輔・秦 広之・深澤幸江

遺跡空中写真撮影：（有）空中写真企画

遺物整理：古賀美江・佐保敦子・重田正子・柴村悦子・谷澤裕美・徳永美穂子・山口カズヨ

遺物実測：秦 広之・江島美恵子・江副朋子・大串早苗・桑原廣子・指山美江子・柴村悦子・上瀧光子

　　谷澤裕美・辻 静子・鶴田啓子・平山とし・村里育子・山口美佐子・（株）埋蔵文化財サポートシステム

整図（デジタルトレース）：濱田美紀・馬場里美・奈良佳子・江副朋子・鶴田啓子・皆越弘子・村里育子
　　（株）埋蔵文化財サポートシステム・（株）とっぴん

遺物写真撮影：小森義尚・濱田美紀・奈良佳子

写真整理・編集：濱田美紀・馬場里美・奈良佳子・奥 知恵子・皆越弘子

調査記録整理：

東烟瀬遺跡1区）縄文～弥生遺構・土器：秦 広之 縄文～弥生石器：深澤幸江

　　中世～近世遺構：前田耕輔 中世～近世遺物：徳永貞紹

東烟瀬遺跡3区）縄文～弥生土器：秦 広之 縄文～弥生石器：田中良輔 中世～近世：徳永貞紹・田中良輔

大野遺跡2・3区）縄文：秦 広之 弥生～近世：渋谷 格

6 本書の編集は濱田美紀・馬場里美・奈良佳子の協力を得て徳永貞紹が行った。執筆分担は下記のとおりである。

第1章：徳永貞紹

第2章：徳永貞紹

第3章1：徳永貞紹

第3章2：渋谷 格（土器）・徳永貞紹（遺構・石器）・濱田美紀（遺構）

第3章3：徳永貞紹

第3章4：渋谷 格（1）・徳永貞紹（2・3）

第4章1：徳永貞紹

第4章2：徳永貞紹（遺構・土器・石器）・秦 広之（遺構・土器）

第4章3：渋谷 格

第4章4：徳永貞紹（1）・渋谷 格（2）

第5章1：藤尾慎一郎・小林謙一

第5章2：パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

第5章3：藤根 久・長友純子

本書の記載方法

- 1 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字3文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する東畠瀬遺跡はHHT、大野遺跡はONNの略号で示される。本書で報告する東畠瀬遺跡3区内に八龍社跡(HRT)として周知されている近世の神社跡があり、本報告では東畠瀬遺跡の一部として報告するが、現地調査の記録類等にはHRTと記載・注記するものがある。
- 2 個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字2文字の分類記号(下記参照)と4桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡ごとに地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴・柱穴は遺物の出土したものに限り、Pの略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えていた。このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いてPA、PB、…の要領で示し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字4桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

SA：柵列・塀・土塁・石塁	SB：掘立柱建物・礎石建物	SC：石棺墓・石蓋土坑墓
SD：塀・溝・流路	SE：井戸	SF：道路
SG：園地・庭園	SH：竪穴住居・竪穴建物	SJ：豪積墓・土器棺
SK：土坑	SP：土坑墓・木棺墓	ST：古墳・その他の墳墓
SX：その他・不明遺構		

- 3 実測した出土遺物には8桁の遺物登録番号を1点ずつ付し、挿図中には各章ごとの通し番号を付した。
- 4 表で示した出土遺物の計測値は、復元値に*を付けて表現する。表中のMFは微細剥離痕ある剥片、RFは二次加工ある剥片を意味する。
- 5 平成14年4月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土座標であるため、混乱を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は旧国土座標第II系の座標北で、磁北はこれより西偏約6°30'である。

- 6 出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照したものがある。また、近世陶磁に関して佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二館長より多くの御教示を賜った。

・古代～中世前期の中国・朝鮮陶磁：

太宰府市教育委員会(2000)『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編一』太宰府市の文化財第49集

・中世後期の中国陶磁：

森田 勉(1982)「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

上田秀夫(1982)「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏(1982)「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

・中世の土器鍋：

徳永貞紹(1990)「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究VI』 日本中世土器研究会

・近世の肥前陶磁：

九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』

目次

本文目次

第1章 調査の経過	1
1 調査の経緯	1
2 調査組織	2
3 発掘調査の経過	5
第2章 位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	8
第3章 東畠瀬遺跡1・3区	13
1 東畠瀬遺跡1・3区の概要	14
2 縄文～弥生時代の遺構と遺物	17
1) 1区縄文～弥生時代の遺構と遺物	17
2) 3区縄文～弥生時代の遺構と遺物	64
3 中世～近世の遺構と遺物	100
1) 1区中世～近世の遺構と遺物	100
2) 3区八龍社跡の遺構と遺物	134
4 まとめ	150
第4章 大野遺跡2・3区	153
1 大野遺跡2・3区の概要	154
2 縄文～弥生時代の遺構と遺物	157
1) 縄文時代の遺構と遺構出土遺物	157
2) 縄文時代の遺構外出土遺物	170
3 弥生時代～近世の遺構と遺物	204
1) 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物	204
2) 中世～近世の遺構と遺物	204
4 まとめ	219
第5章 自然科学分析	221
1 佐賀市東畠瀬遺跡出土の縄文晩期土器に付着した炭化物の炭素14年代測定	223
2 東畠瀬遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定	231
3 大野遺跡・東畠瀬遺跡出土土器胎土の材料分析	235

挿図目次

図1-1	嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)	4
図2-1	東畠瀬遺跡・大野遺跡の位置 (1/800,000)	9
図2-2	嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)	10
図3-1	東畠瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)	15
図3-2	東畠瀬遺跡1・3区の位置 (1/2,000)	16
図3-3	1・3区縄文～弥生時代の遺構分布 (1/700)	18
図3-4	1区縄文～弥生時代の遺構分布詳細 (1/400)	19
図3-5	1区縄文～弥生時代の土器分布 (1/400)	20
図3-6	1区縄文～弥生時代石器の分布 (1/400)	21
図3-7	1区縄文～弥生時代遺物包含層の堆積状況 (1/80)	22
図3-8	1区縄文～弥生時代の遺構1 (1/40)	23
図3-9	1区縄文～弥生時代の遺構2 (1/40)	25
図3-10	1区縄文～弥生時代の遺構3 (1/40、1/80)	27
図3-11	1区縄文～弥生時代の遺構4 (1/40、1/20)	31
図3-12	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土1 (1/4、1/5)	32
図3-13	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土2 (1/4、1/8、1/2)	33
図3-14	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土3 (1/4、1/2)	34
図3-15	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土4 (1/4、1/2)	35
図3-16	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土5 (1/4)	36
図3-17	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土6 (1/4)	37
図3-18	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土7 (1/2)	38
図3-19	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土8 (1/4)	39
図3-20	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土9 (1/4、1/2)	40
図3-21	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土10 (1/4、1/2)	41
図3-22	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器1 (1/3、1/4)	45
図3-23	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器2 (1/4)	46
図3-24	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器3 (1/4)	47
図3-25	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器4 (1/4)	48
図3-26	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器5 (1/4)	49
図3-27	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器6 (1/4)	50
図3-28	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器7 (1/4)	51
図3-29	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器8 (1/4)	52
図3-30	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器9 (1/4)	53
図3-31	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器10 (1/4)	54
図3-32	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器11 (1/4)	55
図3-33	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器1 (1/2)	56
図3-34	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器2 (1/2)	57
図3-35	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器3 (1/2)	58
図3-36	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器4 (1/2)	59

図3-37	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器5 (1/2)	60
図3-38	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器6 (1/2)	61
図3-39	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器7 (1/4、1/2)	62
図3-40	1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器8 (1/4)	63
図3-41	3区縄文時代前期土器の分布 (1/200)	65
図3-42	3区縄文時代後期～晩期土器の分布 (1/200)	66
図3-43	3区縄文時代石器の分布 (1/200)	67
図3-44	3区縄文時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)	68
図3-45	3区縄文時代の遺構 (1/40、1/20)	69
図3-46	3区縄文～弥生時代の遺物 土器1 (1/3)	70
図3-47	3区縄文～弥生時代の遺物 土器2 (1/3)	71
図3-48	3区縄文～弥生時代の遺物 土器3 (1/4)	72
図3-49	3区縄文～弥生時代の遺物 土器4 (1/4)	73
図3-50	3区縄文～弥生時代の遺物 石器1 (1/2)	74
図3-51	3区縄文～弥生時代の遺物 石器2 (1/2)	75
図3-52	3区縄文～弥生時代の遺物 石器3 (1/2、1/3、1/4)	76
図3-53	1・3区中世～近世遺構の分布 (1/700)	101
図3-54	1区中世～近世遺構の分布 (1/400)	102
図3-55	1区中世～近世遺構の分布詳細 (1/250)	103
図3-56	1区中世の掘立柱建物1 (1/80)	104
図3-57	1区中世の掘立柱建物2 (1/80)	105
図3-58	1区中世の掘立柱建物3 (1/80)	107
図3-59	1区中世の掘立柱建物4 (1/80)	108
図3-60	1区中世の掘立柱建物5 (1/80)	109
図3-61	1区中世の掘立柱建物6・柵列1 (1/80)	111
図3-62	1区中世の柵列2 (1/80)	112
図3-63	1区中世の柵列3 (1/80)	113
図3-64	1区中世の土坑墓・土坑 (1/40)	115
図3-65	1区中世の竪穴遺構1 (1/40)	118
図3-66	1区中世の竪穴遺構2 (1/40)	119
図3-67	1区中世の竪穴遺構3 (1/40)	121
図3-68	1区中世の不明遺構 (1/60、1/40)	122
図3-69	1区中世の溝・近世の護岸状遺構1 (1/160、1/80)	124
図3-70	1区近世の護岸状遺構2 (1/80)	125
図3-71	1区中世～近世の遺物 遺構出土1 (1/3)	126
図3-72	1区中世～近世の遺物 遺構出土2 (1/3)	127
図3-73	1区中世～近世の遺物 遺構出土3 (1/3、1/2)	128
図3-74	1区中世～近世の遺物 遺構出土4 (1/3)	130
図3-75	1区中世～近世の遺物 遺構出土5 (1/3)	131
図3-76	1区中世～近世の遺物 遺構出土6 (1/3)	132
図3-77	1区中世～近世の遺物 遺構出土7 (1/2、1/3)	133
図3-78	3区八龍社跡の整地層 (1/60)	134

図3-79	3区八龍社跡の掘立柱建物	(1/80)	135		
図3-80	3区八龍社跡の出土遺物1	(1/3)	137		
図3-81	3区八龍社跡の出土遺物2	(1/3)	138		
図3-82	3区八龍社跡の出土遺物3	(1/3、1/4)	139		
図4-1	大野遺跡周辺の地形	(1/5,000)	155		
図4-2	大野遺跡2・3区の位置	(1/2,000)	156		
図4-3	2・3区縄文時代遺構の分布	(1/400)	158		
図4-4	2・3区縄文時代遺構の分布	(1/200)	159		
図4-5	2・3区縄文時代土器の分布	(1/200)	160		
図4-6	2・3区縄文時代石器の分布	(1/200)	161		
図4-7	2・3区縄文時代の土層	(1/60)	162		
図4-8	2・3区縄文時代の竪穴住居	(1/40)	163		
図4-9	2・3区縄文時代の土坑	(1/20)	165		
図4-10	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか1	(1/20)	167		
図4-11	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか2	(1/20)	169		
図4-12	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか3	(1/20)	171		
図4-13	2・3区縄文時代の遺物	遺構出土1	(1/4)	174	
図4-14	2・3区縄文時代の遺物	遺構出土2	(1/4、1/2)	175	
図4-15	2・3区縄文時代の遺物	遺構出土3	(1/2、1/4)	176	
図4-16	2・3区縄文時代の遺物	遺構出土4	(1/4、1/2)・遺構外出土土器1	(1/4)	177
図4-17	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器2	(1/4)	178	
図4-18	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器3	(1/4)	179	
図4-19	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器4	(1/4)	180	
図4-20	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器5	(1/4)	181	
図4-21	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器6	(1/4)	182	
図4-22	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器7	(1/4)	183	
図4-23	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器8	(1/4)	184	
図4-24	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器9	(1/4)	185	
図4-25	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土土器10	(1/4)・石器1	(1/2)	186
図4-26	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土石器2	(1/2)	187	
図4-27	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土石器3	(1/2)	188	
図4-28	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土石器4	(1/2)	189	
図4-29	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土石器5	(1/2)	190	
図4-30	2・3区縄文時代の遺物	遺構外出土石器6	(1/2、1/4、1/8)	191	
図4-31	2・3区古墳時代～近世遺構の分布	(1/400)	205		
図4-32	2・3区古墳時代～近世遺構の分布詳細	(1/200)	206		
図4-33	2・3区弥生～古墳時代の遺構	(1/20)・遺物	(1/3)	207	
図4-34	2・3区中世の遺構	(1/40、1/80、1/150)	208		
図4-35	2・3区近世の掘立柱建物1	(1/80)	209		
図4-36	2・3区近世の掘立柱建物2	(1/80)	211		
図4-37	2・3区近世の掘立柱建物3	(1/80)	212		
図4-38	2・3区近世の柵列	(1/80)	213		

図4-39	2・3区近世の遺構（その他）（1/40、1/80）	214
図4-40	2・3区中世～近世の遺物1（1/3）	215
図4-41	2・3区中世～近世の遺物2（1/2、1/3）	216
図5-1	暦年較正の確率密度分布図（IntCal04による）	226
図5-2	暦年較正結果	233
図5-3	遺跡周辺の地質図（地質調査所（1993）を編集）	240
図5-4	付：東畠瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料（1/4）	242

表目次

表1-1	嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	5
表3-1	1区縄文～弥生時代の遺構出土土器	77
表3-2	1区縄文～弥生時代の遺構出土石器	81
表3-3	1区縄文～弥生時代の遺構外出土土器	83
表3-4	1区縄文～弥生時代の遺構外出土石器	91
表3-5	3区縄文～弥生時代の遺構外出土土器	95
表3-6	3区縄文時代の遺構外出土石器	98
表3-7	1区中世～近世の出土遺物	140
表3-8	3区八龍社跡の出土遺物	146
表4-1	2・3区縄文時代の遺構出土土器	192
表4-2	2・3区縄文時代の遺構出土石器	193
表4-3	2・3区縄文時代の遺構外出土土器	194
表4-4	2・3区縄文時代の遺構外出土石器	201
表4-5	2・3区弥生時代～近世の遺物	218
表5-1	試料重量と炭素含有率	224
表5-2	東畠瀬遺跡（1～3）、大野遺跡（4）出土土器に付着した 炭化物の年代（Betaは歴博測定、PLDは佐賀県測定）	228
表5-3	測定試料及び処理	230
表5-4	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	231
表5-5	分析した土器試料とその詳細	234
表5-6	土器胎土中の粘土及び砂粒の特徴	238
表5-7	胎土中の岩石片の分類と組み合わせ	239

写真図版目次

写真図版 5-1 炭化物の採取箇所（囲んだところが拡大箇所）縮尺不同	224
写真図版 5-2 炭化物の顕微鏡写真（左が前処理前、右が前処理後）	226
写真図版 5-3 土器胎土および胎土中の珪藻化石の顕微鏡写真	242
写真図版 5-4 付：東畠瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料	244
写真図版 1-1 嘉瀬川ダム予定地周辺（真俯瞰合成）	247
写真図版 3-1 東畠瀬遺跡中心部遠景（西から）	248
 写真図版 3-2	249
1区北半縄文～弥生時代調査区全貌（北西から）	
1区北半縄文～弥生時代調査区全貌（南西から）	
1区北半縄文～弥生時代調査区全貌（西から）	
 写真図版 3-3	250
1区F12・13区画縄文～弥生時代の調査状況（西から）	
1区F13区画縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）	
1区縄文～弥生時代の調査状況（南から）	
1区G13区画縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）	
1区F11区画縄文～弥生時代の遺物出土状況（西から）	
1区F13区画縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）	
1区E11区画縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）	
 写真図版 3-4	251
SH1110 検出状況（北から）	
SH1110 完掘状況（北から）	
SH1110 完掘状況（西から）	
 写真図版 3-5	252
SK1139 完掘状況（南から）	
SK1135（北から）	
SK1130（西から）	
SK1101（南から）	
SK1139内の石組炉（南から）	
SK1136（西から）	
SK1118と石皿（北から）	
SK1125（南から）	
 写真図版 3-6	253
SK1113（北から）	
SK1114（南から）	
SK1137（西から）	
SK1111・1112（西から）	
SK1129（北から）	
SK1102半掘状況（西から）	
SK1122（北から）	
SK1121（西から）	
 写真図版 3-7	254
SK1123（北から）	
SK3002半掘状況（西から）	
SX1115（東から）	
SK1131・SK1132・SK1133（北から）	
SK1124（北から）	
SK3003完掘状況（東から）	
SX1119（西から）	
SX1134（西から）	
 写真図版 3-8 1区縄文～弥生土器1	255
写真図版 3-9 1区縄文～弥生土器2	256
写真図版 3-10 1区縄文～弥生土器3	257
写真図版 3-11 1区縄文～弥生土器4	258
写真図版 3-12 1区縄文～弥生土器5	259
写真図版 3-13 1区縄文～弥生土器6	260
写真図版 3-14 1区縄文～弥生土器7	261
写真図版 3-15 1区縄文石器1	262

写真図版3-16 1区縄文石器2	263		
写真図版3-17 1区縄文石器3	264		
写真図版3-18 1区縄文石器4	265		
写真図版3-19 3区縄文～弥生土器1	266		
写真図版3-20 3区縄文～弥生土器2	267		
写真図版3-21 3区縄文石器	268		
 写真図版3-22	269		
1区北半中世～近世調査区全景（北西から）	1区南半中世～近世調査区全景（北西から）		
 写真図版3-23	270		
1区北半中世遺構集中部（北西から）	1区南半中世遺構集中部（北東から）		
 写真図版3-24	271		
1区中世遺構の調査状況（北から）	SX1021（西から）	SX1016（西から）	SX1017（西から）
SP1009 青磁碗出土状況（北から）	SX1011（西から）	SX1019（東から）	SX1018（西から）
 写真図版3-25	272		
SX1015（南から）	SX1043（南から）	3区主要部の調査状況（北西から）	
八龍社跡の平坦面（西から）	SX1020（北から）	P1288 瓦器碗出土状況（東から）	
八龍社跡 SB3001（北から）	八龍社跡の遺物出土状況（西から）		
 写真図版3-26 1区中世～近世の遺物1	273		
写真図版3-27 1区中世～近世の遺物2	274		
写真図版3-28 1区中世～近世の遺物3	275		
写真図版3-29 1区中世～近世の遺物4・3区八龍社跡中世～近世の遺物1	276		
写真図版3-30 3区八龍社跡中世～近世の遺物2	277		
写真図版3-31 3区八龍社跡中世～近世の遺物3	278		
 写真図版4-1 遺跡全景	279		
 写真図版4-2	280		
SH3020（南から）	SX3019 検出状況（西から）		
 写真図版4-3	281		
縄文時代の調査状況（南から）	SH3020 上層（西から）	SX3017 半撫状況（東から）	
SX3014 検出状況（西から）	縄文時代の調査状況（南から）	SX3019（北から）	
SX3012 上層（東から）	SX3023 半撫状況（東から）		
 写真図版4-4	282		
SX3025 半撫状況（西から）	SX3026 検出状況（西から）	SX3032 検出状況（西から）	SX3032 半撫状況（西から）
SX3028 検出状況（東から）	SX3028 半撫状況（東から）	SX3029 半撫状況（西から）	SX2043（北から）
 写真図版4-5 縄文土器1	283		

写真図版 4-6 縄文土器 2	284	
写真図版 4-7 縄文土器 3	285	
写真図版 4-8 縄文土器 4	286	
写真図版 4-9 縄文土器 5	287	
写真図版 4-10 石器 1	288	
写真図版 4-11 石器 2	289	
写真図版 4-12	290	
SB2034 周辺（南西上空から）	3 区近世全景（上空から）	
写真図版 4-13	291	
SB2034（真上から）	SB3001（真上から）	
写真図版 4-14	292	
SB3002（真上から）	SB3006（真上から）	
写真図版 4-15	293	
SK3010（東から）	SD2022 土層 c-d（西から）	SA2036（南西から）
SX3005（北から）	SD2022（南東から）	SD2022 土層 e-f（西から）
SX3004（南東から）	SX3004 遺物出土状況（南東から）	
写真図版 4-16 中近世遺物	294	

第1章 調査の経緯

1 調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町（平成17年10月1日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神埼郡三瀬村が対等合併した）で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。堤高約97mの重力式コンクリートダムで、富士町大字小川・烟瀬の標高約205mの河床部分に堤体が設置される。これより上流の標高約304m等高線で囲まれる範囲がダムの貯水池となり、湛水面積は約2.7km²である。

嘉瀬川ダム建設事業は、昭和28年の西日本大水害を契機として、昭和41年の予備調査を元に昭和43年の北部九州水資源開発協議会で嘉瀬川が開発候補となつたのを受けて、昭和48年に嘉瀬川水系工事実施基本計画が策定され、同年の嘉瀬川ダム調査事務所設置によって実施計画調査が開始された。この間、昭和44年には水没予定の東烟瀬・西烟瀬集落から富士町長・町議会議長あてに建設絶対反対の陳情があり、昭和48年には関係地区住民による嘉瀬川ダム建設反対同盟が発足して佐賀県知事と当時の建設省にダム建設絶対反対の陳情がなされたが、昭和58年にダム建設予定地詳細調査についての協定書が締結されたことから事業が動き出し、昭和59年には詳細調査の現地立ち入り、昭和60～61年には地質調査が行われた。

昭和63年には嘉瀬川ダム事務工事事務所が設置されて建設事業が着手され、平成2年の用地調査・補償調査についての協定書締結や環境評価書公告・縦覧を経て、平成3年には建設反対等対策協議会が「建設反対等」を削除して嘉瀬川ダム対策協議会に名称変更した。平成4年1月に嘉瀬川ダム基本計画が告示されると、同年12月には工事用道路の建設が始まり、平成5年には水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画が決定され、平成6年には付替道路工事が着手された。平成7年には損失補償基準が妥結調印されたことによって事業の進捗が加速し、平成17年には嘉瀬川ダム本体工事が着工し、平成24年春に完成の予定となっている。

嘉瀬川ダム事業に伴う文化財の取り扱いについては、用地交渉の本格化に合わせて協議が進められ、埋蔵文化財以外の民俗・民話・方言・建造物・石造物・古文書等の有形・無形の文化財に関しては、当時の富士町教育委員会が「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会」を組織して平成8年度から平成11年度にかけて調査を実施し、その成果は平成12年3月に『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書—佐賀県佐賀郡富士町』として刊行された。

埋蔵文化財の調査は、平成4年度から富士町教育委員会と佐賀県教育委員会による確認調査が随時行われてきたが、平成7年度の付替国道への進入路工事に伴う九郎遺跡1区の発掘調査を皮切りに、平成8年度には大野代替地造成に伴う大野遺跡1区、平成9年度には工事用道路建設に伴う西烟瀬遺跡1区の発掘調査が富士町教育委員会により行われた。平成11年度から平成12年度にかけて佐賀県教育委員会が嘉瀬川ダム水没地区内の確認調査を実施し、一部の地区を除いて水没地区内における埋蔵文化財の遺存状況がおおむね把握できた（図1-1）。

これを元にダム事業に伴う各種工事と埋蔵文化財発掘調査の調整が行われ、平成12年度以降、佐賀県教育委員会が嘉瀬川ダム工事事務所からの委託を受けて、水没地区内及び嘉瀬川ダム工事事務所所管事業に関わる地区について記録保存のための発掘調査を進めている。当初は現場1班の体制で発掘調査を開始したが、本体工事に伴う原石山掘削やプラント建設などにより作業量の著しい増大が予想されたことから、平成15年度からは現場3班に体制を強化して対応し、現在に至っている。現地での発掘調査と並行して調査終了地区的記録・出土品整理を行ってきたが、平成15年度から本格的な整理作業に着手し、平成17～18年度に今回報告分の報告書作成を行った。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊目となるもので、東烟瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の2地区を収録した。

2 調査組織

調査主体	佐賀県教育委員会		
調査協力	国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所 富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会） 佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室 （現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課） 富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課） 地元各位		
調査組織（平成 12～18 年度）			
総括	佐賀県教育委員会 教育長	川久保善明（平成 12 年度）	
	佐賀県教育委員会 教育長	松尾正廣（平成 12～15 年度）	
	佐賀県教育委員会 教育長	吉野健二（平成 15～18 年度）	
	佐賀県教育委員会 副教育長	溝上雅章（平成 12～15 年度）	
	佐賀県教育委員会 副教育長	中野哲太郎（平成 16～17 年度）	
	佐賀県教育委員会 副教育長	古谷 宏（平成 18 年度）	
	佐賀県教育庁文化財課長	佛坂勝男（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課長	佛坂勝男（平成 13～14 年度）	
	佐賀県教育庁文化課長	香月博子（平成 15 年度）	
	佐賀県教育庁文化課長	初村健二（平成 16～17 年度）	
	佐賀県教育庁文化課長	松永光生（平成 18 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 参事	大橋康二（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 参事	東中川忠美（平成 17～18 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 副課長	東島桂子（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 副課長	東中川忠美（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 副課長	天本洋一（平成 13～16 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 副課長	松本誠一（平成 17～18 年度）	
調査総括	佐賀県教育庁文化課 企画調整主査	松尾吉高（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 専門員	松尾吉高（平成 13～15 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主幹	西田和己（平成 16 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主幹	森田孝志（平成 18 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 係長	立石泰久（平成 17 年度）	
調査員	佐賀県教育庁文化課 主査	樋口秀信（平成 12 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主査	樋口秀信（平成 13～16 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主査	廣瀬雄一（平成 15 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主査	徳永貞紹（平成 15～18 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 指導主事	加藤吾郎（平成 16～18 年度）	
	佐賀県教育庁文化課 主査	細川金也（平成 17 年度）	

佐賀県教育庁文化課 主査	渋谷 格（平成 17～18 年度）
佐賀県教育庁文化財課 曜託	江島賢一（平成 12 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	大坪芳典（平成 13～14 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	深澤幸江（平成 13～15 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	秦 広之（平成 15～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	前田耕輔（平成 15～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	田中良輔（平成 15～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 曜託	市田佳奈子（平成 16～18 年度）
事務局 佐賀県教育庁文化課長	内田真一郎（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 参事	戸塚洋輔（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 参事	森 幸一郎（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	濱田美紀（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	宮地洋三（平成 12 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	堤 博文（平成 13 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	中園一次（平成 14～15 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	山口康郎（平成 12～14 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	川久保弘二郎（平成 15 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	福山正廣（平成 16 年度）
佐賀県教育庁文化課 副課長	中村 信（平成 17～18 年度）
佐賀県教育庁文化課 専門員	津野建夫（平成 12 年度）
佐賀県教育庁文化課 専門員	天本茂春（平成 13～14 年度）
佐賀県教育庁文化課 主幹	佐伯勇次（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 総務担当係長	中原吉朗（平成 16～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	相川ミエ子（平成 12～13 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	島田一幸（平成 13～15 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	野口佐智子（平成 14～16 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	今村早人（平成 15 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	碇 一浩（平成 16～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	平尾和子（平成 17～18 年度）
佐賀県教育庁文化課 主査	黒木文好（平成 17～18 年度）
佐賀県教育庁文化課 副主査	山口徹也（平成 18 年度）
佐賀県教育庁文化課 主事	毎熊 近（平成 12 年度）
佐賀県教育庁文化課 主事	陶山 優（平成 12～14 年度）
佐賀県教育庁文化課 主事	坂口豪史（平成 14～16 年度）
佐賀県教育庁文化課 主事	山口徹也（平成 15～17 年度）
佐賀県教育庁文化課 主事	吉田顕徳（平成 17～18 年度）

調査指導・助言

文化庁記念物課 佐賀県文化財保護審議会

大橋康二 岡田康博 片山まび 田崎博之 玉井哲雄 藤尾慎一郎 古川末由（五十音順）

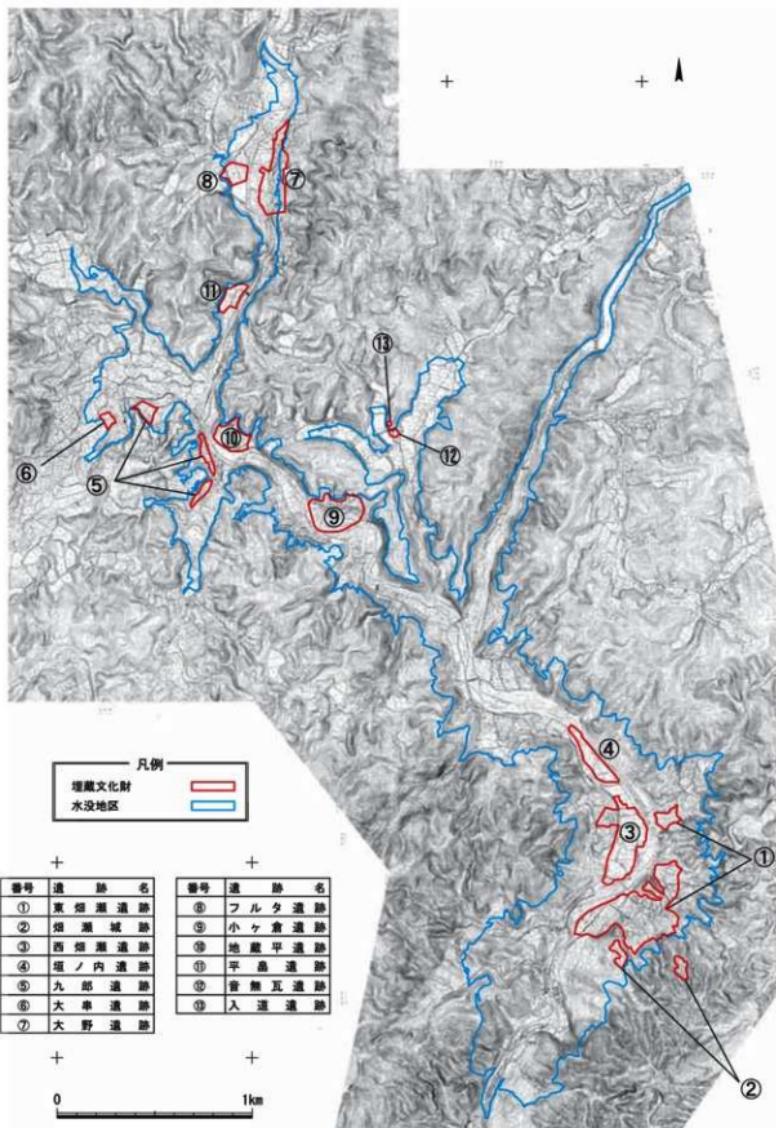


図1-1 嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)

3 発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会（当時）により平成7～9年度に断続的に行われたが、平成11～12年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成12年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴って発掘調査が必要な遺跡は、現時点で13遺跡にのぼり（図1-1、表1-1）、平成18年度までに東烟瀬遺跡1～8区、煙瀬城跡2区、西烟瀬遺跡2～7区、九郎遺跡1B～3区、大串遺跡1区、大野遺跡2～4区、小ヶ倉遺跡、地祇遺跡1区を調査し、対象面積の5割近くについて終了している。

東烟瀬遺跡1区の調査は平成12～14年度にかけて、東烟瀬遺跡3区の調査は平成15年度に実施した。

1区では上層の中世～近世の遺構面の調査を行った後、下層の縄文～弥生時代の遺構・遺物包含層を調査したが、廃土置き場の確保等の関係で2段階の手順を踏み、北東側半分の調査を先行させて下層まで終了した後、反転して南西側半分の調査を行った。そのため、上層・下層とも1区全体の遺構分布を写真撮影することができなかった。調査時には上層遺構に3桁の構造番号を付け、下層遺構には構造略号の前に「J」を付けて「J SK 001」などと表記していたが、整理・報告にあたっては遺構番号を4桁に統一したうえで千の位で地区名を示し、百の位は上層遺構が0、下層遺構が1として、上層遺構であればS 0 1 0 0 0、下層遺構であればS 0 1 1 0 0とした。

3区は、1区を挟んで南東側にあたる山裾の3A区と、北西側にあたる川寄りの3B区からなるが、3B区では嘉瀬川の氾濫によると思われる厚い砂層が堆積していて遺構が確認されず、遺構は3A区のみに遺存していた。3A区南側の八龍社跡では中世～近世の土器器皿・小皿多数をはじめとする遺物が出土し、神社の社殿と考えられる掘立柱建物が1棟検出された。八龍社跡は近世の神社跡として周知されていたが、隣接地と一体的に調査した関係で東烟瀬遺跡3区の中に含めた。調査時や整理段階の記録の一部には八龍社跡の略号H R Tを用いたものがある。3A区の下層では縄文時代前期と後～晚期を主とする遺物がやまとまって出土したが、1区に比べて分布も狭く、包含層の状況はあまり良好ではなかった。この他に近世末～近代の石組による炭窯と山裾を利用した竈も検出されたが、本報告では割愛した。

なお、3区と同年度に調査した2区は、東烟瀬集落北側の「ウランヤマ」と称される尾根を隔てた北側の水田部一帯であり、縄文時代と近世の遺物が少量出土したが、明確な遺構は確認されなかった。

表1-1 嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	略号	対象面積 (m ²)	遺跡の時代	遺跡の種類	番号	遺跡名	略号	対象面積 (m ²)	遺跡の時代	遺跡の種類
①	東烟瀬遺跡	HHT	121,300	縄文～近世	集落・城館	⑧	フルタ遺跡	FRT	26,600	中世	集落
②	煙瀬城跡	HFT	12,800	中世～近世	城跡・墓地	⑨	小ヶ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器～近世	集落
③	西烟瀬遺跡	NHT	58,800	縄文～近世	集落	⑩	地祇平遺跡	IJD	20,000	旧石器～縄文	集落
④	川ノ内遺跡	KNU	21,000	弥生～古墳	集落	⑪	平島遺跡	HBT	13,000	縄文	集落
⑤	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器～近世	集落	⑫	音無丘頂跡	OIN	1,500	近世	生産遺跡
⑥	大串遺跡	OOK	3,000	中世	集落	⑬	人道遺跡	NYD	400	旧石器～縄文	集落
⑦	大野遺跡	OON	35,200	縄文～近世	集落・官衙						

東烟瀬遺跡1区

略号: HHT 1

所在地: 佐賀県佐賀市富士町大字大字閑屋字鶴

調査対象面積: 6,000m²

調査担当: 松尾吉高・江島賢一（平成12年度）、樋口秀信・大坪芳典・深澤幸江（平成13～14年度）

調査の経過

東畠瀬遺跡3区（八龍社跡を含む）

略号：HHT 3 (HRT を含む)

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴

調査対象面積：12,000m²

調査担当：樋口秀信・田中良輔（平成 15 年度）

大野遺跡2区の調査は平成 12 年度に、大野遺跡3区の調査は平成 15 年度に実施した。

2 区では官的施設を思わせる近世初期の企画的な建物群を調査したが、調査区内で縄文時代の遺物が多数見られたため、試掘坑を設定して下層を探索したところ縄文時代の遺構・遺物包含層が確認されたため、上層の調査後に引き続き下層の調査を行った。

3 区は 2 区の隣接地であり、着手前に 2 区で調査した遺構の広がりが想定できていたため、遺構・遺物の数が多くなったわりに順調に調査を進めることができた。2 区と 3 区は上層・下層とも一連の遺構群としてまとまっており、下層の遺構については 3 区にその中心部があることが明らかになった。

なお、平成 8 年度に大野代替地造成に伴って調査された 1 区では中世の集落跡と縄文時代の遺物包含層などが確認されているが、2・3 区からは離れた位置にあり 4 区と連なる遺構群と考えられる。

大野遺跡2区

略号：OON 2

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字大野字一本松

調査対象面積：2,000m²

調査担当：松尾吉高・江島賢一（平成 12 年度）

大野遺跡3区

略号：OON 3

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字下無津呂字一本松

調査対象面積：500m²

調査担当：廣瀬雄一・秦 広之（平成 15 年度）

調査記録や出土遺物の整理は発掘調査と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成 17 年度に着手し、平成 18 年度に本書を作成刊行した。

第1章 参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所（2003）「嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み」 国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書—佐賀県佐賀郡富士町一」 富士町教育委員会

富士町史編さん委員会（2000）「富士町史」上・下巻 富士町

第2章 位置と環境

1 地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす脊振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、天河川、名尾川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前国一宮河上神社のあたりで山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ、幹線流路延長 57km、流域面積 368km²の一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北山ダムが昭和 32（1957）年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設中のものが、嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には古湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町（旧佐賀郡富士町）は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市早良区と、東は佐賀市三瀬村（旧神埼郡三瀬村）・佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）と、西は唐津市七山・厳木町（旧東松浦郡七山村・嚴木町）と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東経 130° 12' 03"、北緯 33° 22' 58" に位置し、東西 10km、南北 17km、面積 143.25km² である。気候は、温暖潤湿な佐賀県内の中でも平均気温が低く、降水量は多い。山間部特有の日照時間の短さともあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・雷山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開析された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から竜岳を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ伊島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側の神埼郡脊振町（旧神埼郡脊振村）と大小の谷や峠を介して連続しており、このような一体化的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圈を育んできた。

表層地質は中世代白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壌は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壌に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壌、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壌や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壌などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム（北山湖）を中心とする一带には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四紀更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の 8 割以上が森林で、更にその 8 割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高 900 m 級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ（カチガラス）は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

2 歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心概述する。

旧石器時代の遺跡は、地蔵平遺跡、小ヶ倉遺跡、九郎遺跡などでナイフ形石器などの示準石器が出土している。特に地蔵平遺跡では以前から旧石器時代～縄文時代の遺物が多く採集されていて、この地域の拠点的な遺跡と目されていたが、平成18年度に着手した発掘調査でもナイフ形石器や角錐状石器などナイフ形石器文化期の資料だけでなく、旧石器時代終末から縄文時代草創期の細石刃石核・細石刃なども出土しており、今後の調査成果が期待される。周辺地域まで目を向けると、唐津市七山の馬川谷口遺跡ではナイフ形石器文化期から細石刃文化期の多数の遺物が、佐賀市三瀬町田ノ宇曾（床アヨ）遺跡（14）でもナイフ形石器・彫器が出土しており、旧石器時代の遺跡は脊振山地山間部一帯に広く分布するものと思われる。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、これまで工事の際に偶然出土したものや採集資料がほとんどで実態がよくわかつていなかったが、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が竪穴住居や灰跡などの遺構と共に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。早期前葉の資料としては、小ヶ倉遺跡で円筒形刺突文・押引文土器や石槍が出土しているほか、西畠瀬遺跡の尖底条痕文土器も草創期末～早期前葉の可能性がある。早期中葉では、貝野遺跡（15）、中原遺跡（16）、九郎遺跡などで稲荷山式～田村式期の遺物が出土している。早期後葉では、九郎遺跡や西畠瀬遺跡で塞ノ神A式・B式・轟A式土器などが出土している。前期では九郎遺跡や西畠瀬遺跡で轟B式・西唐津式・曾畠式土器があり、西畠瀬遺跡では鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）と見られる橙色土を含む層が部分的にではあるが広がっていて、下層から塞ノ神B式・轟A式期、上層から轟B式・曾畠式期の遺構・遺物が確認されている。早期～前期の資料は、採集品も含めて山間部各地で比較的多く知られ、佐賀市三瀬村大塙遺跡（17）で集石遺構や土坑と共に早期～前期の資料が出土しているほか、同村牛田元（狂言平）遺跡（18）などで押型文土器、同村宿北方遺跡（19）では1個体分の曾畠式土器が採集されている。中期～後期前葉の資料はやや少ないが、九郎遺跡で船元式・西畠瀬遺跡で春日式・阿高式系土器が出土している。後期中葉～後葉では、西畠瀬遺跡で鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土し、大野遺跡では三万田式期の集落で竪穴住居などの遺構を検出している（本書第4章）。また、三瀬町吉野山遺跡（20）でも北久根山式～太郎迫式期頃の遺物が多数採集されている。縄文時代晩期では、東畠瀬遺跡で縄文時代後期末～弥生時代前期まで集落が断続的に営まれているほか（本書第3章）、西畠瀬遺跡でも黒川式期の遺物群が出土している。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稻耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、弥生時代の遺跡数は極端に減少している。それでも、近年の埋蔵文化財調査の進展によって、これまで不明であった山間部の弥生時代～古代の様相が少しずつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畠瀬遺跡で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨製石器は検出されておらず、縄文時代的な生活が続いているようである（本書第3章）。西畠瀬遺跡では中期と後期の小児喪棺墓が1基ずつあり、1点ではあるが磨製槌揃具（石包丁）も見つかっている。

古墳時代では、古墳はもちろん竪穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見されるので、居住密度は低いものの無人の原野だった訳ではないようである。西畠瀬では完形の土師器表と脚部を折った土師器高杯2点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され、大野遺跡でも土坑が確認されている（本書第4章）。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われ、嘉瀬川沿いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川上流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、史料や遺跡



図2-1 東畠瀬遺跡・大野遺跡の位置 (1/800,000) 国土地理院の数値地図 200000 (地図画像)『日本一三』を使用

遺跡の位置と環境

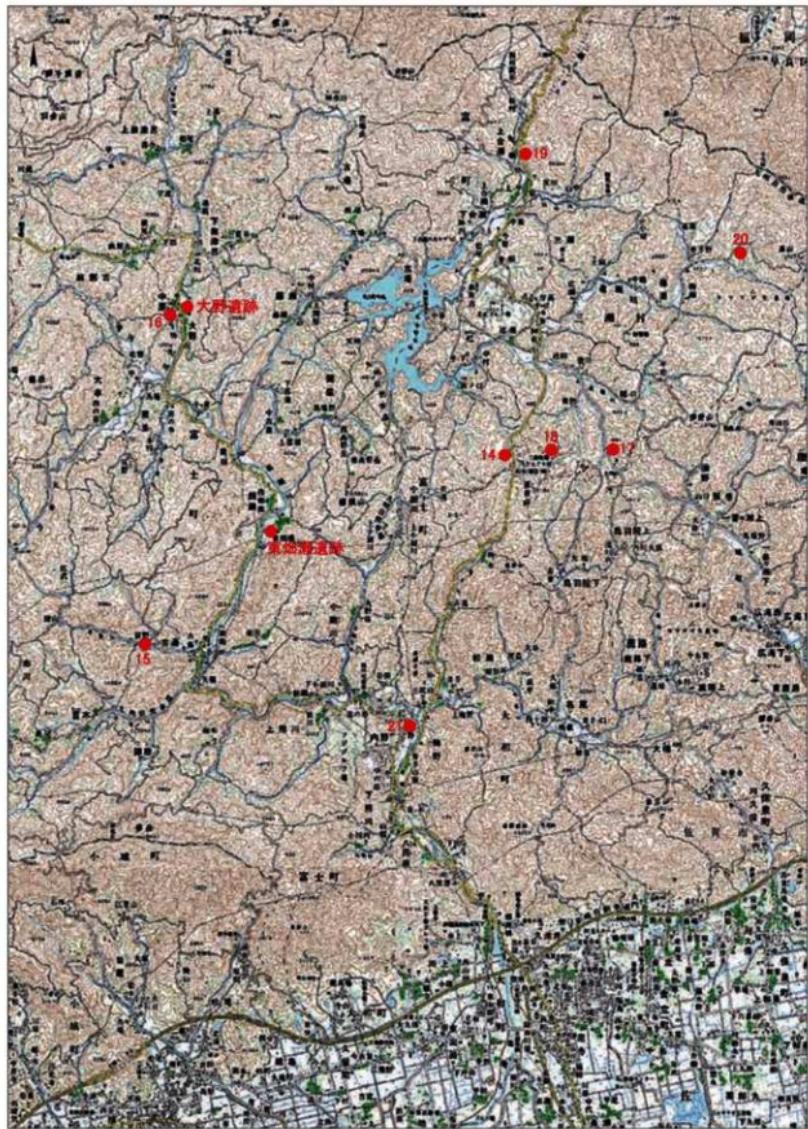


図2-2 嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000) 国土地理院の数値地図 25,000 (地図画像)『福岡・熊本』を使用

で具体的な様相を知る手がかりは皆無に近い。僅かに、内野遺跡（21）で平安時代前期頃の遺物が出土している程度である。

古代末以降においても、富士町域の各所がどの莊園領に含まれていたかを示すことが難しいが、少なくとも肥前安富庄領があったことは史料上で確認できる。南北朝初期の暦応2（1339）年4月25日石志定阿譲状案（石志家文書）は中世前期の富士町域を知る貴重な史料で、松浦党一族の石志氏が恩賜として配分された所領を子孫に伝えたものであるが、その中に「安富庄内烟瀬村、同村内火桶」と「安富庄烟瀬村内上於湖河」が記されている。肥前安富庄に関しては宮武（1991）に詳しいが、佐賀郡一帯に散在的に散らばる莊領のうち、富士町烟瀬・上小湖川、佐賀市大和町東山田・佐保・久留間、佐賀郡久保田町北部で確認される遺称地については嘉瀬川流域に分布している点が注目される。古代末～中世前期の遺跡としては、東烟瀬遺跡、西烟瀬遺跡、九郎遺跡、大野遺跡で屋敷地などの遺構が見つかっていて、特に東烟瀬・西烟瀬遺跡の屋敷地は安富庄烟瀬村との関連で重要である。西烟瀬遺跡からは越州窯系青磁や高麗無釉陶器などの遺物が出土して平安時代中期まで遡る可能性があるのに対し、東烟瀬遺跡の屋敷地は鎌倉時代前後の短期間にはほぼ限られている（本書第3章）。

安富烟瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録（杠家文書）の「安富烟瀬山」や東烟瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄烟瀬山」などで確認できるが、中世後期には烟瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在地勢力の台頭によって莊園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡（6）では15世紀ごろの在地有力層の屋敷地と思われる遺構群が見つかっており、当時における山内の実情を反映したものと考えられる。

戦国期に至ると、神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、三瀬城を本城として佐賀の龍造寺隆信と朝を競った。富士町域にも烟瀬城、熊川城、谷田城などを構えたとされるが、その内容は明らかになっていない。このうち勝利が鶴居所とした烟瀬城に比定される東烟瀬地区の城郭遺構について山頂部の一部が調査されているが（富士町教委2005）、恒常に生活を営んだ痕跡は認められなかった。東烟瀬遺跡における調査所見では、山麓部に戦国期の土塁を作った居館とその背後に構えられた城郭遺構が見つかっており、「烟瀬城」の実態は居館を核として一帯の城郭遺構まで含めたものの総体であろう。

勝利の嫡子長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂の甥を養子に迎えた。神代氏は小城芦刈、更に佐嘉川久保へと転封されたが、川久保邑主として1万石の大身を保持した。山内は鍋島氏の所管となつたが、元和3（1617）年の小城鍋島家（小城支藩）創設にあたって嘉瀬川以西の地域が分け与えられた。これ以降、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続いた。佐賀山内郷では松瀬三反田に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所の遺構は江戸時代後期のものであるが、その設置時期や詳しい経緯についてはよく判っていない。城郭を思わせる本格的な石垣造りの遺構であり、単に一支藩が山間部の経営のために設けた代官所としては破格の規模である。隣接との国境に近い軍事上の重要な地であることが、その背景として想定される。史料では確認できないが、本藩の意向も反映されているのではないだろうか。隣接する大野遺跡では近世初期の役所的施設と見られる建物群が検出されており（本書第4章）、これが大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの軒並曲折を経て、明治16（1883）年に現在の佐賀県が成立した。これに先立つ明治11（1878）年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小湖川村、閑屋村の2ヶ村、小城郡鎌原村、菖木村、市川村、杉山村、大串村、栗並村、大野村、野村、中原村、麻那古村、上無津呂村、下無津呂村、上合瀬村、下合瀬村、古場村、藤瀬村、烟瀬村、古湯村、上熊川村、内野村、下熊川村の20ヶ村が行政単位となっていたが、明治22（1889）年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小湖村と小城郡北山村・南山村の3村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。

昭和31（1956）年には佐賀郡小湖村と小城郡北山村・南山村の3村が対等合併して富士村となり、昭和41（1966）

年10月1日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その39年後にあたる平成17(2005)年10月1日に、佐賀市・
佐賀郡大和町・同郡諸富町・神埼郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となり、今に至っている。

第2章 参考・引用文献

- 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会(2000)「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書」 富士町教育委員会
佐賀県企画室(1979)「土地分類基本調査 津崎」
佐賀県教育委員会(1964)「佐賀県の遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第13集
佐賀県教育委員会(1997)「佐賀県の地質鉱物」 佐賀県文化財調査報告書第134集
佐賀県教育庁文化財課(1997)「九郎瀬跡1区」「佐賀県文化財年報2」
佐賀県教育庁文化財課(1998)「大野遺跡(1区)」「佐賀県文化財年報3」
佐賀県教育庁文化財課(1999)「西烟瀬遺跡(1区)」「佐賀県文化財年報4」
佐賀県教育庁文化課(2002)「西烟瀬遺跡(2区)」「佐賀県文化財年報7」
佐賀県教育庁文化課(2003a)「西烟瀬遺跡(3区)」「佐賀県文化財年報8」
佐賀県教育庁文化課(2003b)「大串遺跡(1区)」「佐賀県文化財年報8」
佐賀県教育庁文化課(2004)「西烟瀬遺跡(4区)」「佐賀県文化財年報9」
佐賀県教育庁文化課(2005a)「東烟瀬遺跡(4区)」「佐賀県文化財年報10」
佐賀県教育庁文化課(2005b)「東烟瀬遺跡(2区)」「佐賀県文化財年報10」
佐賀県教育庁文化課(2005c)「西烟瀬遺跡(4区)」「佐賀県文化財年報10」
佐賀県教育庁文化課(2005d)「西烟瀬遺跡(5区)」「佐賀県文化財年報10」
佐賀県教育庁文化課(2006a)「東烟瀬遺跡(5・6・7区)」「佐賀県文化財年報11」
佐賀県教育庁文化課(2006b)「西烟瀬遺跡(5区)」「佐賀県文化財年報11」
佐賀県立図書館編(1986)「佐賀県史料集成古文書編」第2巻 佐賀県立図書館
七田忠志(1949)「三瀬村出土の繩文式土器」 佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告 第8編 佐賀県教育委員会
徳永真紀(1995)「神埼郡三瀬村ノリ宇曾遺跡の旧石器時代遺物」 佐賀考古誌会話
七山村教育委員会(2001)「馬川谷口遺跡1区・2区」 七山村文化財調査報告第2集
全国神代ゆかりの会(1980)「神代家伝記」「神代家とその一族」 1号
富士町教育委員会(1999)「田野遺跡1区」 富士町文化財調査報告書第1集
富士町教育委員会(2003a)「富士町内遺跡発掘調査報告書 平成7年度～13年度」 富士町文化財調査報告書第2集
富士町教育委員会(2003b)「中原遺跡1区」 富士町文化財調査報告書第3集
富士町教育委員会(2005)「頃瀬城跡」 富士町文化財調査報告書第4集
富士町誌編さん委員会(1968)「富士町誌」 富士町教育委員会
富士町史編さん委員会(2000)「富士町史」 上巻・下巻 富士町
三瀬村誌編纂委員会(1977)「三瀬村誌」 三瀬村
宮武正登(1991)「本村遺跡をめぐる中世世界—安富田内村落としての位置付け—」 「本村遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第102集 佐賀県教育委員会

第3章 東畠瀬遺跡1・3区

第3章 東畠瀬遺跡1・3区

1 東畠瀬遺跡1・3区の概要

東畠瀬遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字園屋字鶴・辻・田野々・平・川向に所在する（図3-1）。

東畠瀬地区は、嘉瀬川中流域の左岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで北西向きの山麓部斜面一帯に集落が展開していた。当地には当地域を代表する戦国武将である神代勝利が隠居所とした畠瀬城があったとされ、勝利の墓や菩提寺である宗源院がある。嘉瀬川を挟んだ対岸には西畠瀬地区があり、東西の畠瀬地区は、藩政期には東畠瀬が佐賀本藩領、西畠瀬が小城鍋島家（小城支藩）領に属し、昭和31（1956）年に旧富士村として合併するまで佐賀郡小関村と小城郡南山村に分かれていた。現在は国道323号線が古湯地区から西畠瀬を経て栗並地区に続いているが、近世以前の基幹道は小崩川地区から峰を越えて東畠瀬に入り、嘉瀬川を渡って西畠瀬に向かうという経路であったことが、『正保四年肥前一国絵図』などからも読み取れる。

東畠瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴いこれまでに1～8区の発掘調査を実施し、縄文時代～弥生時代の集落跡・遺物包含層、中世の集落跡・城館跡、近世の寺院跡・集落跡などを確認している。なかでも神代勝利・長良が拠った畠瀬城そのものと考えられる戦国期の城館や、戦国期から現代に至る寺院が何面も重なって遺存していた宗源院の調査などで重要な成果があがっている。

今回報告する1・3区は、旧東畠瀬集落があった字鶴の範囲にあり、遺跡の南西端部にあたる。嘉瀬川に面した河岸段丘から山裾にかけての標高約233～240mの区域である（図3-2）。

1区は、嘉瀬川の河岸段丘上に位置する畠地一帯で、南東側から南西側には山裾が迫り、北東側から北西側にかけては一段低い水田部であるため、北東～南西方向のほぼ長方形に区切られた場所であった。3区は2つの区域から成り、1区南東の山裾から1区北東の平坦地を3A区、1区北西の嘉瀬川に面した低地を3B区とするが、3B区では表土下に嘉瀬川の氾濫による厚い砂層が堆積していて遺構が確認されなかったため、以下では3A区についてのみ報告する。

1区では縄文～弥生時代の遺構と中世～近世の遺構を上下に重なる遺構として検出し、3区では縄文～弥生時代の遺構・遺物包含層と中世～近世の遺構・遺物包含層をやや異なる場所で検出した。

1区下層で検出した縄文～弥生時代の遺構は、竪穴住居1棟、石壇炉1基、土坑25基、不整形落ち込み2基、焼土・炭化物集中部1箇所、土器類集中部1箇所があり、遺構内や遺物包含層から縄文時代後期末～弥生時代前期の遺物が出土した。同時期の平野部や海岸部における集落とは石器組成などで大きく異なっており、弥生時代開始期前后に山間部で営まれた集落の様相を知る上で貴重な資料である。

3区で検出した縄文～弥生時代の遺構は、3A区北側の緩斜面に位置する土坑2基と焼窯集積遺構1基で、前者は後期～晩期の遺物集中部、後者は前期の遺物集中部に接して検出した。

1区上層では、中世前期の屋敷地と近世の護岸状遺構を調査した。中世前期の遺構は掘立柱建物8棟、柵列11条、土坑墓1基、土坑12基、竪穴遺構6基などがある。遺構分布の中心は1区の南西部寄りにあり、北東部ではほとんど遺構が認められなかった。南端部と西辺部は段落ちとなってこれより南・西側には遺構が広がらないことがから、屋敷地の主体部は調査区の中ではほぼ収まるものと見られる。1区西辺部の段落ちは、礫を積んだり置いたりして護岸状に造成されており、出土遺物から畠・水田の維持に関わる近世初期の所産と考えられる。

3区では、3A区南西部にあたる山際の狭小な平坦地で、八龍社の跡と伝える中世～近世の神社跡を調査した。造成された平坦地とその落ち際から中世～近世の土器・小皿を主とする遺物が多数出土し、中世～近世のある段階における八龍社の社殿と考えられる掘立柱建物1棟を検出した。

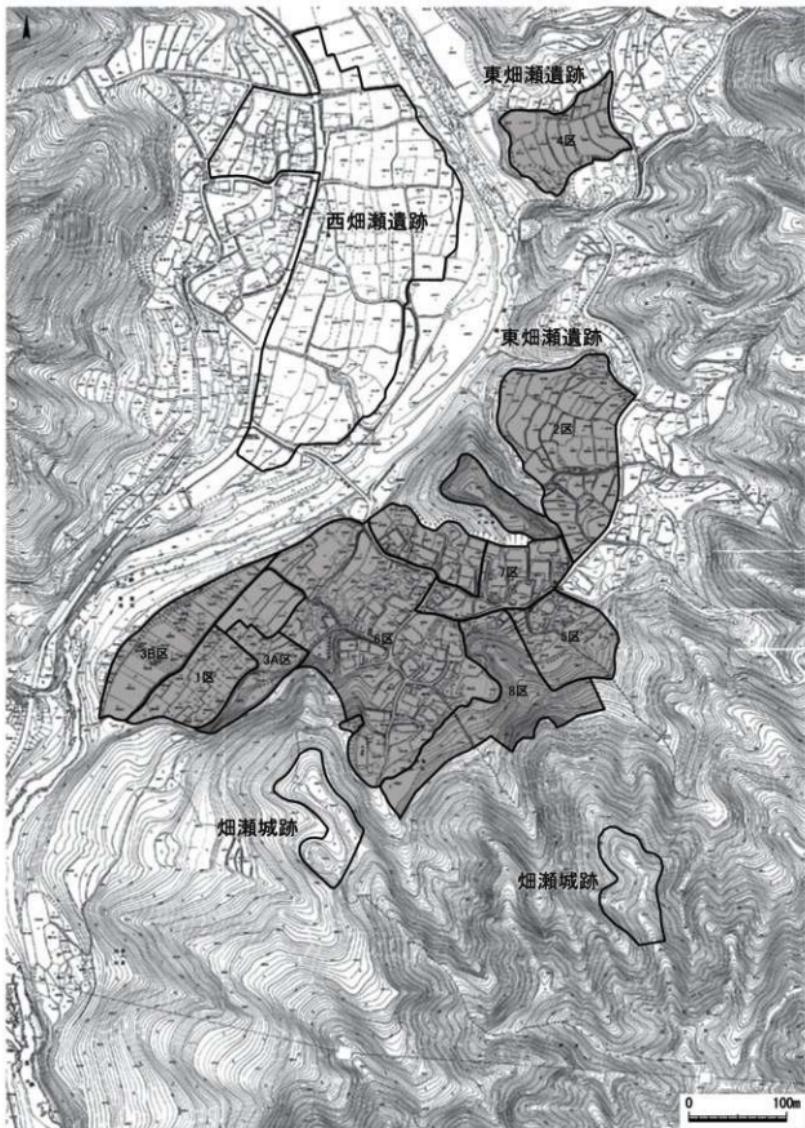


図3-1 東畠瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)

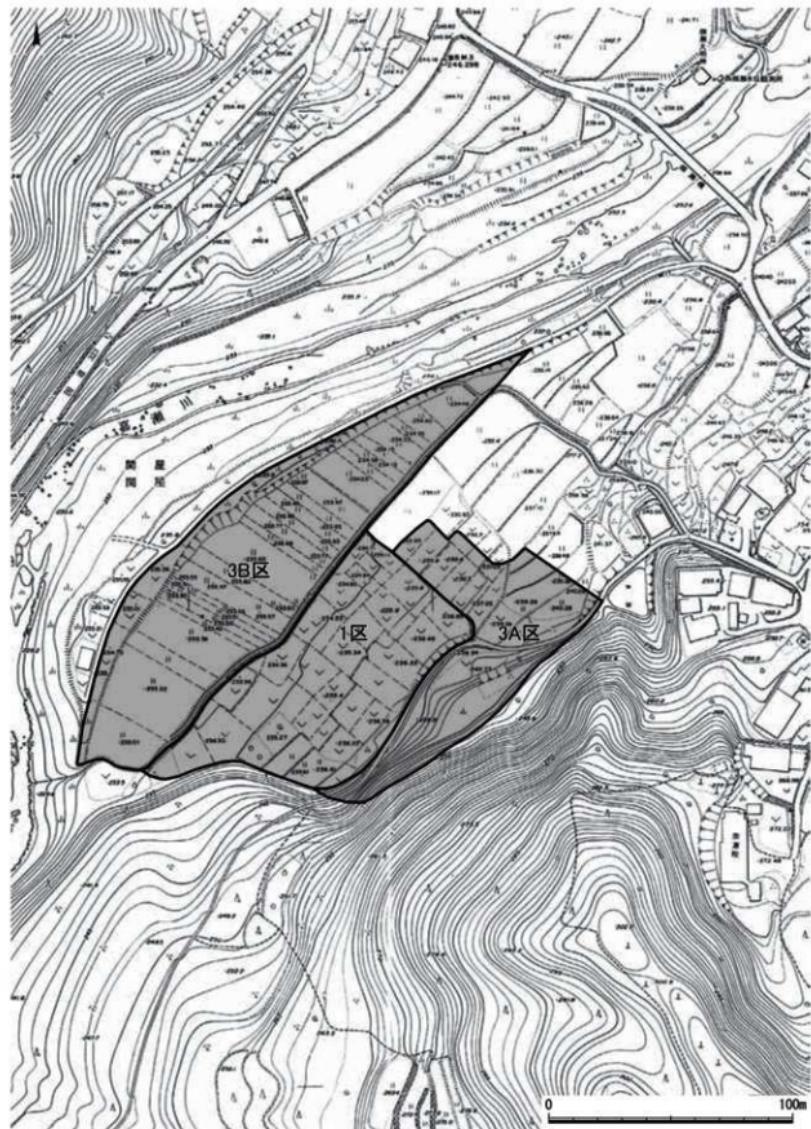


図3-2 東畠瀬遺跡1・3区の位置 (1/2,000)

2 繩文～弥生時代の遺構と遺物

1) 1区縄文～弥生時代の遺構と遺物

1区で縄文～弥生時代の遺構としたものは、竪穴住居1棟、石圓炉1基、土坑25基、不整形落ち込み2基、焼土・炭化物集中部1箇所、土器片集中部1箇所がある。これらの遺構は、1区北側のSH1110等の一群、1区中央部のSX1131等の一群、1区南側のSX1139等の一群の大きく3つにまとまって分布する。

SX1110（図3-8）

1区北側のF15区画に位置する。包含層の掘り下げ時に北側を削平してしまったが、径2.54m、深さ0.21mで、平面は円形である。中央に浅い土坑、中央と壁際に計5基の主柱穴かと思われる小穴があり、床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上っている。竪穴住居として報告するが、径がやや小さいので、屋根は竪穴部分の外側まで含めて架かっていたものであろう。ただ、明確な硬化面や屋内炉は確認できおらず、遺構認定には不確実さを残す。埋土中から弥生時代前期の彫形土器（以下、○○形土器は○○と略す）や大型の壺が出土した。

SX1110出土遺物（図3-12）

1は深鉢で、内外面ナデ、2は甕で、内外面条痕のちナデである。3～4は壺で、赤色顔料が施される。5は大型壺で、外面赤色顔料塗布後ミガキ、内面頸部ナデ、胸部ハケメのち工具によるナデである。

SX1139（図3-8）

1区南側のH11・12区画に位置する。南東部分が確認調査の試掘坑により失われているが、径2.32mの円形土坑の底面中央に石圓炉を配置した遺構である。竪穴住居の一部であった可能性もあるが、柱穴等は確認できていない。炉を構成する石は内側が強く焼けており、埋土中には炭化物を多く含む。石圓炉内には縄文時代晩期の粗製深鉢（8）が大きな破片の状態で横たわっていた。

SX1139出土遺物（図3-12）

8～11は深鉢で、8は外面条痕、内面条痕のちナデ、9は内外面ナデ、10は内外面条痕、11は外面条痕のちナデ、内面ナデである。12は浅鉢で、内外面条痕である。13は深鉢で、内外面ナデである。14は浅鉢で、内外面に沈線を施し、内外面ナデである。

SK1101（図3-8）

1区北側のD15区画に位置する。長軸0.86m、短軸0.80m、深さ0.34mで、平面は方形である。埋土中には炭化物・焼土が認められた。底面から縄文時代晩期の土器が2点ほど出土した。

SK1101出土遺物（図3-14）

25は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。

SK1102（図3-9）

1区北側のE14区画に位置する。長軸2.06m、短軸1.82m、深さ0.21mで、平面は不整形である。埋土には炭化物を含んでおらず、縄文時代晩期の土器が少量出土した。

SK1102出土遺物（図3-13）

15は浅鉢で、外面条痕、内面ミガキである。16は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面条痕である。

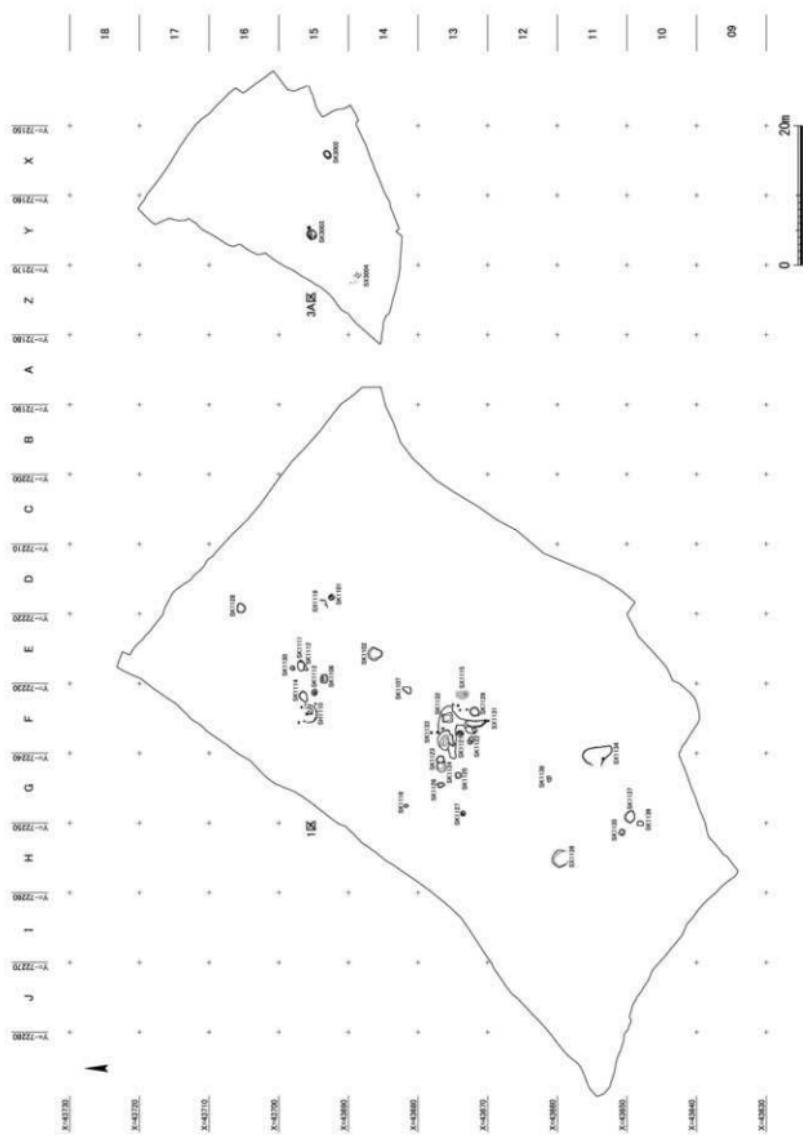


図3-3 1・3区縄文～弥生時代の遺構の分布 (1/700)

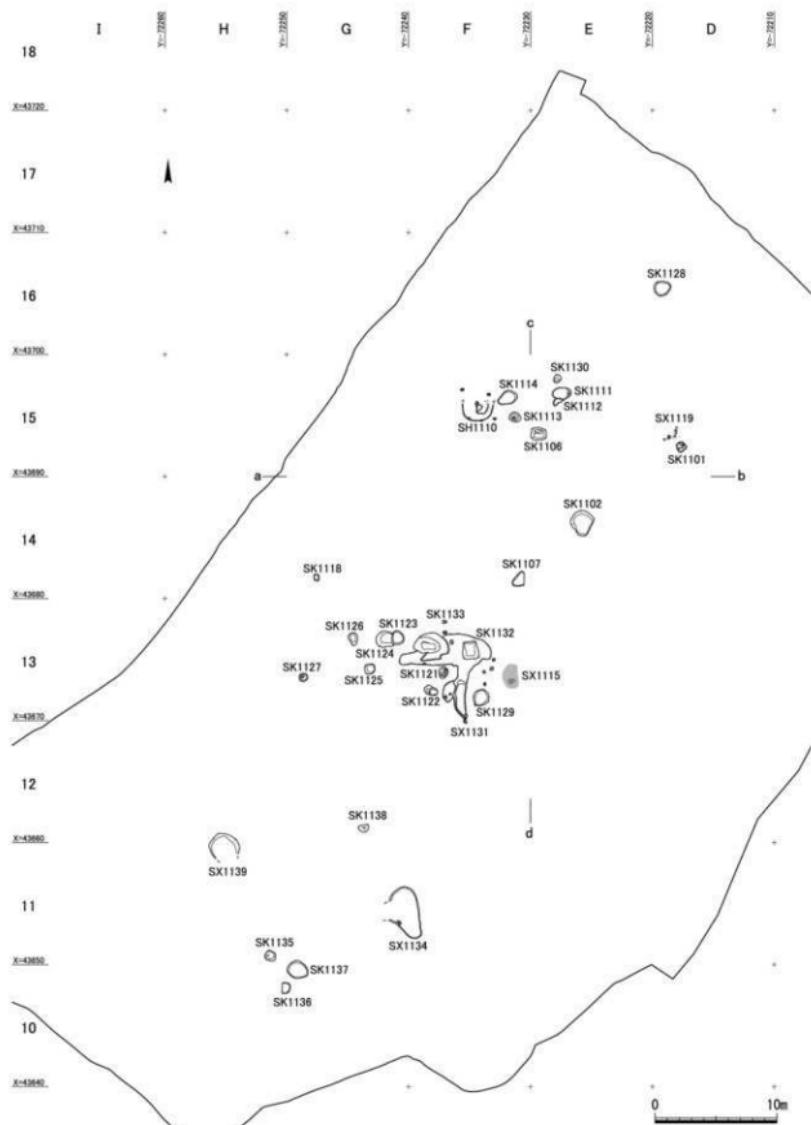


図 3-4 1区縦文～弥生時代の遺構分布詳細 (1/400)

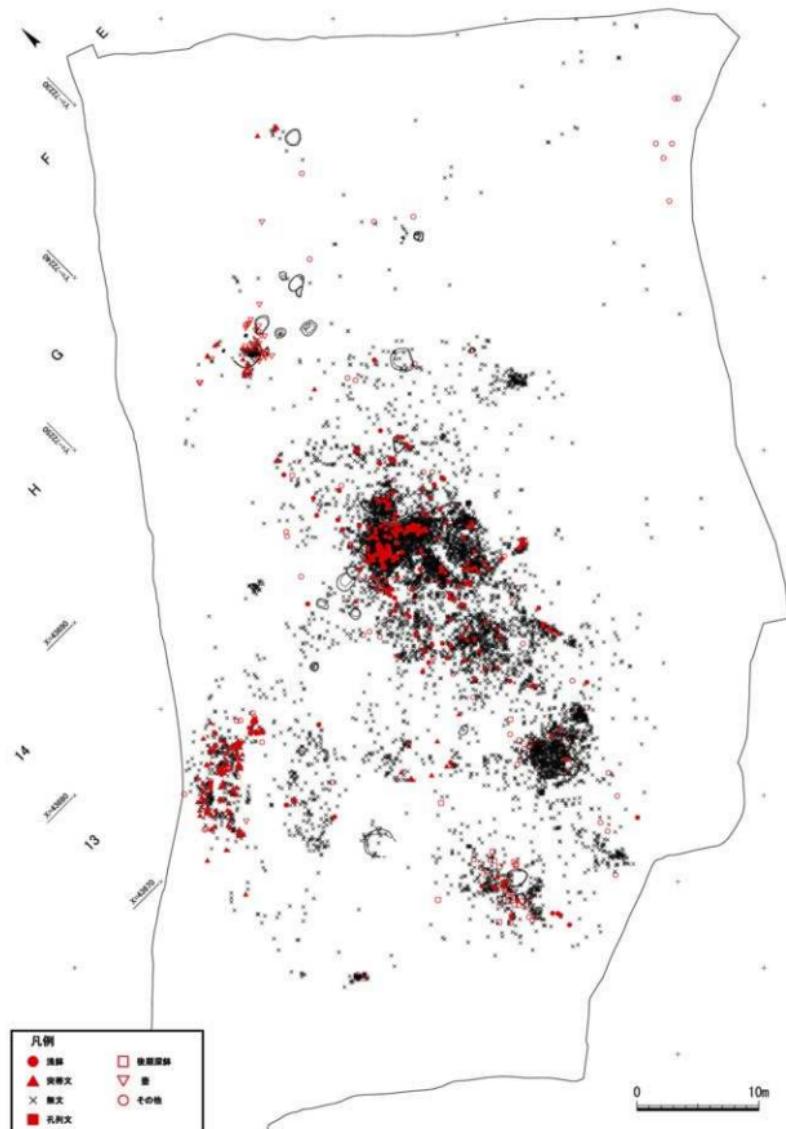


図3-5 1区縄文～弥生時代の土器の分布 (1/400)

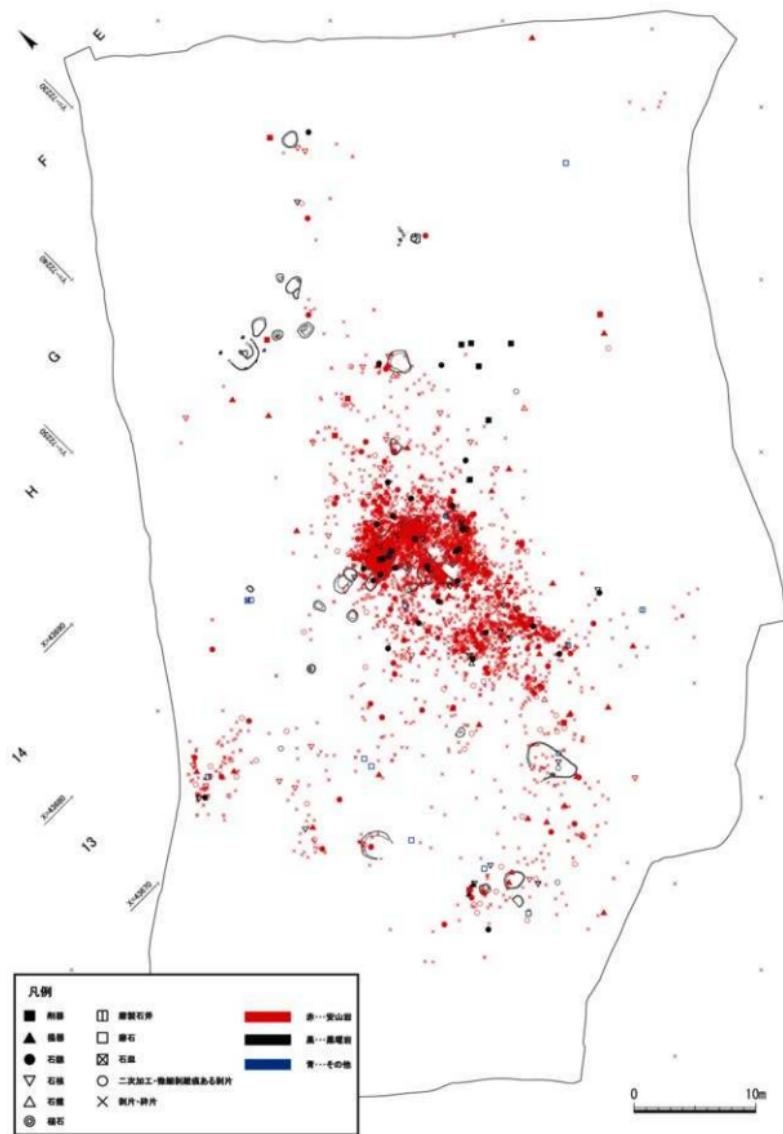


図3-6 1区縄文～弥生時代石器の分布 (1/400)

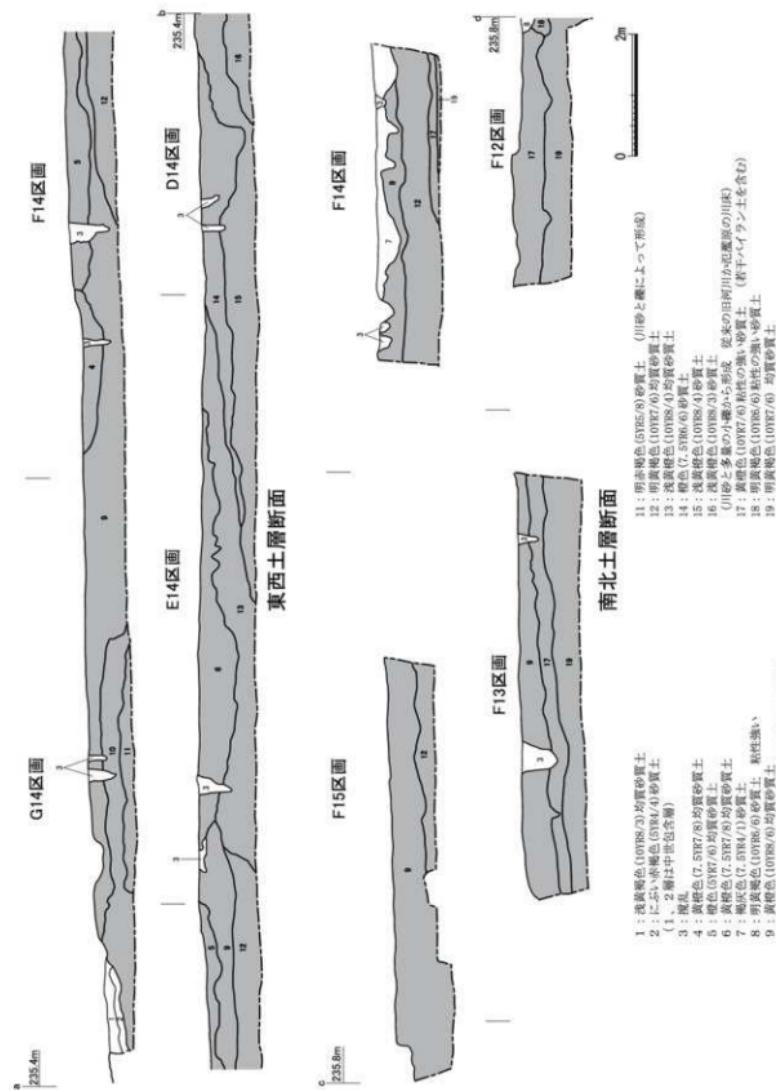


図3-7 1区縄文～弥生時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)

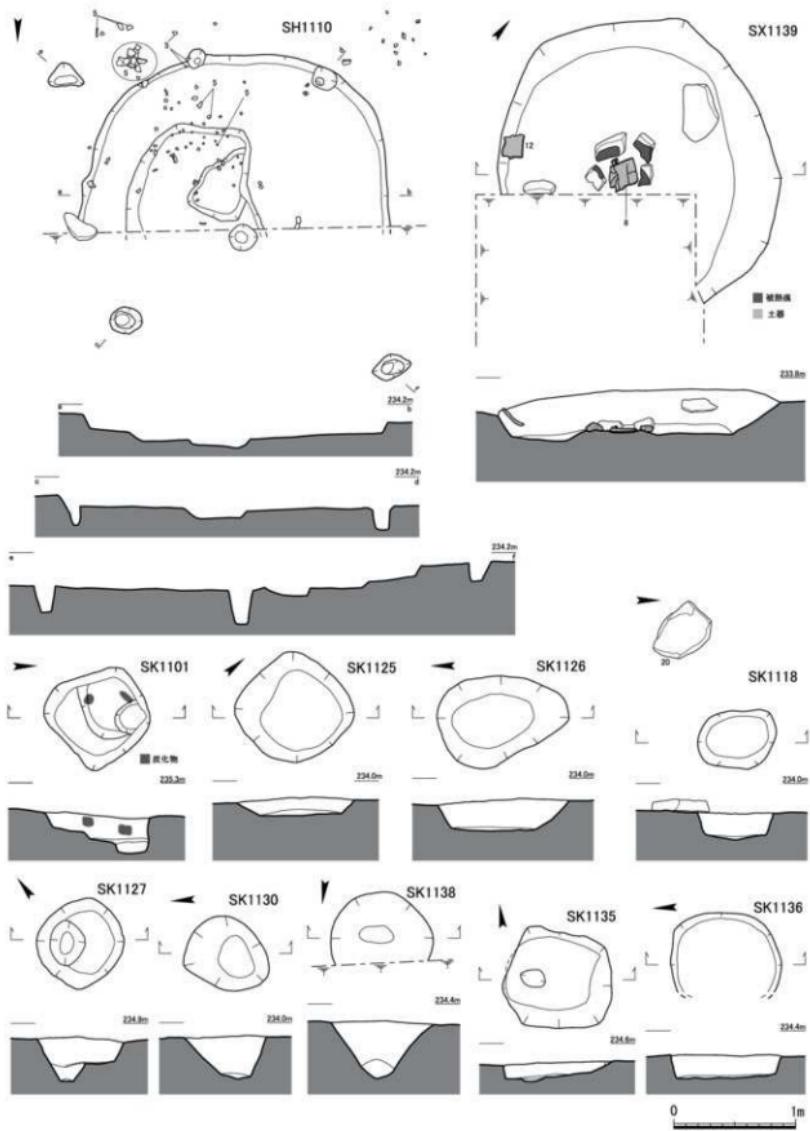


図3-8 1区縄文～弥生時代の遺構1 (1/40)

SK1106 (図3-9)

1区北側のE15区画に位置する。長軸1.28m、短軸1.04m、深さ0.31mで、平面は隅丸方形である。底面の片側が2段掘り状となっている。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1107 (図3-9)

1区中央部のF14区画に位置する。長軸1.36m、短軸0.96m以上、深さ0.12mで、平面は不整形である。縄文時代晚期中葉の土器や石鏃等が若干量出土した。

SK1107出土遺物 (図3-13)

17は浅鉢で、リボン状突起に焼成後穿孔があり、内外面ナデである。18は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面ナデである。19は両側縁がやや膨らむ二等辺三角形の微凹基式石鏃である。

SK1111 (図3-9)

1区北側のE15区画に位置する。SK1112と重複し、これより新である。長軸1.52m、短軸0.94m、深さ0.42mで、平面は楕円形である。縄文時代晚期の土器が1点出土した。

SK1112 (図3-9)

1区北側のE15区画に位置する。SK1111と重複し、これより古である。長軸0.66m以上、短軸0.46m、深さ0.22mで、平面は楕円形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1113 (図3-9)

1区北側のF15区画に位置する。長径0.94m、短径0.82m、深さ0.66mの円形で、中央が柱穴状の2段掘りとなっている。近接して石鏃2点が出土したもの、埋土中からの出土遺物はない。

SK1114 (図3-9)

1区北側のF15区画に位置する。長軸1.68m、短軸1.14m、深さ0.16mで、平面は不整楕円形である。弥生時代前期の壺が出土したが、出土位置は底面からかなり浮いており、隣接するSH1110から遊離したものかもしれない。

SK1114出土遺物 (図3-12)

6・7は壺で、ともに外面赤色顔料塗布後ミガキ、6は内面ナデ、7は内面頸部上半ミガキ、下半以下ナデである。

SK1118 (図3-8)

1区中央部のG14区画に位置する。長軸0.62m、短軸0.48m、深さ0.24mで、平面は不整楕円形である。縄文時代晚期の粗製深鉢が出土した他、遺構内ではないが近接して石皿が出土している。

SK1118出土遺物 (図3-13)

21・22は深鉢で、同一個体とみられる。外面条痕、内面条痕のちナデである。20はSK1118に近接して出土した石皿である。表裏両面に使用による摩滅痕を留める。

SK1121 (図3-9)

1区中央部のF13区画に位置する。長軸1.00m、短軸0.74m、深さ0.60mで、平面は不整楕円形である。底面に小穴があり2段掘りの柱穴状をなす。縄文時代晚期頃の土器が若干出土した。

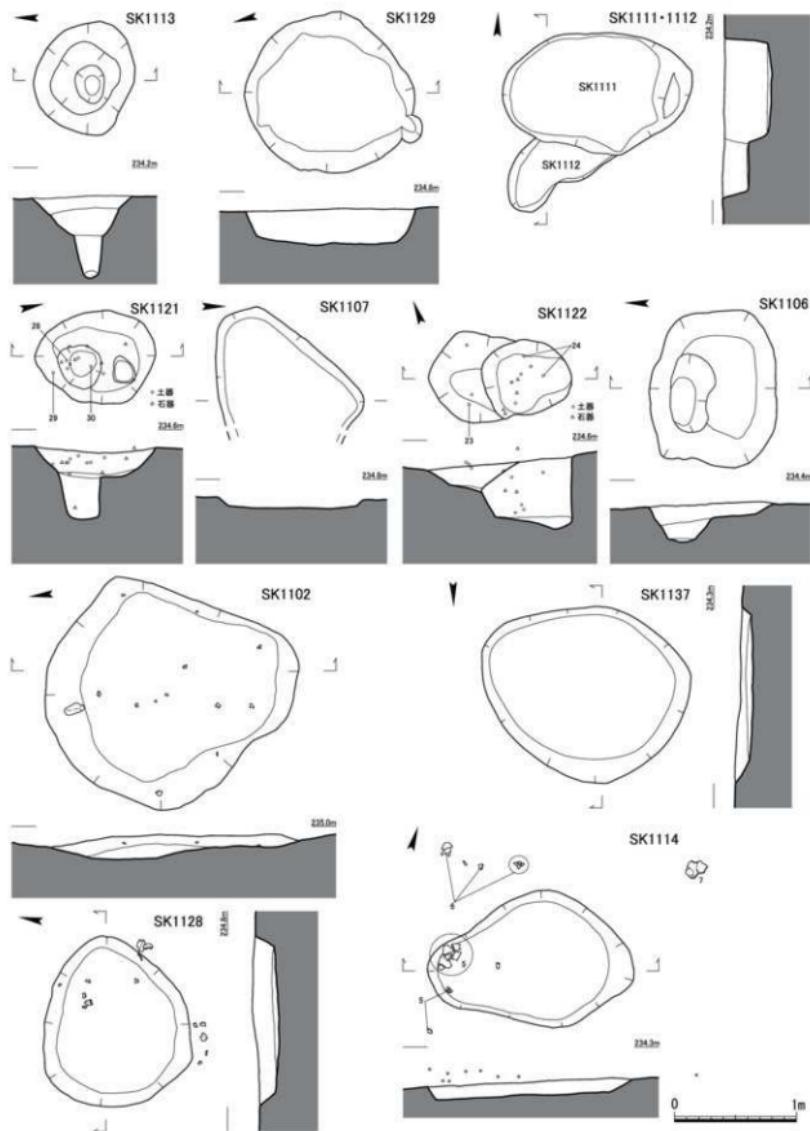


図3-9 1区縄文～弥生時代の遺構2 (1/40)

SK1121 出土遺物（図3-14）

28～30は深鉢で、28は外面条痕、内面ナデ、29は内外面ナデ、30は内外面条痕である。

SK1122（図3-9）

1区中央部のF13区画に位置する。長軸1.16m、短軸0.74m、深さ0.62mで、平面円形の土坑の片側に段が付く形状である。縄文時代晩期中葉の土器が若干量出土した。

SK1122 出土遺物（図3-13）

23は浅鉢で、鱗状突起が付き、内外面ミガキ、24は深鉢で、外面ナデ、内面条痕のちナデである。

SK1123（図3-10）

1区中央部のG13区画に位置する。長軸1.12m、短軸1.02m、深さ0.32mで、平面は楕円形である。

SK1124と重複し、これより新である。遺物は石器類が2点出土したのみである。

SK1124（図3-10）

1区中央部のG13区画に位置する。長軸1.28m以上、短軸1.34m、深さ0.42mで、平面は楕円形である。

SK1123と重複し、これより古である。遺物は縄文時代の土器が数点出土したのみである。

SK1125（図3-8）

1区中央部のG13区画に位置する。長軸0.96m、短軸0.88m、深さ0.14mで、平面は隅丸方形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1126（図3-8）

1区中央部のG13区画に位置する。長軸1.08m、短軸0.74m、深さ0.24mで、平面は不整な卵形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1127（図3-8）

1区中央部のG13区画に位置する。径0.70～0.72m、深さ0.36mで、平面は円形である。底面の片側が2段掘り状となっている。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1128（図3-9）

1区北側のD16区画に位置する。長軸1.40m、短軸1.20m、深さ0.20mで、平面は楕円形である。埋土及び遺構周辺から縄文時代晩期後葉の土器が出土した。

SK1128 出土遺物（図3-14）

31は深鉢で、図上で復元した。内外面ナデである。

SK1129（図3-9）

1区中央部のF13区画に位置する。径1.10～1.40m、深さ0.30mで、平面円形である。縄文時代晩期頃の土器が出土した。

SK1129 出土遺物（図3-14）

26は浅鉢で、補修孔と思われる穿孔があり、内外面ナデである。27は深鉢で、内外面ナデである。

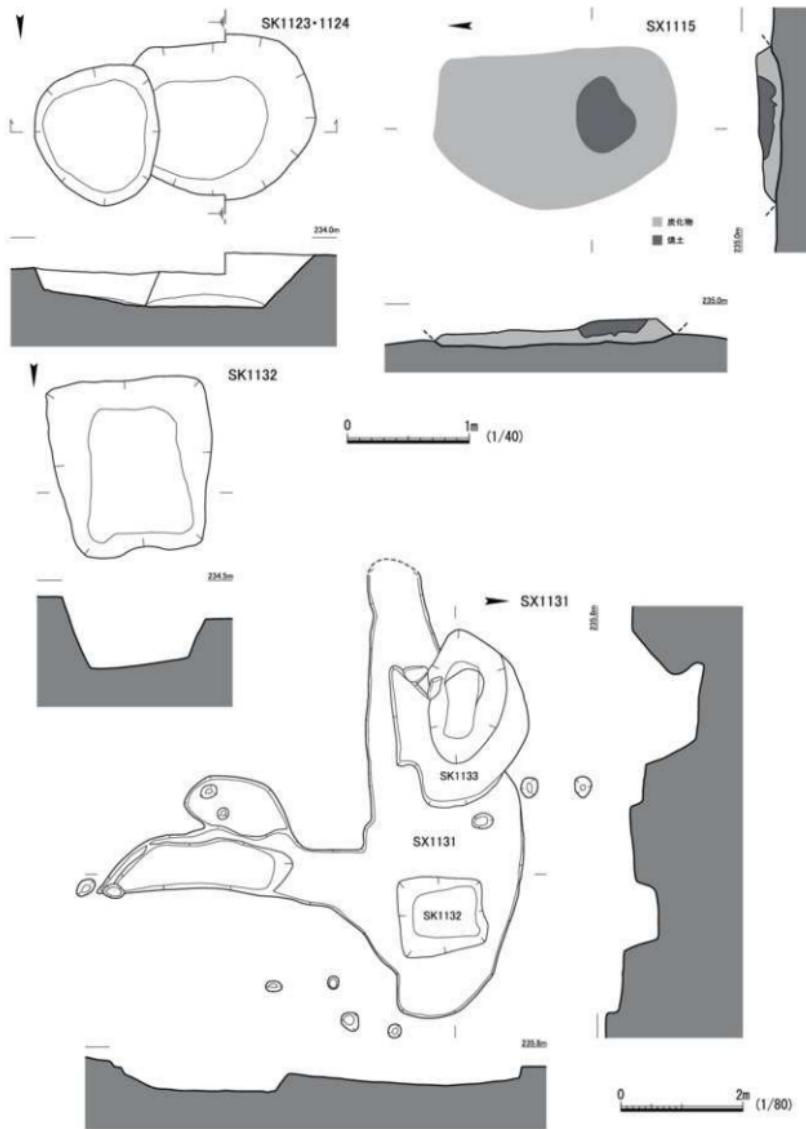


図3-10 1区縄文～弥生時代の遺構3 (1/40, 1/80)

SK1130 (図 3-8)

1 区北側の E15 区画に位置する。長軸 0.68 m、短軸 0.56 m、深さ 0.34 m で、平面は梢円形である。縄文時代後期～晩期の土器が数点出土した。

SK1132 (図 3-10)

1 区中央部の F13 区画に位置する。SX1131 内で検出され、長軸 1.48 m、短軸 1.32 m、深さ 0.88 m で、平面は長方形である。縄文時代晩期中葉の土器・石器が多数出土した。

SK1132 出土遺物 (図 3-15)

42・43 は浅鉢で、42 は口縁内面に沈線が施され、内外面ナデ、43 は内外面ミガキである。44～47 は深鉢で、44 は内外面条痕、45 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、46・47 は内外面ナデである。48 は浅鉢で、外面ナデ、内面ミガキである。49～51 は深鉢底部で、49・50 は内外面ナデ、51 は外面条痕、内面条痕のちナデである。52～65 は石礫である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含む。

SK1133 (図 3-10)

1 区中央部の F13 区画に位置する。SX1131 と重複して検出され、長軸 2.92 m、短軸 2.24 m、深さ 1.16 m で、平面は不整な梢円形である。縄文時代晩期中葉の土器・石器が多数出土した。

SK1133 出土遺物 (図 3-16～18)

66～79・81 は浅鉢。66 は口縁内面に沈線が施され、突起が付き、内外面ミガキである。67 は口縁内面に沈線が施され、外面ミガキ、内面ナデである。68 は口縁内面が段状になり、脇部外面に沈線が施され、ボタン状の突起が付く。内外面ミガキである。69 は内外面ナデ、70 は口縁内面に沈線が施され、山形突起が付き、内外面ナデ、71 は内外面ナデ、72 は外面ミガキ、73 は突起が付き、外面条痕、内面ミガキ、74 は外面条痕、内面条痕のちナデ、75 は外面条痕、内面ミガキ、76 は内外面ナデ、77 は内外面ミガキである。78 は外面に細い沈線で弧状の文様を描き、内外面ナデである。79 は外面に細い沈線で何らかの文様を描き、内外面ナデである。81 は内外面ナデである。80 は浅鉢のミニチュアで、内外面ナデである。

82～86 は口縁端部に刻目がある深鉢で、82～84 は内外面ナデ、85 は外面ナデ、内面条痕、86 は外面ナデ、内面条痕のちナデである。87～91・93・94 は深鉢で、87 は外面条痕、内面ナデ、88 は外面条痕のち一部ナデ、内面条痕、89 は外面条痕、内面条痕のちナデ、90・91 は内外面ナデ、93 は外面条痕、内面条痕のちナデ、94 は内外面ナデである。92 は浅鉢で、外面条痕、内面条痕のちナデである。95・97 は浅鉢と思われ、95 は口縁内面を肥厚させ、内外面条痕、97 は内外面ミガキである。96 は浅鉢で、突起が付くものと考えられ、外面条痕、口縁部～内面ミガキである。98 は深鉢で、内外面ナデ、99 は口縁部に刻目突帯をもつ深鉢で、内外面条痕のちナデである。100～103 は底部で、100 は内外面ナデ、底面条痕のちナデ、101・102 は内外面ナデ、103 は外面条痕、内面ナデである。104 は浅鉢底部で、外面条痕、内面ナデである。105 は土製円盤で、両面条痕である。

106～133 は石礫である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含み、五角形に近いものもある。134 は面的な調整剥離を施した削器である。135 は片面の全体ともう片面の一部に調整剥離を施した小型の搔器である。136 は石核の調整剥離痕を留める稜付き石刃状の小型縱長剥片を、刃部作出等の加工を施さずにそのまま石錐として用いたもので、使用による顕著な摩滅痕を留める。

SK1135 (図 3-8)

1 区南側の G11 区画に位置する。長軸 1.78 m、短軸 1.64 m、深さ 0.34 m で、平面は不整な方形である。石器類や縄文時代の土器が出土したが、人為的な遺構かどうか判らない。

SK1136 (図3-8)

1区南側のH10区画に位置する。径0.92m、深さ0.20mで、平面は円形である。縄文時代の土器と黒曜岩剥片が出土した。

SK1137 (図3-9)

1区南側のG10・11区画に位置する。長軸1.70m、短軸1.46m、深さ0.16mで、平面は梢円形である。埋土は赤色の砂質土で、焼土の可能性がある。縄文時代の土器と石器が少量出土した。

SK1137出土遺物 (図3-14)

39・40は深鉢で、内外面ナデである。41はやや大きめの剥片の一辺に刃部を作出した削器である。

SK1138 (図3-8)

1区南側に位置する。径0.86m、深さ0.46m、平面は円形で、漏斗状に底がすぼまる。埋土中には炭化物が充満していたが、人工遺物は出土していない。

SX1115 (図3-10)

1区中央部のF13区画に位置する。長軸1.98m、短軸1.28mの梢円形の範囲に多量の炭化物と若干の焼土を含む層が広がるもので、中央部には焼土の集中する部分がある。火を用いた場であることは判るが、炉と断定できるかどうか判らない。縄文時代晩期の土器と石器類が出土している。

SX1115出土遺物 (図3-21)

187・188は深鉢で、187は外面条痕、内面ナデ、188は外面条痕のちナデ、内面ミガキである。189は深鉢底部で、内外面ナデである。190・191は二等辺三角形で微凹基の石鎌である。

SX1131 (図3-10)

1区中央部のF13区画に位置する。不整形の落ち込みで、縄文時代晩期中葉～後葉の土器・石器類が多数出土した。

SK1132・SK1133と重複するが、新旧関係は明瞭でない。

SX1131出土遺物 (図3-19～21)

137～143は浅鉢で、137は口縁内面に沈線を施し、外面ミガキ、内面ナデ、138は内外面ミガキ、139は突起が付き、内外面ミガキ、140は口縁内面に沈線を施し、内外面ミガキ、141は口縁内面が段状になり、内外面ナデ、142は口縁外面上に沈線を施し、内外面ナデ、143は低い山形突起が付き、外面上半～内面ミガキ、外面下半条痕のちミガキである。144は深鉢で、口縁部に外面から穿孔された孔列文が施され、外面条痕、内面条痕のちナデである。145～151は口縁端部に刻目がある深鉢で、145～147は内外面条痕、148・149は内外面ナデ、150は外面ナデ、内面条痕、151は外面条痕、内面ナデである。152は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面ナデである。153～156は浅鉢で、153は内外面条痕、154は内外面ミガキ、155は外面条痕のちナデ、内面ミガキ、156は突起が付き、外面条痕のちミガキ、口縁部～内面ミガキである。157・158は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。159は浅鉢で、内外面ナデである。160～162は深鉢で、160は外面ナデ、内面条痕のちナデ、161は外面条痕、内面ナデ、162は内外面ナデである。163～166は深鉢底部で、163は内外面ナデ、164は外面条痕、内面ナデ、165は外面条痕、内面条痕のちナデ、166は内外面ナデである。167～169は浅鉢底部で、167は外面条痕のちナデ、内面ナデ、168・169は内外面ナデである。170は混入と考えられる深鉢で、刻目は浅く、内外面ナデである。

171～185は石鎌である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含み、五角形に近いものもある。186は大型の剥片の一辺に刃部を作った削器である。

SX1134 (図3-11)

1区南側のF11・G11区画に位置する。長軸4.38m、短軸2.44m以上、深さ0.32mで、平面は不整な卵形である。埋土中に炭化物を多く含み、縄文時代後期末の土器と石器が出土した。

SX1134出土遺物 (図3-14)

32は精製深鉢で、口縁部と胴部に凹線が施され、内外面ミガキである。33～35は深鉢で、いずれも内外面ナデである。36・37は底部で、内外面ナデである。38は磨石で、使用による摩滅痕を留める。1/2程に割れている。

SX1119 (図3-11)

1区北側のD15区画に位置する。縄文時代晩期中葉の粗製深鉢が1.4m四方の範囲にまとまって遺されたものである。掘りこみは確認されず垂直分布も上下にややばらつくことから、人為的に形成されたものではない可能性もあるが、土器片自体は磨耗していない。破片数は多いが、確認できたのは1個体である。

SX1119出土遺物 (図3-21)

192は深鉢で、山形突起が1ヶ所に付くものと思われ、外面条痕のちナデ、内面ナデである。

遺構に伴わない出土遺物 (図3-22～40)

縄文時代早期の土器 (図3-22)

193・195～198は撚糸文土器で、同一個体の可能性がある。内面ナデである。194は押型文土器で、内面ナデである。

縄文時代後・晩期の土器 (図3-22～32)

199・200は精製深鉢で、口縁外面に雑な沈線が施され、199は外面条痕のちナデ、内面ナデ、200は内外面ナデである。後期後葉～末（御領式～広田式並行期）のものと考えられる。

201～204は浅鉢口縁部で、201・203・204は内外面ナデ、202は内外面ミガキである。

205～209は強く屈曲する胴部に短く外反する口縁部が付く浅鉢で、205は口縁内面に沈線が施され、鱗状突起が付き、内外面ミガキ、206は口縁内面に沈線が施され、リボン状突起が付き、外面条痕のちミガキ、内面ミガキ、207は口縁内面がわずかな玉縁状で、内外面ミガキ、208は内外面ミガキ、209は外面ミガキ、内面ナデである。210は碗形で口縁内面を肥厚させ上面に沈線が施された浅鉢で、小さな山形突起が付き、内外面ナデである。

211～213は強く屈曲する胴部に長く外反する口縁部が付く浅鉢で、211は口縁内面が雑な玉縁状で、外面粗いミガキ、内面ナデ、212は内外面ミガキ、213は突起が付き、屈折部外面に沈線が施され、内外面ミガキである。

214～218・221は皿状の胴部に長く外反する口縁部が付く浅鉢で、214・215は屈折部外面に沈線が施され、内外面ミガキ、216はリボン状突起が付き、内外面ミガキ、217は内外面ナデ、218は補修孔と思われる穿孔があり、内外面ミガキ、221は内外面ミガキである。

219・220・222～226・228は浅鉢口縁部である。219は補修孔と思われる穿孔があり、外面ミガキ、内面ナデ、220・222は外面ミガキ、内面ナデ、223は口縁内面に沈線が施され、内外面ナデ、224・225は内外面ナデ、226は突起が付き、内外面ナデ、228は内外面ミガキである。229～231は浅鉢胴部で、229・230は内外面ミガキ、231は外ナデ、内面ミガキである。

227・232は皿形で口縁内面の肥厚部に沈線が施される浅鉢で、ともに内外面ナデで、227は突起が付く。

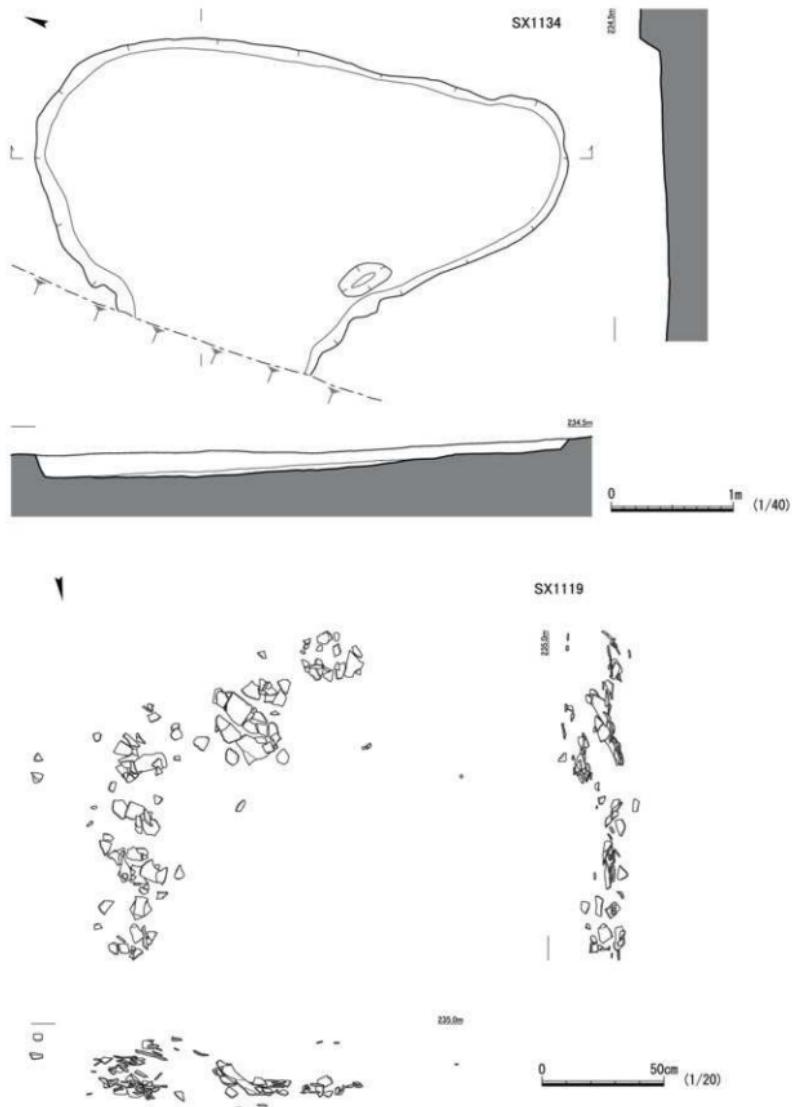
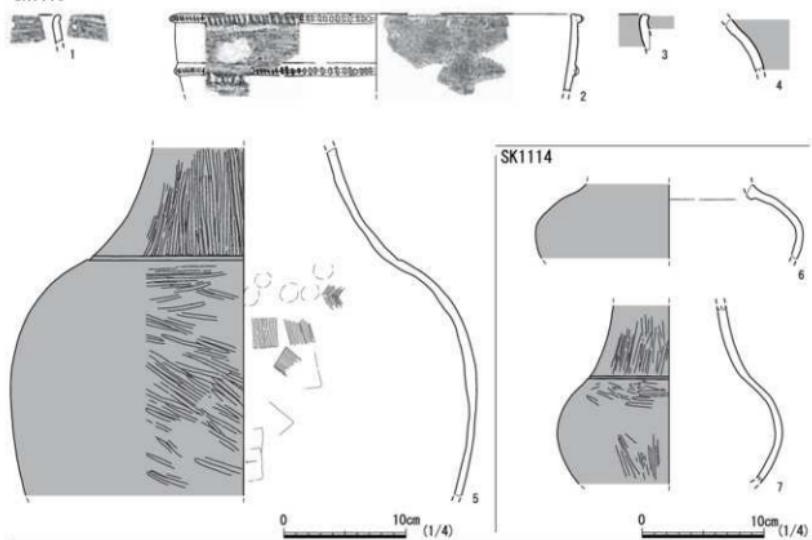


図3-11 1区縄文～弥生時代の遺構4 (1/40, 1/20)

SH1110



SX1139

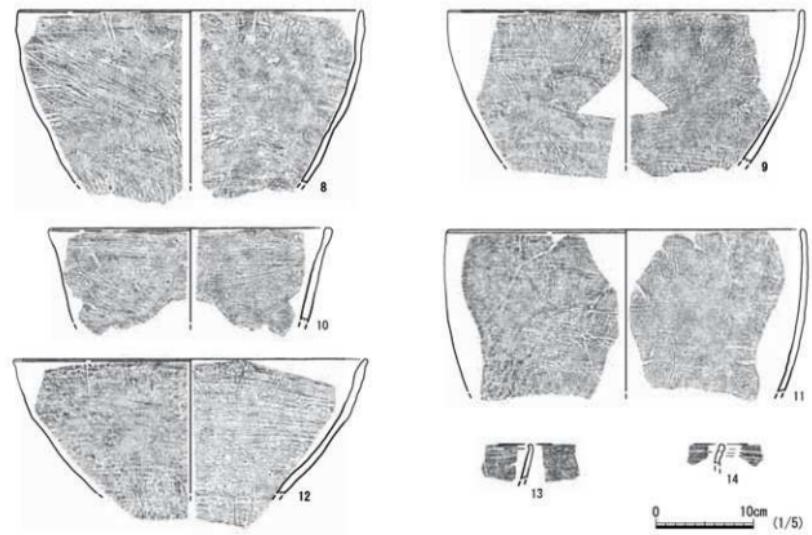


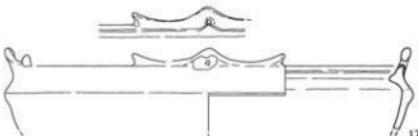
図3-12 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土1 (1/4、1/5)

SK1102



0 10cm (1/4)

SK1107

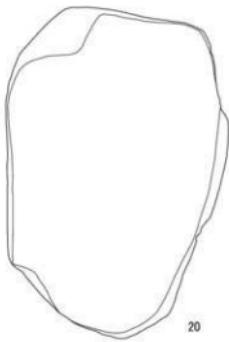
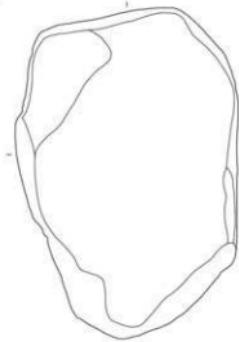


0 10cm (1/4)



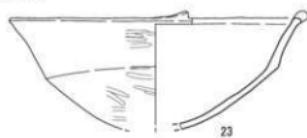
0 5cm (1/2)

SK1118

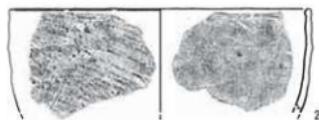


0 20cm (1/8)

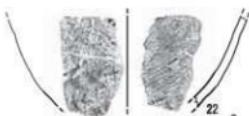
SK1122



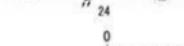
23



21



0 10cm (1/4)



0 10cm (1/4)

図3-13 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土2 (1/4, 1/8, 1/2)

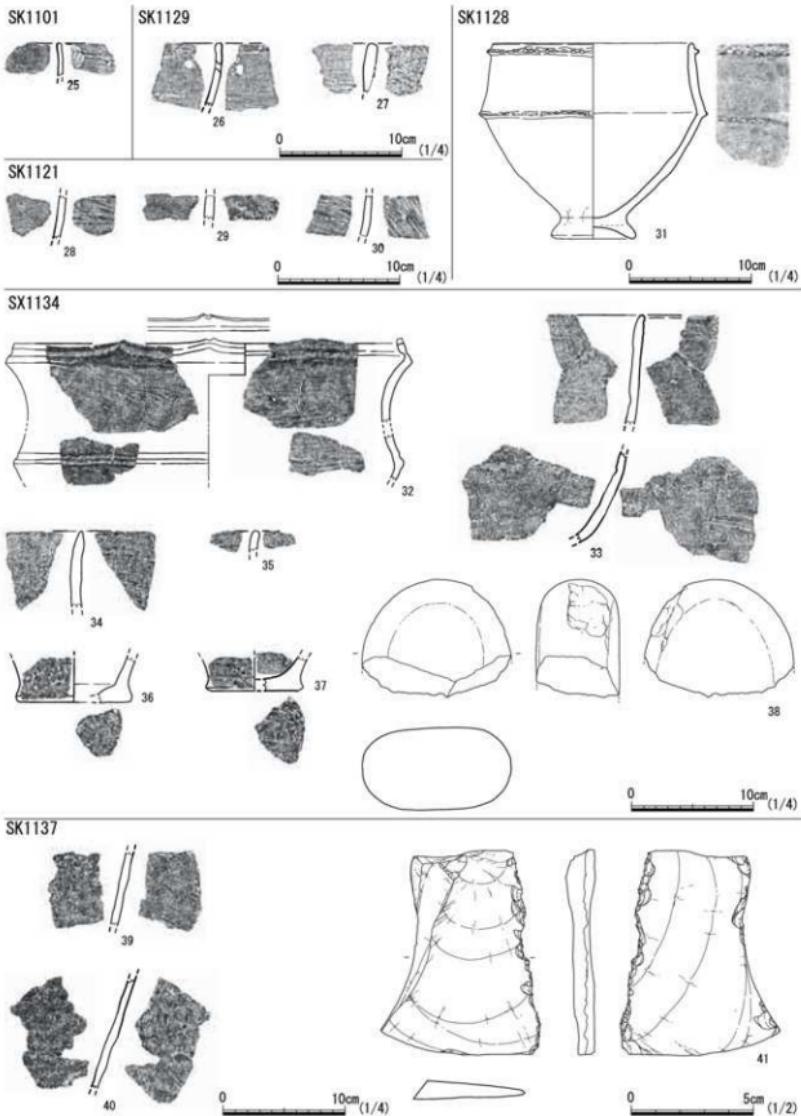


図3-14 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土3 (1/4, 1/2)

SK1132

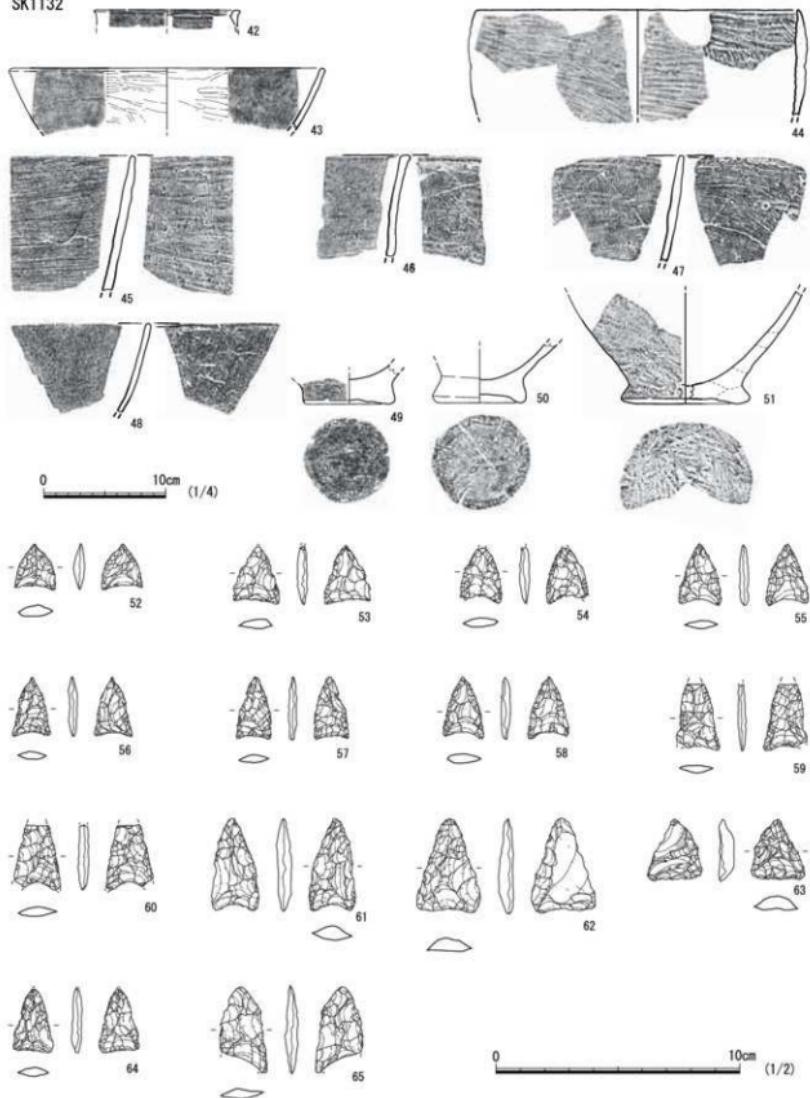


図3-15 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土4 (1/4, 1/2)

SK1133

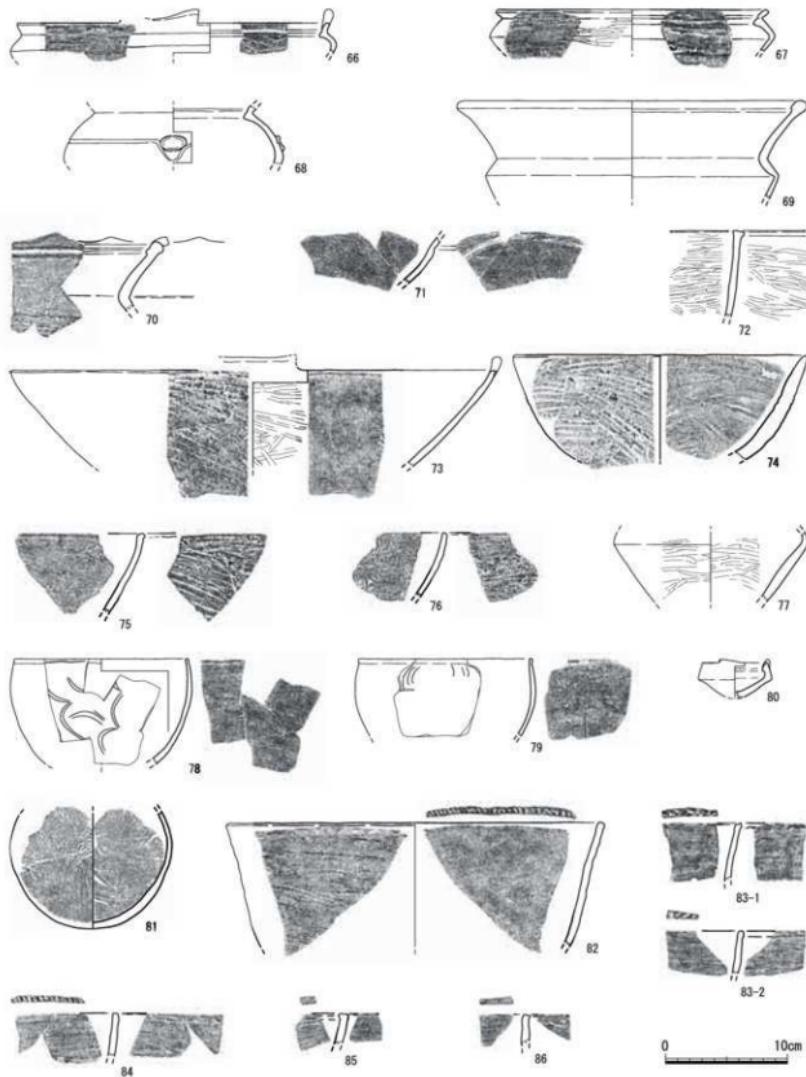


図3-16 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土5 (1/4)

SK1133

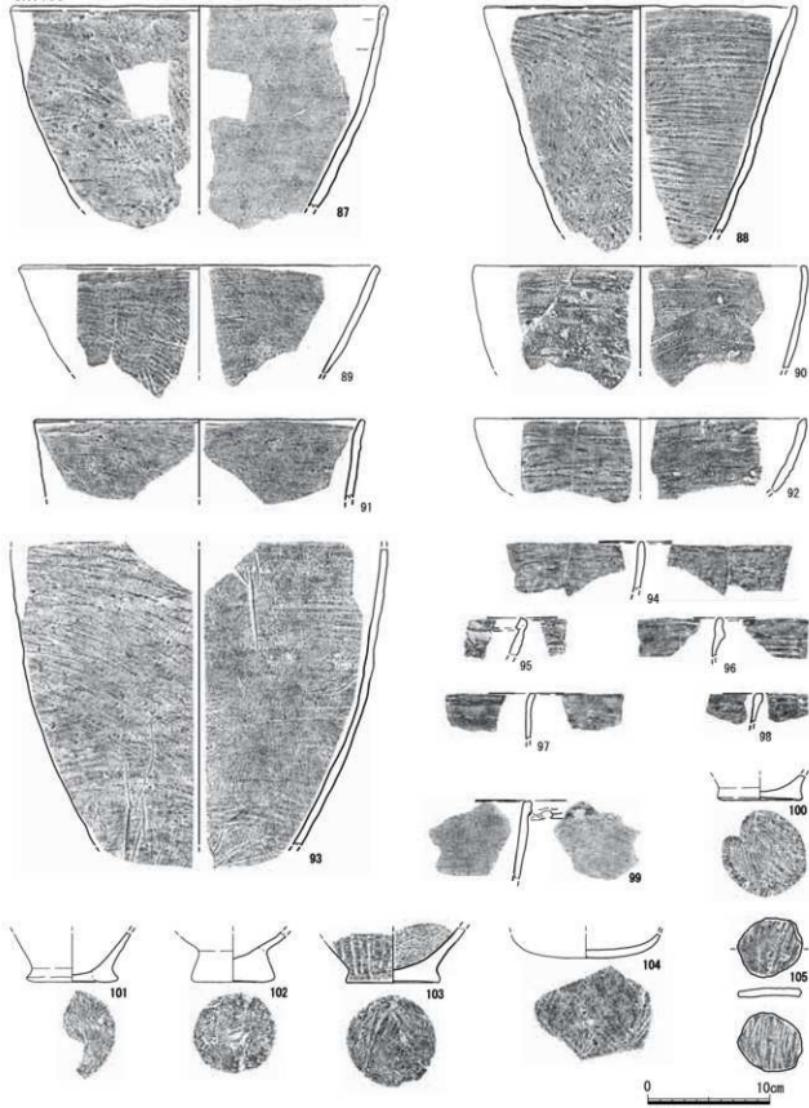


図3-17 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土6 (1/4)

SK1133

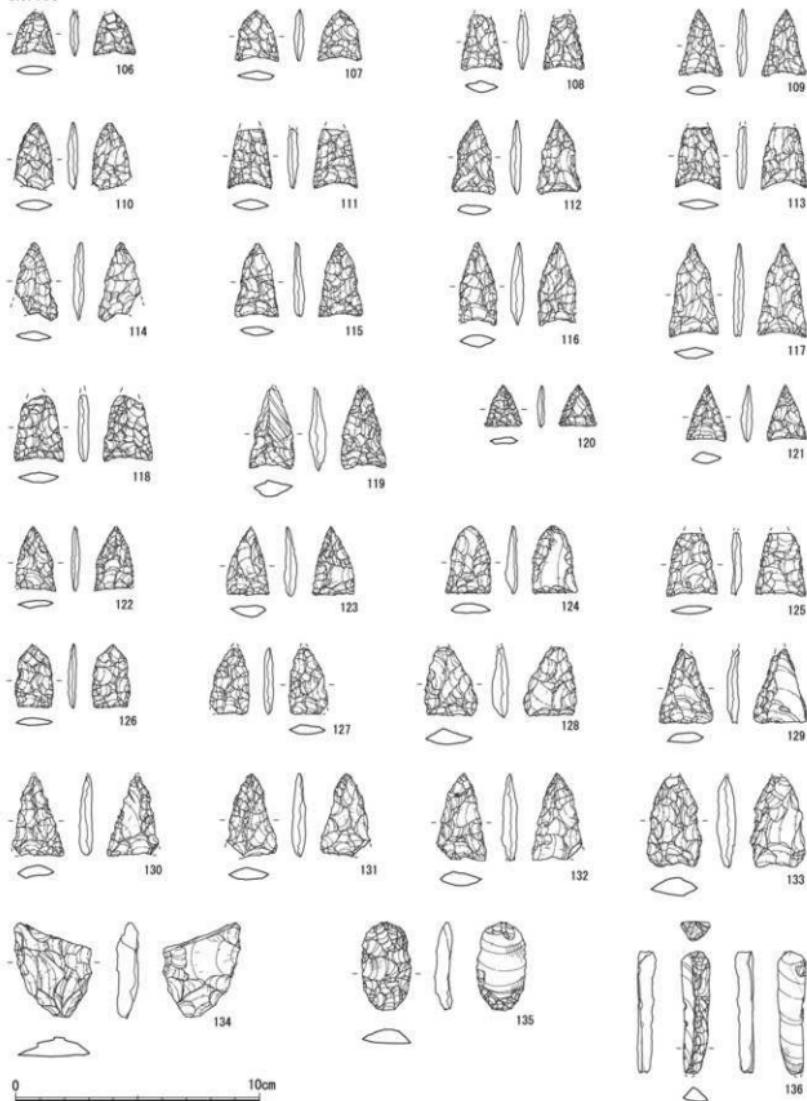


図3-18 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土7 (1/2)

SX1131

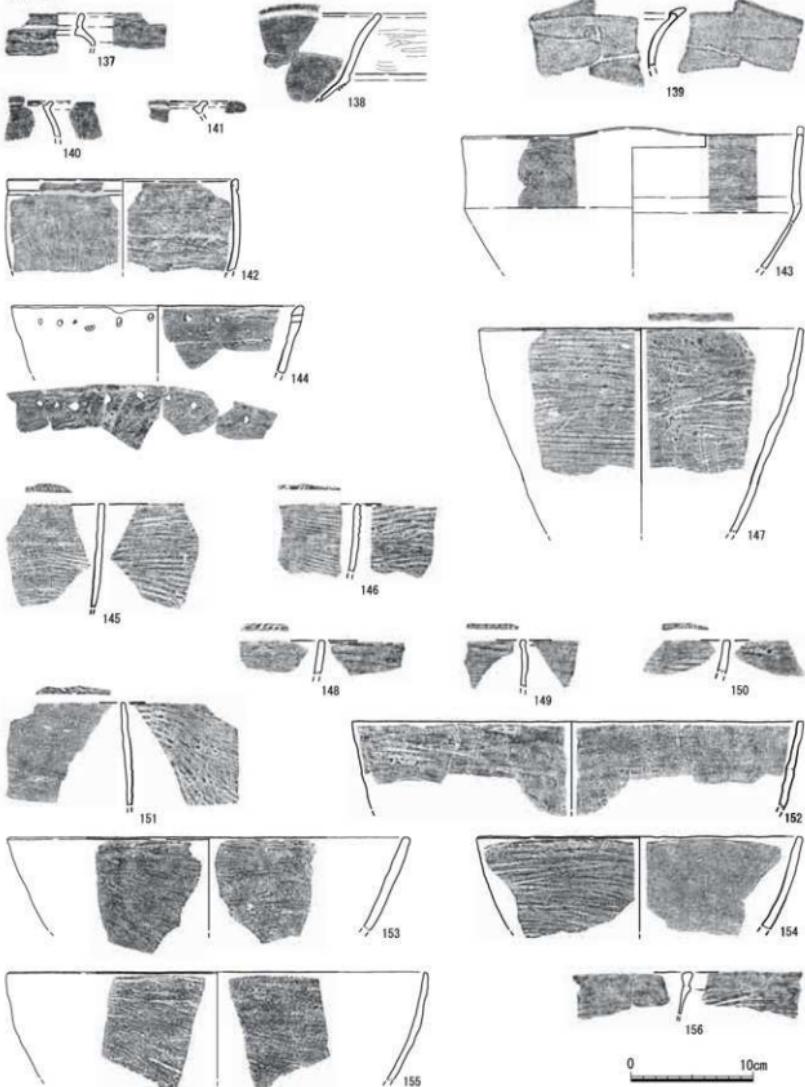


図 3-19 1 区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土 8 (1/4)

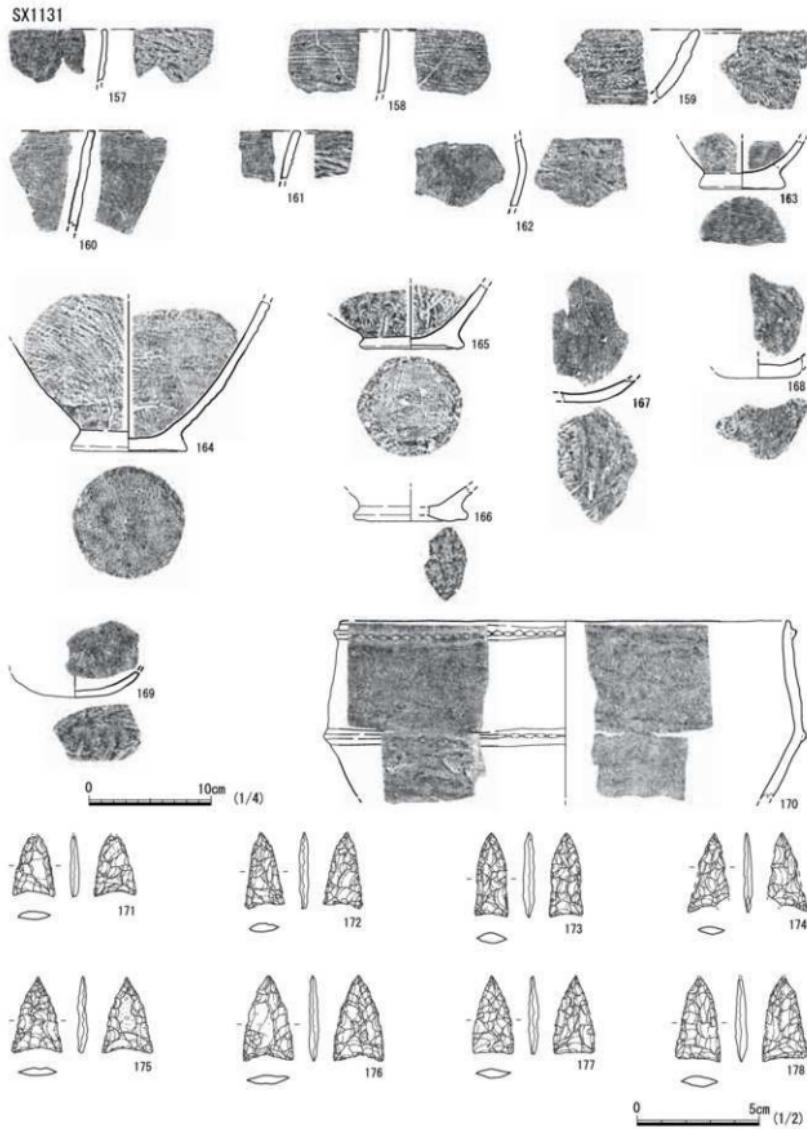


図3-20 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土9 (1/4, 1/2)

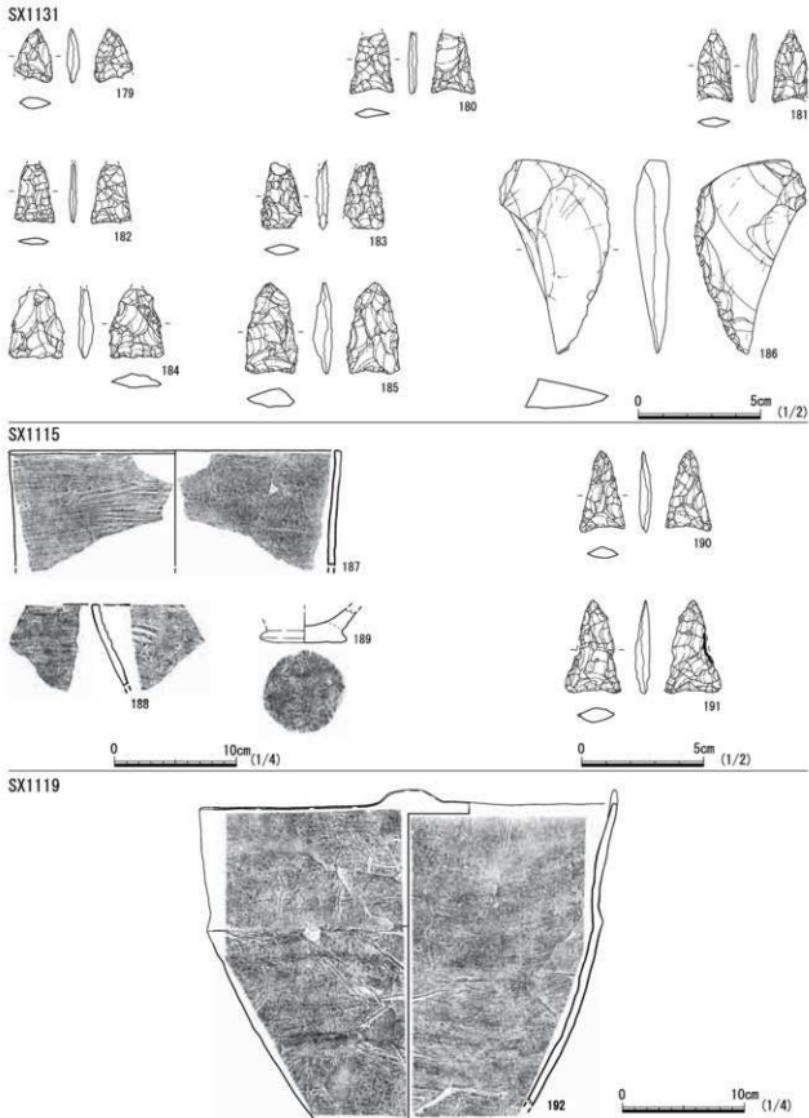


図3-21 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構出土 10 (1/4, 1/2)

233～238は碗形の浅鉢で、233は口縁内外面に沈線が施され、内外面ミガキ、234は外面条痕、内面条痕のちナデ、235は内外面ミガキ、236は内外面ナデ、237は外面条痕のちミガキ、内面ミガキ、238は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、内面ミガキである。

239・240は浅鉢口縁部で、ともに内外面ミガキ、241は浅鉢胴部で、外面に突起が付き、内外面ミガキ、242は浅鉢胴部で、外面条痕、内面ミガキである。243は屈曲する胴部に口縁部が付かない形態で、外面ミガキ、内面ナデである。244は浅鉢胴部で外面ナデ、内面ミガキである。

245～251は口縁端部に刻目をもつ深鉢で、245・246・248・251は外面条痕、内面ナデ、247は内外面条痕、249は外面条痕、内面条痕のちナデ、250は外面条痕のちナデ、内面条痕である。

252～261は胴部が屈曲する深鉢で、252はリボン状突起が付き、外面条痕のちナデ、内面ナデ、253は突起が付き、内外面条痕のちナデ、254は内外面条痕、255は外面条痕、内面条痕のちナデ、256は鱗状突起が付き、外面条痕、屈曲部以下ナデ、内面ナデ、257はリボン状突起が付き、内外面ナデ、258は外面条痕のちナデ、内面ナデである。259・260・261は同一個体と考えられ、粘土紐が明瞭に観察できる部分があり、外面条痕のちナデ、内面ナデである。胎土が他のものと異なることなどから、搬入品もしくは時期が異なる可能性がある。

262は口縁部が大きく外反する深鉢で、外面条痕、内面ナデである。263・264は内湾ぎみの直口縁の深鉢で、263は外面粗いナデ、内面ナデのち条痕、264は外面条痕、内面ナデである。265・268は口縁部がわずかに外反する深鉢で、265は内外面ナデ、268は外面条痕のちナデ、内面ナデである。

266・267・269～275は直口縁の深鉢である。266は外面条痕のちナデ、267は外面条痕、内面ナデ、269は外面条痕、内面条痕のちナデ、270は内外面条痕、271は外面条痕、内面ナデ、272は突起が付き、外面条痕、内面ナデである。273はほぼ完形で、小さな突起が1ヶ所に付き、内外面条痕のちナデである。274は外面条痕、内面ナデ、275は突起が付き、外面上半・内面条痕のちナデ、外面下半条痕である。

276は浅鉢で、外面条痕、内面丁寧なミガキである。277～279は口縁部が内傾する深鉢で、いずれも外面条痕、内面ナデである。280～283は屈曲をもつ深鉢胴部で、280は外面上半条痕、下半ナデ、内面ナデ、281は外面に鉤状の粘土紐を貼り付け、内外面条痕、282・283は内外面ナデである。284は浅鉢胴部と思われ、外面に沈線が施され、内外面ミガキである。285は深鉢胴部で、外面に凹線が施され、内外面ナデである。286・287は突起が付く深鉢で、286は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、内面ナデ、287は内外面条痕である。288は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。

289～291はリボン状突起が付く深鉢で、289は外面条痕、内面条痕のちナデ、290・291は外面条痕、内面ナデである。292は突起部内外面に縱方向の沈線が1条施され、内外面ナデである。293は鱗状突起が付く浅鉢で、外面条痕、内面ナデである。294～296は突起が付く深鉢で、294は外面条痕、内面条痕のちナデ、295・296は外面条痕、内面ナデである。297は山形突起が付き、内外面ナデである。298は深鉢で、内外面ナデ、299は浅鉢で内外面ナデである。300・301は深鉢で、300は内外面条痕、301は外面条痕、内面条痕のちナデである。302は浅鉢と思われ、外面ナデ、内面ミガキである。303～311は深鉢で、303は外面条痕のちナデ、内面ナデ、304・305は内外面ナデ、306は外面条痕、内面ナデ、307は外面条痕のちナデ、内面条痕、308は内外面ナデ、309は内外面条痕、310は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、内面ナデ、311は外面ナデ、内面条痕である。312～328は深鉢で、312は内外面ナデ、313は外面条痕、内面ナデ、314は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、315・319は内外面条痕、316～318・320は内外面ナデ、321は内外面条痕のちナデ、322・324・326は内外面ナデ、323・325は内外面条痕、327は内外面条痕のちナデ、328は外面条痕のちナデ、内面ナデである。329～331は浅鉢で、329・330は内外面ナデ、331は内外面ミガキである。332～334は深鉢で、332は内外面条痕、333は外面条痕、内面条痕のちミガキ、334は粘土紐接合部を利用して胴部外面を突帯状になしておらず、内外面ナデである。335～337は浅鉢で、335は外面条痕、内面ナデ、336は外面条痕、内面条痕

のちナデ、337は内外面ナデである。

338～345は浅鉢底部で、338は外面条痕、内面ナデ、339～345は内外面ナデである。

346～362は深鉢底部で、346・347は外面条痕、内面・底面ナデ、348は外面条痕、内面ナデ、349・351～353は内外面ナデ、350・355は外面・底面条痕、内面ナデ、356～358は内外面ナデ、359は外面条痕のちナデ、内面・底面ナデ、360～362は内外面ナデである。

363～392は深鉢底部である。363は外面ナデ、内面・底面条痕、364は内外面ナデ、底面条痕、365・367は内外面ナデ、366は外面条痕のちナデ、内面・底面ナデである。368は外面ミガキ、内面・底面ナデで、底部ではない可能性がある。369は内外面ナデで、底面は何らかの工具により上げ底に整形する。370は内外面ナデ、371は内外面ナデ、底面条痕のちナデ、372～374・376は内外面ナデ、375は内外面ナデ、底面条痕、377は外面条痕のちナデ、内面ナデ、378は内外面ナデで、底面を何らかの工具により上げ底状に整形する。379～386・388～391は内外面ナデ、387・392は外面・底面ナデである。

393～435は刻目突帯文土器である。393～397は口縁端部からやや下がった位置に貼り付けられた突帯に大きな刻目が施されるもので、393・394は外面条痕、内面ナデ、395～397は内外面ナデである。398は刺突状の刻目が施されており、内外面ナデである。

399～430は口縁端部からやや下がった位置に貼り付けられた突帯に浅い刻目が施されるものである。399～420・422～430は脇部が屈曲するもので、399は外面条痕のちナデ、内面ナデ、400は内外面ナデ、401は内外面条痕のちナデ、402・403は外面ナデ、内面条痕のちナデ、404～420・422～428は内外面ナデ、429・430は同一個体と考えられ、内外面ナデである。421はいわゆる砲弾型で、内外面ナデである。431・432は口縁端部に貼り付けられた突帯に浅い刻目が施されるもので、ともに内外面ナデである。433～435は深鉢脇部で、433はやや大きい刻目が施され、内外面条痕のちナデ、434は外面ナデ、内面条痕のちナデ、435は内外面条痕のちナデである。

436は壺で、内外面ミガキである。437は粗製の台付鉢と思われ、外面条痕のちナデ、内面ナデ、脚部内面条痕である。438は全体に歪みが著しく、サイズが小さいことなどから朝鮮系無文土器の可能性があり、内外面ナデである。445は高杯で、外面・杯部内面ミガキ、脚部内面ナデである。446・447は壺で、同一個体の可能性があり、内外面ミガキである。448は黒色磨研の可能性がある壺で、外面ミガキ、内面ナデである。449は壺で、外面赤色顔料塗布後ミガキ、内面ナデである。

土製品（図3-32）

439～444は土器片を再利用した土製円盤で、439～442・444は両面条痕、443は片面条痕、片面ナデである。

弥生土器（図3-32）

450は壺で、口縁部ヨコナデ、内外面ナデ、451は壺底部で、内外面ナデである。

石器（図3-33～40）

1区で出土した石器類は既述した遺構出土分も合わせて、総数で8,052点である。このうち剥片石器とその石核・剥片・碎片が8,034点とほとんどを占め、磨製石器・礫石器は僅か18点にすぎない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鎚が303点（うち黒曜岩38点、無斑晶質安山岩265点）、削器・搔器が137点（うち黒曜岩11点、無斑晶質安山岩126点）、石錐が8点（うち黒曜岩2点、無斑晶質安山岩6点）、石匙が1点（無斑晶質安山岩）で定形石器の大多数を石鎚が占めている。この他、二次加工ある剥片が220点（黒曜岩14点、無斑晶質安山岩206点）、微細剥離痕ある剥片が33点（うち黒曜岩6点、無斑晶質安山岩27点）、

剥片 7,059点（うち黒曜岩 558点、無斑晶質安山岩 6,501点）、碎片（ここでは便宜的に0.1g以下の剥片を指す）168点（うち黒曜岩 16点、無斑晶質安山岩 152点）、石核 105点（黒曜岩 33点、無斑晶質安山岩 72点）があり、剥片石器類の9割以上は石核・剥片類である。剥片石器に用いられた石材は、鬼ノ鼻山・老松山産とみられる無斑晶質安山岩が9割以上を占め、ほとんど腰岳産とみられる黒曜岩は1割に満たない。

磨製石器・礫石器は、蛇紋岩製の磨製石斧1点、花崗岩を主とする磨石14点、石皿1点、槌石2点があるが、打製石器に比して量が少ない。磨製槌揃具などの大陸系磨製石器は出土しておらず、嘉瀬川に面していながら石鍊もない。

打製石器（図3-33～38）

452～533は石鎚である。東烟瀬遺跡1区でもっとも多く出土した器種で、長さは1.6～4.1cmの中で大小があるが、2.0～3.5cmの範囲に集中する。全体の形状は側縁がやや膨らんだ二等辺三角形のものがほとんどで、五角形に近いものも目立つ。基部は微凹基を主とし、平基のものもある。

534～538は石錐である。両面調整を施した535のようなものもあれば、調整加工が刃部の作出に限られる537・538のようなものもあり、大きさもまちまちである。

539は横型の石匙である。刃部の調整加工は丁寧であるが、つまみの作り出しある程度粗く、寸法も石匙としては小さい。

540～558は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部のみに調整を施した削器で、調整剥離の程度はさまざまである。

559～563は形の整った石刃状の縱長剥片の縁辺に調整加工を施した削器である。やはり調整剥離の程度はさまざまである。全て黒曜岩製で、鉛桶技法によるもの可能性があるが、量的には僅かで、鉛桶技法の石核や剥片鐵は出土していない。

564～566は石核で、564は打面転移を頻繁に繰り返した小型の残核である。

磨製石器・礫石器（図3-39～40）

567は蛇紋岩製の磨製石斧である。両凸刃で、断面は厚みがある。

568～577は磨石で、表裏両面に使用によると思われる摩滅が認められる。岩石鑑定は行っていないが、花崗岩類が主体のようである。

槌石は図示していないが、長さ4～5cmの扁平な円盤の周縁に細かな敲打痕を留めるもので、2点ともF13区画で石鎚をはじめとする多量の剥片石器類と共に出土しており、打製石器の製作に用いられたものとみられる。

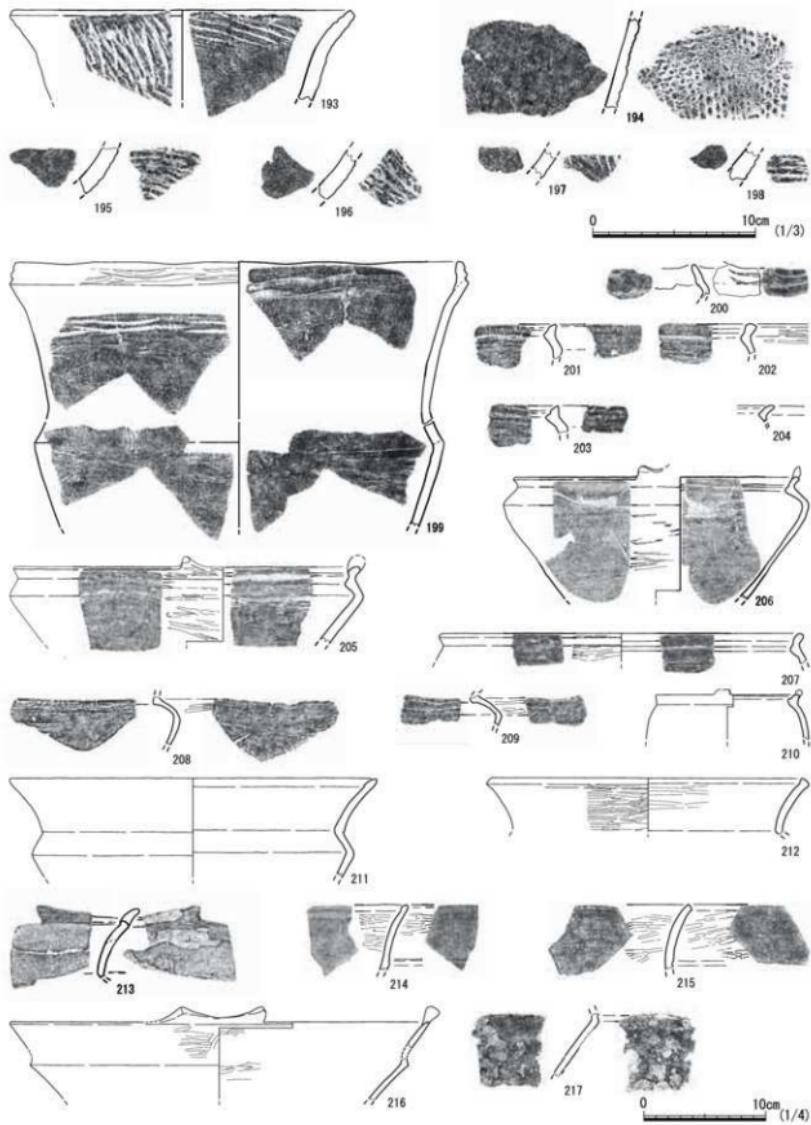


図3-22 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器1 (1/3、1/4)

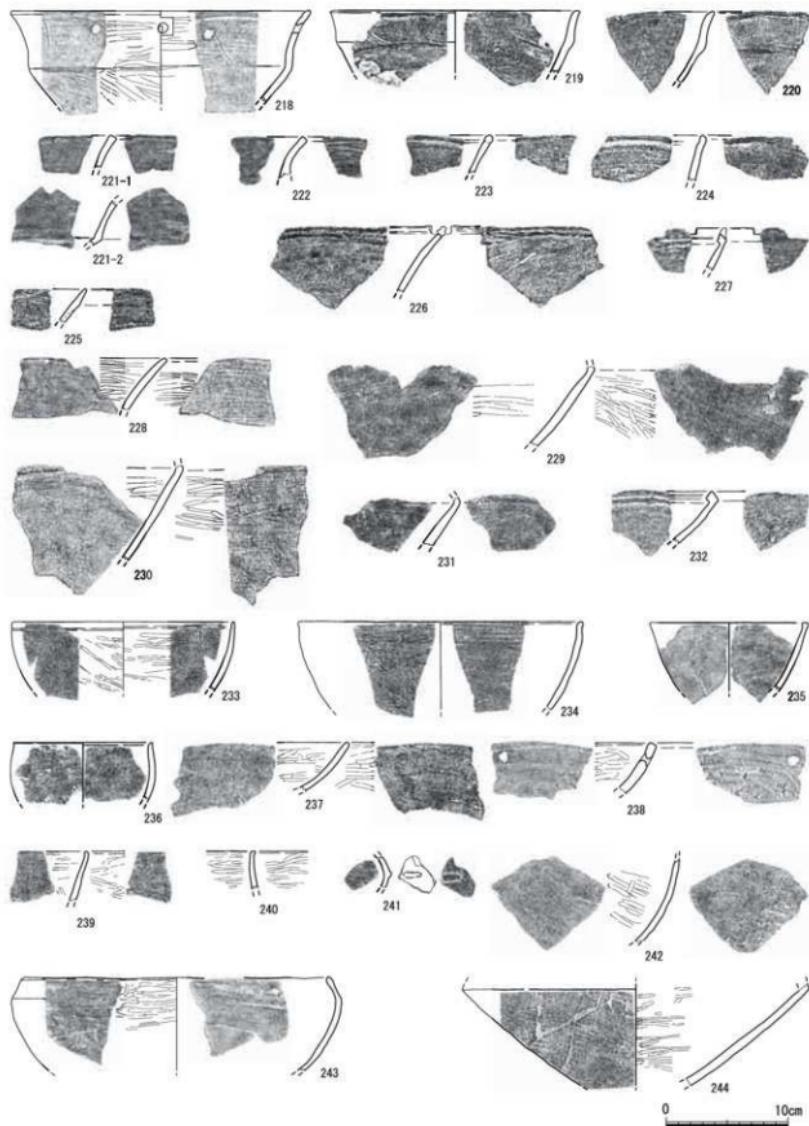


図3-23 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器2 (1/4)

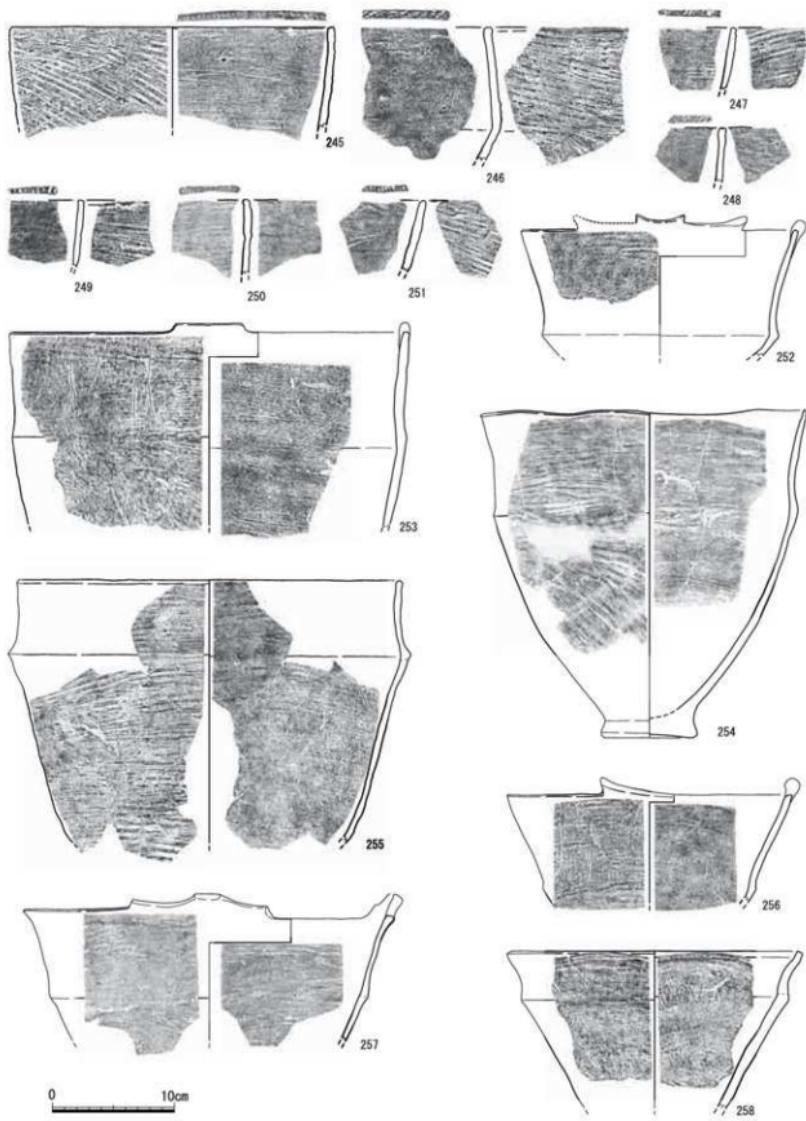


図3-24 1区縄文～弥生時代の遺物 造横外出土土器3 (1/4)

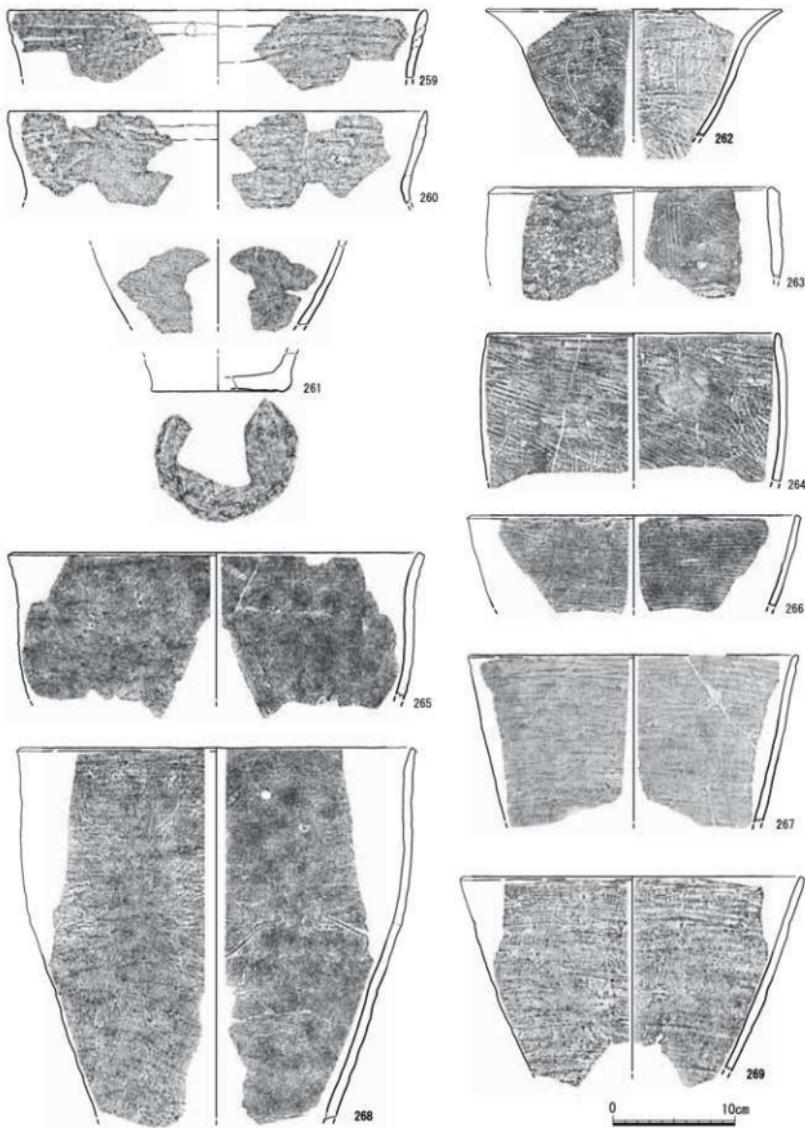


図3-25 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器4 (1/4)

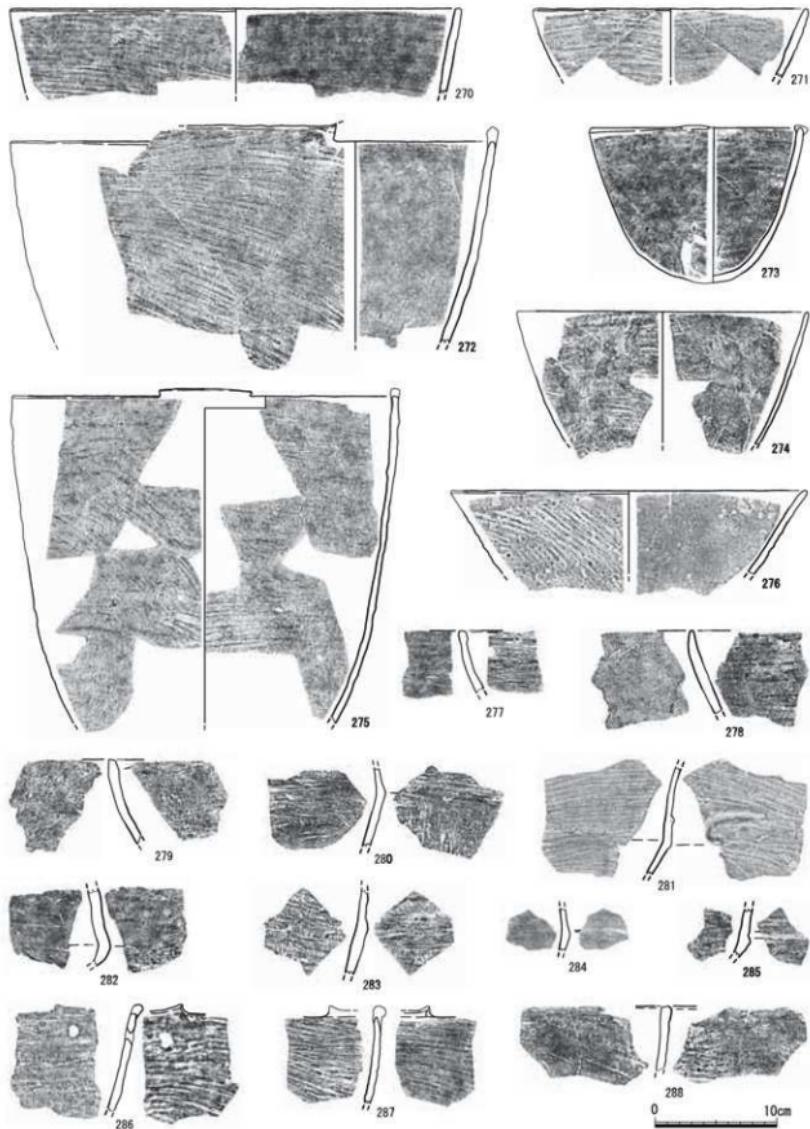


図3-26 1区縄文～弥生時代の遺物 造模外出土土器5 (1/4)

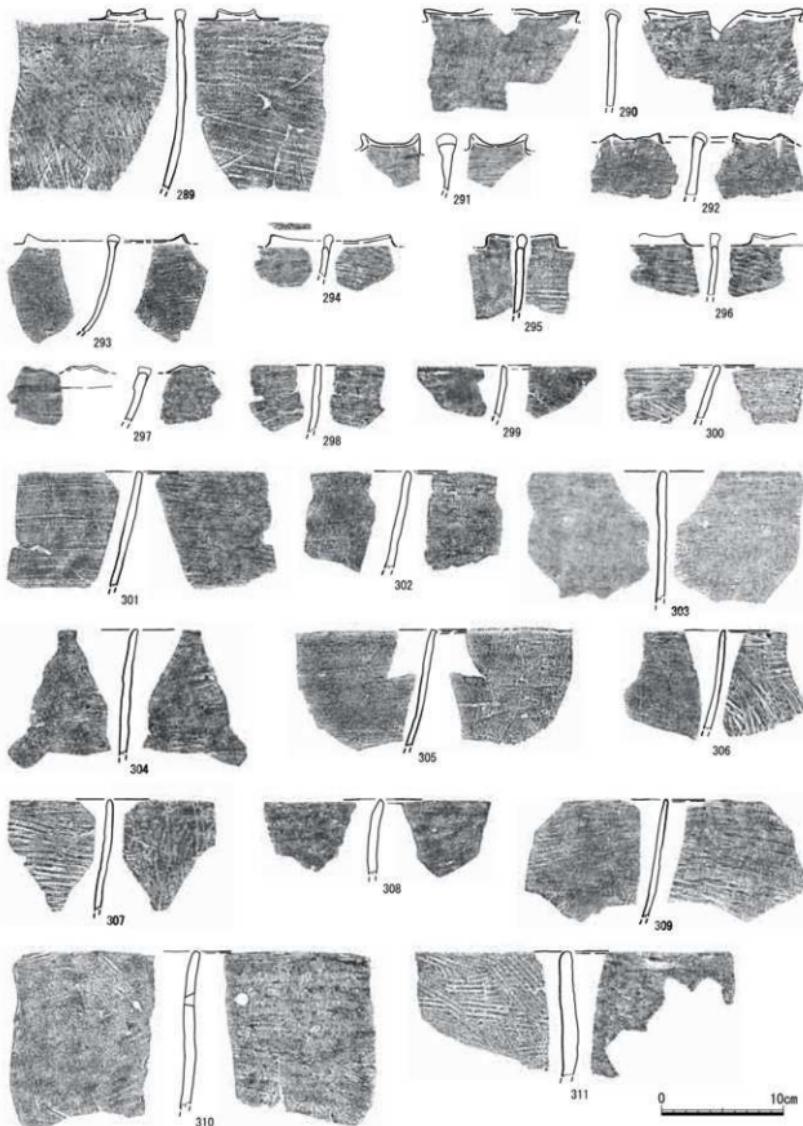


図3-27 1区縄文～弥生時代の遺物 造橋出土土器6 (1/4)

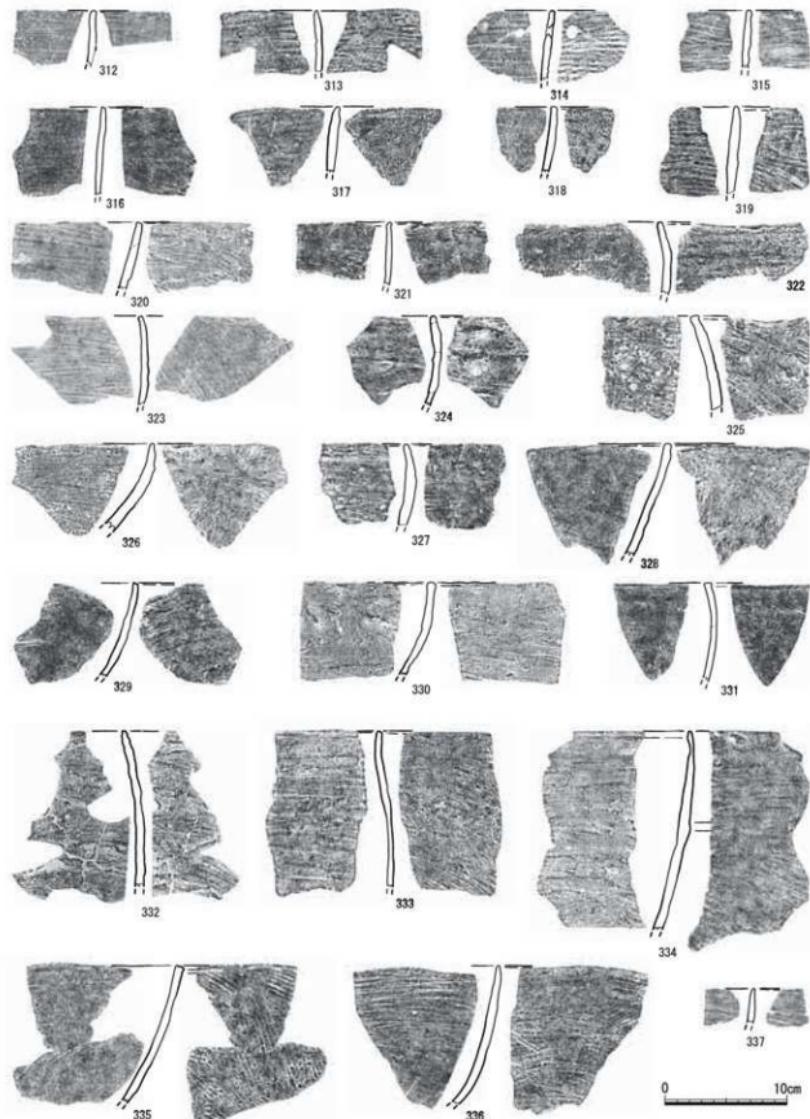


図3-28 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土器 7 (1/4)

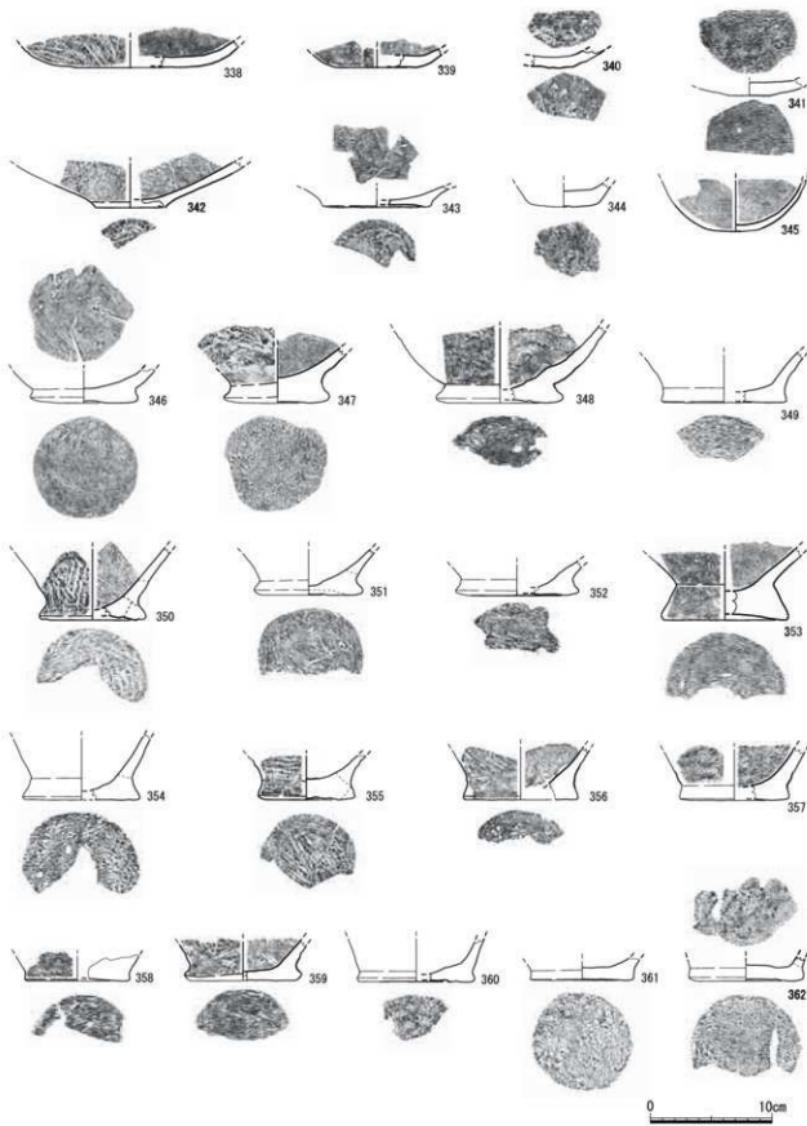


図3-29 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器 8 (1/4)

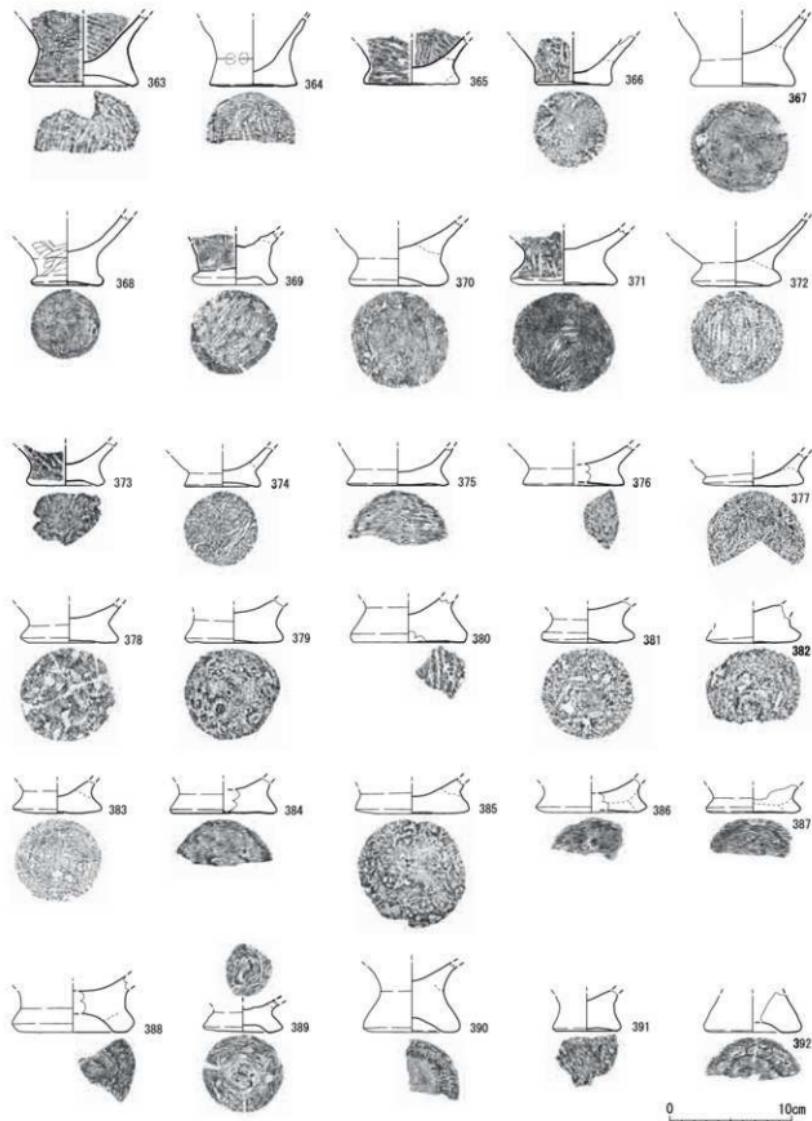


図3-30 1区縄文～弥生時代の遺物 造模外出土土器9 (1/4)

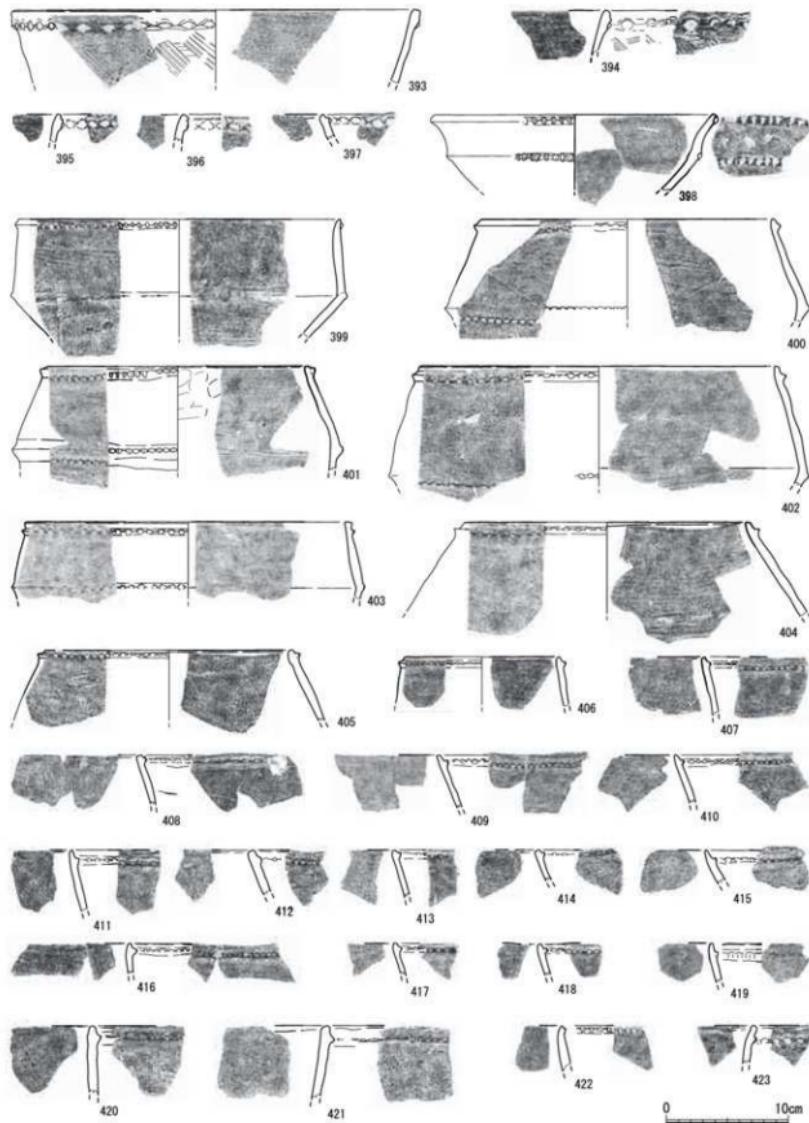


図3-31 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器 10 (1/4)

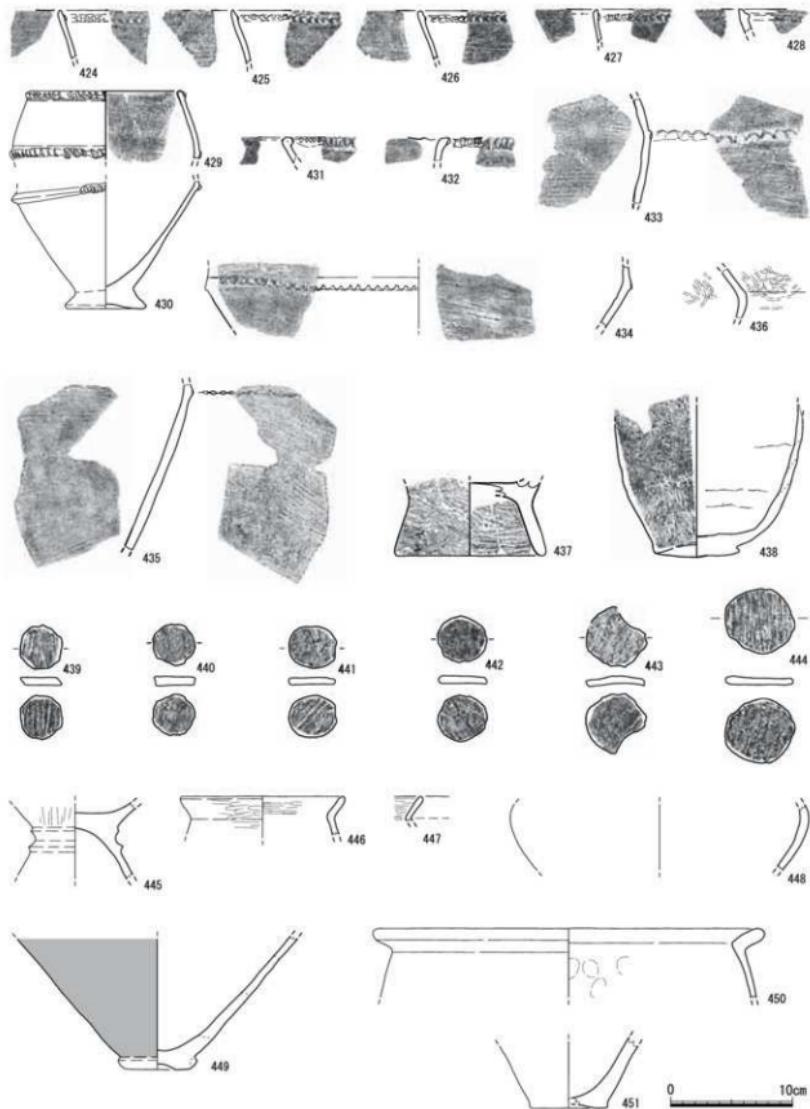


図3-32 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土土器 11 (1/4)

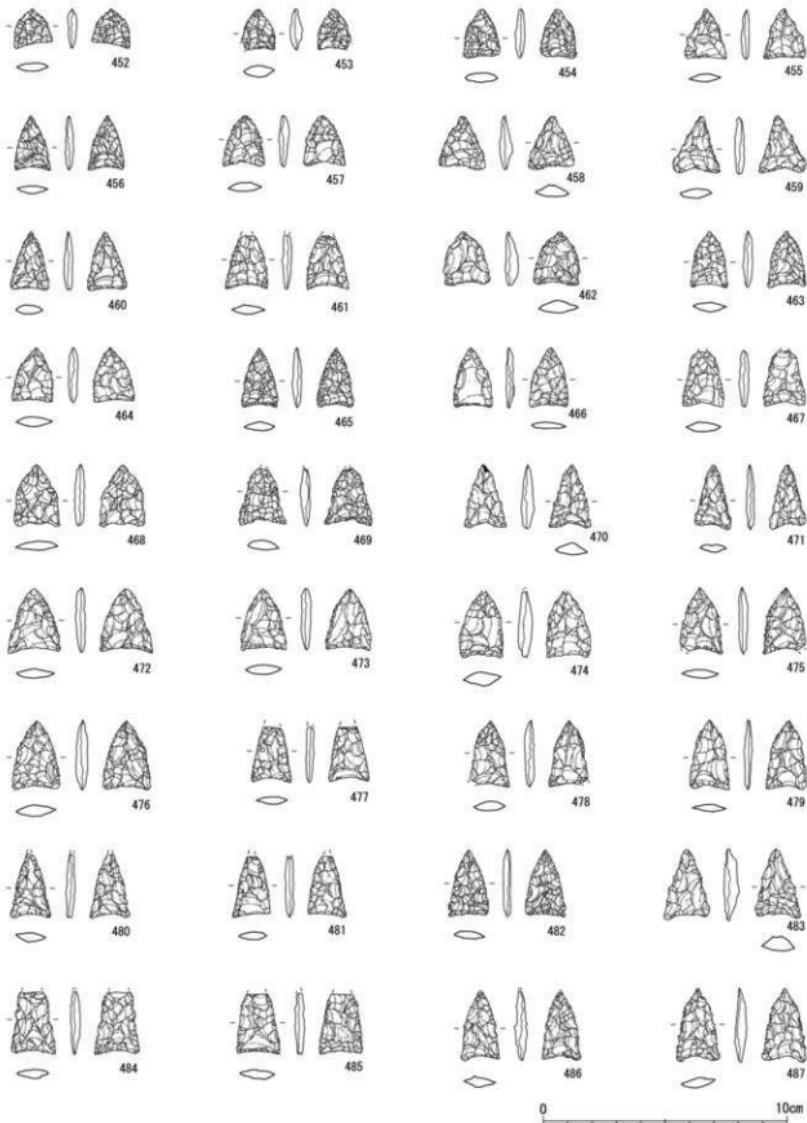


図3-33 1区縄文～弥生時代の遺物 造橋出土石器1 (1/2)

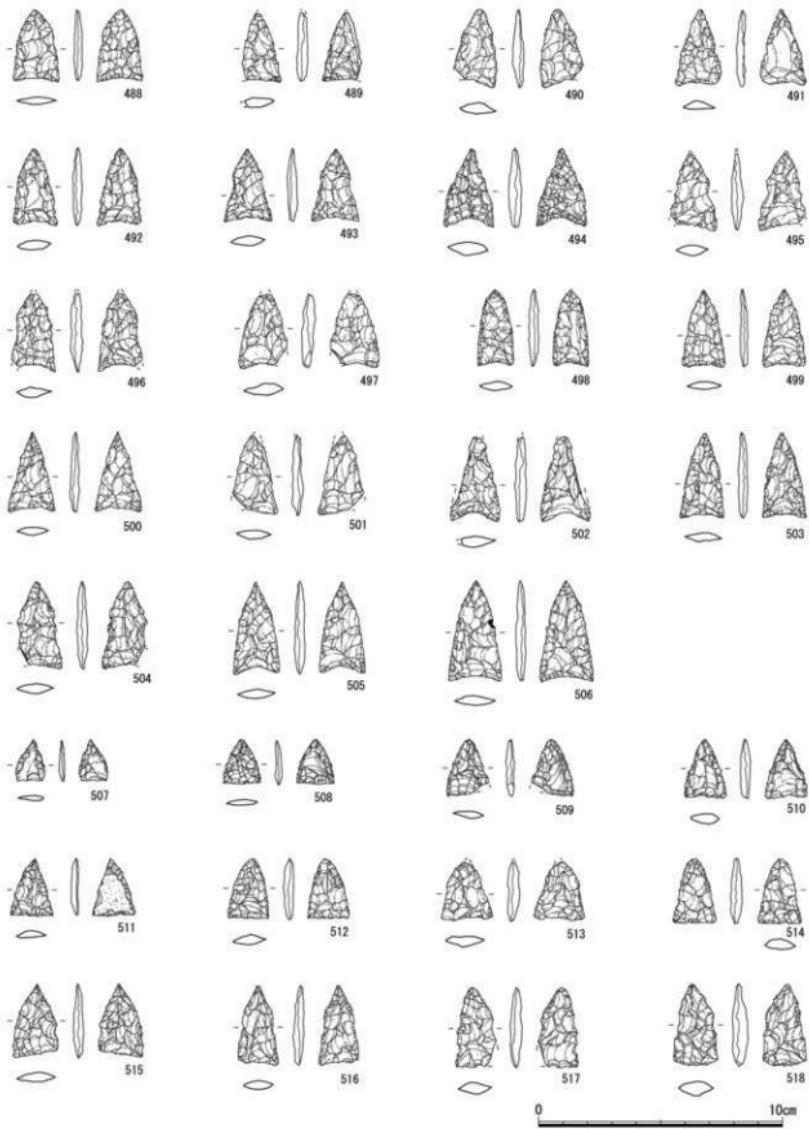


図3-34 1区縄文～弥生時代の遺物 造橋外出土石器2 (1/2)

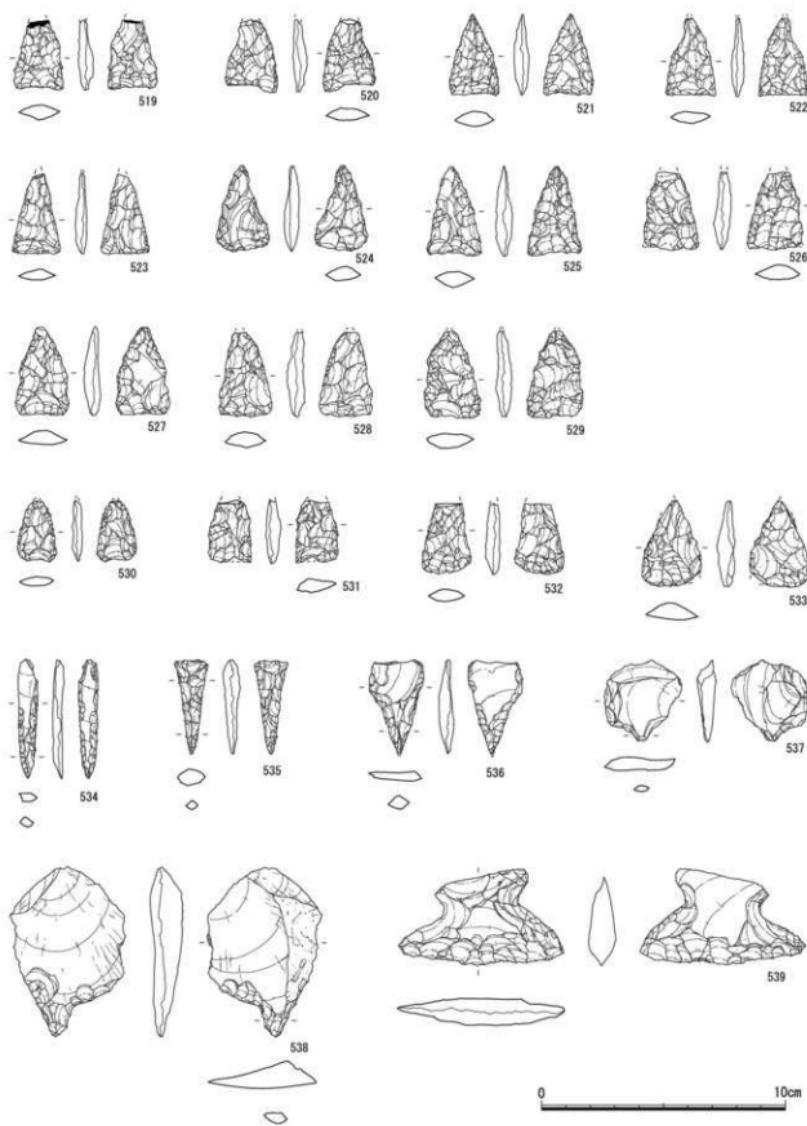


図3-35 1区縄文～弥生時代の遺物 造橋外出土石器3 (1/2)

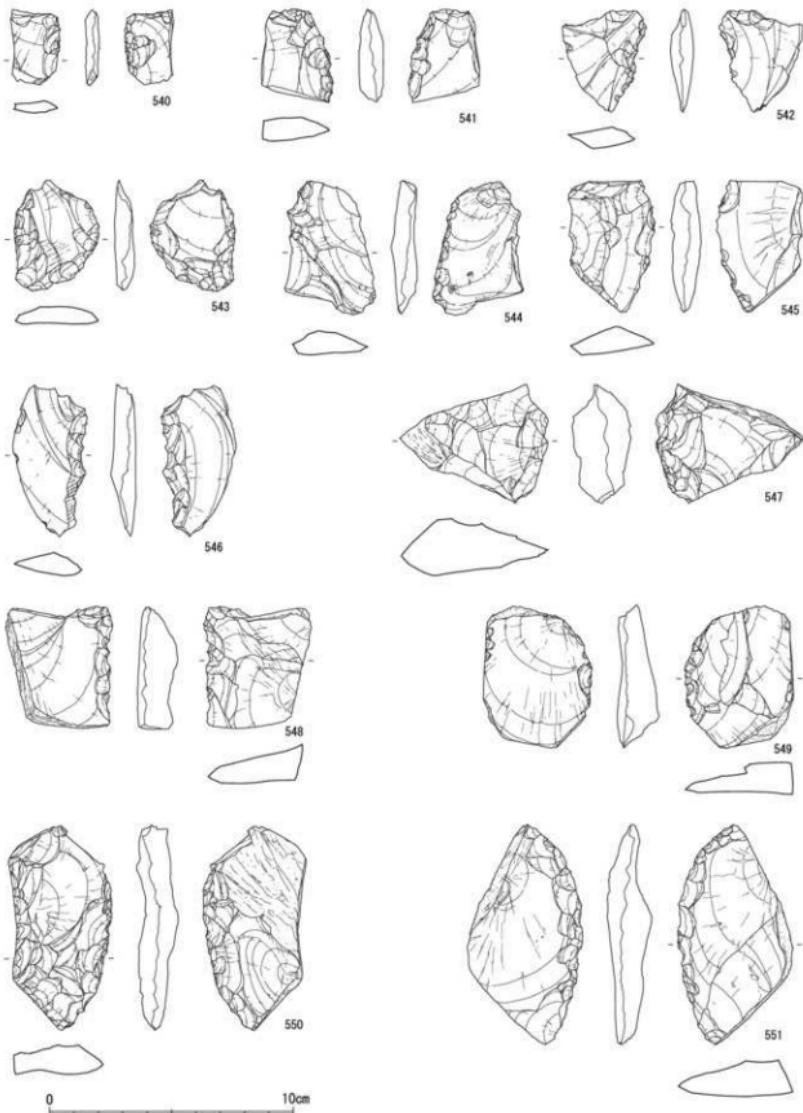


図3-36 1区縄文～弥生時代の遺物 造橋外出土石器4 (1/2)

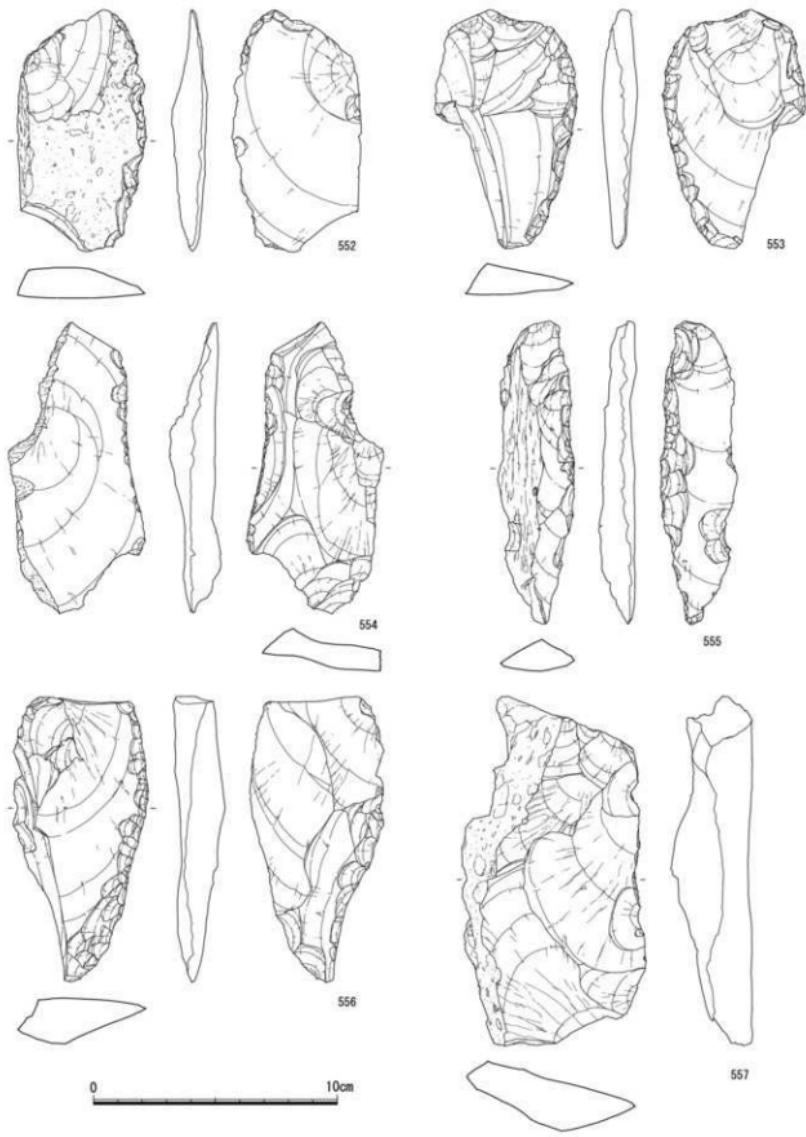


図3-37 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器5 (1/2)

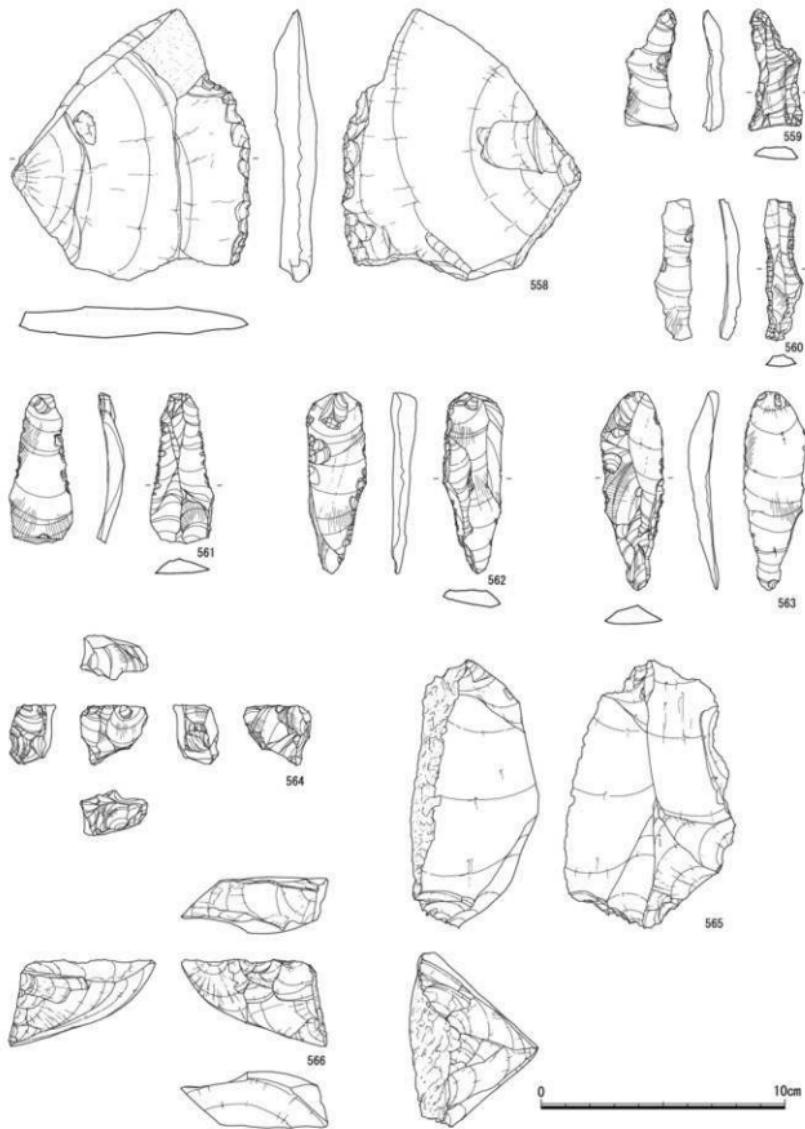


図3-38 1区縄文～弥生時代の遺物 遺横出土石器6 (1/2)

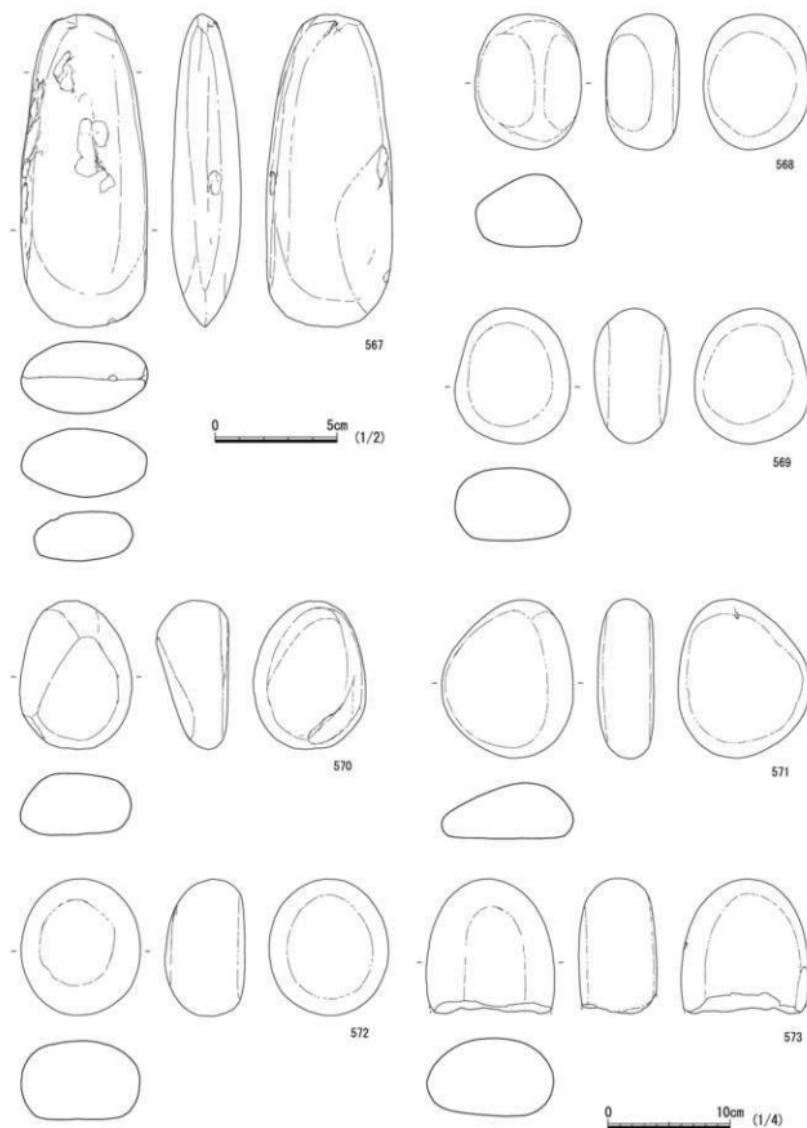
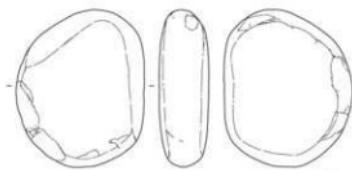
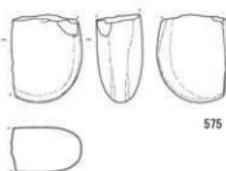


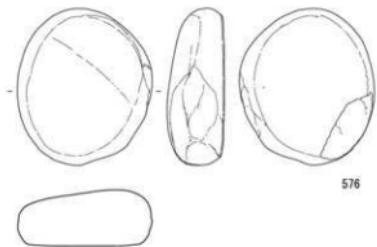
図3-39 1区縄文～弥生時代の遺物 通横出土石器7 (1/2、1/4)



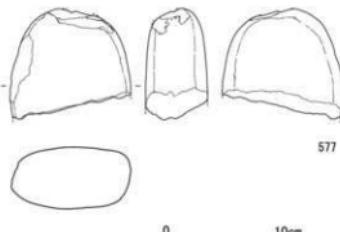
574



575



576



577

0 10cm

図3-40 1区縄文～弥生時代の遺物 遺構外出土石器8 (1/4)

2) 3区縄文～弥生時代の遺構と遺物

縄文～弥生時代の遺構・遺物は、3A区北側の緩斜面に限られ、1区の遺構・遺物分布とは隔たっている。当該期の遺構としたものは土坑2基と焼窯集積遺構1基で、遺物の出土量も1区に比して少ない。

SX3002 (図3-45)

3A区北側に位置する。長軸1.28m、短軸0.88m、深さ0.40mで、平面は楕円形である。底面は平坦で、壁はきつく立ち上がる。遺物は出土しなかったが、周囲からは縄文時代後期～晩期の土器が出土している。

SX3003 (図3-45)

3A区北側に位置する。長軸1.32m、短軸1.24m、深さ0.68mで、平面は楕円形である。底面に小穴があるが、この遺構に伴うものかどうかは判らない。底面の南端に礫がやまとまっているが、これも人為的なものかどうか判断できない。遺物は出土しなかったが、周囲からは縄文時代後期～晩期の土器が出土している。

SX3004 (図3-45)

3A区北側に位置する焼窯集積遺構である。2.5×1.4mの範囲に被熱によると思われる赤化・黒化礫を含む礫50個以上がまとまるもので、掘り込みは確認されず、礫の集中度は低い。明確にこの遺構に伴う遺物はないが、縄文時代前期の遺物が集中する箇所に接しており、前期の遺構である可能性が高い。

3区の出土遺物 (図3-46～52)

前期の土器 (図3-46・47)

578～580は轟B式系で、578は突帯に刻みが施され、内外面条痕のちナデ、579は外面ナデ、内面条痕のちナデ、580は内外面条痕のちナデである。581・584は西唐津式で、581は胎土に滑石を含み、内外面ナデ、584は内外面ナデである。582～636は曾畠式で、胎土に滑石を含むものが大多数である。口縁内面の文様には押引、刺突、短沈線などがみられ、632は外面ナデ、内面条痕、それ以外は内外面ナデである。

中～晚期の土器 (図3-48・49)

637は中期末～後期初頭のものと考えられ、胎土に滑石を含み、外面ナデ、内面条痕のちナデである。638は春日式系の可能性があり、内外面ナデである。

639は浅鉢で、外面に沈線が施され、内外面ナデ、640・641は精製深鉢胴部で、内外面ミガキである。642～645は浅鉢で、642は口縁外面に沈線が施され、内外面ミガキ、644は内外面ミガキ、645は内外面ナデである。646～654は深鉢で、646・648・649は外面条痕、内面ナデ、647・651は内外面ナデ、650・653は外面条痕、内面条痕のちナデ、652は内外面ミガキ、654は突起が付くものと考えられ、外面条痕、内面ナデである。

655・656・658は浅鉢で、655・656は内外面ナデ、658は外面条痕のちナデ、内面ミガキである。657・659～665は深鉢で、659はリボン状突起がつき、657・659～662は外面条痕、内面ナデ、663は外面条痕のちナデ、内面ナデ、664・665は内外面ナデである。666～671・673は浅鉢と思われ、666・667は内外面ミガキ、668は突起が付き、668～670・673は内外面ナデ、671は外面ナデ、内面ミガキである。672は深鉢胴部で、内外面上半ナデ、下半条痕である。674～677は深鉢底部で、674は外面ナデ、内面条痕のちナデ、675は外面条痕、内面ナデ、676は内外面条痕、底面ナデ、677は内外面ナデである。678・679は浅鉢底部で、678は外面ナデ、内面・底面ミガキ、679は内外面ナデである。

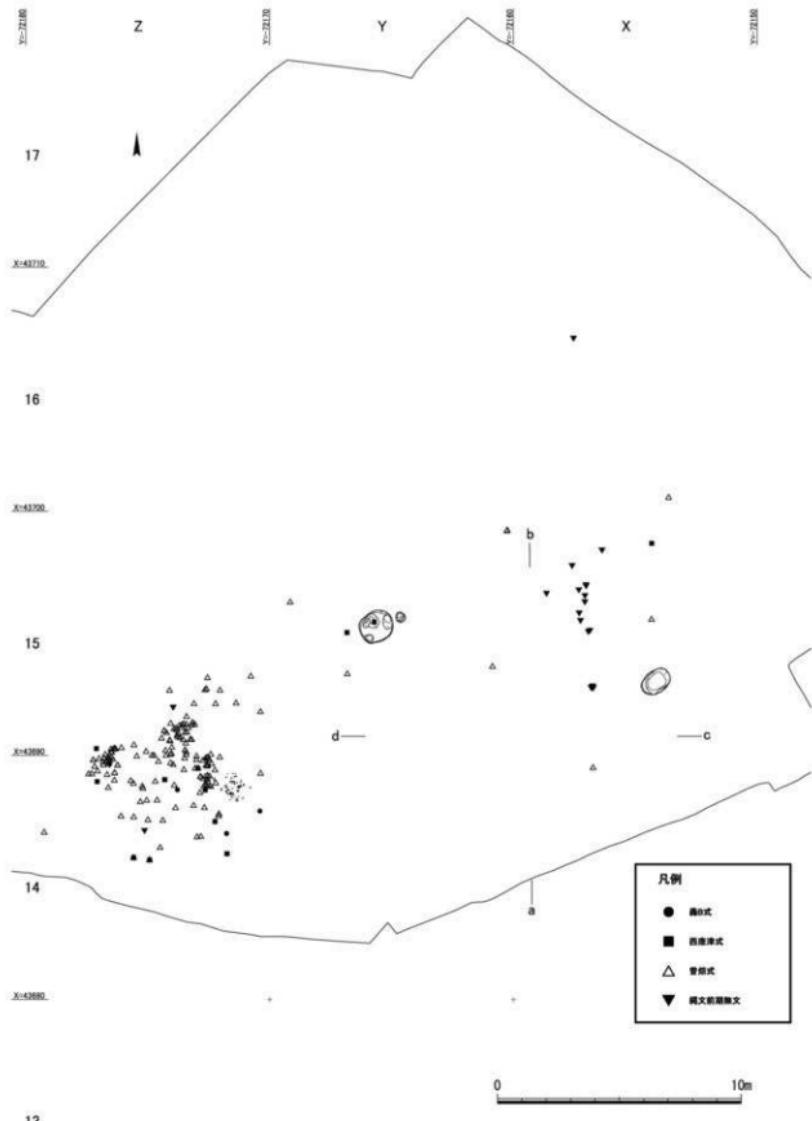


図3-41 3区縄文時代前期土器分布 (1/200)

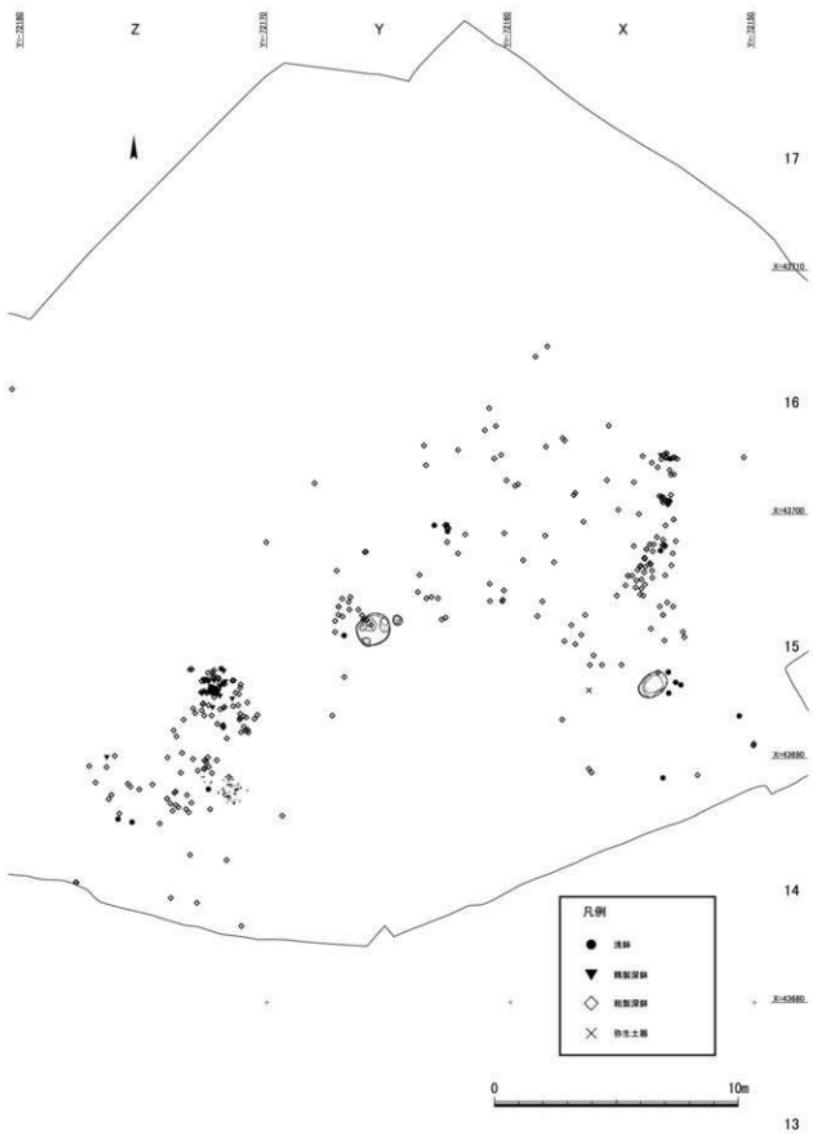


図3-42 3区縄文時代後期～晩期土器分布 (1/200)

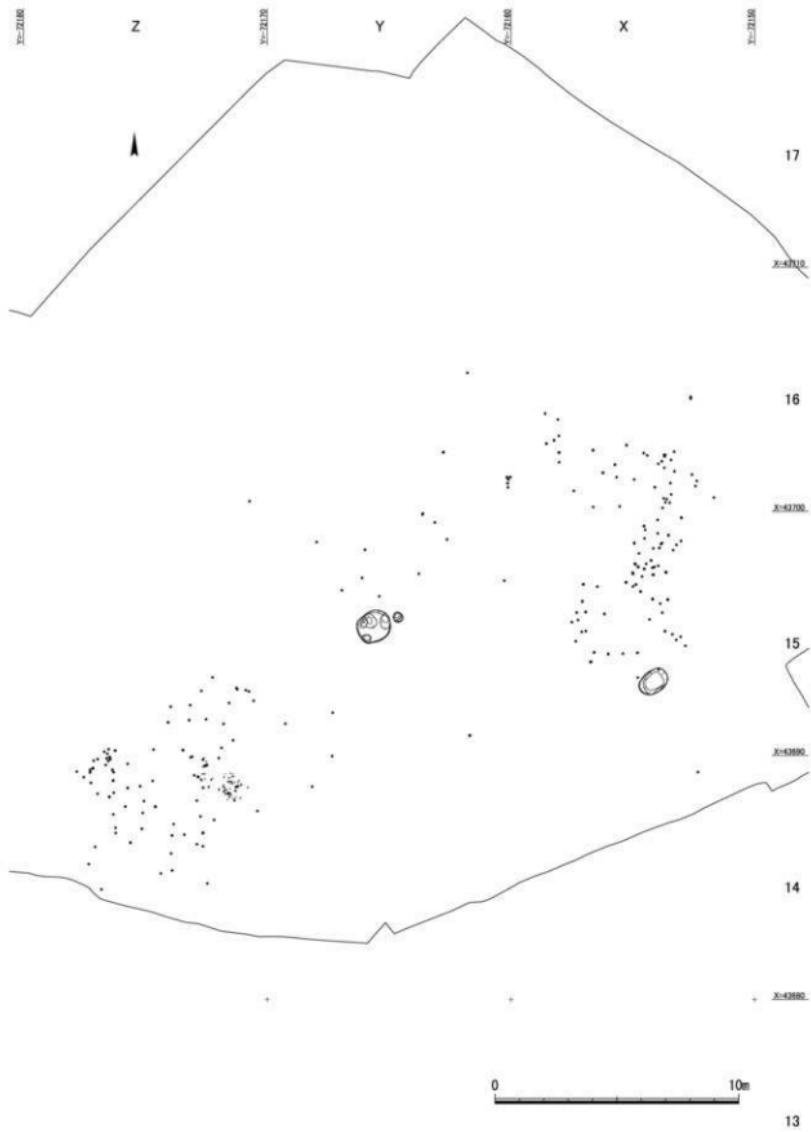


図3-43 3区縄文時代石器の分布 (1/200)

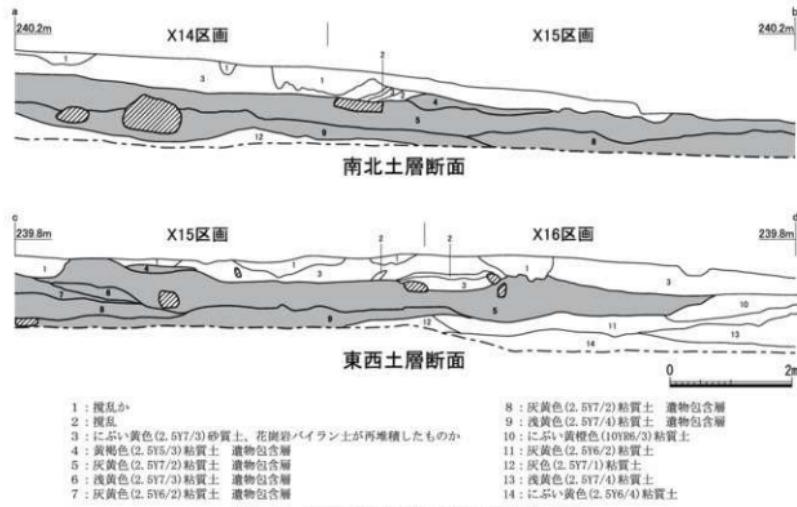


図 3-44 3区縄文時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)

弥生土器 (図 3-49)

680・681は旗で、680はヨコナデ、681は口縁部ヨコナデ、内外面ナデである。

打製石器 (図 3-50 ~ 52)

682 ~ 707は石鎚である。682 ~ 688は凹基式で、抉りが深い古相のものを含む。689 ~ 707は微凹基ないし平基の二等辺三角形のもので、1区出土資料に近い。

708 ~ 710は石鎚未製品と思われるもので、いずれも主要剥離面を大きく留める。製作途中の折損等により放棄されたものと見られる。

711 ~ 723は小型の両面調整石器で、調整剥離は比較的丁寧であるが、外形は全体に丸みを帯び、小型の削器の一種か、石鎚の未製品ないし再加工途上の中のものかと思われる。

724 ~ 726は剥片の一部に調整剥離を施して刃部を作出した削器である。

727は縱型の石匙で、調整剥離は刃部とつまみの作出に留まる。石匙としては小さなものである。

728 ~ 730・733・734は石核、731・732は剥片である。

磨製石器・礫石器 (図 3-52)

735は蛇紋岩製の磨製石斧で、研磨による細かな稜を留め、薄い断面のものである。縄文時代前期に伴う可能性が高い。

736 ~ 739は磨石である。737 ~ 739は使用による摩滅痕を留める。736は棒状のあまり例を見ないので、表面は磨耗しているが使用痕かどうかはつきりしない。

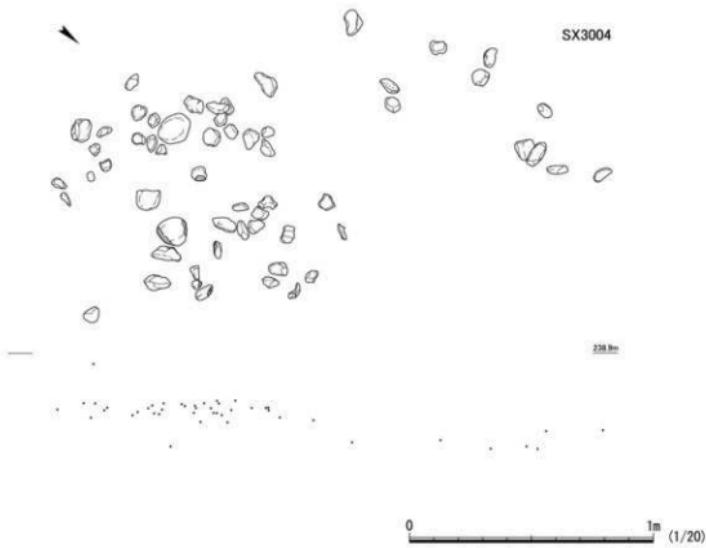
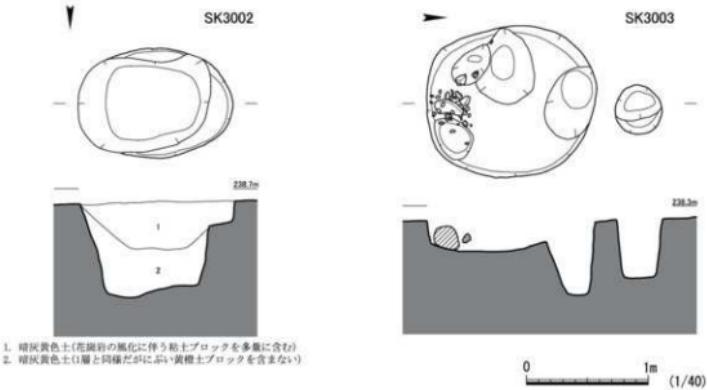


図3-45 3区縄文時代の遺構 (1/40, 1/20)

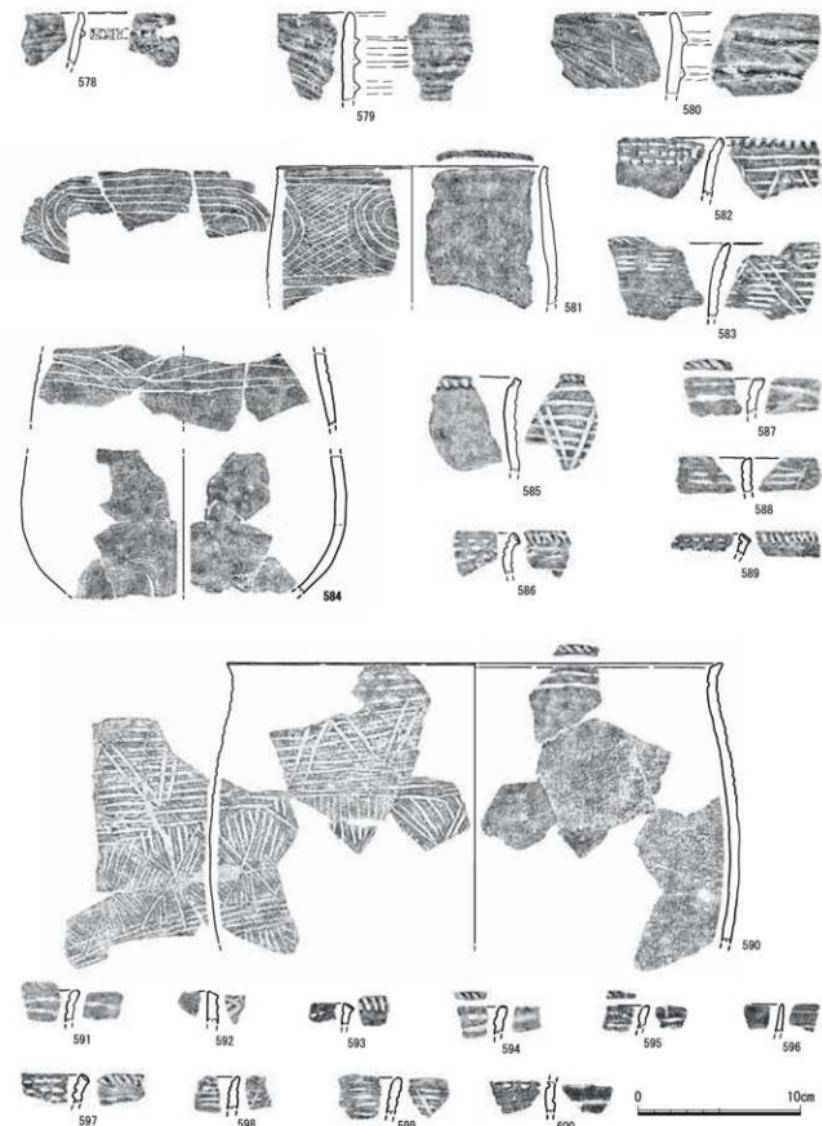


図3-46 3区縄文～弥生時代の遺物 土器1 (1/3)

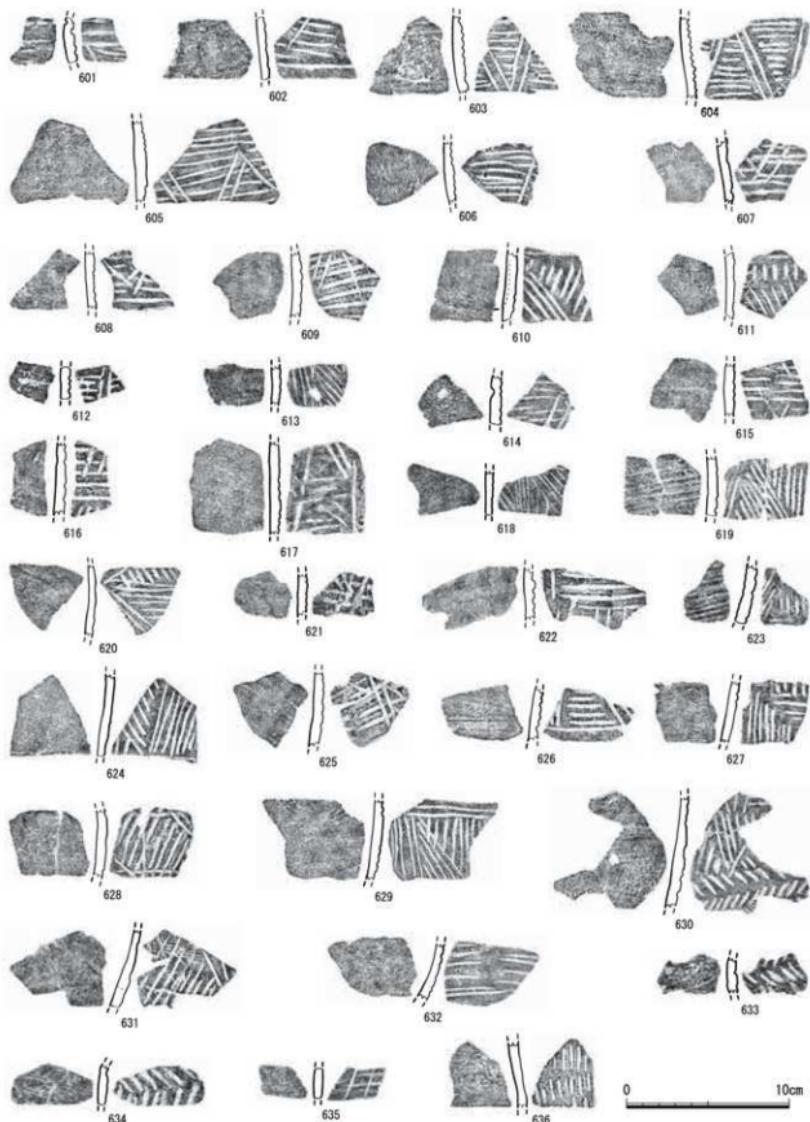


図3-47 3区縄文～弥生時代の遺物 土器2 (1/3)

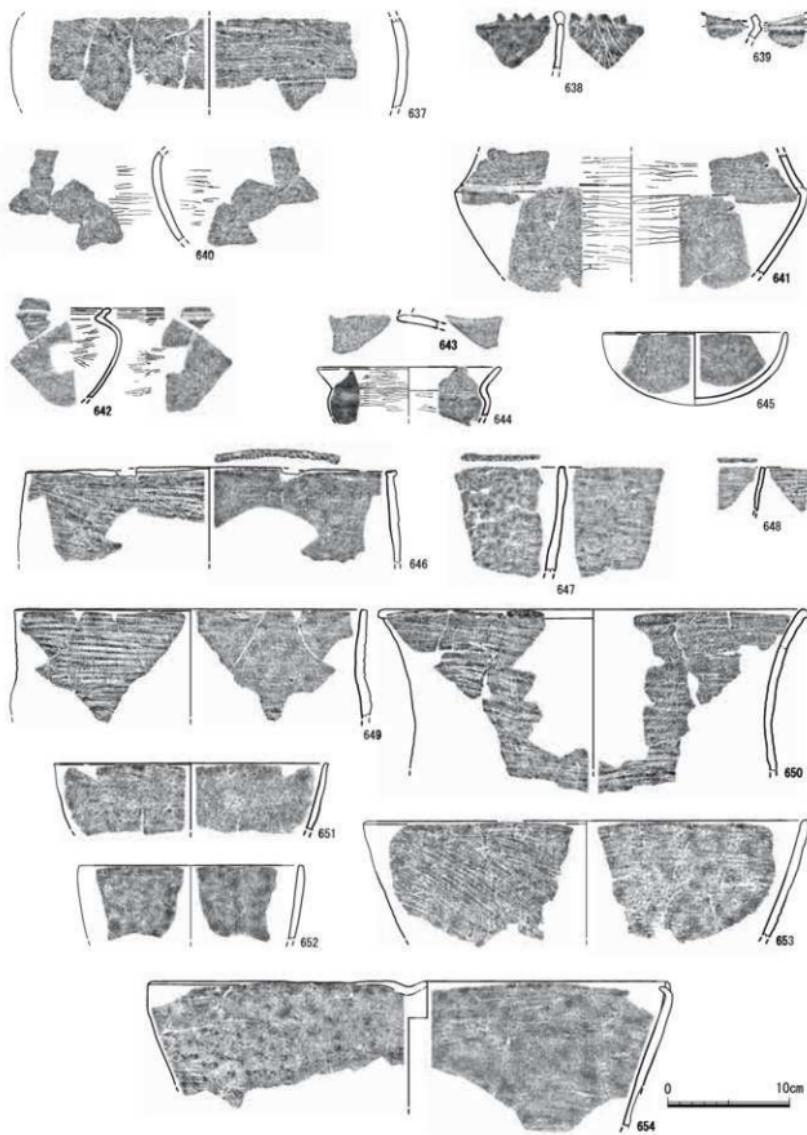


図3-48 3区縄文～弥生時代の遺物 土器3 (1/4)

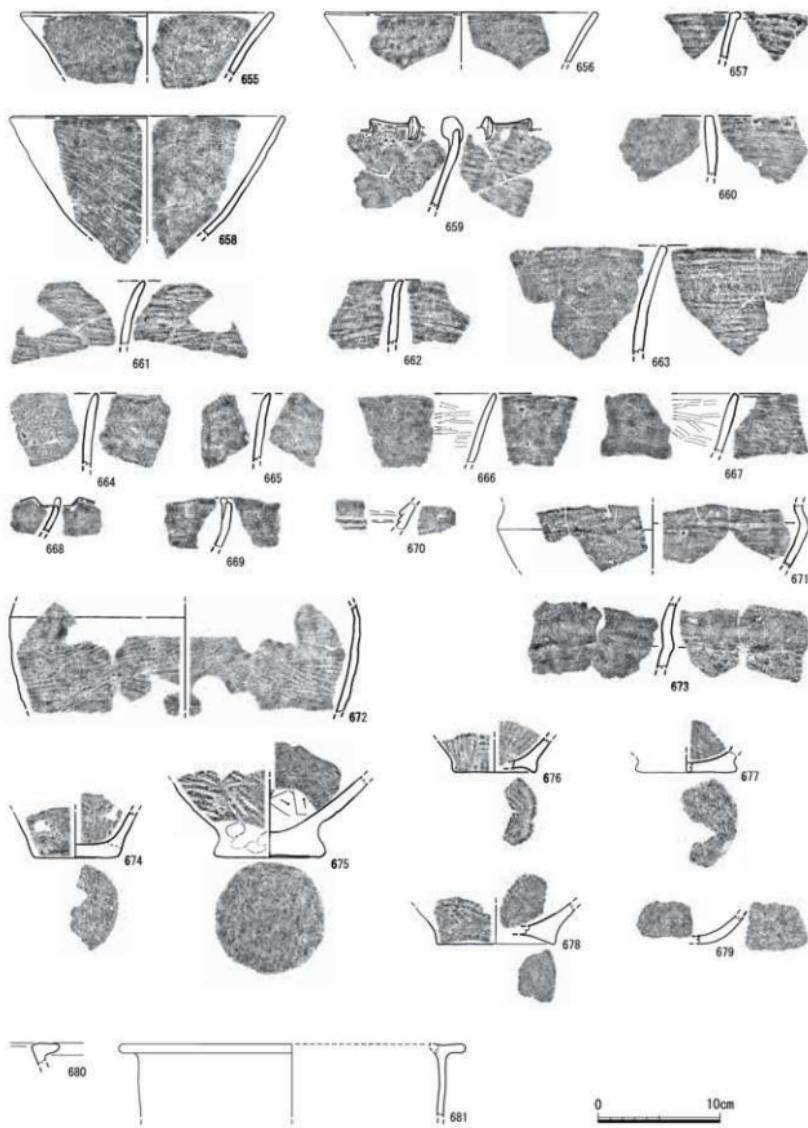


図3-49 3区縄文～弥生時代の遺物 土器4 (1/4)



図3-50 3区縄文～弥生時代の遺物 石器1 (1/2)

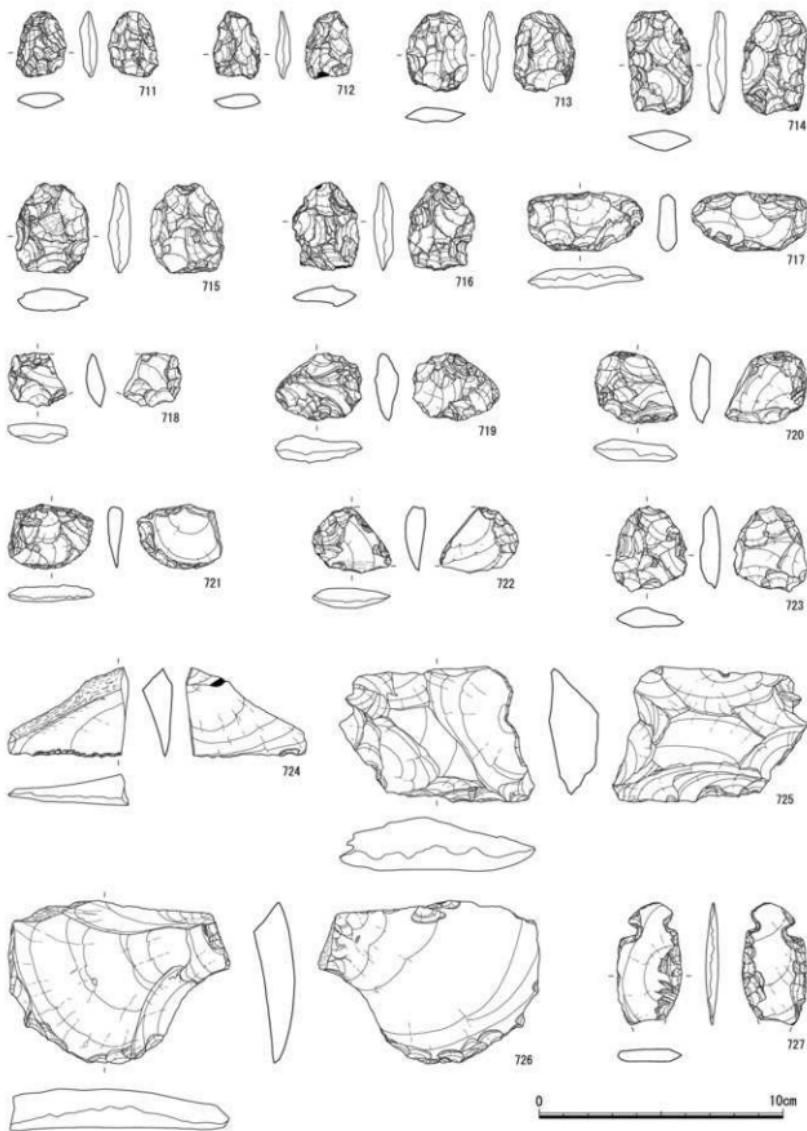


図3-51 3区縄文～弥生時代の遺物 石器2 (1/2)

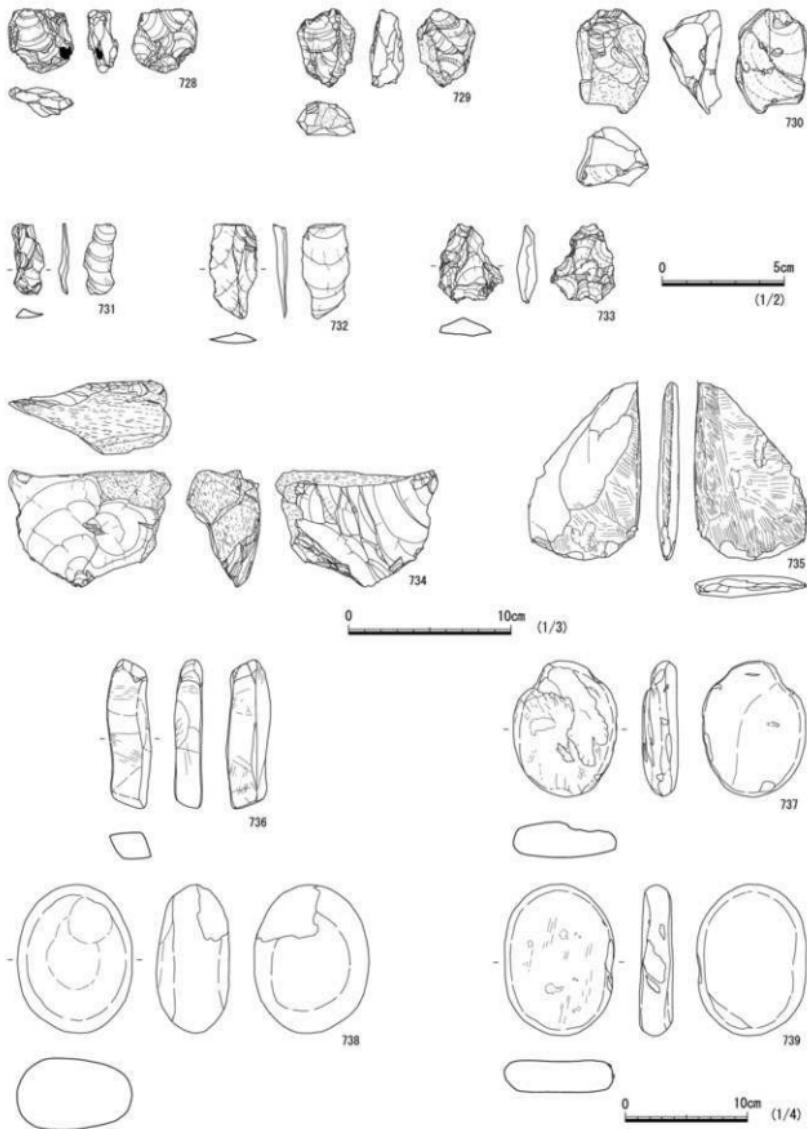


図3-52 3区縄文～弥生時代の遺物 石器3 (1/2, 1/3, 1/4)

表3-1 1区縄文～弥生時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-12-1 04002728	SH1110	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黃褐色 内：明赤褐色	-	3-8 20070354
3-12-2 04001599	SH1110	弥生土器 壺	32.1	-	-	外：暗褐色 内：明赤褐色	傾きは不確実	3-8 20070355
3-12-3 04002730	SH1110	弥生土器 壺	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	内外赤色顔料塗布	3-8 20070356
3-12-4 04002729	SH1110	弥生土器 壺	-	-	-	外：明赤褐色 内：棕	外面赤色顔料塗布	3-8 20070357
3-12-5 04002586	SH1110 SK1114	弥生土器 壺	-	-	-	外：赤褐色 内：棕	外面赤色顔料塗布	3-8 20070358
3-12-6 04001897	SK1114	弥生土器 壺	-	-	-	外：棕 内：棕	外面赤色顔料塗布 傾きは不確実	3-8 20070359
3-12-7 04001878	SK1114 E17区廻	弥生土器 壺	-	-	-	外：明赤褐色 内：棕	外面赤色顔料塗布	3-8 20070360
3-12-8 04001890	SX1139	縄文土器 深鉢	35.4*	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	石臼炉中央の上槽部に利用	3-8 20070361
3-12-9 04001888	SX1139	縄文土器 深鉢	36.6*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070362
3-12-10 04001889	SX1139	縄文土器 深鉢	29.1*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面覆付着	3-8 20070363
3-12-11 04001887	SX1139	縄文土器 深鉢	36.8*	-	-	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	-	3-8 20070364
3-12-12 04001886	SX1139	縄文土器 浅鉢	36.3*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070365
3-12-13 04001891	SX1139	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	-	3-8 20070366
3-12-14 04001892	SX1139	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	口輪内外面に旋線	3-8 20070367
3-13-15 04001816	SK1102	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	内外面覆付着	3-8 20070368
3-13-16 04001815	SK1102	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070369
3-13-17 04001603	SK1107	縄文土器 浅鉢	32.0	-	-	外：明褐色 内：明褐色	突起に焼成後穿孔	3-8 20070370
3-13-18 04001906	SK1107	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：灰褐色	-	3-8 20070371
3-13-21 04001820	SK1118	縄文土器 深鉢	24.7	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	外面覆付着 1821と同一個体	3-8 20070372
3-13-22 04001821	SK1118	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：褐	1820と同一個体	3-8 20070373
3-13-23 04001865	SK1122	縄文土器 浅鉢	24.0	-	-	外：褐 内：褐	-	3-8 20070374
3-13-24 04001866	SK1122	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：棕	-	3-8 20070375
3-14-25 04001817	SK1101	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	-	3-8 20070376
3-14-26 04001907	SK1129	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：棕 内：棕	焼成後穿孔	3-8 20070377
3-14-27 04001908	SK1129	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗灰褐色 内：暗灰褐色	-	3-8 20070378
3-14-28 04001843	SK1121	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：棕	-	3-8 20070379
3-14-29 04001842	SK1121	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黃褐色 内：灰黃褐色	-	3-8 20070380
3-14-30 04001841	SK1121	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：黄灰	-	3-8 20070381
3-14-31 04001598	SK1128	縄文土器 深鉢	16.6*	6.2*	16.0	外：棕 内：にぶい黄褐色	内外面に媒付着	3-8 20070382
3-14-32 04001712	SK1134	縄文土器 深鉢	31.9*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070383
3-14-33 04001711	SK1134	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	-	3-8 20070384
3-14-34 04001707	SK1134	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：棕	-	3-8 20070385
3-14-35 04001709	SX1134	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070386
3-14-36 04001708	SX1134	縄文土器 深鉢	-	9.1*	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-8 20070387

表3-1 1区縄文～弥生時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-14-37 04001710	SK1134	縄文土器 浅鉢?	-	7.1*	-	外：にぶい橙 内：にぶい橙	-	3-8 20070388
3-14-39 04001704	SK1137	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：橙	-	3-8 20070389
3-14-40 04001703	SK1137	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：相 内：相	-	3-8 20070390
3-15-42 04001605	SK1132	縄文土器 浅鉢	12.0*	-	-	外：相 内：相	-	3-8 20070391
3-15-43 04001588	SK1132	縄文土器 浅鉢	26.0*	-	-	外：黒 内：褐	-	3-8 20070392
3-15-44 04001647	SK1132	縄文土器 深鉢	26.4	-	-	外：相 内：相	-	3-8 20070393
3-15-45 04001745	SK1132	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄褐	-	3-8 20070394
3-15-46 04001920	SK1132	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄 内：灰黄	外面部付着	3-8 20070395
3-15-47 04001753	SK1132	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-8 20070396
3-15-48 04001755	SK1132	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	3-8 20070397
3-15-49 04001570	SK1132	縄文土器 深鉢	-	6.9	-	外：にぶい黄褐 内：黒褐	-	3-8 20070398
3-15-50 04001663	SK1132	縄文土器 深鉢	-	7.6	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-8 20070399
3-15-51 04001669	SK1132	縄文土器 深鉢	-	10.5*	-	外：相 内：相	-	3-8 20070400
3-16-66 04001618	SK1133	縄文土器 浅鉢	25.5*	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-9 20070401
3-16-67 04001615	SK1133	縄文土器 浅鉢	22.3*	-	-	外：明褐 内：明褐	-	3-9 20070402
3-16-68 04001600	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黒褐 内：黒褐	-	3-9 20070403
3-16-69 04001625	SK1133	縄文土器 浅鉢	28.6*	-	-	外：灰黄 内：灰黄	-	3-9 20070404
3-16-70 04001626	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：暗灰黄 内：暗灰黄	-	3-9 20070405
3-16-71 04001595	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黄灰 内：黒褐	-	3-9 20070406
3-16-72 04001927	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：暗灰黄 内：暗灰黄	外面部付着 植きは不確実	3-9 20070407
3-16-73 04001850	SK1133	縄文土器 浅鉢	39.9	-	-	外：黒褐 内：黒褐	外面部付着 14C年代測定資料	3-9 20070408
3-16-74 04001714	SK1133 G13区画	縄文土器 浅鉢	24.1*	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	-	3-9 20070409
3-16-75 04001649	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黒褐 内：黒褐	外面部付着	3-9 20070410
3-16-76 04001648	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-9 20070411
3-16-77 04001596	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：黒褐	植きは不確実	3-9 20070412
3-16-78 04001851	SK1133	縄文土器 浅鉢	14.2	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070413
3-16-79 04001852	SK1133	縄文土器 浅鉢	14.2	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070414
3-16-80 04001894	SK1133	縄文土器 ミニチュア	5.4*	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	-	3-9 20070415
3-16-81 04001698	SK1133 G13区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	底部かどうかは不確実	3-9 20070416
3-16-82 04001831	SK1133	縄文土器 浅鉢	31.0*	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄褐	口判部削目 外面部付着	3-9 20070417
3-16-83 04001738	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：明褐	口判部削目	3-9 20070419
3-16-84 04001739	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：浅黄	口判部削目	3-9 20070420
3-16-85 04001731	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	口判部削目	3-9 20070420
3-16-86 04001727	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	口判部削目	3-9 20070421

表3-1 1区縄文～弥生時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-17-87 04001713	SK1133	縄文土器 深鉢	31.0*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：明黄褐色	-	3-9 20070422
3-17-88 04001918	SK1133 P1013	縄文土器 深鉢	25.7*	-	-	外：明赤褐色・灰褐色 内：明赤褐色・灰褐色	外面環付着	3-9 20070423
3-17-89 04001747	SK1133	縄文土器 深鉢	29.6*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面環付着	3-9 20070424
3-17-90 04001751	SK1133	縄文土器 深鉢	27.3*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-9 20070425
3-17-91 04001922	SK1133	縄文土器 深鉢	27.1*	-	-	外：黄灰 内：黄灰	外面環付着	3-9 20070426
3-17-92 04001748	SK1133	縄文土器 浅鉢	27.2*	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070427
3-17-93 04001812	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面環付着	3-9 20070428
3-17-94 04001650	SK1133	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070429
3-17-95 04001924	SK1133	縄文土器 浅鉢？	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	外面環付着 傾きは不確実	3-9 20070430
3-17-96 04001861	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	傾きは不確実	3-9 20070431
3-17-97 04001643	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：暗褐色 内：暗褐色	傾きは不確実	3-9 20070432
3-17-98 04001656	SK1133 F12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-9 20070433
3-17-99 04001533	SK1133	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	やや大きめの刻目 傾きは不確実	3-9 20070434
3-17-100 04001666	SK1133	縄文土器 深鉢	-	6.9	-	外：相 内：相	-	3-9 20070435
3-17-101 04001671	SK1133 E14区画	縄文土器 深鉢	-	7.5*	-	外：相 内：相	底部網代痕	3-9 20070436
3-17-102 04001660	SK1133	縄文土器 深鉢	-	6.8*	-	外：相 内：相	-	3-9 20070437
3-17-103 04001659	SK1133	縄文土器 深鉢	-	7.6	-	外：相 内：褐色	底部に植物（種子か）痕あり	3-9 20070438
3-17-104 04001827	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	10.3*	-	外：相 内：にぶい赤褐色	-	3-9 20070439
3-17-105 04001903	SK1133	土製品 土製円盤	53	4.8	0.7	外：にぶい黄褐色 内：灰黃褐色	-	3-9 20070440
3-19-137 04001616	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070441
3-19-138 04001587	SX1131 F12-14区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-9 20070442
3-19-139 04001627	SX1131 F12区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070443
3-19-140 04001612	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黄灰 内：黄灰	-	3-9 20070444
3-19-141 04001620	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	-	3-9 20070445
3-19-142 04001590	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	19.0*	-	外：暗褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-9 20070446
3-19-143 04001837	SX1131	縄文土器 浅鉢	28.0*	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相	外面環付着	3-9 20070447
3-19-144 04001741	SX1131	縄文土器 浅鉢	24.0*	-	-	外：明褐色 内：明褐色	孔列文（外側から穿孔）	3-9 20070448
3-19-145 04001737	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい相	口輪部刻目	3-9 20070449
3-19-146 04001723	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相	口輪部刻目	3-9 20070450
3-19-147 04001733	SX1131	縄文土器 深鉢	26.7*	-	-	外：相 内：黒褐色	口輪部刻目	3-10 20070451
3-19-148 04001728	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	口輪部刻目	3-10 20070452
3-19-149 04001740	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：にぶい相	口輪部刻目	3-10 20070453
3-19-150 04001722	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黃褐色 内：褐色	口輪部刻目	3-10 20070454
3-19-151 04001721	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	口輪部刻目	3-10 20070455

表3-1 1区縄文～弥生時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			D径	底径	器高			
3-19-152 04001750	SX1131	縄文土器 深鉢	37.0*	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙	-	3-10 20070456
3-19-153 04001746	SX1131	縄文土器 浅鉢	33.0*	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	外面保付着	3-10 20070457
3-19-154 04001919	SX1131	縄文土器 浅鉢	26.7*	-	-	外：黄灰 内：黄灰	外面保付着	3-10 20070458
3-19-155 04001754	SX1131	縄文土器 浅鉢	34.4*	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-10 20070459
3-19-156 04001860	SX1131 F12区南	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい褐	-	3-10 20070460
3-20-157 04001636	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-10 20070461
3-20-158 04001638	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄 内：灰黄	-	3-10 20070462
3-20-159 04001646	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄褐	-	3-10 20070463
3-20-160 04001923	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：暗灰黄	外面保付着	3-10 20070464
3-20-161 04001635	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	-	3-10 20070465
3-20-162 04001811	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-10 20070466
3-20-163 04001572	SX1131	縄文土器 深鉢	-	6.0*	-	外：明赤褐 底：棕 内：にぶい黄褐	-	3-10 20070467
3-20-164 04001658	SX1131	縄文土器 深鉢	-	9.5	-	外：褐 内：黒褐	底に作業台留跡あり	3-10 20070468
3-20-165 04001661	SX1131 F12区南	縄文土器 深鉢	-	8.6	-	外：褐 内：にぶい褐	底部刷毛痕	3-10 20070469
3-20-166 04001672	SX1131	縄文土器 深鉢	-	9.4*	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	3-10 20070470
3-20-167 04001825	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐 内：にぶい褐	-	3-10 20070471
3-20-168 04001828	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	6.0*	-	外：褐 内：にぶい褐	-	3-10 20070472
3-20-169 04001829	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	6.0*	-	外：褐 内：にぶい黄褐	-	3-10 20070473
3-20-170 04001720	SX1131 F-G12区南	縄文土器 深鉢	37.0*	-	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	-	3-10 20070474
3-21-187 04001749	SX1115	縄文土器 深鉢	27.3*	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい褐	外面保付着	3-10 20070475
3-21-188 04001819	SX1115	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：里	頗るは確実	3-10 20070476
3-21-189 04001577	SX1115	縄文土器 深鉢	-	7.1	-	外：底：褐 内：灰褐	底に作業台留跡あり	-
3-21-192 04001854	SX1119	縄文土器 深鉢	34.2	-	-	外：褐 内：褐	-	3-10 20070477

表3-2 1区縄文～弥生時代の遺構出土石器

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 kg	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-13-19 04002489	SK1107	打製石器 石鏟	21.4	15.2	4.1	1.1	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070001
3-13-20 04002585	SK1118	石製品 石劍	543.0	365.0	117.5	35000.0	花崗岩	-	3-16 20070002
3-14-38 04002584	SX1134	礫石器 磨石	97.0	122.5	68.5	1089.6	-	破片 被熱の可能性あり	3-16 20070003
3-14-41 04002553	SK1137	打製石器 削器	64.3	84.3	10.0	50.5	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070004
3-15-52 04001972	SK1132	打製石器 石鏟	18.4	16.6	4.3	1.1	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070005
3-15-53 04001992	SK1132	打製石器 石鏟	22.8	19.1	3.7	1.5	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070006
3-15-54 04001997	SK1132	打製石器 石鏟	21.3	16.9	4.1	1.5	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070007
3-15-55 04001990	SK1132	打製石器 石鏟	24.7	17.4	3.1	1.2	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070008
3-15-56 04001989	SK1132	打製石器 石鏟	23.9	15.8	3.3	1.2	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070009
3-15-57 04001996	SK1132	打製石器 石鏟	25.3	14.4	3.0	1.0	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070010
3-15-58 04002484	SK1132	打製石器 石鏟	24.5	17.1	3.6	1.5	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070011
3-15-59 04001983	SK1132	打製石器 石鏟	27.2	17.9	2.9	1.4	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070012
3-15-60 04002461	SK1132	打製石器 石鏟	26.2	19.2	4.1	2.2	無斑品質 安山岩	先端・基部欠損	3-15 20070013
3-15-61 04002454	SK1132	打製石器 石鏟	37.6	19.8	5.9	3.9	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070014
3-15-62 04001995	SK1132	打製石器 石鏟	38.3	26.6	5.3	5.0	無斑品質 安山岩	片面のみ調整	3-15 20070015
3-15-63 04002527	SK1132	打製石器 石鏟	25.5	22.3	5.9	2.9	黑曜岩	左右対称・片面のみ調整	3-15 20070016
3-15-64 04002455	SK1132	打製石器 石鏟	25.2	16.6	3.7	1.6	無斑品質 安山岩	先端部ごくわずか欠損	3-15 20070017
3-15-65 04002460	SK1132	打製石器 石鏟	34.5	19.9	4.5	2.6	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070018
3-18-106 04001998	SK1133	打製石器 石鏟	17.2	17.5	3.2	1.0	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070019
3-18-107 04001988	SK1133	打製石器 石鏟	20.9	18.0	3.8	1.3	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070020
3-18-108 04002485	SK1133	打製石器 石鏟	22.3	16.8	4.1	1.4	無斑品質 安山岩	先端・片側一部欠損	3-15 20070021
3-18-109 04001978	SK1133	打製石器 石鏟	26.8	18.4	3.3	1.4	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070022
3-18-110 04002480	SK1133	打製石器 石鏟	27.2	16.3	3.6	1.6	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070023
3-18-111 04002487	SK1133	打製石器 石鏟	24.6	18.5	3.9	1.7	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070024
3-18-112 04002495	SK1133	打製石器 石鏟	29.5	18.3	4.3	2.0	無斑品質 安山岩	左側抉り	3-15 20070025
3-18-113 04002459	SK1133	打製石器 石鏟	25.6	18.7	3.8	1.7	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070026
3-18-114 04001987	SK1133	打製石器 石鏟	31.9	18.2	3.8	1.8	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070027
3-18-115 04002471	SK1133	打製石器 石鏟	29.9	18.1	4.2	1.7	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070028
3-18-116 04002479	SK1133	打製石器 石鏟	33.8	15.5	4.6	2.3	無斑品質 安山岩	左右非対称・片側一部欠損	3-15 20070029
3-18-117 04001974	SK1133	打製石器 石鏟	37.6	20.1	4.1	2.6	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070030
3-18-118 04002523	SK1133	打製石器 石鏟	26.8	20.0	3.9	2.2	黒曜岩	先端欠損	3-15 20070031
3-18-119 04002474	SK1133	打製石器 石鏟	33.1	18.3	6.4	2.8	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070032
3-18-120 04002472	SK1133	打製石器 石鏟	16.5	15.6	2.5	0.6	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070033
3-18-121 04002499	SK1133	打製石器 石鏟	22.5	16.4	4.2	1.2	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070034

表3-2 1区縦文～弥生時代の遺構出土石器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 kg	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-18-122 04002486	SK1133	打製石器 石鏟	26.3	16.4	3.0	1.2	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070035
3-18-123 04002497	SK1133	打製石器 石鏟	27.9	17.3	4.5	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070036
3-18-124 04002483	SK1133	打製石器 石鏟	27.4	18.3	4.6	2.3	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070037
3-18-125 04001980	SK1133	打製石器 石鏟	25.5	20.7	3.1	1.8	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070038
3-18-126 04002481	SK1133	打製石器 石鏟	26.2	15.7	2.9	1.4	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070039
3-18-127 04002494	SK1133	打製石器 石鏟	26.9	15.7	3.9	1.7	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070040
3-18-128 04002492	SK1133	打製石器 石鏟	28.9	22.5	6.2	3.6	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070041
3-18-129 04001994	SK1133	打製石器 石鏟	30.2	21.9	4.7	2.6	無斑品質 安山岩	片面のみ調整 先端欠損	3-15 20070042
3-18-130 04002475	SK1133	打製石器 石鏟	32.7	21.4	5.2	3.2	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070043
3-18-131 04002452	SK1133	打製石器 石鏟	33.2	20.3	5.3	3.3	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070044
3-18-132 04002500	SK1133	打製石器 石鏟	35.2	20.9	5.5	3.4	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070045
3-18-133 04002493	SK1133	打製石器 石鏟	37.0	23.2	7.4	5.9	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070046
3-18-134 04002555	SK1133	打製石器 削器	29.6	43.0	8.0	8.6	無斑品質 安山岩	-一部欠損	3-15 20070047
3-18-135 04002569	SK1133	打製石器 刮削器	35.4	29.4	7.0	4.8	黑曜岩	表面全面調整	3-15 20070048
3-18-136 04002538	SK1133	打製石器 石鏟	49.4	11.4	6.5	3.9	黑曜岩	先端折断	3-15 20070049
3-20-171 04001950	SX1131	打製石器 石鏟	24.8	17.4	3.4	1.5	無斑品質 安山岩	先端が丸い	3-15 20070050
3-20-172 04001957	SX1131	打製石器 石鏟	30.1	16.0	3.7	1.7	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070051
3-20-173 04002478	SX1131	打製石器 石鏟	34.5	13.9	4.2	2.0	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070052
3-20-174 04001979	SX1131	打製石器 石鏟	31.8	16.5	3.0	1.3	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070053
3-20-175 04002473	SX1131	打製石器 石鏟	30.4	20.6	3.6	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070054
3-20-176 04001981	SX1131	打製石器 石鏟	34.7	20.8	3.5	2.4	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070055
3-20-177 04001991	SX1131	打製石器 石鏟	31.5	16.7	3.7	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070056
3-20-178 04001985	SX1131	打製石器 石鏟	32.9	19.0	4.4	2.5	無斑品質 安山岩	先端ごくわずか欠損	3-15 20070057
3-21-179 04001993	SX1131	打製石器 石鏟	21.2	16.2	4.8	1.4	無斑品質 安山岩	左右非對稱 片側基部欠損	3-15 20070058
3-21-180 04001977	SX1131	打製石器 石鏟	24.6	17.8	3.2	1.4	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070059
3-21-181 04001986	SX1131	打製石器 石鏟	28.0	15.2	4.0	1.4	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070060
3-21-182 04001982	SX1131	打製石器 石鏟	23.5	16.1	2.6	1.1	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070061
3-21-183 04001999	SX1131	打製石器 石鏟	27.1	16.6	4.5	1.9	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070062
3-21-184 04002451	SX1131	打製石器 石鏟	28.1	22.2	5.8	3.6	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-15 20070063
3-21-185 04001947	SX1131	打製石器 石鏟	37.2	21.5	7.3	5.1	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070064
3-21-186 04002562	SX1131	打製石器 削器(削器?)	50.1	74.1	13.5	38.7	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070065
3-21-190 04001959	SX1115	打製石器 石鏟	32.3	18.7	4.5	2.1	無斑品質 安山岩	-	3-15 20070066
3-21-191 04001949	SX1115	打製石器 石鏟	37.6	23.2	5.4	3.6	無斑品質 安山岩	左側抉り	3-15 20070067

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土器

鉢図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-22-193 04001871	B14 区画	縄文土器 深鉢	21.2*	*	*	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	外：口縁部：黒系文 内：ナデ・黒系文	3-10 20070478
3-22-194 04001872	E13 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：相	外：押型文 内：ナデ	3-10 20070479
3-22-195 04001873	B14 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：黒褐	外：撫系文 内：ナデ 193と同一個体	3-10 20070480
3-22-196 04001874	B14 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：にぶい相 内：黒褐	外：撫系文 内：ナデ 193と同一個体	-
3-22-197 04001876	B14 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：黒褐	外：撫系文 内：ナデ 193と同一個体	-
3-22-198 04001875	B14 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：相 内：黒褐	外：撫系文 内：ナデ 193と同一個体	-
3-22-199 04001870	F・G・H11 区画	縄文土器 深鉢	36.7*	*	*	外：にぶい相 内：相	-	3-10 20070481
3-22-200 04002571	G11 区画	縄文土器 深鉢	*	*	*	外：灰黄褐 内：相	-	-
3-22-201 04001608	F14 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：相 内：相	-	-
3-22-202 04001610	G12 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：相 内：相	-	-
3-22-203 04001609	F14 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい相 内：にぶい相	-	-
3-22-204 04001606	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	-
3-22-205 04002746	F12 区画 G13 区画	縄文土器 浅鉢	28.4	*	*	外：相 内：相	-	3-10 20070482
3-22-206 04002747	F12+13 区画	縄文土器 浅鉢	23.4*	*	*	外：褐色 内：褐色	-	3-10 20070483
3-22-207 04001611	F13 区画	縄文土器 浅鉢	29.8*	*	*	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	-
3-22-208 04001602	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：暗褐色 内：暗褐色	外面保付着	-
3-22-209 04001617	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい相 内：灰黄褐	-	-
3-22-210 04001604	G12 区画 E12 区画	縄文土器 浅鉢	11.8*	*	*	外：明赤褐 内：明赤褐	-	3-10 20070484
3-22-211 04001633	F12 区画	縄文土器 浅鉢	30.0*	*	*	外：浅黄 内：浅黄	-	3-10 20070485
3-22-212 04001585	E12 区画 F12 区画	縄文土器 浅鉢	26.4*	*	*	外：暗灰黃 内：暗灰黃	-	3-10 20070486
3-22-213 04001624	F12+13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：灰黄褐 内：灰黄褐	-	3-10 20070487
3-22-214 04002744	G13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：灰黄褐 内：灰黄褐	-	-
3-22-215 04001583	F+G12 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：明赤褐 内：灰褐	-	-
3-22-216 04001632	F12+13 区画	縄文土器 浅鉢	34.4*	*	*	外：相 内：黒褐	内部保付着	-
3-22-217 04001597	F12 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：明褐	頗るは不確実	-
3-23-218 04001629	F13 区画	縄文土器 浅鉢	24.0*	*	*	外：暗灰黃 内：暗灰黃	焼成後穿孔	3-10 20070488
3-23-219 04001630	F12+13 区画	縄文土器 浅鉢	20.5*	*	*	外：にぶい黄 内：にぶい黄	焼成後穿孔	3-10 20070489
3-23-220 04001631	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい黄 内：にぶい黄	-	3-10 20070490
3-23-221 04001622	F14 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：黄褐 内：黄褐	-	-
3-23-222 04001623	G12 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-10 20070491
3-23-223 04001637	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：相 内：相	-	20070492
3-23-224 04001797	F14 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-10 20070493
3-23-225 04001641	F13 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：黄褐 内：黄褐	-	-
3-23-226 04001628	F12 区画	縄文土器 浅鉢	*	*	*	外：浅黄 内：浅黄	-	3-10 20070494

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-23-227 04001614	F12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:褐 内:褐	-	-
3-23-228 04001619	E13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:褐 内:褐	-	3-10 20070495
3-23-229 04001586	G12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:黒褐 内:灰黄褐	-	3-11 20070496
3-23-230 04001601	F10区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	3-11 20070497
3-23-231 04001594	F12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	-	-
3-23-232 04001613	G12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:褐 内:褐	-	-
3-23-233 04001593	H-G10区両 H11区両	縄文土器 浅鉢	18.0*	-	-	外:黒褐 内:にぶい黄褐	後期後半～末の分布範囲から出土	3-11 20070498
3-23-234 04001718	F12区両	縄文土器 浅鉢	23.3*	-	-	外:にぶい相 内:相	外面埋付着	3-11 20070499
3-23-235 04001589	E12区両	縄文土器 浅鉢	13.0*	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい褐	-	-
3-23-236 04001591	G13区両	縄文土器 浅鉢	11.4*	-	-	外:灰黄褐 内:にぶい黄褐	-	-
3-23-237 04001855	F13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:灰褐 内:灰褐	傾きは不確実	3-11 20070500
3-23-238 04002734	G13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい褐 内:黒褐	外面埋付着 烧成後穿孔	3-11 20070501
3-23-239 04001592	F13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:相 内:相	-	-
3-23-240 04001936	G13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:暗赤黄	-	-
3-23-241 04002573	F13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:オリーブ黒 内:黒褐	-	3-11 20070502
3-23-242 04002722	F13区両 P1074	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:黒褐	外面埋付着	3-11 20070503
3-23-243 04001584	H12区両	縄文土器 浅鉢	25.0*	-	-	外:相 内:にぶい黄褐	突帯文土器の分布範囲から出土	3-11 20070504
3-23-244 04001719	H13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:相 内:褐色	突帯文土器の分布範囲から出土	3-11 20070505
3-24-245 04001732	F15区両	縄文土器 深鉢	26.6*	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	口脣部削日	3-11 20070506
3-24-246 04001735	G11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:相 内:相	口脣部削日	3-11 20070507
3-24-247 04001726	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:浅黄 内:浅黄	口脣部削日	3-11 20070508
3-24-248 04002733	G12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:相 内:相	口脣部削日	3-11 20070509
3-24-249 04001736	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい赤褐 内:にぶい赤褐	口脣部削日	3-11 20070510
3-24-250 04002711	F13区両 P1088	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	口脣部削日	3-11 20070511
3-24-251 04001724	F14区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:灰黄褐	口脣部削日	3-11 20070512
3-24-252 04001838	F14区両	縄文土器 深鉢	22.7*	6.3	19.4	外:にぶい相 内:黒褐	外面埋付着	3-11 20070513
3-24-253 04001766	C14区両	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	3-11 20070514
3-24-254 04002587	F13区両	縄文土器 深鉢	26.8	7.9	26.9	外:黒褐 内:黒褐	-	3-11 20070515
3-24-255 04001859	H12区両	縄文土器 深鉢	31.6*	-	-	外:相 内:相	外面埋付着	3-11 20070516
3-24-256 04001910	-	縄文土器 深鉢	23.3*	-	-	外:相 内:にぶい黄褐	外面埋付着	3-11 20070517
3-24-257 04002731	F11区両 P1299	縄文土器 深鉢	30.3	-	-	外:相 内:相	-	3-11 20070518
3-24-258 04001634	F12+13区両 G12区両	縄文土器 深鉢	24.2*	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	-	3-11 20070519
3-25-259 04001885	E13+14区両 D13区両	縄文土器 深鉢	34.3*	-	-	外:暗赤褐 内:暗赤褐	搬入品か	3-11 20070520
3-25-260 04001885	E13+14区両 D13区両	縄文土器 深鉢	34.3*	-	-	外:暗赤褐 内:暗赤褐	搬入品か	3-11 20070521

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土器

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-25-261 04001885	E13+14区画 D13区画	縄文土器 深鉢	34.3*	-	11.5	外：暗赤褐色 内：暗赤褐色	搬入品か	3-11 20070522
3-25-262 04001651	F12区画	縄文土器 深鉢	24.4*	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	-	3-11 20070523
3-25-263 04001717	F12区画	縄文土器 深鉢	23.9*	-	-	外：黄褐色 内：黄褐色	-	3-11 20070524
3-25-264 04001762	F13区画	縄文土器 深鉢	24.2*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-11 20070525
3-25-265 04001869	G11区画	縄文土器 深鉢	34.1*	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	-
3-25-266 04001867	H11+12区画	縄文土器 深鉢	27.3*	-	-	外：にぶい赤褐色 内：灰黄褐色	-	3-12 20070526
3-25-267 04002737	G11区画	縄文土器 深鉢	27.1*	-	-	外：褐色 内：にぶい黄褐色	外面埋付着	3-12 20070527
3-25-268 04001761	H11区画	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外：褐色 内：褐色	-	3-12 20070528
3-25-269 04001848	G10区画	縄文土器 深鉢	28.2*	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	外面埋付着 14C年代測定資料	3-12 20070529
3-26-270 04001931	G13区画	縄文土器 深鉢	37.0	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-12 20070530
3-26-271 04001716	F12区画	縄文土器 深鉢	22.5*	-	-	外：褐色 内：褐色	-	3-12 20070531
3-26-272 04001937	G13区画	縄文土器 深鉢	39.7*	-	-	外：褐色 内：灰褐色	外面埋付着	3-12 20070532
3-26-273 04001582	F12+13区画	縄文土器 深鉢	17.6	-	12.9	外：にぶい黄褐色 内：褐色	-	3-12 20070533
3-26-274 04001759	H12区画	縄文土器 深鉢	24.0*	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	-	3-12 20070534
3-26-275 04001858	E14区画	縄文土器 深鉢	31.7	-	-	外：褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-12 20070535
3-26-276 04001715	F12区画	縄文土器 浅鉢	29.2*	-	-	外：褐色 内：褐色	-	3-12 20070536
3-26-277 04001767	G11区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐色 内：褐色	-	3-12 20070537
3-26-278 04001856	H11区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面埋付着	3-12 20070538
3-26-279 04001776	G10区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	-
3-26-280 04001799	F14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：黑色	-	-
3-26-281 04002739	G10区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：にぶい褐色	-	3-12 20070539
3-26-282 04001769	G11区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：褐色	-	-
3-26-283 04001810	F13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黑色 内：黑色	-	-
3-26-284 04002714	F13区画 P1086	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	-
3-26-285 04001813	F13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黑色 内：黑色	頗るは不確実	3-12 20070540
3-26-286 04002574	E14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	焼成後穿孔	3-12 20070541
3-26-287 04001760	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：褐色	-	3-12 20070982
3-26-288 04001763	F11+12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	-	3-12 20070542
3-27-289 04001795	E15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	-	3-12 20070543
3-27-290 04001857	H11区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい褐色	外面埋付着	3-12 20070544
3-27-291 04002724	G13区画 P1103	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	-	3-12 20070545
3-27-292 04001929	F13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	突起部に縦方向の沈線	3-12 20070546
3-27-293 04001928	F13区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：にぶい黄褐色	外面埋付着	3-12 20070547
3-27-294 04001725	G12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黄褐色 内：褐色	口唇部削り目	-

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-27-295 04001655	F12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黄 内：浅黄	擦入か	3-12 20070548
3-27-296 04001764	C15区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-12 20070549
3-27-297 04001935	G13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-12 20070550
3-27-298 04001640	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	-	3-12 20070551
3-27-299 04001785	E11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	類似は不確実	3-12 20070552
3-27-300 04001654	F12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-12 20070553
3-27-301 04001757	H12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	-	3-12 20070554
3-27-302 04001781	G12区両	縄文土器 深鉢？	-	-	-	外：褐 内：褐	類似は不確実	3-13 20070555
3-27-303 04002710	G11区両 P1299	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面削付着	3-13 20070556
3-27-304 04001790	E12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面削付着	3-13 20070557
3-27-305 04001752	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐	-	3-13 20070558
3-27-306 04001806	F11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	-	3-13 20070559
3-27-307 04001800	F14区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-13 20070560
3-27-308 04001773	G10区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい褐	-	3-13 20070561
3-27-309 04001758	H12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-13 20070562
3-27-310 04001775	G10区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：浅黄褐色	焼成後穿孔	3-13 20070563
3-27-311 04001909	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：浅黄	-	3-13 20070564
3-28-312 04002740	G11区両 表裏	縄文土器 深鉢？	-	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	-	3-13 20070565
3-28-313 04001639	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：黑褐色	外面削付着	3-13 20070566
3-28-314 04001550	H12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：褐灰	-	3-13 20070567
3-28-315 04001551	H13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：褐	-	3-13 20070568
3-28-316 04001792	E13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい褐	-	3-13 20070569
3-28-317 04001774	G10区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面削付着	3-13 20070570
3-28-318 04001642	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	外面削付着	3-13 20070571
3-28-319 04001768	G11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-13 20070572
3-28-320 04002741	G10区両 表裏	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-13 20070573
3-28-321 04001770	G11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	外面削付着	3-13 20070574
3-28-322 04001756	H12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-13 20070575
3-28-323 04002719	G13区両 P1100	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-13 20070576
3-28-324 04001786	E12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-13 20070577
3-28-325 04001772	G14区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面削付着	3-13 20070578
3-28-326 04001926	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：褐	外面削付着	3-13 20070579
3-28-327 04001798	F14区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	3-13 20070580
3-28-328 04001934	G13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面削付着	3-13 20070581

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土器

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-28-329 04001789	E12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相	-	3-13 20070582
3-28-330 04001925	F13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい相・灰黄褐 内：にぶい相	外面焼付着	3-13 20070583
3-28-331 04001788	E12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明褐色 内：明褐色	外面焼付着 傾きは不確実	3-13 20070584
3-28-332 04001771	G11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-13 20070585
3-28-333 04001849	F13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒 内：黒	外面焼付着 14C年代測定資料	3-13 20070586
3-28-334 04001836	F11区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：灰褐色	腹部突帯状	3-13 20070587
3-28-335 04001932	G13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相・にぶい相	-	3-13 20070588
3-28-336 04001783	G12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相	外面焼付着	3-13 20070589
3-28-337 04002736	G13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：灰黄褐	-	3-13 20070590
3-29-338 04001833	H13区両	縄文土器 浅鉢	-	9.1*	-	外：にぶい黄褐 内：褐色	-	-
3-29-339 04001832	H10区両	縄文土器 浅鉢	-	6.5*	-	外：相 内：灰褐色	-	-
3-29-340 04001823	F12区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：相	底部かどうか不確実	-
3-29-341 04001580	E14区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：相 内：赤褐色	-	-
3-29-342 04001686	H13区両	縄文土器 浅鉢	-	5.8*	-	外：相 内：相	-	-
3-29-343 04001685	H13区両	縄文土器 浅鉢	-	8.9*	-	外：浅黃褐 内：褐色	-	-
3-29-344 04001822	F12区両	縄文土器 浅鉢	-	5.8	-	外：にぶい相 内：にぶい相	-	-
3-29-345 04002745	G13区両	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい相 内：にぶい相	外面焼付着	3-13 20070591
3-29-346 04002725	F13区両 P1072	縄文土器 浅鉢	-	8.8*	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	3-13 20070592
3-29-347 04001912	表探	縄文土器 深鉢	-	8.7	-	外：にぶい相 内：にぶい黄褐	-	3-13 20070593
3-29-348 04001578	E15区両	縄文土器 深鉢	-	10.4*	-	外・底：相 内：にぶい相	底に作業台痕跡あり	3-13 20070594
3-29-349 04001693	G11区両	縄文土器 深鉢?	-	10.3*	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	-
3-29-350 04001664	F13区両	縄文土器 深鉢	-	8.8*	-	外：相 内：褐色	-	3-13 20070595
3-29-351 04001913	表探	縄文土器 深鉢	-	8.9	-	外：相 内：相	底部に圧痕あり	3-13 20070596
3-29-352 04001692	G14区両	縄文土器 深鉢	-	10.1*	-	外：相 内：相	-	-
3-29-353 04001571	F13区両	縄文土器 深鉢	-	10.0*	-	外：にぶい相 内・底：黄褐色	-	3-13 20070597
3-29-354 04001689	G13区両	縄文土器 深鉢	-	9.6*	-	外：相 内：相	-	3-13 20070598
3-29-355 04001690	G13区両	縄文土器 深鉢	-	8.0*	-	外：相 内：相	-	3-13 20070599
3-29-356 04002735	G15区両	縄文土器 深鉢	-	9.4	-	外：にぶい相 内：明赤褐	-	3-13 20070600
3-29-357 04001566	F11区両	縄文土器 深鉢	-	8.8	-	外：相 内：相	-	3-13 20070601
3-29-358 04001569	F11区両	縄文土器 深鉢	-	8.2*	-	外：にぶい黄褐 内：-	-	-
3-29-359 04001573	F13区両	縄文土器 深鉢	-	8.4*	-	外・底：明赤褐 内：にぶい相	-	3-13 20070602
3-29-360 04001697	G11区両	縄文土器 深鉢	-	9.6*	-	外：相 内：にぶい黄褐	底部に種子などの跡跡あり	-
3-29-361 04001682	H11区両	縄文土器 深鉢?	-	8.4	-	外：相 内：にぶい黄褐	底部網代または種子などの植物痕あり	-
3-29-362 04001694	G11区両	縄文土器 深鉢?	-	9.4*	-	外：相 内：にぶい黄褐	-	-

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-30-363 04001681	H12区画	縄文土器 深鉢	-	8.9*	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-13 20070603
3-30-364 04001691	G13区画	縄文土器 深鉢	-	7.1*	-	外：にぶい褐 内：褐色	-	3-13 20070604
3-30-365 04001574	F13区画	縄文土器 深鉢	-	7.6*	-	外・底：稍 内：にぶい黄褐	-	3-14 20070605
3-30-366 04001665	F13区画	縄文土器 深鉢	-	6.3*	-	外：稍 内：稍	-	3-14 20070606
3-30-367 04001911	表探	縄文土器 深鉢	-	8.0	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-14 20070607
3-30-368 04001673	F12区画	縄文土器	-	5.9	-	外：にぶい黄褐 内：黒褐	底部かどうか不確実	3-14 20070608
3-30-369 04001916	表探	縄文土器 深鉢	-	7.0	-	外：稍 内：にぶい褐	-	3-14 20070609
3-30-370 04001674	F12区画	縄文土器 深鉢	-	8.1	-	外：黄褐 内：黄褐	-	3-14 20070610
3-30-371 04001568	F11区画	縄文土器 深鉢	-	7.5	-	外：褐 内：オリーブ黒	-	3-14 20070611
3-30-372 04001662	F13区画	縄文土器 深鉢	-	7.3	-	外：稍 内：稍	-	3-14 20070612
3-30-373 04001679	F12区画	縄文土器 深鉢	-	6.4*	-	外：稍 内：稍	-	3-14 20070613
3-30-374 04001688	H13区画	縄文土器 深鉢	-	6.2	-	外：褐 内：黒褐	-	3-14 20070614
3-30-375 04001687	H13区画	縄文土器 深鉢	-	8.4*	-	外：稍 内：にぶい黄褐	-	-
3-30-376 04001684	H12区画	縄文土器 深鉢	-	8.3*	-	外：稍 内：灰黃褐	-	-
3-30-377 04001667	F13区画	縄文土器 深鉢	-	8.3	-	外：稍 内：にぶい赤褐	-	-
3-30-378 04001914	表探	縄文土器 深鉢	-	8.0	-	外：稍 内：にぶい黄褐	-	3-14 20070615
3-30-379 04001677	F12区画	縄文土器 深鉢	-	8.0	-	外：稍 内：にぶい赤褐	底部副底あり	-
3-30-380 04001696	G10区画	縄文土器 深鉢	-	9.5*	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	-	-
3-30-381 04001676	F12区画	縄文土器 深鉢	-	7.5	-	外：稍 内：稍	底部副底または種子の痕跡あり	3-14 20070616
3-30-382 04001678	F12区画	縄文土器 深鉢	-	7.8	-	外：稍 内：稍	底部に種子などの植物の痕跡あり	-
3-30-383 04001695	G12区画	縄文土器 深鉢	-	7.3*	-	外：稍 内：稍	底部に種子などの植物質の痕跡あり	-
3-30-384 04001683	H-1-12区画 カクラン	縄文土器 深鉢	-	8.7*	-	外：稍 内：稍	-	-
3-30-385 04001675	F12区画	縄文土器 深鉢	-	9.2	-	外：稍 内：褐	底部副底または種子の痕跡あり	-
3-30-386 04001575	F13区画	縄文土器 深鉢	-	7.5*	-	外・底：稍 内：黄灰	-	-
3-30-387 04001579	E14区画	縄文土器 深鉢	-	7.7*	-	外・底：にぶい稍 内：-	-	-
3-30-388 04001567	F14区画	縄文土器 深鉢	-	8.8	-	外：明褐 内：黄褐	-	3-14 20070617
3-30-389 04001917	-	縄文土器 深鉢	-	6.5	-	外：にぶい褐 内：黄灰	-	3-14 20070618
3-30-390 04001915	表探	縄文土器 深鉢	-	7.9*	-	外：稍 内：にぶい黄褐	-	3-14 20070619
3-30-391 04001680	F12区画	縄文土器 深鉢	-	5.6*	-	外：稍 内：褐灰	-	-
3-30-392 04001576	F13区画	縄文土器 深鉢	-	7.8*	-	外・底：稍 内：-	底面に作業台痕跡あり	3-14 20070620
3-31-393 04001527	G13区画	縄文土器 深鉢	33.4*	-	-	外：褐 内：黒褐	-	3-14 20070621
3-31-394 04001938	G13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：黒褐	-	3-14 20070622
3-31-395 04001544	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	-	-
3-31-396 04001556	H12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	-	-

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土土器

施図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-3-397 004001548	I12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：明赤褐色	傾きは不確定	-
3-3-398 04001529	G12区画	縄文土器 深鉢	22.7*	-	-	外：明褐色 内：にぶい黄褐色	外来系？ 備考は不確定	3-14 20070623
3-3-399 04001581	I12区画	縄文土器 深鉢	26.4*	-	-	外：褐色 内：黒	表面焼付着	3-14 20070624
3-3-400 04001565	I13区画	縄文土器 深鉢	23.8*	-	-	外：暗褐色 内：黒	-	3-14 20070625
3-3-401 04001526	表探	縄文土器 深鉢	21.3*	-	-	外：褐色 内：灰	内面に跡？压痕	3-14 20070626
3-3-402 04001528	G12-H13区画	縄文土器 深鉢	28.9*	-	-	外：明褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070627
3-3-403 04001549	I13区画	縄文土器 深鉢	26.8*	-	-	外：赤褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070628
3-3-404 04001564	I13区画 P1268	縄文土器 深鉢	23.5*	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070629
3-3-405 04001536	H13区画	縄文土器 深鉢	20.3*	-	-	外：褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070630
3-3-406 04001537	H13区画	縄文土器 深鉢	12.7*	-	-	外：にぶい褐色 内：灰	-	3-14 20070631
3-3-407 04001538	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい褐色	-	-
3-3-408 04001558	I13区画 SK1115	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：褐色	-	-
3-3-409 04001555	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070632
3-3-410 04001562	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070633
3-3-411 04001540	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070634
3-3-412 04001546	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	-	-
3-3-413 04001557	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	-
3-3-414 04001563	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	-
3-3-415 04001561	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	-
3-3-416 04001541	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：褐色	-	3-14 20070635
3-3-417 04001552	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070636
3-3-418 04001554	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070637
3-3-419 04002718	I13区画 P1238	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070638
3-3-420 04001539	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	-	3-14 20070639
3-3-421 04001547	I12区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：暗褐色	-	3-14 20070640
3-3-422 04002716	I11区画 P1265	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：灰褐色	表面焼付着	-
3-3-423 04001553	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	3-14 20070641
3-3-424 04002715	H11区画 P1266	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：にぶい褐色	426と同一個体	3-14 20070642
3-3-425 04001560	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-14 20070643
3-3-426 04001559	I13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：にぶい黄褐色	424と同一個体	3-14 20070644
3-3-427 04001545	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰 内：オリーブ黒	-	-
3-3-428 04001542	H13区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：褐色	磨耗が著しい	3-14 20070645
3-3-429 04001530	F15区画	縄文土器 深鉢	12.3*	-	-	外：暗褐色 内：明赤褐色	430と同一個体か	3-14 20070646
3-3-430 04001879	F15区画	縄文土器 深鉢	-	6.7	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	429と同一個体か	3-14 20070647

表3-3 1区縄文～弥生時代の遺構外出土器

鉢岡・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
3-32-431 04001543	F15区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：黒褐	-	-
3-32-432 04001534	G13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい褐	-	3-14 20070648
3-32-433 04001532	表塚	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：棕	傾きは不確実	3-14 20070649
3-32-434 04001531	G12区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：黄灰	回は天地逆	3-14 20070650
3-32-435 04001535	H13区両	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：棕 内：灰黃褐	-	3-14 20070651
3-32-436 04002570	F12区両	縄文土器 直	-	-	-	外：オリーブ黒 内：オリーブ黒	-	3-14 20070652
3-32-437 04001893	E14区両	縄文土器 台付鉢?	-	12.9	-	外：棕 内：棕	-	3-14 20070653
3-32-438 04001884	D15区両	無文土器?	-	6.9	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	朝鮮系無文土器か	3-14 20070654
3-32-439 04001901	F11区両	土製品 土製円盤	3.6	3.5	0.7	外：にぶい褐 内：棕	-	-
3-32-440 04001905	G12区両	土製品 土製円盤	3.5	3.4	0.8	外：黄褐 内：灰黃褐	-	-
3-32-441 04001900	F10区両	土製品 土製円盤	3.9	3.5	0.6	外：にぶい黄褐 内：にぶい褐	-	3-14 20070655
3-32-442 04001902	F12区両	土製品 土製円盤	4.1	3.8	0.7	外：明黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-14 20070656
3-32-443 04001904	G12区両	土製品 土製円盤	5.0	-	0.6	外：棕 内：にぶい赤褐	-	-
3-32-444 04001899	F12区両	土製品 土製円盤	5.7	5.3	0.7	外：明黄褐 内：棕	-	3-14 20070657
3-32-445 04001877	"	縄文土器 高杯?	-	-	-	外：明赤褐・褐灰 内：黒・オリーブ黒	-	3-14 20070658
3-32-446 04001882	F12区両	縄文土器 直	13.5*	-	-	外：暗灰黄 内：暗灰黄	-	3-14 20070659
3-32-447 04001883	F12区両	縄文土器 直	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：灰黃褐	-	-
3-32-448 04001880	F15区両	縄文土器 直	-	-	-	外：黒褐 内：棕	-	3-14 20070660
3-32-449 04001881	F15区両	縄文土器 直	-	5.1*	-	外：赤褐 内：棕	外面赤色顔料塗布	3-14 20070661
3-32-450 04001895	H11区両	弥生土器 甕	32.2*	-	-	外：棕 内：にぶい棕	-	3-14 20070662
3-32-451 04001896	H11区両	弥生土器 甕	-	6.4*	-	外：棕 内：棕	-	3-14 20070663

表3-4 1区縄文～弥生時代の遺構外出土石器

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-33-452 040002530	E14区画	打製石器 石鏟	15.8	16.0	3.8	0.8	黒曜岩	破損後、再度整形か？	3-16 20070068
3-33-453 040002526	D16区画	打製石器 石鏟	16.7	13.4	4.8	0.9	黒曜岩	片側基部欠損	3-16 20070069
3-33-454 040002529	F12区画	打製石器 石鏟	19.4	15.2	3.5	0.9	黒曜岩	左右非対称 先端欠損	3-16 20070070
3-33-455 040001968	G13区画	打製石器 石鏟	20.1	17.0	3.2	1.0	無斑品質 安山岩		3-16 20070071
3-33-456 040002522	F13区画	打製石器 石鏟	22.2	14.7	3.2	0.9	黒曜岩		3-16 20070072
3-33-457 040002511	F12区画	打製石器 石鏟	20.5	17.1	3.5	1.2	無斑品質 安山岩		3-16 20070073
3-33-458 040002509	F12区画	打製石器 石鏟	21.0	18.8	5.2	1.5	無斑品質 安山岩		3-16 20070074
3-33-459 040001969	G12区画	打製石器 石鏟	23.1	19.5	3.8	1.4	無斑品質 安山岩		3-16 20070075
3-33-460 040002507	F11区画	打製石器 石鏟	23.4	15.9	3.4	1.2	無斑品質 安山岩		3-16 20070076
3-33-461 040002488	F13区画	打製石器 石鏟	21.7	17.4	3.7	1.3	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-16 20070077
3-33-462 040002457	F13区画	打製石器 石鏟	21.5	18.8	5.0	2.0	無斑品質 安山岩		3-16 20070078
3-33-463 040001970	G12区画	打製石器 石鏟	22.8	15.7	3.7	1.2	無斑品質 安山岩		3-16 20070079
3-33-464 040001940	F12区画	打製石器 石鏟	22.0	16.5	3.5	1.4	無斑品質 安山岩		3-16 20070080
3-33-465 040002524	F13区画	打製石器 石鏟	24.3	14.9	3.5	1.0	黒曜岩		3-16 20070081
3-33-466 040002476	F13区画	打製石器 石鏟	24.0	16.0	2.4	1.0	無斑品質 安山岩		3-16 20070082
3-33-467 040001976	F13区画	打製石器 石鏟	22.5	17.0	3.6	1.5	無斑品質 安山岩	先端欠は削離的、未製品の可能性あり	3-16 20070083
3-33-468 040002607	表採	打製石器 石鏟	24.9	18.5	3.6	1.6	黒曜岩		3-16 20070084
3-33-469 040002520	E12区画	打製石器 石鏟	23.3	19.3	3.6	1.3	黒曜岩	先端欠損	3-16 20070085
3-33-470 040001939	G11区画	打製石器 石鏟	25.7	17.4	4.9	1.6	無斑品質 安山岩		3-16 20070086
3-33-471 040001967	G12区画	打製石器 石鏟	26.3	15.1	2.8	1.1	無斑品質 安山岩	左右非対称	3-16 20070087
3-33-472 040001945	F12区画	打製石器 石鏟	25.6	21.6	3.4	1.9	無斑品質 安山岩		3-16 20070088
3-33-473 040001971	F14区画	打製石器 石鏟	24.5	18.5	3.9	1.8	無斑品質 安山岩		3-16 20070089
3-33-474 040001965	F14区画	打製石器 石鏟	25.9	18.0	5.6	2.7	無斑品質 安山岩	先端が確かに欠けている	3-16 20070090
3-33-475 040002466	F13区画	打製石器 石鏟	27.4	18.0	3.4	1.6	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070091
3-33-476 040002498	F13区画	打製石器 石鏟	27.9	19.6	4.3	2.3	無斑品質 安山岩		3-16 20070092
3-33-477 040002516	F12区画	打製石器 石鏟	22.5	16.4	2.8	1.1	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-16 20070093
3-33-478 040001941	H12区画	打製石器 石鏟	26.1	16.5	3.7	1.6	無斑品質 安山岩		3-16 20070094
3-33-479 040001942	SK1139	打製石器 石鏟	27.9	16.5	3.3	1.3	無斑品質 安山岩		3-16 20070095
3-33-480 040001943	H14区画	打製石器 石鏟	25.8	16.5	3.3	1.2	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-16 20070096
3-33-481 040002510	F12区画	打製石器 石鏟	24.3	15.0	3.1	1.3	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-16 20070097
3-33-482 040002528	F12区画	打製石器 石鏟	27.8	16.7	2.8	1.2	黒曜岩		3-16 20070098
3-33-483 040001958	F13区画	打製石器 石鏟	27.6	18.9	5.9	2.5	無斑品質 安山岩	断面三角形	3-16 20070099
3-33-484 040001963	F12区画	打製石器 石鏟	25.1	18.1	3.6	1.7	無斑品質 安山岩		3-16 20070100
3-33-485 040002464	F13区画	打製石器 石鏟	24.2	17.6	3.4	1.6	無斑品質 安山岩	礫面残存 先端欠損	3-16 20070101

表3-4 1区縄文～弥生時代の遺構外出土石器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-33-486 04002462	F14区画	打製石器 石鏟	27.3	15.9	4.3	1.5	無斑品質 安山岩	先端部ごくわずか欠損	3-16 20070102
3-33-487 04002513	D15区画	打製石器 石鏟	29.4	18.0	4.5	2.0	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070103
3-34-488 04002482	F13区画	打製石器 石鏟	29.2	18.9	3.1	1.7	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070104
3-34-489 04002463	F13区画	打製石器 石鏟	28.3	16.0	4.0	2.0	無斑品質 安山岩	左折断は先端に及ぶ 片側基部欠損	3-16 20070105
3-34-490 04002496	F13区画	打製石器 石鏟	31.5	18.0	4.7	2.3	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070106
3-34-491 04001960	F13区画	打製石器 石鏟	30.7	18.7	3.0	1.4	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070107
3-34-492 04002505	E11区画	打製石器 石鏟	31.1	18.2	3.3	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070108
3-34-493 04001962	F12区画	打製石器 石鏟	29.7	19.5	3.7	1.7	無斑品質 安山岩	両側に抉りあり	3-16 20070109
3-34-494 04002531	F15区画 表探	打製石器 石鏟	31.9	20.4	5.0	2.6	黒曜岩	-	3-16 20070110
3-34-495 04001951	F12区画	打製石器 石鏟	30.5	19.0	4.9	2.1	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-16 20070111
3-34-496 04002467	F13区画	打製石器 石鏟	31.8	19.1	4.5	2.3	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070112
3-34-497 04002515	F12区画	打製石器 石鏟	30.0	20.5	4.9	2.7	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-16 20070113
3-34-498 04001954	SK1129	打製石器 石鏟	30.8	15.1	3.6	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070114
3-34-499 04001975	F13区画	打製石器 石鏟	31.0	17.5	2.6	1.4	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070115
3-34-500 04001964	F12区画	打製石器 石鏟	32.4	19.4	3.6	1.6	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070116
3-34-501 04001984	F13区画	打製石器 石鏟	32.5	18.8	4.0	2.1	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-16 20070117
3-34-502 04002458	F13区画	打製石器 石鏟	34.4	20.3	4.6	2.5	無斑品質 安山岩	先端・片側欠損	3-16 20070118
3-34-503 04002456	F13区画	打製石器 石鏟	34.6	17.9	3.4	1.9	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070119
3-34-504 04002470	F13区画	打製石器 石鏟	35.0	18.1	4.2	2.4	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070120
3-34-505 04001955	F13区画	打製石器 石鏟	37.0	18.9	3.5	2.5	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070121
3-34-506 04001946	F12区画	打製石器 石鏟	40.9	22.3	3.7	2.9	無斑品質 安山岩	-	3-16 20070122
3-34-507 04001953	F12区画	打製石器 石鏟	16.5	11.9	1.8	0.3	無斑品質 安山岩	左右非対称	3-17 20070123
3-34-508 04002608	SX1115	打製石器 石鏟	18.1	15.0	2.4	0.6	黒曜岩	-	3-17 20070124
3-34-509 04002525	H13区画	打製石器 石鏟	22.9	17.1	3.1	1.0	黒曜岩	片側基部欠損	3-17 20070125
3-34-510 04002502	F12区画	打製石器 石鏟	23.7	17.4	3.7	1.4	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070126
3-34-511 04002465	F13区画	打製石器 石鏟	23.2	17.8	2.8	1.0	無斑品質 安山岩	礫面残存	3-17 20070127
3-34-512 04001944	F12区画	打製石器 石鏟	24.3	17.1	3.8	1.6	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070128
3-34-513 04001961	F13区画	打製石器 石鏟	23.8	21.0	4.7	1.9	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070129
3-34-514 04002506	E15区画	打製石器 石鏟	26.4	18.0	4.6	1.9	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070130
3-34-515 04002514	F12区画	打製石器 石鏟	28.6	18.7	3.9	2.0	無斑品質 安山岩	左右非対称	3-17 20070131
3-34-516 04001956	F13区画	打製石器 石鏟	31.9	16.5	3.9	1.7	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070132
3-34-517 04002512	F12区画	打製石器 石鏟	32.4	17.4	4.5	2.3	無斑品質 安山岩	片側基部欠損	3-17 20070133
3-34-518 04002504	F12区画	打製石器 石鏟	33.4	18.2	5.9	3.3	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070134
3-35-519 04001952	F12区画	打製石器 石鏟	28.8	20.2	5.8	3.1	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070135

表3-4 1区縄文～弥生時代の遺構外出土石器

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-35-520 04002453	F13区画	打製石器 石鏟	28.2	21.5	5.4	3.0	無斑品質 安山岩	左右非対称・先端欠損	3-17 20070136
3-35-521 04001948	F13区画	打製石器 石鏟	32.9	20.4	6.0	3.3	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070137
3-35-522 04001973	F13区画	打製石器 石鏟	32.8	20.4	4.5	2.5	無斑品質 安山岩	先端左側に抉り	3-17 20070138
3-35-523 04002000	F13区画	打製石器 石鏟	32.8	20.0	4.4	2.6	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070139
3-35-524 04002519	F12区画	打製石器 石鏟	34.6	22.2	5.4	3.5	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070140
3-35-525 04001966	F14区画	打製石器 石鏟	36.1	22.3	6.1	4.2	無斑品質 安山岩	疊面残存	3-17 20070141
3-35-526 04002518	F12区画	打製石器 石鏟	31.9	22.7	6.4	4.2	無斑品質 安山岩	先端・基部の一部欠損	3-17 20070142
3-35-527 04002517	F12区画	打製石器 石鏟	35.8	22.5	6.1	4.6	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070143
3-35-528 04002469	F13区画	打製石器 石鏟	34.8	21.9	6.3	4.5	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070144
3-35-529 04002477	F13区画	打製石器 石鏟	35.6	23.6	6.1	4.7	無斑品質 安山岩	左右非対称・先端欠損	3-17 20070145
3-35-530 04002468	F13区画	打製石器 石鏟	24.5	16.2	3.4	1.7	無斑品質 安山岩	先端が丸い	3-17 20070146
3-35-531 04002491	F13区画	打製石器 石鏟	25.4	17.8	5.5	2.9	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070147
3-35-532 04002490	F13区画	打製石器 石鏟	28.9	20.4	5.5	3.3	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070148
3-35-533 04002501	F13区画	打製石器 石鏟	35.0	24.4	6.9	5.0	無斑品質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-17 20070149
3-35-534 04002537	F11区画	打製石器 石鏟	48.4	7.8	3.5	1.8	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070150
3-35-535 04002606	SK1122	打製石器 石鏟	38.7	13.3	6.1	2.3	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070151
3-35-536 04002536	G13区画	打製石器 石鏟	37.6	22.3	5.5	3.7	無斑品質 安山岩	先端欠損	3-17 20070152
3-35-537 04002540	E14区画	打製石器 石鏟	31.6	31.3	7.3	6.7	無斑品質 安山岩	未製品	3-17 20070153
3-35-538 04002542	E13区画	打製石器 石鏟	68.5	46.2	13.0	30.5	無斑品質 安山岩	未製品	3-17 20070154
3-35-539 04002535	-	打製石器 石匙	38.3	67.6	10.7	21.7	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070155
3-36-540 04002558	F12区画	打製石器 削器	21.0	29.3	5.2	3.7	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070156
3-36-541 04002544	H13区画	打製石器 削器	29.9	41.7	9.1	13.3	無斑品質 安山岩	一部欠損	3-17 20070157
3-36-542 04002560	F11区画	打製石器 削器	32.9	42.1	8.3	8.9	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070158
3-36-543 04002561	H11区画	打製石器 削器	36.2	42.5	7.7	12.4	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070159
3-36-544 04002543	F15区画	打製石器 削器	45.5	50.0	8.9	17.0	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070160
3-36-545 04002545	F11区画	打製石器 削器	35.7	54.2	10.2	21.0	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070161
3-36-546 04002549	F11区画	打製石器 削器	56.8	42.5	9.9	13.8	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070162
3-36-547 04002550	E12区画	打製石器 削器	60.0	48.1	24.4	52.4	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070163
3-36-548 04002547	F13区画	打製石器 削器	44.3	49.1	15.5	34.1	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070164
3-36-549 04002559	F12区画	打製石器 削器	51.2	57.3	15.9	34.4	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070165
3-36-550 04002548	F12区画	打製石器 削器	40.2	82.0	12.4	52.0	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070166
3-36-551 04002546	F13区画	打製石器 削器	45.9	89.7	16.8	59.0	無斑品質 安山岩	一部欠損	3-17 20070167
3-37-552 04002563	G11区画	打製石器 削器	73.6	94.3	13.8	74.8	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070168
3-37-553 04002541	F13区画	打製石器 削器	94.1	59.7	13.7	64.3	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070169

表3-4 1区縄文～弥生時代の遺構外出土石器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 kg	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-37-554 04002552	F11区画	打製石器 削器	66.5	112.5	10.9	77.0	無斑品質 安山岩	-	3-17 20070170
3-37-555 04002551	F12区画	打製石器 削器	123.2	30.3	14.0	48.5	無斑品質 安山岩	-	3-18 20070171
3-37-556 04002557	F13区画	打製石器 削器	55.1	114.8	18.1	104.3	無斑品質 安山岩	-	3-18 20070172
3-37-557 04002554	F15区画	打製石器 削器	81.9	142.7	30.2	287.5	無斑品質 安山岩	縫面残存 残存する最終剥離痕から見る と、縦長剥片だったと思われる。石核的	3-18 20070173
3-38-558 04002556	F12区画	打製石器 削器	97.7	106.8	15.4	151.0	無斑品質 安山岩	-	3-18 20070174
3-38-559 04002567	E14区画	打製石器 削器	48.6	21.7	6.5	5.8	黒曜岩	石刃的 縦溝状・抉り的な加工	3-18 20070175
3-38-560 04002568	D14区画	打製石器 削器	57.4	14.5	5.9	4.4	黒曜岩	内側に調整あり	3-18 20070176
3-38-561 04002539	E13区画	打製石器 削器	61.3	25.9	6.3	8.8	黒曜岩	石刃的	3-18 20070177
3-38-562 04002565	F12区画	打製石器 削器	73.8	23.3	8.3	13.4	黒曜岩	石刃素材	3-18 20070178
3-38-563 04002566	E14区画	打製石器 削器	81.0	25.1	9.0	13.1	黒曜岩	石刃素材	3-18 20070179
3-38-564 04002532	G11区画	打製石器 石核	23.9	26.5	16.6	11.2	黒曜岩	一部欠損	3-18 20070180
3-38-565 04002534	F14区画	打製石器 石核	51.6	68.3	109.8	319.2	無斑品質 安山岩	一部欠損	3-18 20070181
3-38-566 04002533	F12区画	打製石器 石核	30.5	65.2	22.9	44.5	無斑品質 安山岩	一部欠損	3-18 20070182
3-39-567 04002564	E11区画	磨石器 磨石	127.7	51.3	27.8	300.4	蛇紋岩	-	3-18 20070183
3-39-568 04002582	H13区画	磨石器 磨石	111.0	87.0	60.0	850.8	花崗岩	-	3-18 20070184
3-39-569 04002579	F13区画	磨石器 磨石	111.0	94.5	62.0	931.7	花崗岩	-	3-18 20070185
3-39-570 04002578	H12区画	磨石器 磨石	122.0	92.0	59.0	831.0	花崗岩	被熱的可能性あり	3-18 20070186
3-39-571 04002581	G13区画	磨石器 磨石	130.0	107.5	46.0	907.2	花崗岩	-	3-18 20070187
3-39-572 04002580	G14区画	磨石器 磨石	112.0	97.5	66.0	1090.6	花崗岩	-	3-18 20070188
3-39-573 04002583	H11区画	磨石器 磨石	111.0	105.5	64.0	1166.0	-	-	3-18 20070189
3-40-574 04002577	H12区画	磨石器 磨石	129.0	105.0	40.5	868.0	花崗岩	被熱的可能性あり	3-18 20070190
3-40-575 04002604	SD1045	磨石器 磨石	71.7	58.0	37.5	260.2	-	一部欠損	3-18 20070191
3-40-576 04002575	G13区画	磨石器 磨石	129.0	110.5	47.0	974.3	花崗岩	-	3-18 20070192
3-40-577 04002576	F12区画	磨石器 磨石	91.0	99.0	50.5	600.2	花崗岩	一部欠損	3-18 20070193

表3-5 3区縄文～弥生時代の遺構外出土器

辨別番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	高さ			
3-46-578 050000563	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にふい褐	外面保付着	3-19 20070664
3-46-579 050000569	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にふい黄褐	-	3-19 20070665
3-46-580 050000564	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	-	3-19 20070666
3-46-581 050000574	Z14・Y15区 画	縄文土器 深鉢	16.7*	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	口輪部削目 外面保付着 滑石を含む	3-19 20070667
3-46-582 050000562	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070668・0983
3-46-583 050000566	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070669・0984
3-46-584 050000573	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	外面保付着	3-19 20070670
3-46-585 050000597	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい赤褐 内：にふい赤褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070671・0985
3-46-586 050000598	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070672・0986
3-46-587 050000599	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070673・0987
3-46-588 050000843	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明黄褐 内：明黄褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070674・0988
3-46-589 050000804	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい赤褐 内：にふい赤褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070675・0989
3-46-590 050000560	Z14・Y15区 画	縄文土器 深鉢	30.5*	-	-	外：明褐～黒褐 内：にふい褐～灰褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070676
3-46-591 050000600	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070677・0990
3-46-592 050000806	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	滑石を含む	3-19 20070678
3-46-593 050000807	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070679
3-46-594 050000805	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070680・0991
3-46-595 050000808	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070681・0992
3-46-596 050000809	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にふい褐	滑石を含む	3-19 20070682
3-46-597 050000803	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070683・0993
3-46-598 050000802	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい赤褐 内：にふい赤褐	口輪部削目 滑石を含む	3-19 20070684・0994
3-46-599 050000801	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：灰褐	-	3-19 20070685・0995
3-46-600 050000838	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい褐	滑石を含む	3-19 20070686・0996
3-47-601 050000844	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	外面保付着 滑石を含む	3-19 20070687・0997
3-47-602 050000579	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい褐	滑石を含む	3-19 20070688
3-47-603 050000568	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	滑石を含む	3-19 20070689
3-47-604 050000567	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	滑石を含む	3-19 20070690
3-47-605 050000577	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい褐 内：にふい褐	滑石を含む	3-19 20070691
3-47-606 050000588	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	滑石を含む	3-19 20070692
3-47-607 050000825	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にふい赤褐	滑石を含む	3-19 20070693
3-47-608 050000595	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい赤褐 内：にふい赤褐	滑石を含む	3-19 20070694
3-47-609 050000585	X16区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：明赤褐	滑石を含む	3-19 20070695
3-47-610 050000580	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にふい赤褐	外面保付着 滑石を含む	3-19 20070696
3-47-611 050000592	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にふい赤褐 内：褐	滑石を含む	3-19 20070697

表3-5 3区縄文～弥生時代の遺構外出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	高さ			
3-47-612 05000839	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	滑石を含む	3-19 20070698
3-47-613 05000835	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	滑石を含む	3-19 20070699
3-47-614 05000830	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-19 20070700
3-47-615 05000590	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-19 20070701
3-47-616 05000831	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-19 20070702
3-47-617 05000576	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-19 20070703
3-47-618 05000827	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-19 20070704
3-47-619 05000587	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-19 20070705
3-47-620 05000584	X15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-19 20070706
3-47-621 05000828	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：明赤褐色	滑石を含む	3-19 20070707
3-47-622 05000593	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-19 20070708
3-47-623 05000832	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-19 20070709
3-47-624 05000578	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-19 20070710
3-47-625 05000582	X14・Z15区 画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	滑石を含む	3-20 20070711
3-47-626 05000586	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	滑石を含む	3-20 20070712
3-47-627 05000591	X15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	外面保付着 滑石を含む	3-20 20070713
3-47-628 05000581	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	滑石を含む	3-20 20070714
3-47-629 05000575	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	滑石を含む	3-20 20070715
3-47-630 05000570	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-20 20070716
3-47-631 05000583	Y15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	滑石を含む	3-20 20070717
3-47-632 05000571	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：灰褐色	滑石を含む	3-20 20070718
3-47-633 05000834	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：褐	滑石を含む	3-20 20070719
3-47-634 05000829	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐色 内：灰褐色	滑石を含む	3-20 20070720
3-47-635 05000842	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-20 20070721
3-47-636 05000589	Z14区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-20 20070722
3-48-637 05000572	X15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外面保付着 滑石を含む	3-20 20070723
3-48-638 05000565	X15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-20 20070724
3-48-639 05000857	Z15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：黑褐色	口縁外面に保付着	3-20 20070725
3-48-640 05000854	Z15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：にぶい黄褐色	641と同一個体か 外面保付着	-
3-48-641 05000855	Z15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黑褐色 内：にぶい黄褐色	640と同一個体か 外面保付着 屋曲部外面は段状をなす	3-20 20070726
3-48-642 05000853	Y15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：にぶい褐色	口縁内面は段状をなす	3-20 20070727
3-48-643 05000852	Y15区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	-
3-48-644 05000851	X14区画	縄文土器 浅鉢	15.1*	-	-	外：黑褐色 内：灰褐色	-	3-20 20070728
3-48-645 05000856	X15区画	縄文土器 浅鉢	15.2*	-	6.0	外：灰褐色 内：灰褐色	-	3-20 20070729

表3-5 3区縄文～弥生時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-48-646 05000822	X15区画	縄文土器 深鉢	30.1*	-	-	外:にふい 内:灰黄褐	口唇部は鉛錫釉文?	3-20 20070730
3-48-647 05000823	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にふい 内:灰黄褐	口唇部削目	3-20 20070731
3-48-648 05000824	Y15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:棕	口唇部削目	3-20 20070732
3-48-649 05000811	X16・Z14区 画	縄文土器 深鉢	28.9*	-	-	外:浅黄褐 内:にふい黄褐	外面焼付着	3-20 20070733
3-48-650 05000810	Y15区画	縄文土器 深鉢	35.4*	-	-	外:棕 内:棕	-	3-20 20070734
3-48-651 05000551	Z15区画	縄文土器 深鉢	22.6*	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070735
3-48-652 05000552	-	縄文土器 深鉢	18.4*	-	-	外:褐 内:にふい黄褐	外面焼付着	3-20 20070736
3-48-653 05000549	-	縄文土器 深鉢	36.6*	-	-	外:灰黄褐 内:黄灰	外面焼付着	3-20 20070737
3-48-654 05000548	表採	縄文土器 深鉢	42.9*	-	-	外:黒褐 内:にふい 相	口縁外面焼付着	3-20 20070738
3-49-655 05000813	-	縄文土器 浅鉢	20.7*	-	-	外:明黄褐 内:明黄褐	-	3-20 20070739
3-49-656 05000815	表採	縄文土器 浅鉢	22.5*	-	-	外:灰褐 内:灰褐	-	3-20 20070740
3-49-657 05000821	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:相	-	3-20 20070741
3-49-658 05000550	X16区画	縄文土器 浅鉢	22.6*	-	-	外:褐 内:にふい黄褐	外面焼付着	3-20 20070742
3-49-659 05000561	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰褐 内:明黄	-	3-20 20070743
3-49-660 05000555	Y15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070744
3-49-661 05000814	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にふい黄褐 内:灰黄	-	3-20 20070745
3-49-662 05000818	Y15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:相 内:相	-	3-20 20070746
3-49-663 05000812	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070747
3-49-664 05000816	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070748
3-49-665 05000817	Z15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:相 内:相	-	3-20 20070749
3-49-666 05000554	Z15区画	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	外面焼付着	3-20 20070750
3-49-667 05000553	X16区画	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:褐 内:褐	外面焼付着	3-20 20070751
3-49-668 05000556	-	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	3-20 20070752
3-49-669 05000559	Z15区画	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070753
3-49-670 05000558	Z15区画	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:にふい黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070754
3-49-671 05000819	X15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明黄褐 内:相	-	3-20 20070755
3-49-672 05000557	X15区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	-	3-20 20070756
3-49-673 05000820	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰黄褐 内:にふい黄褐	-	3-20 20070757
3-49-674 05000849	X14区画	縄文土器 深鉢	-	7.0*	-	外:にふい相 内:黒褐	-	3-20 20070758
3-49-675 05000845	X14区画	縄文土器 深鉢	-	9.1	-	外:にふい相 内:黒褐	-	3-20 20070759
3-49-676 05000848	-	縄文土器 深鉢	-	7.0*	-	外:にふい相 内:にふい相	-	3-20 20070760
3-49-677 05000846	X15区画	縄文土器 深鉢	-	9.8*	-	外:にふい相 内:相	-	3-20 20070761
3-49-678 05000847	-	縄文土器 浅鉢	-	8.3*	-	外:相 内:にふい相	-	-
3-49-679 05000850	X16区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:相 内:黒褐	-	-

表3-5 3区縄文～弥生時代の遺構外出土土器

辨別番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	高さ			
3-49-680 05000858	Y16区画	秀生土器 甕	-	-	-	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	-	3-20 20070762
3-49-681 05000859	-	秀生土器 甕	28.4*	-	-	外：褐 内：褐	外面環付着	3-20 20070763

表3-6 3区縄文時代の遺構外出土石器

辨別番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-50-682 06000011	Z14区画	打製石器 石鏟	19.0	11.8	5.1	0.6	黒曜岩	片側欠損	3-21 20070194
3-50-683 06000017	Z14区画	打製石器 石鏟	24.3	15.0	5.3	1.0	黒曜岩	片側欠損	3-21 20070195
3-50-684 06000018	Z14区画	打製石器 石鏟	25.5	16.5	4.8	1.2	黒曜岩	片側欠損	3-21 20070196
3-50-685 06000013	Z15区画	打製石器 石鏟	28.0	21.5	4.2	1.2	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070197
3-50-686 06000012	Z14区画	打製石器 石鏟	27.5	23.1	4.3	1.8	無斑品質 安山岩	両端端一部欠損	3-21 20070198
3-50-687 06000014	Z14区画	打製石器 石鏟	27.5	19.6	3.6	1.2	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070199
3-50-688 06000016	Z14区画	打製石器 石鏟	26.5	17.5	4.9	1.6	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070200
3-50-689 06000010	X16区画	打製石器 石鏟	18.7	14.0	3.0	0.6	黒曜岩	1/2欠損	3-21 20070201
3-50-690 06000030	-	打製石器 石鏟	25.8	15.0	3.4	1.2	無斑品質 安山岩	先端一部欠損	3-21 20070202
3-50-691 06000007	X15区画	打製石器 石鏟	21.8	19.2	5.2	2.2	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070203
3-50-692 06000020	Y16区画	打製石器 石鏟	28.7	15.6	3.9	1.6	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070204
3-50-693 06000021	Y15区画	打製石器 石鏟	26.6	17.3	5.5	2.6	無斑品質 安山岩	基部欠損	3-21 20070205
3-50-694 06000001	X15区画	打製石器 石鏟	25.4	19.7	5.0	2.2	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070206
3-50-695 06000025	-	打製石器 石鏟	29.3	18.9	4.6	2.0	無斑品質 安山岩	片基部欠損	3-21 20070207
3-50-696 06000004	X15区画	打製石器 石鏟	31.0	17.9	4.0	2.4	無斑品質 安山岩	先端部基部欠損	3-21 20070208
3-50-697 06000008	X15区画	打製石器 石鏟	30.2	23.5	4.9	3.2	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070209
3-50-698 06000035	-	打製石器 石鏟	34.3	21.8	6.7	4.0	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070210
3-50-699 06000034	-	打製石器 石鏟	40.0	24.0	4.9	4.0	無斑品質 安山岩	完形 中央に擦痕あり	3-21 20070211
3-50-700 06000015	X16区画	打製石器 石鏟	35.5	20.5	4.4	2.6	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070212
3-50-701 06000006	X15区画	打製石器 石鏟	34.7	19.4	4.7	2.4	無斑品質 安山岩	側縁部欠損	3-21 20070213
3-50-702 06000019	Z15区画	打製石器 石鏟	35.5	24.9	6.0	4.2	無斑品質 安山岩	基部欠損	3-21 20070214
3-50-703 06000002	X15区画	打製石器 石鏟	33.7	22.0	7.0	4.6	無斑品質 安山岩	先端部と側縁の一部欠損	3-21 20070215
3-50-704 06000024	-	打製石器 石鏟	37.4	22.1	4.4	3.0	無斑品質 安山岩	基部端欠損	3-21 20070216
3-50-705 06000023	-	打製石器 石鏟	41.8	26.3	5.7	5.0	無斑品質 安山岩	基部3/4欠損	3-21 20070217

表3-6 3区縄文時代の遺構出土石器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
3-50-706 06000026	-	打製石器 石鏟	31.8	27.3	8.2	7.4	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070218
3-50-707 06000009	X16区画	打製石器 石鏟	33.0	24.5	6.0	4.2	黒曜岩	基部端欠損	3-21 20070219
3-50-708 06000005	X15区画	打製石器 石鏟未製品	27.0	27.8	4.0	3.0	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070220
3-50-709 06000003	X15区画	打製石器 石鏟未製品	33.4	25.4	4.5	3.4	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070221
3-50-710 06000042	X16区画	打製石器 石鏟未製品	33.0	27.9	8.5	5.6	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070222
3-51-711 06000028	-	打製石器 石鏟か削器	26.5	20.5	7.0	4.0	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070223
3-51-712 06000029	-	打製石器 石鏟か削器	27.9	19.8	5.2	3.0	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070224
3-51-713 06000027	-	打製石器 石鏟か削器	33.1	26.1	6.8	5.8	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070225
3-51-714 06000032	-	打製石器 石鏟か削器	42.9	27.0	7.5	9.2	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070226
3-51-715 06000031	-	打製石器 石鏟か削器	36.9	30.5	9.4	11.0	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070227
3-51-716 06000033	-	打製石器 石鏟か削器	36.2	26.8	7.9	7.6	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070228
3-51-717 06000051	-	打製石器 石鏟か削器	25.4	47.2	9.0	10.8	無斑品質 安山岩	-	3-21 20070229
3-51-718 06000045	Z14区画	打製石器 削器	22.3	23.7	7.6	3.4	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070230
3-51-719 06000041	X15区画	打製石器 削器	27.8	35.0	10.9	8.8	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070231
3-51-720 06000052	-	打製石器 削器	29.5	33.8	9.0	8.2	無斑品質 安山岩	一部欠損	3-21 20070232
3-51-721 06000050	X16区画	打製石器 削器	26.7	34.7	6.8	6.8	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070233
3-51-722 06000046	Z14区画	打製石器 削器	27.0	32.6	7.2	6.2	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070234
3-51-723 06000048	Y16区画	打製石器 削器	35.5	30.3	7.9	8.2	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070235
3-51-724 06000049	Y15区画	打製石器 削器	37.0	49.0	12.4	12.6	無斑品質 安山岩	片側欠損	3-21 20070236
3-51-725 06000047	Z15区画	打製石器 削器	55.7	79.4	21.7	79.6	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070237
3-51-726 06000043	Y14区画	打製石器 削器	67.3	90.4	17.3	92.2	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070238
3-51-727 06000044	Z14区画	打製石器 石鏟	49.5	26.6	5.4	7.2	無斑品質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070239
3-52-728 06000057	Y15区画	打製石器 石核	26.0	26.7	12.3	6.0	黒曜岩	-	3-21 20070240
3-52-729 06000058	X16区画	打製石器 石核	32.0	23.7	13.6	8.8	黒曜岩	-	3-21 20070241
3-52-730 06000059	Y15区画	打製石器 石核	42.7	28.5	24.0	25.2	黒曜岩	-	3-21 20070242
3-52-731 06000054	Z15区画	打製石器 剥片	28.7	13.3	3.8	0.8	黒曜岩	完形	3-21 20070243
3-52-732 06000056	-	打製石器 剥片	38.8	19.7	5.9	3.2	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070244
3-52-733 06000053	Y16区画	打製石器 剥片	32.3	26.5	8.0	4.6	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070245
3-52-734 06000055	Z16区画	打製石器 剥片	71.7	99.5	44.3	242.0	無斑品質 安山岩	完形	3-21 20070246
3-52-735 06000040	表探	磨製石器 石斧	109.0	68.0	11.6	92.4	蛇紋岩	基部欠損	3-21 20070247
3-52-736 06000036	X15区画	磨石器 磨石?	122.0	36.2	23.4	162.0	砂岩	完形	3-21 20070248
3-52-737 06000038	Y15区画	磨石器 磨石?	111.8	84.4	29.5	361.4	花崗岩	一部欠損	3-21 20070249
3-52-738 06000037	Y14区画	磨石器 磨石?	121.8	93.0	59.7	950.0	花崗岩	一部欠損	3-21 20070250
3-52-739 06000039	Y15区画	磨石器 磨石?	124.9	90.1	28.4	550.0	花崗岩	ごく一部欠損	3-21 20070251

3 中世～近世の遺構と遺物

1) 1区中世～近世の遺構と遺物

掘立柱建物（図3-56～61）

掘立柱建物として報告するのは以下の8棟で、全て整理作業の段階で認定したものである。これらの掘立柱建物は、1区西半部中央の南寄りに集中して分布する。このうちSB1023・1024・1025・1026の4棟は平面的に重複あるいは間近に接しており同時に並存が考えられないことから、掘立柱建物に関しては少なくとも4段階の変遷が想定される。建物の主軸方位は南北棟でN31°～43°Eと北東～南西方向から北北東～南南西方向に集中しており、東西棟もこれにほぼ直交する。全体として主軸方向は揃っていると言えるが、強い企画性を見出すよりは、地形的な条件に合わせたものと考えるほうが実態に近いと思われる。

調査時には掘立柱建物を構成する柱穴も他の小穴と同様に遺物の出土したもののみ一連番号を付けていたが、報告に際して各々の掘立柱建物ごとに英大文字による番号を北東隅から時計回りにPA、PB、PC…の要領で付けた。柱穴の規模は比較的小さなものが多く、いずれも平面は円形基調である。柱穴が他の主要遺構と重複する例ではなく、遺構の時期を決定するのは、柱穴から出土した僅かな量の遺物である。

SB1023（図3-56）

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸をN38°Eにとる南北棟の側柱建物である。SB1025・SB1026と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。東側に主軸が並行するSB1024、南側にSX1010がきわめて近接して位置する。梁行2間（4.5m）×桁行3間（6.4m）で、南側に庇が付く。庇の幅は2.2mで、庇を含めた規模は4.5m×8.6mになる。庇とした部分を1間と見れば2×4間の建物と考えられる。床面積は真々で身舎が28.8m²、庇まで含めると38.7m²である。梁行柱間は2.0～2.5m、桁行柱間は2.0～2.6mで、建物を構成する柱穴は径0.3～0.8mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗・小皿、竜泉窯系青磁碗II類、白磁皿IX類、褐釉系陶器壺か瓶、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1023出土遺物（図3-71）

740は白磁皿IX類の口縁部、741は竜泉窯系青磁碗II類の体部である。

SB1024（図3-57）

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸をN35°Eにとる南北棟の側柱建物である。SB1025と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。主軸が並行するSB1023と直交するSB1026が西側にきわめて近接して位置する。梁行1間（3.8m）×桁行3間（7.1m）で、北側に庇が付く。庇の幅は0.8m（おむね1/3間）で、庇を含めた規模は3.8m×7.9mになる。床面積は真々で身舎が27.0m²、庇部分まで含めると30.0m²である。梁行柱間は3.8mで2間分あり、桁行柱間は2.3～2.5mで、建物を構成する柱穴は径0.2～0.5mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗IないしII類が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SB1025（図3-58）

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸をN53°Wにとる東西棟の側柱建物である。SB1023・SB1024と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。主軸が並行するSB1026が南側にきわめて近接して位置する。梁行2間（3.6m）×桁行3間（6.5m）で、床面積は真々で23.4m²である。梁行柱間は1.8m、桁行柱間は2.0～2.2mで、建物を構成する柱穴は径0.3～0.5mの円形基調である。遺物は土師器杯、褐釉系陶器、滑石製石鍋が破片で出土した。

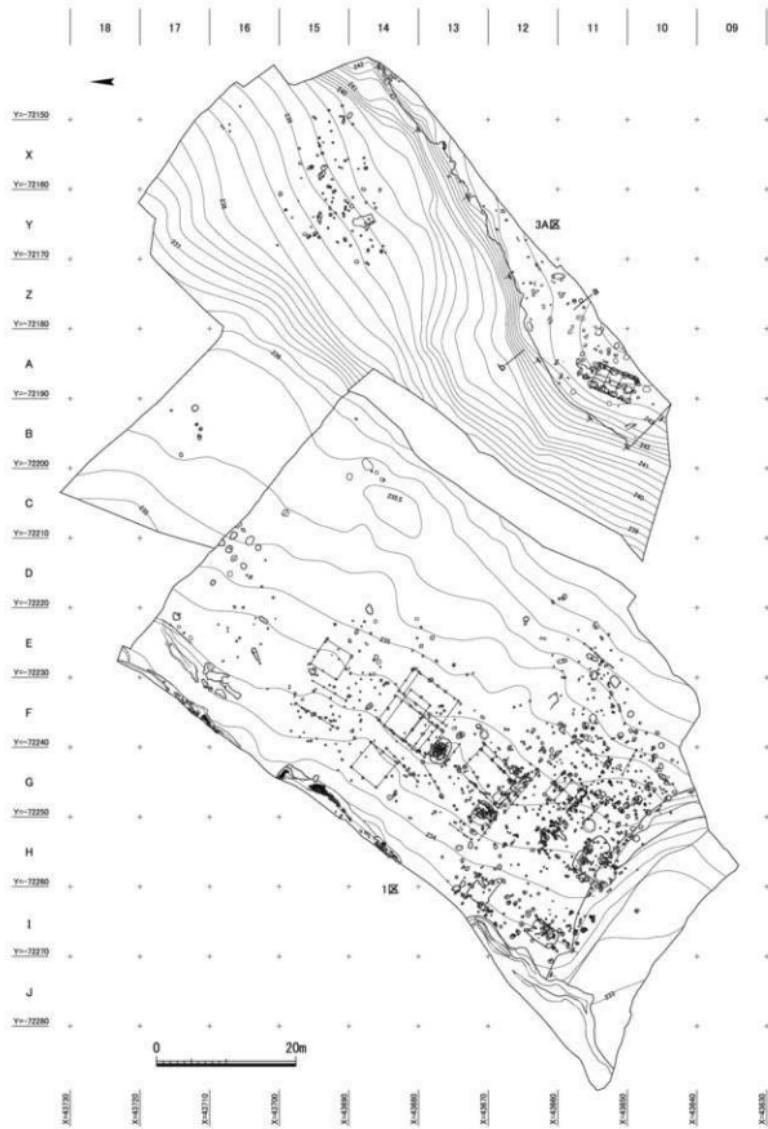


図3-53 1・3区中世～近世遺構の分布 (1/700)

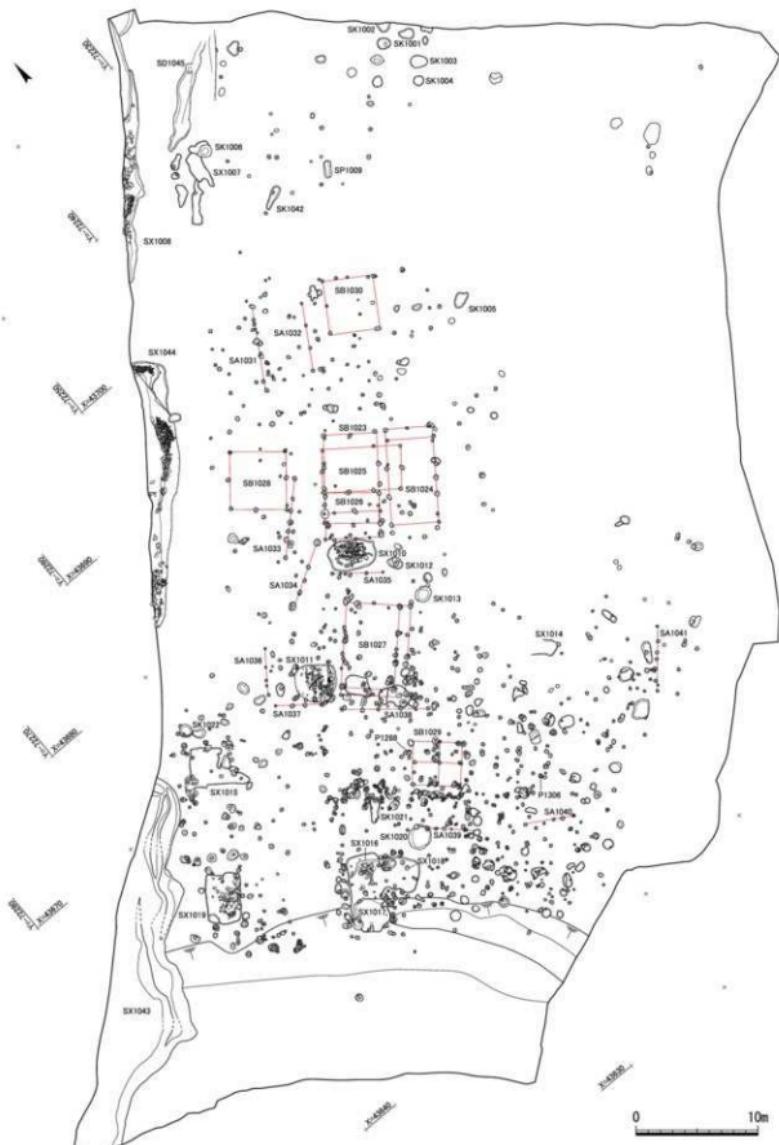


図3-54 1区中世～近世遺構の分布 (1/400)



図3-55 1区中世～近世遺構の分布詳細 (1/250)

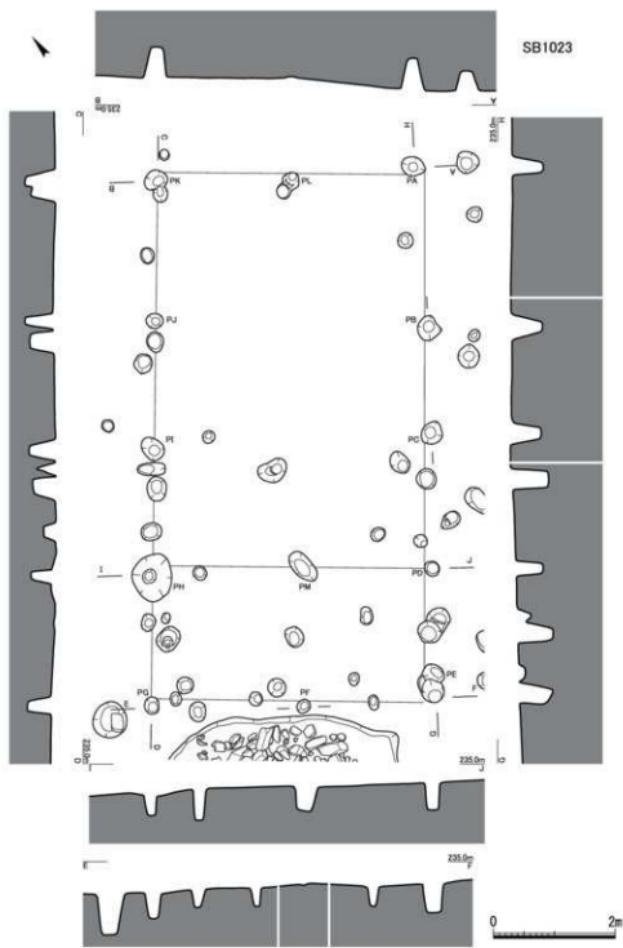


図3-56 1区中世の掘立柱建物1 (1/80)

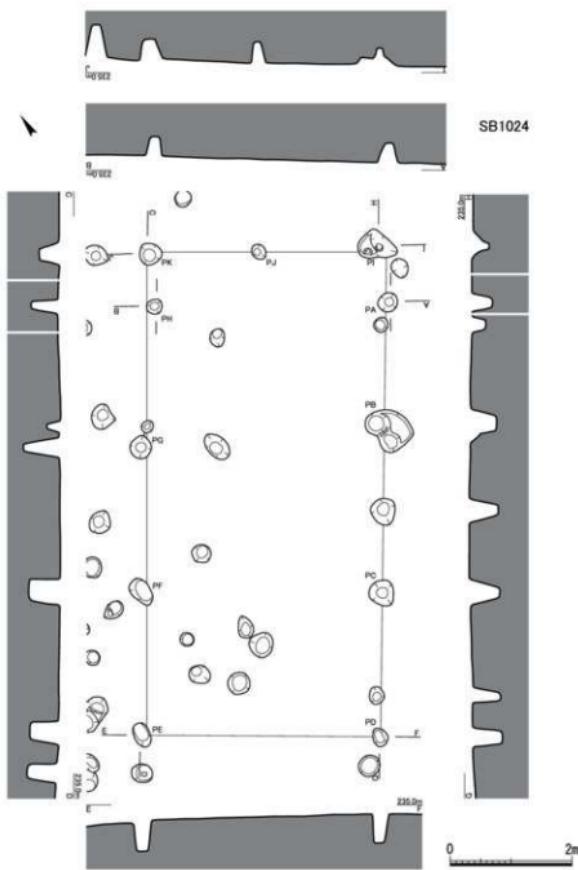


図3-57 1区中世の掘立柱建物2 (1/80)

SB1025 出土遺物（図3-71）

742・743は土師器杯の底部で、いずれも糸切り離しである。

SB1026（図3-58）

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸をN50°Wにとる東西棟の側柱建物である。SB1023と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。北側に主軸が並行するSB1025、東側に直交するSB1024がきわめて近接して位置する。梁行1間（2.4m）×桁行2間（4.6m）で、床面積は真々で11.0m²である。梁行柱間は2.2～2.4m、桁行柱間は2.0～2.5mで、建物を構成する柱穴は径0.2～0.4mの円形基調である。遺物は土師器杯、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗I類、同安窯系青磁碗、褐釉系陶器が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SB1027（図3-59）

1区西半部中央の南寄りに位置する掘立柱建物で、主軸をN43°Eにとる南北棟の側柱建物である。南側に近接して主軸が直交するSA1038が位置し、南西側にはSX1011が位置する。梁行2間（4.4m）×桁行3間（7.0m）の身舎の東と南に庇が付き、庇の幅は0.7～0.8m（おおむね1/3間）で、庇を含めた規模は5.2m×7.6mになる。床面積は真々で身舎の部分が30.8m²、庇まで含めると39.5m²である。梁行柱間は2.1～2.3m、桁行柱間は2.2～2.4mで、建物を構成する柱穴は径0.3～0.6mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢、竜泉窯系青磁碗II b c類、白磁皿IX類・褐釉系陶器、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1027出土遺物（図3-71）

744～749は土師器杯で底部の判るものはいずれも糸切離しである。750・751は瓦器碗の底部、752は白磁皿IX類の口縁部、753は滑石製石鍋の底部である。

SB1028（図3-60）

1区西半部中央の西寄りに位置する掘立柱建物で、主軸をN41°Eにとる南北棟の側柱建物である。梁行2間（4.6m）×桁行2間（4.7m）で、床面積は21.6m²である。梁行柱間は2.1～2.5m、桁行柱間は2.2～2.5mで、建物を構成する柱穴は径0.2～0.4mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗II類が破片で出土した。

SB1028出土遺物（図3-71）

754は竜泉窯系青磁碗II b c類の体部破片である。

SB1029（図3-60）

1区西半部南側に位置する掘立柱建物で、主軸をN46°Wにとる東西棟の総柱建物である。梁行2間（3.5m）×桁行2間（4.1m）で、床面積は14.4m²である。梁行柱間は1.7～1.9m、桁行柱間は0.2～0.4mで、建物を構成する柱穴は径0.2～0.5mの円形基調である。遺物は土師器杯、須恵器系陶器捏鉢・甕、白磁碗か皿、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1029出土遺物（図3-71）

755は土師器杯で、底部糸切離しである。

SB1030（図3-61）

1区西半部中央の北寄りに位置する掘立柱建物で、主軸をN31°Eにとる南北棟の側柱建物である。梁行2間（4.1m）×桁行2間（4.4m）で、床面積は18.0m²である。梁行柱間は2.0～2.1m、桁行柱間は2.1～2.3mで、建物を構成する柱穴は径0.2～0.3mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗が破片で出土した。

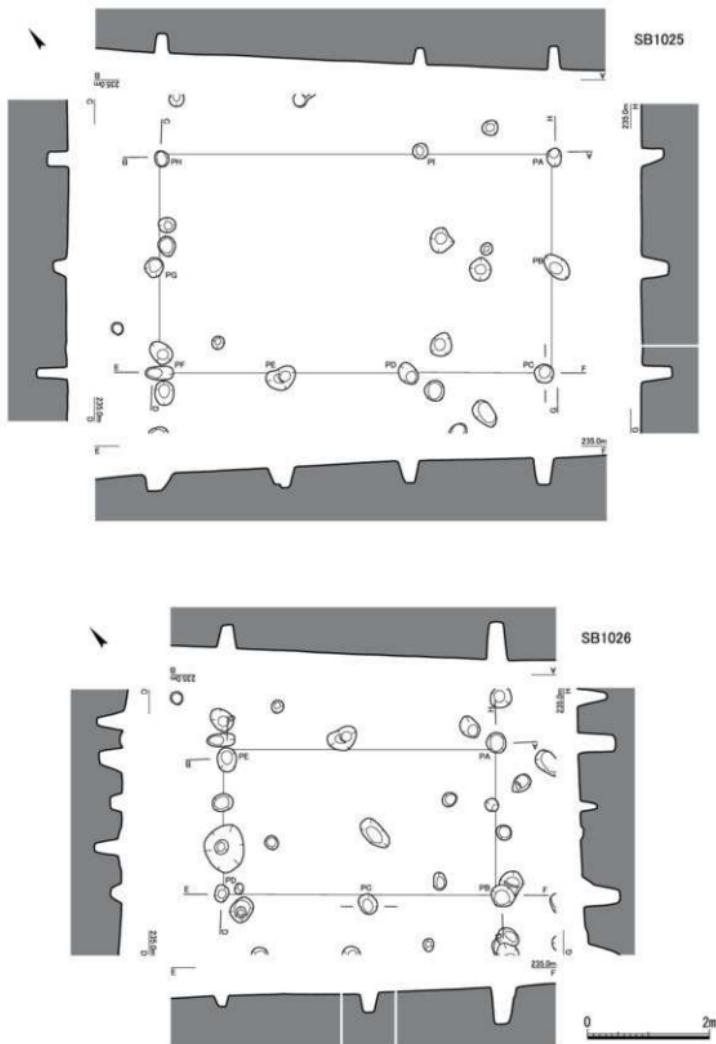


図3-58 1区中世の掘立柱建物3 (1/80)

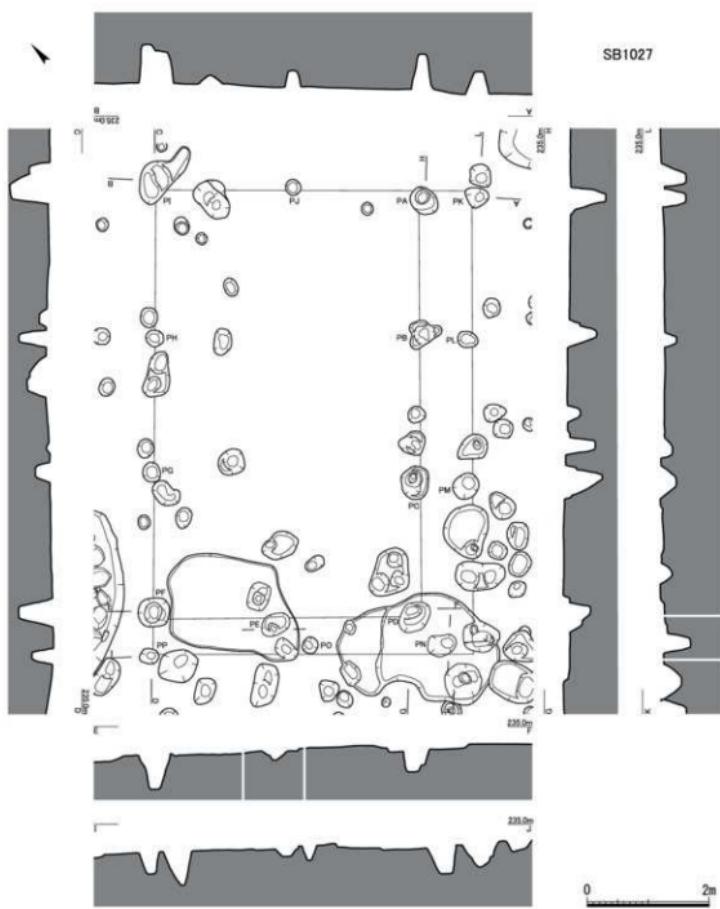


図3-59 1区中世の掘立柱建物4 (1/80)

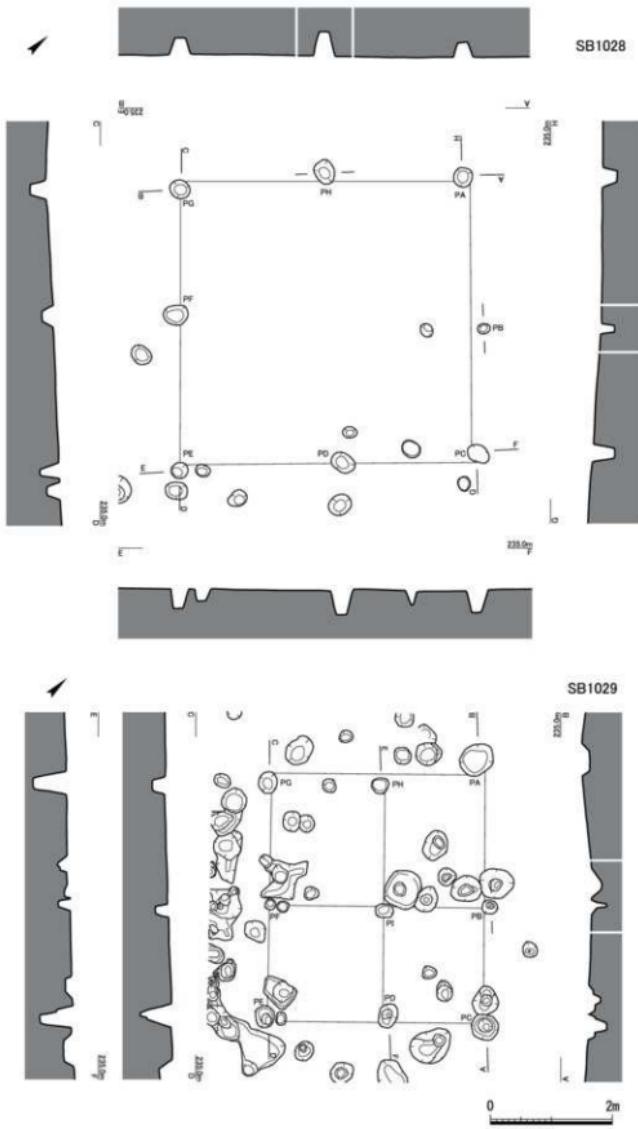


図3-60 1区中世の掘立柱建物5 (1/80)

SB1030 出土遺物（図 3-71）

756 は土師器杯の口縁部で、体部が直線的に立ち上がる。

柵列（図 3-61～63）

柵列として報告するのは以下の 11 条で、掘立柱建物と同様に整理作業の段階で認定したものである。おおむね掘立柱建物と同様な分布を示し、やや離れた位置にあるものも 1 区の中世遺構集中部の範囲にある。

SA1031（図 3-61）

1 区西半部中央の北寄りに位置する柵列で、柱穴が N31° E の南北方向に列をなす。東側に 4 m 程の間隔をおいて SA1032 が並行する。柱間は 2.0 ～ 2.1 m で、柱穴は径 0.2 ～ 0.5 m の円形基調である。遺物は土師器杯が破片で出土した。

SA1031 出土遺物（図 3-71）

757 は土師器杯の口縁部で、体部が直線的に立ち上がる。

SA1032（図 3-61）

1 区西半部中央の北寄りに位置する柵列で、柱穴が N30° E の南北方向に列をなす。西側に SA1031 が並行する。柱間は 1.9 m で、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。遺物は土師器小皿、竜泉窯系青磁碗 1 類、白磁碗か皿、鉄滓が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1033（図 3-62）

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N47° E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.5 m の円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗 1 類、同安窯系青磁碗が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1034（図 3-62）

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N59° E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.3 ～ 0.6 m の円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗が破片で出土した。

SA1034 出土遺物（図 3-71）

758 は瓦器碗の口縁部で、口縁部に重ね焼による異色部がある。

SA1035（図 3-62）

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N52° W の東西方向に列をなす。柱間は 1.4 m で、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。遺物は土師器杯が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1036（図 3-62）

1 区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴が N36° E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

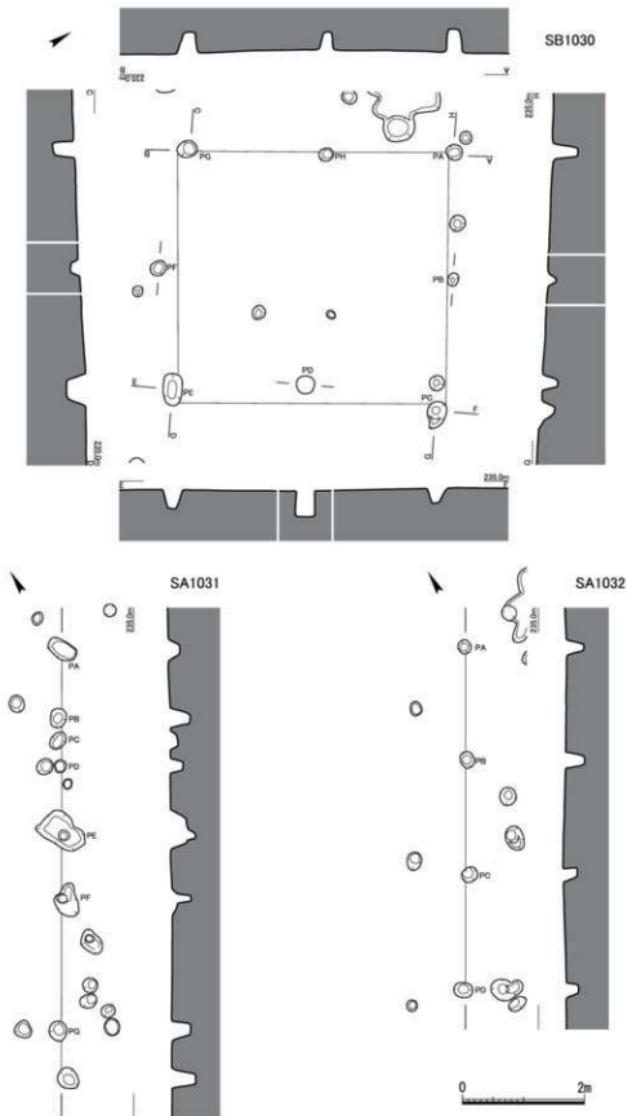


図3-61 1区中世の据立柱建物6・柵列1 (1/80)

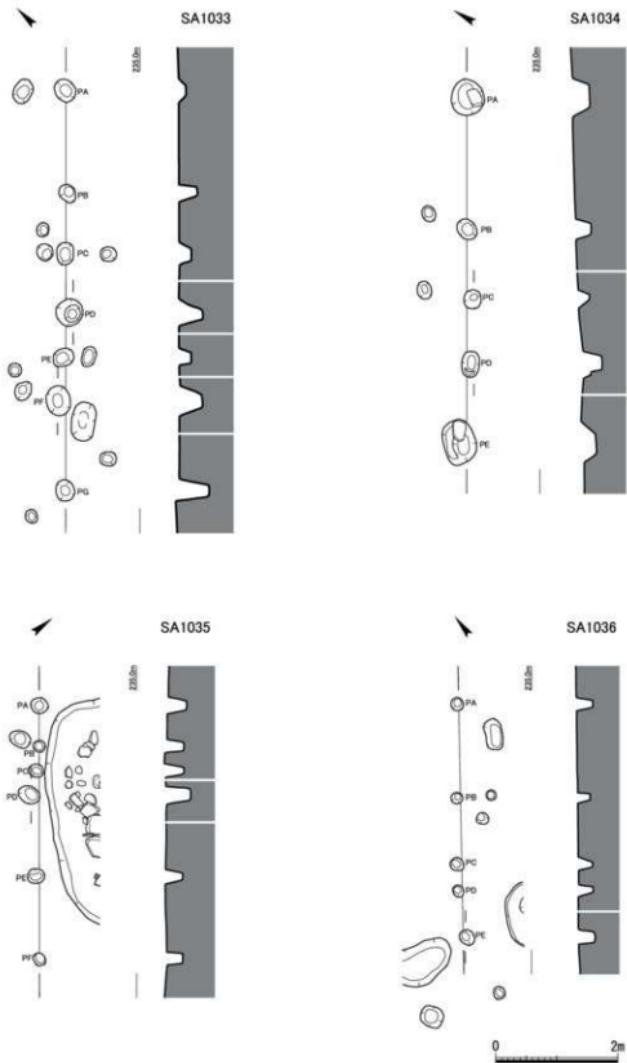


図3-62 1区中世の構造2 (1/80)

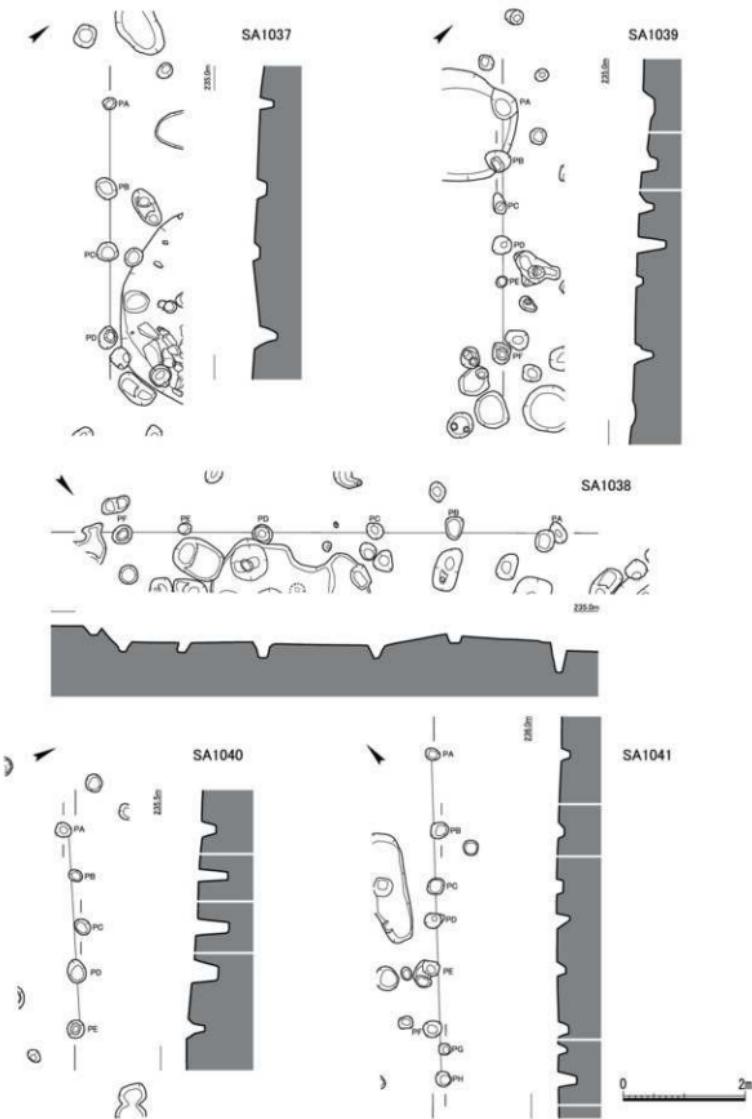


図3-63 1区中世の縦列3 (1/80)

SA1037 (図 3-63)

1 区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴が N51°W の東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ~ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1038 (図 3-63)

1 区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴が N51°W の東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ~ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1039 (図 3-63)

1 区西半部南側に位置する柵列で、柱穴が N47°W の東西方向に列をなす。SK1020 と重複し、これより新である。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ~ 0.4 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1040 (図 3-63)

1 区南東部に位置する柵列で、柱穴が N68°W の東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ~ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1041 (図 3-63)

1 区南東部に位置する柵列で、柱穴が N40°E の方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ~ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

土坑墓 (図 3-64)

土坑墓として報告するのは SP1009 の 1 基である。建物群などの遺構が集中して分布する区域より北側に単独で位置する。

SP1009 (図 3-64)

1 区西半部北側に単独で位置する土坑墓である。主軸は N35°E で、長軸 1.50 m、短軸 0.59 m の倒丸長方形で、深さ 0.10 ~ 0.22 m である。南西端から完形の竜泉窯系青磁碗が出土し、土坑墓と考えられる。青磁碗の出土位置を平面及び標高の数値記録から遺構図と重ねると、遺構の底面あたりに据えられた状態になるが、平面的な位置は遺構の外縁線からはみ出した格好になっており、土坑墓の外縁は実測図よりも一回り大きかったようである。

SP1009 出土遺物 (図 3-71)

759 は竜泉窯系青磁碗 II b 類で、土圧のためか出土時にはヒビが生じていたが、完形の状態で埋置されていたものと見られる。

土坑 (図 3-64・68)

土坑として報告する 12 基は、1 区北端中央部に数基がまとまっている他は散在的な分布で、出土遺物の量も全体に少なく、人為的な掘り込みかどうか判断にくいものもある。

SK1001 (図 3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 1.28 m、短軸 0.90 m、深さ 0.19 m で、平面は不整な卵形である。土師器杯、瓦器碗、滑石が破片で出土したが、小片であり図示していない。

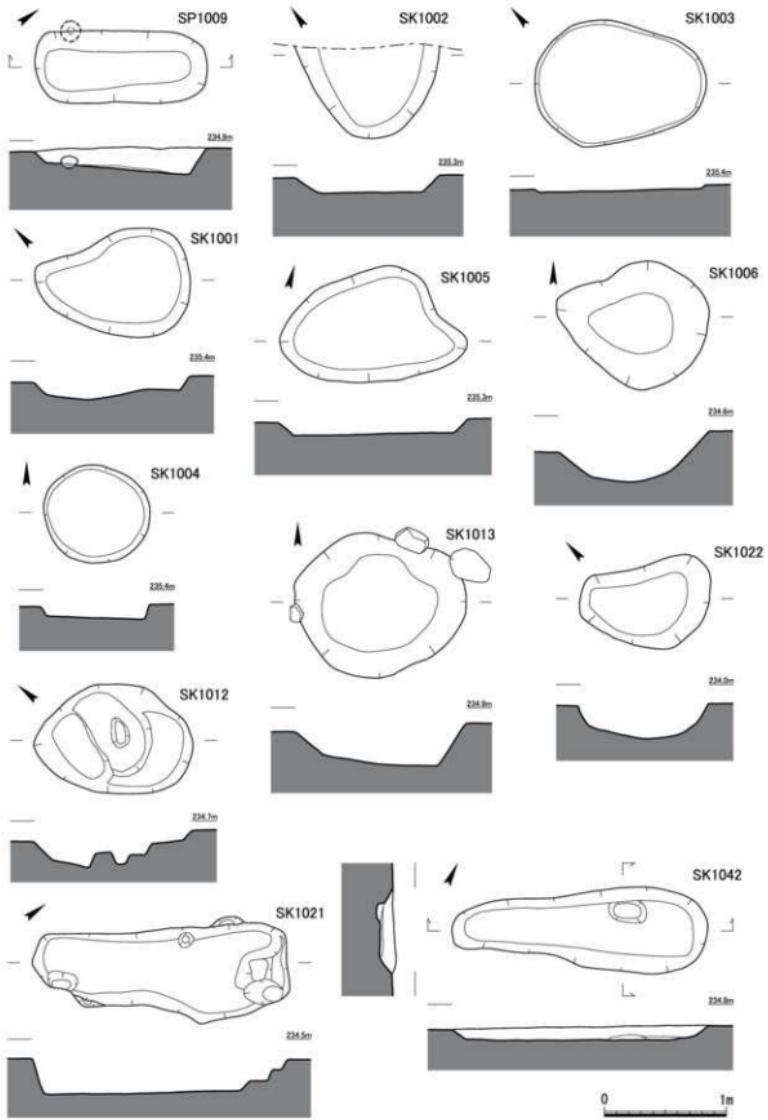


図3-64 1区中世の土坑墓・土坑1 (1/40)

SK1002 (図 3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 0.75 m 以上、短軸 1.18 m 以上、深さ 0.14 m で、平面は楕円形のようである。鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1003 (図 3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 1.41 m、短軸 1.04 m、深さ 0.04 m で、平面は卵形である。底部糸切の土師器杯が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1004 (図 3-64)

1 区北端中央部に位置し、径 0.86 ~ 0.87 m、深さ 0.39 m で、平面は円形である。土師器杯と竜泉窯系青磁碗 I 4 類が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1005 (図 3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 1.53 m、短軸 0.94 m、深さ 0.12 m で平面は不整形である。土師器鍋 II a 類、土師器杯・小皿、鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1006 (図 3-64)

1 区西北端部に位置し、長軸 1.25 m、短軸 1.04 m、深さ 0.39 m で、平面は不整な卵形である。土師器杯か小皿・鍋 II a 類と砥石が出土した。

SK1006 出土遺物 (図 3-71)

760 は砥石である。

SK1012 (図 3-64)

1 区西半部中央に位置し、長軸 1.29 m、短軸 0.90 m、深さ 0.21 m で、平面は不整な楕円形で、底面には段差や小穴がある。土師器杯と瓦器碗が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1013 (図 3-64)

1 区西半部中央に位置し、長軸 1.41 m、短軸 1.18 m、深さ 0.32 m で、平面は不整な楕円形である。遺物は出土しなかった。

SK1020 (図 3-68)

1 区南側中央に位置し、長軸 2.08 m、短軸 1.85 m、深さ 0.21 m の不整な楕円形である。SA1039 と重複し、これより古である。埋土中から種実遺体がまとまって出土したが人工遺物は出土しなかった。

SK1021 (図 3-64)

1 区南側中央に位置し、長軸 2.09 m、短軸 0.78 m、深さ 0.29 m の細長い土坑である。土師器杯と鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1022 (図 3-64)

1 区中央部南側の西端に位置し、長軸 1.06 m、短軸 0.72 m、深さ 0.28 m で平面は不整な卵形である。土師器

小皿が出土したが、小片であり図示していない。

SX1042（図3-64）

1区西半部北側に位置し、長軸2.09m、短軸0.71m、深さ0.11mで、主軸をN64°Eにとる。底面が平坦で細長い土坑である。その形状と東側にSP1009が近接することから概要報告時に土坑墓とされているが、遺物は出土しておらず、棺の痕跡等といった土層の特殊所見もないため、可能性の域を出ない。

竪穴遺構（図3-65～67）

梢円形ないし隅丸長方形基調の大型土坑で底面が平坦な6基を竪穴遺構として報告する。1区の西半部中央から南側に分布し、掘立柱建物よりやや南側に中心がある。小穴を伴うSX1017・1018は、竪穴建物の可能性があるものの、やや規格性に乏しく確証がない。SX1010・1011・1016・1019の底面には大小の礫が集積されており、SX1011では2段に積んだ状況が明確に観察された。これらの竪穴遺構が全て同類のものであるかを含め、その性格・用途・機能については特定できていない。

SX1010（図3-65）

1区西半部中央に位置し、長軸4.01m、短軸2.49m、深さ0.27mで平面は不整な長梢円形である。底面は平坦で、中央部を中心に大小の礫が集積されている。礫は被熱による黒化・赤化の認められるものもあるが、炉のような顕著な焼成面は確認されていない。土師器杯・小皿、瓦器碗、褐釉系陶器有耳壺、同安窯系青磁碗、滑石が出土したが、小片であり図示していない。

SX1011（図3-65）

1区西半部中央南寄りに位置し、長軸3.40m、短軸3.06m、深さ0.19mで、平面は不整な長梢円形である。底面中央部を中心に大小の礫が集積され、東側の壁際には礫を2段に積んでいる。礫は被熱による黒化・赤化の認められるものがあり、底面中央部に炭化物を含む赤褐色砂質土が堆積していたが、炉のような顕著な焼成面は確認されていない。底面には小穴が數基あるが、柱のような規則的な配置ではない。土師器杯・小皿、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗IIb類・小碗I類、鉄滓が出土した。

SX1011出土遺物（図3-71）

761は底面から出土した土師器小皿で、底部糸切である。762は竜泉窯系青磁小碗I類で、口縁は輪花とする。

SX1016（図3-66）

1区南端中央部に位置し、短軸3.83m、短軸3.04m、深さ0.19mで、平面は隅丸長方形である。SX1017・SX1018と重複し、これより新である。北側の底面が一段高くなっており、そこから下がった中央部付近に礫が集中する。埋土はにぶい黄褐色砂質土で、焼土・炭化物粒を多く含んでいた。土師器杯・鍋II類、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢・甕、竜泉窯系青磁碗I類、同安窯系青磁碗、白磁碗、褐釉系陶器瓶が出土した。

SX1016出土遺物（図3-71）

765は東播系の須恵器系陶器捏鉢の底部である。

SX1017（図3-67）

1区南端中央部に位置し、長軸3.11m、短軸2.70m、深さ0.25mで、平面は隅丸長方形である。SX1016と一部重複し、これより古である。埋土は暗灰黄色砂質土で、炭化物・焼土粒を多量に含んでいた。また南側が部分

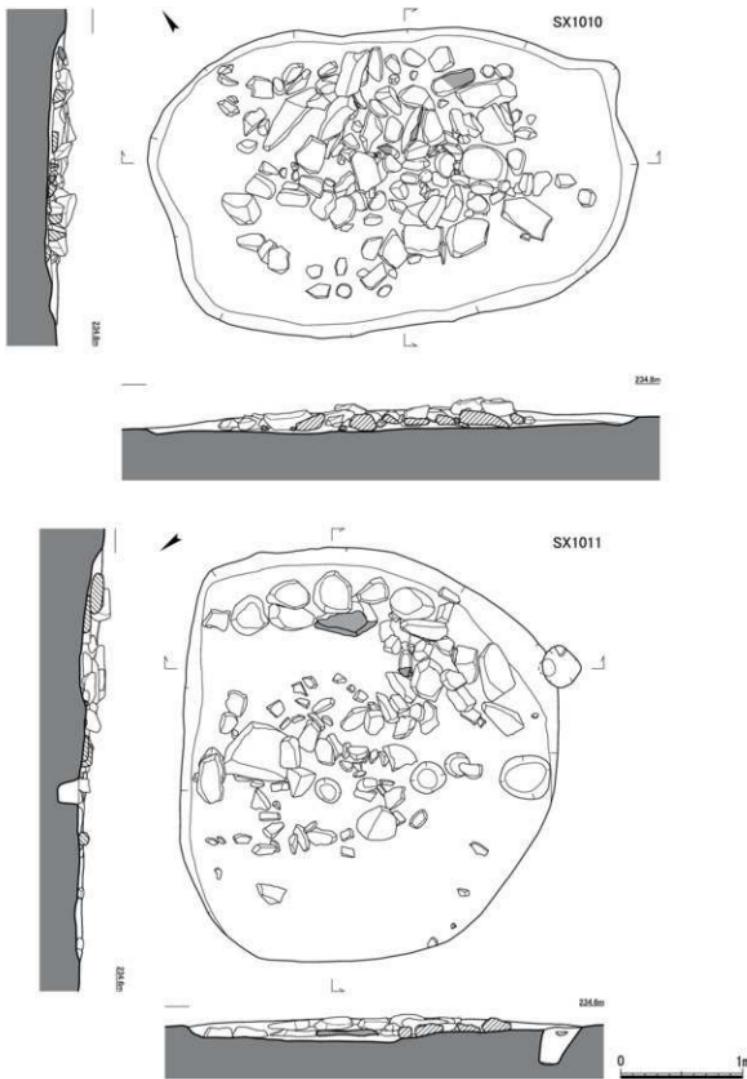


図3-65 1区中世の整穴遺構1 (1/40)

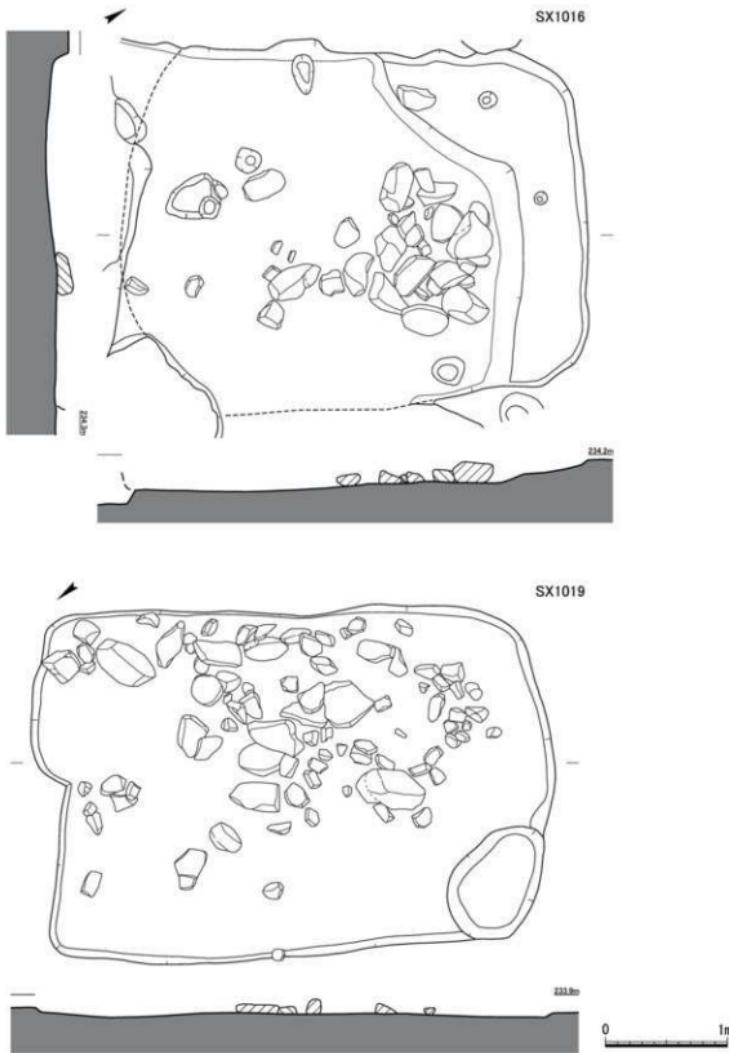


図3-66 1区中世の竪穴遺構2 (1/40)

的に焼けていたとされる。四隅に小穴があり、竪穴建物の可能性がある。土師器杯・小皿、須恵器系陶器捏鉢、同安窯系青磁皿、滑石製石鍋が破片で出土した。

SX1016・SX1017 出土遺物（図3-71）

766は土師器杯の底部で、SX1016とSX1017から出土した破片が接合した。

SX1018（図3-67）

1区南端中央部に位置し、長軸3.17m、短軸2.71m、深さ0.23mで、平面は隅丸長方形である。SX1016と一部重複し、これより古である。埋土は黄褐色砂質土で、炭化物を含んでいた。底面に小穴があり、竪穴建物の可能性がある。土師器杯、東播系須恵器捏鉢、同安窯系青磁、滑石製石鍋が破片で出土した。

SX1018内小穴出土遺物（図3-73）

814はSX1018内で検出したP1201から出土した滑石製石鍋で、SX1018に伴う遺物の可能性がある。

SX1019（図3-66）

1区南西端に位置し、長軸4.26m、短軸2.88m、深さ0.08mで、平面長方形である。底面に大小の礫が集積される。遺物は土師器杯・小皿・鍋IIa・IIb類、瓦器碗・鍋・捏鉢、竜泉窯系青磁碗IないしII類、須恵器系陶器捏鉢、滑石製石鍋、鉄滓が出土した。

SX1019出土遺物（図3-71）

767は瓦器鍋と考えられるものである。在地系の通有のものとは異質であり、搬入品の可能性も考えたが類例がない。器壁は非常に厚く、手取りも重い。口縁下に断面三角形・台形のおおぶりの突帯を貼り付け、器面内外をヘラミガキする。外面には煤が付着するうえ体部下半に被熱による剥落・変色が観察されることから鍋として用いられたものと考えられる。煮炊具でこのように器面内外をヘラミガキする在地系土器はないが、全体の形状や質感までもが滑石製石鍋に似ており、おそらく石鍋の模倣品であろう。768は土師器鍋IIb類、769は瓦器捏鉢の口縁部である。

その他の遺構（図3-68～70）

SX1007（図3-68）

1区北西端に位置し、長軸3.35m、短軸1.28m、深さ0.04mの浅く不整形な遺構である。同安窯系青磁碗と鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SX1014（図3-68）

1区東半部中央の南寄りに位置し、長軸2.06m以上、短軸1.28m、深さ0.41mの不整形な遺構である。遺物は出土しなかった。

SX1015（図3-68）

1区南側西端部に位置し、長軸3.54m、短軸2.19m、深さ0.12mの不整形な遺構である。土師器杯・鍋IIIa類、瓦器茶釜、竜泉窯系青磁碗I・IIb c類、鉄滓が出土した。

SX1015出土遺物（図3-71）

763は土師器杯の底部である。内面に螺旋状の沈線を施す。

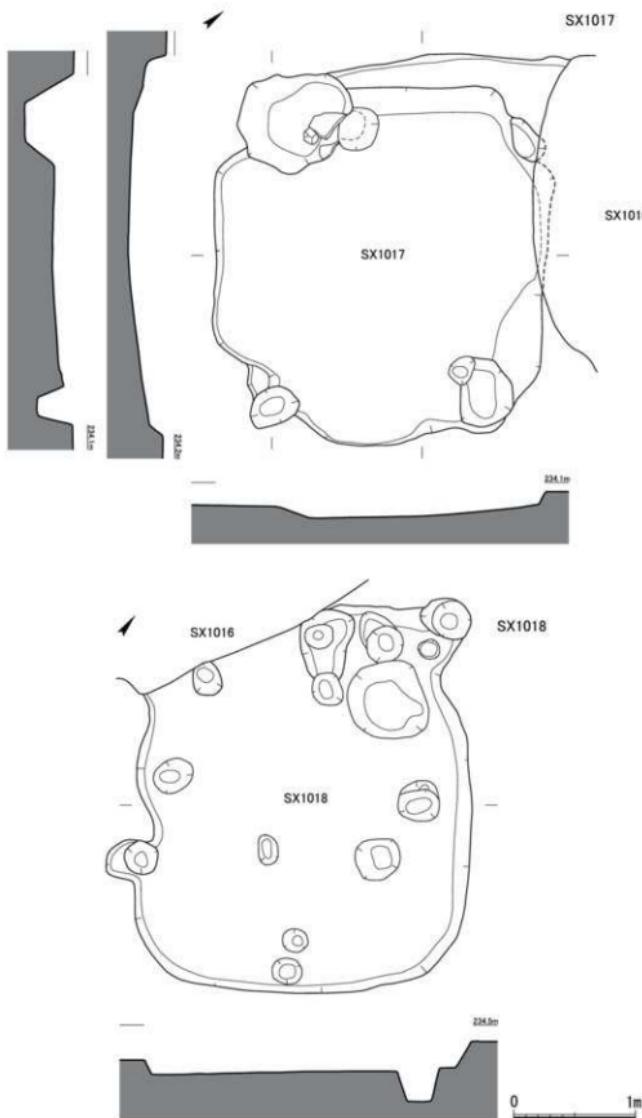


図3-67 1区中世の竪穴遺構3 (1/40)

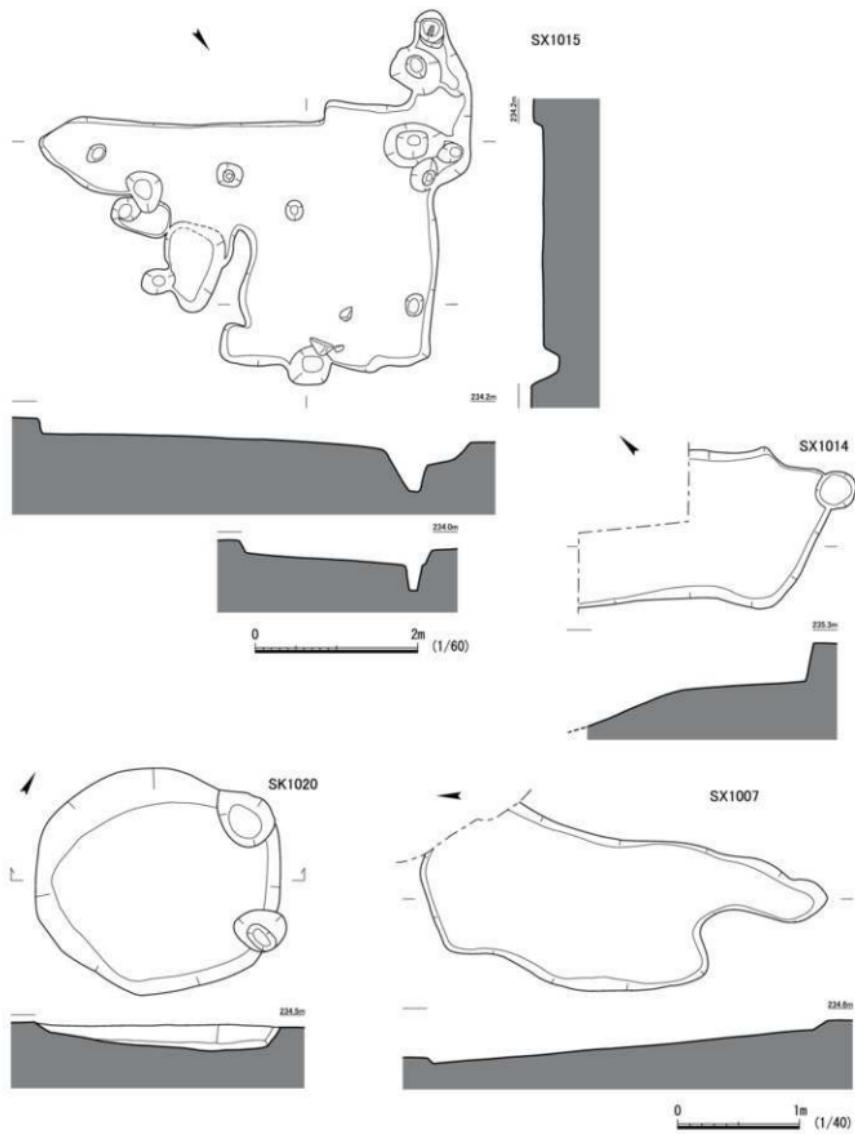


図3-68 1区中世の土坑2・不明遺構 (1/60、1/40)

SD1045（図3-69）

1区北西端に位置し、延長7.4m以上、幅1.3m、深さ0.3mの南西—北東方向の溝である。

SD1045出土遺物（図3-71）

770は竜泉窯系青磁碗1類、771は東播系須恵器系陶器捏鉢の底部である。

SX1008・SX1043・SX1044（図3-69・70）

1区の西辺を区切る一連の段落ちで、北側からSX1008・SX1043・SX1044とした。西側に向かって段をなす斜面から落ち際にかけて大小の礫が集積されており、特にSX1044の中央部分には石垣状のしっかりした石積みがなされている。礫の集積や石積みは法面の崩壊防止を意図して築かれたものと考えられ、護岸状遺構と報告する。この護岸状遺構が造られた時期は、出土遺物から見る限り近世初期頃であり、畠か水田に伴って造成されたものと考えられるが、これより西側にあたる3B区の調査所見では、嘉瀬川の氾濫によると思われる砂層が厚く堆積し、集落関連の遺構が確認されていないことから、中世集落の西限もおおよそこの位置に相当すると考えられる。

埋土中からは土師器皿・小皿・搗鉢・茶釜、瓦器碗・鍋・搗鉢・茶釜・火鉢・須恵器系陶器捏鉢、竜泉窯系青磁碗I 4類・II a類・II b c類、同安窯系青磁碗、白磁碗IV類、肥前陶器皿・火入、漳州窯系青花盤、黄釉陶器盤、铁滓が出土した。中世前期から近世初期までのもので、量はさほど多くない。

小穴出土遺物（図3-73）

図3-73には各小穴から出土した主な遺物を図示した。いずれの小穴から出土したかは図中と表に記載している。

803～805は土師器小皿、806～809は土師器杯で、確認できるものは全て底部糸切である。

810は瓦器碗である。内外面のヘラミガキは簡略化が進み、外面体部下半には糸切痕が観察される。高台はやや難に貼り付けられ、中心軸から少しづれている。

811は東播系須恵器捏鉢の底部である。812・813は土師器鍋で徳永II b類、814は滑石製石鍋である。815～821は中国白磁、822～824は中国青磁である。815は白磁皿VII類で、内面に刻文花を施す。816～818は口禿の白磁皿IX類、819は白磁碗V～VII類、820は白磁碗VII類と思われる。821は内底環状釉剥ぎの白磁碗VII類である。822は櫛描文を施す青磁碗で、釉の発色や文様全体の印象は同安窯系と同じであるが、内面胴部上半に施された櫛描圖線は一般的な同安窯系青磁碗には見られないものであり、竜泉・同安窯系O類としておきたい。823は竜泉窯系碗I 2類、824は竜泉窯系碗II b c類である。

825は滑石製石鍋再加工品で、鉢状の突起を持つパン状製品である。826は砥石である。

827～829はP1306から3枚まとめて出土した銅鏡である。827は真書の天聖元寶で、銭径2.24～2.33cm、内径2.01～2.02cm、錢厚0.17cm、量目2.8g。828は篆書の元豐通寶で、銭径2.51～2.52cm、内径2.05～2.13cm、錢厚0.15cm、量目2.9g。829は行書の元□通寶（元豐通寶か）で、銭径2.44～2.45cm、内径1.94～1.95cm、錢厚0.15cm、量目1.3g+a。P1306周辺では掘立柱建物が確認されていないが、地鎮め等の祭祀行為に伴うものへの可能性がある。

遺構に伴わない遺物（図3-74～77）

830～835は土師器小皿、836～846は土師器杯で、確認できるものは全て底部糸切である。830～834の小皿は口径に対して器高が小さく扁平な印象が強いが、835の小皿は口径が小さく器高が大きい。杯では口径の大きい836、口径がやや小さく体部が直線的に立ち上がる837～840、底径が小さく器高が大きい845・846などがあり、時期差を示すものと見られる。

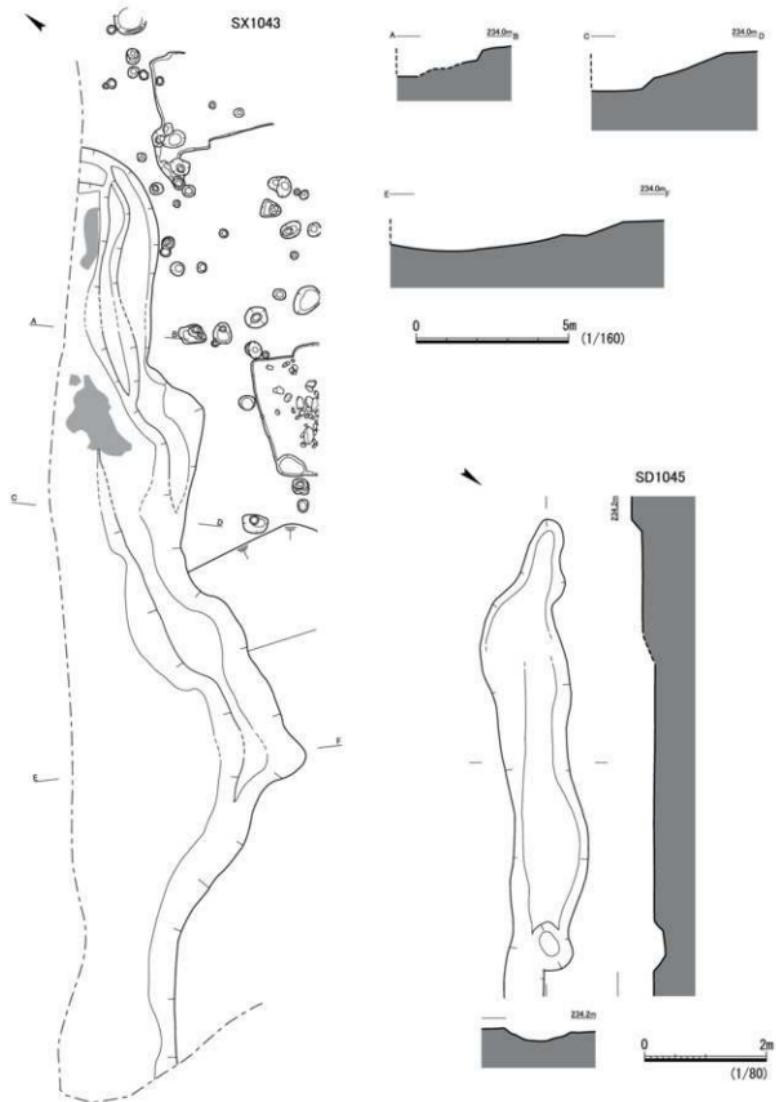


図3-69 1区中世の溝・近世の護岸状遺構1 (1/160、1/80)

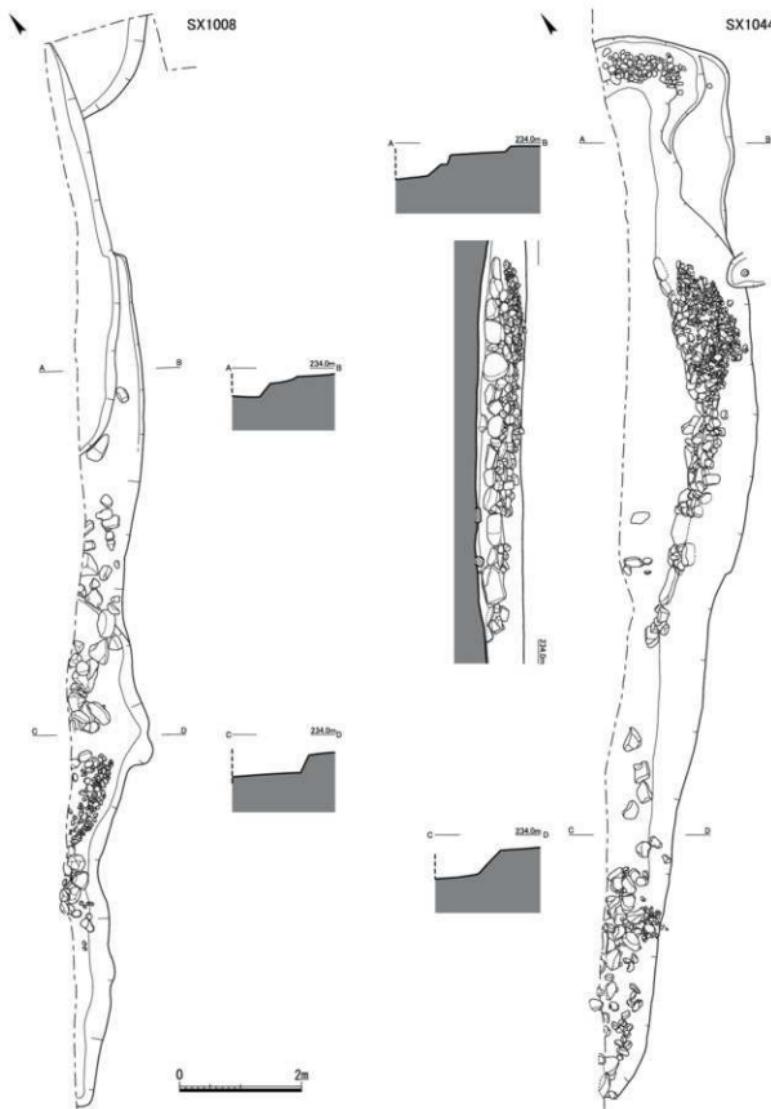


図3-70 1区近世の護岸状遺構 2 (1/80)

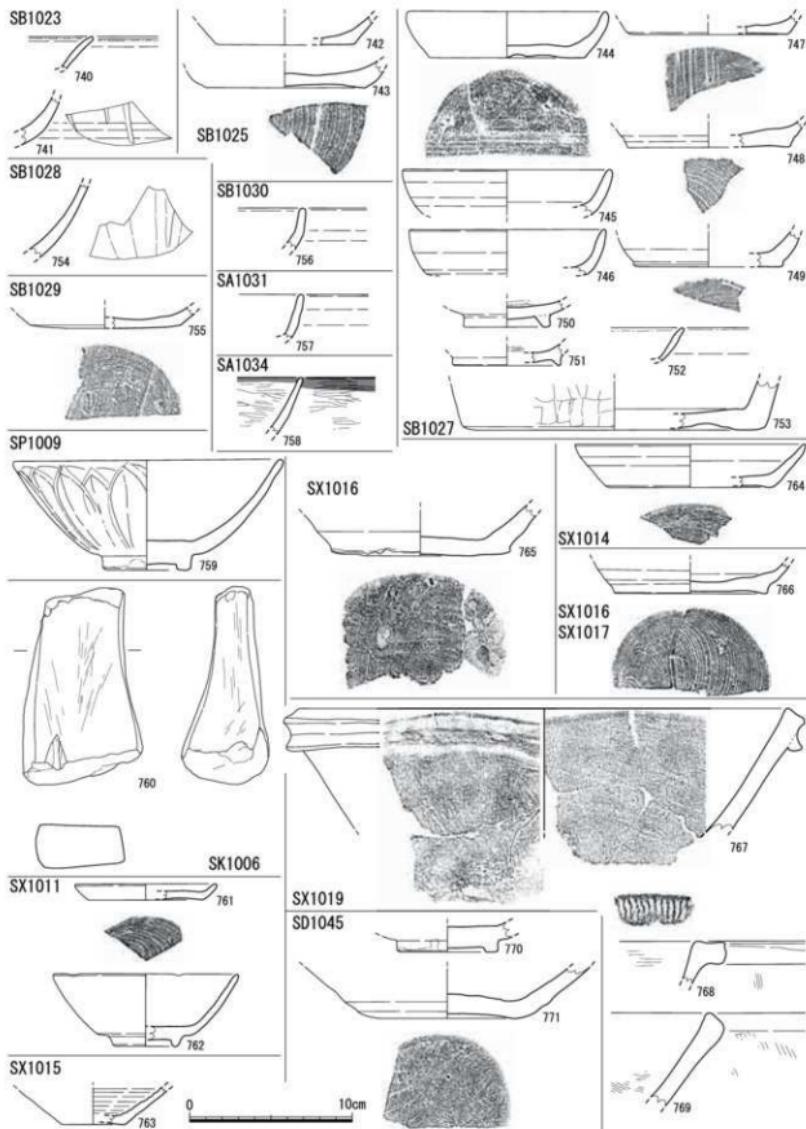
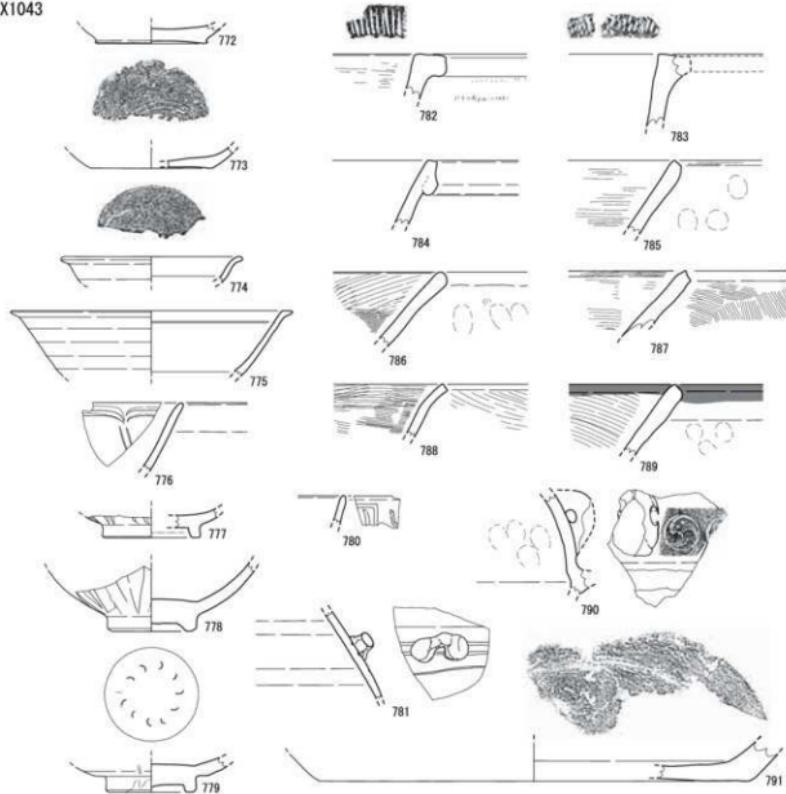
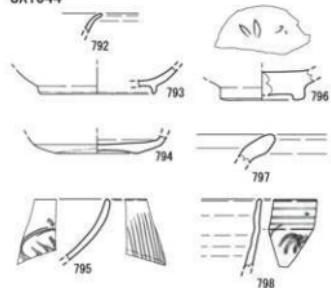


図3-71 1区中世～近世の遺物 遺構出土 1 (1/3)

SX1043



SX1044



SX1008

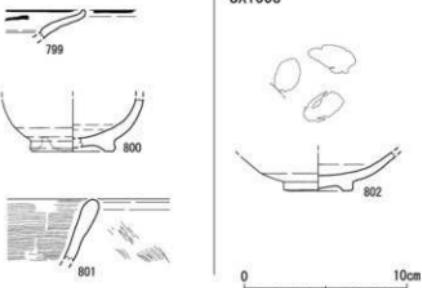


図3-72 1区中世～近世の遺物 遺構出土2 (1/3)

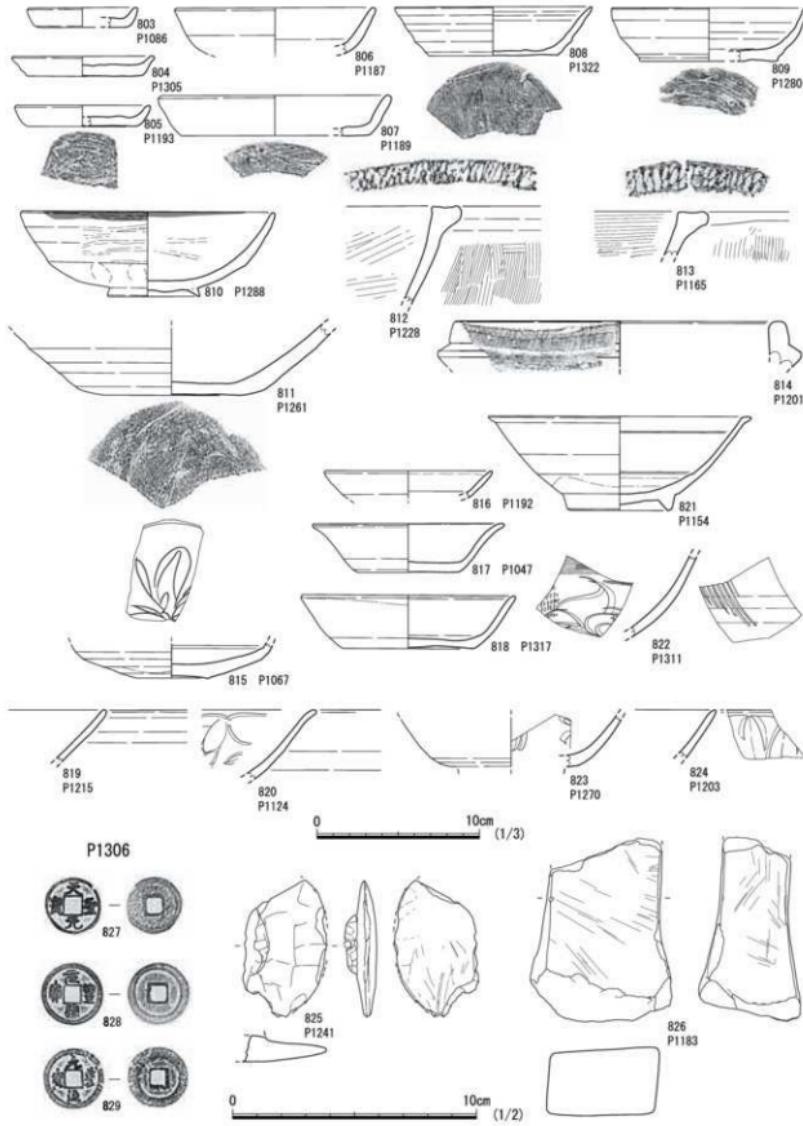


図3-73 1区中世～近世の遺物 遺構出土3 (1/3、1/2)

847～852は瓦器碗である。847は口縁部内外に重ね焼による異色部があり、849は内面にコテ当て痕を留める等、いずれも通有のものである。

853～857は中国白磁皿、858～865は中国白磁碗である。853は無高台の白磁皿、854・855は口禿の白磁皿IX類、856は森田D群の陶胎の皿、857は16世紀代の森田E群の端反皿である。858は玉縁口縁の碗IV類、859・860は碗V～VI類の口縁部、861・865は碗VI類、862～864は口禿の碗IX類である。

866は型作りの白磁合子身、867は型作りの白磁小壺である。

868は福建省産の薄胎褐釉陶器（田中2001）とされる小壺である。

869～871は同安窯系青磁皿、872は竜泉窯系青磁で大振りの皿である。873～877は同安窯系青磁碗、878～882は竜泉窯系青磁碗I類で、878・879はI 2類、880・881はI 4類である。883～890は竜泉窯系青磁碗II類で、890がII a類、883～889が鍋蓮弁文のII b c類である。

891は高麗の青磁碗と思われる。892は15～16世紀代の朝鮮灰青沙器皿で、内底と高台費付に砂目が残る。

893は漳州窯系青花碗である。陶胎で呉須もにじんでいる。

894～898は須恵器系陶器の捏鉢で、いずれも東播諸窯の製品と考えられるが、型式にはやや幅がある。

899～901は在地系土器捏鉢、902是在地系土器擂鉢である。

903・904は中国南部あたりの產と思われる陶器である。903は黒褐釉の壺かと思われる底部で、外面底部近くに目跡がある。904は壺かと思われる底部で、遺存部分には釉がかかっていない。外底は無調整である。

905は須恵器系陶器の壺で、器壁を非常に薄く作っている。焼成はやや軟質である。

906～909は土師器鍋II b類で、特徴の判る口縁部を図示した。

910は浅い器形の瓦器鍋で、口縁部内面に×形をヘラで刻む。

911～920は滑石製石鍋で、確認できるものは鍔をめぐらせる形態のものに限られる。

921・922は滑石製石鍋の再加工品で、921は底部破片を再加工途中のものである。

923は中央部がやや膨らむ円柱状に近い土鍤である。

924・925は砥石である。

926～945は近世の陶磁器で、中世遺構面より上位の堆積土や撲乱部から出土したものである。926や933のような初期伊万里もあるが、全体に18～19世紀のものが多い。上記した中世後期の遺物と共に、1区の屋敷地が廃絶した後の資料である。

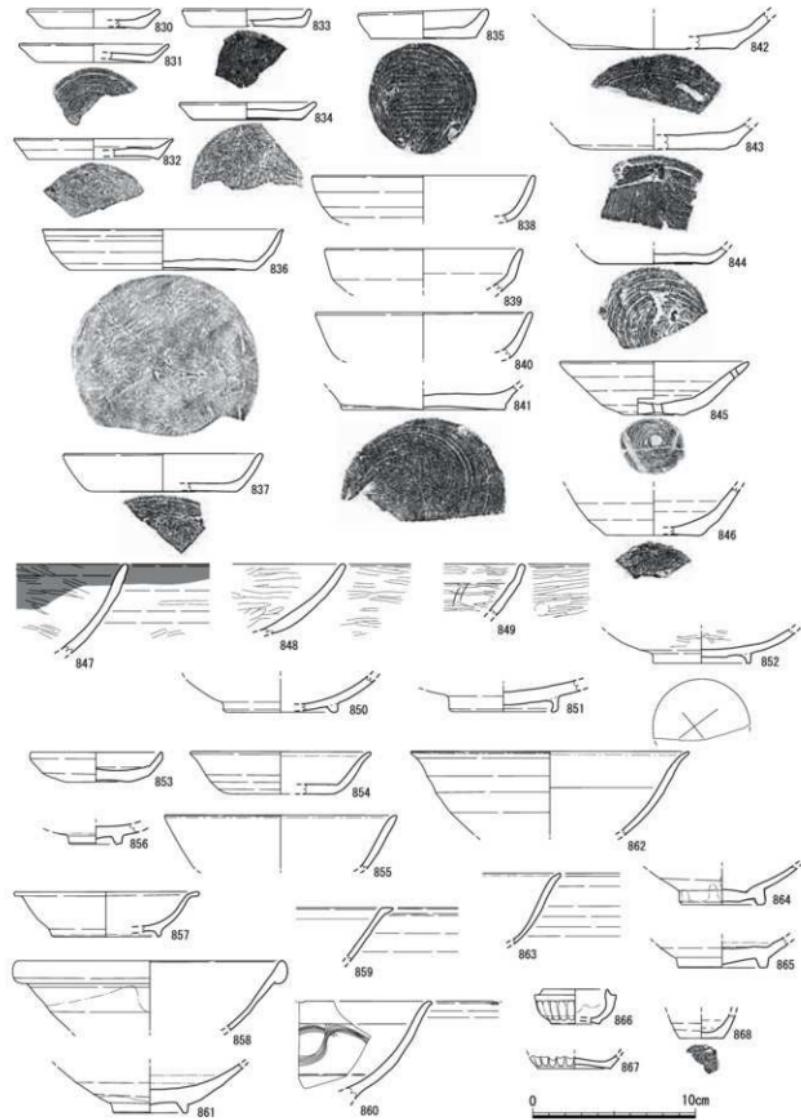


図3-74 1区中世～近世の遺物 遺構外出土 1 (1/3)

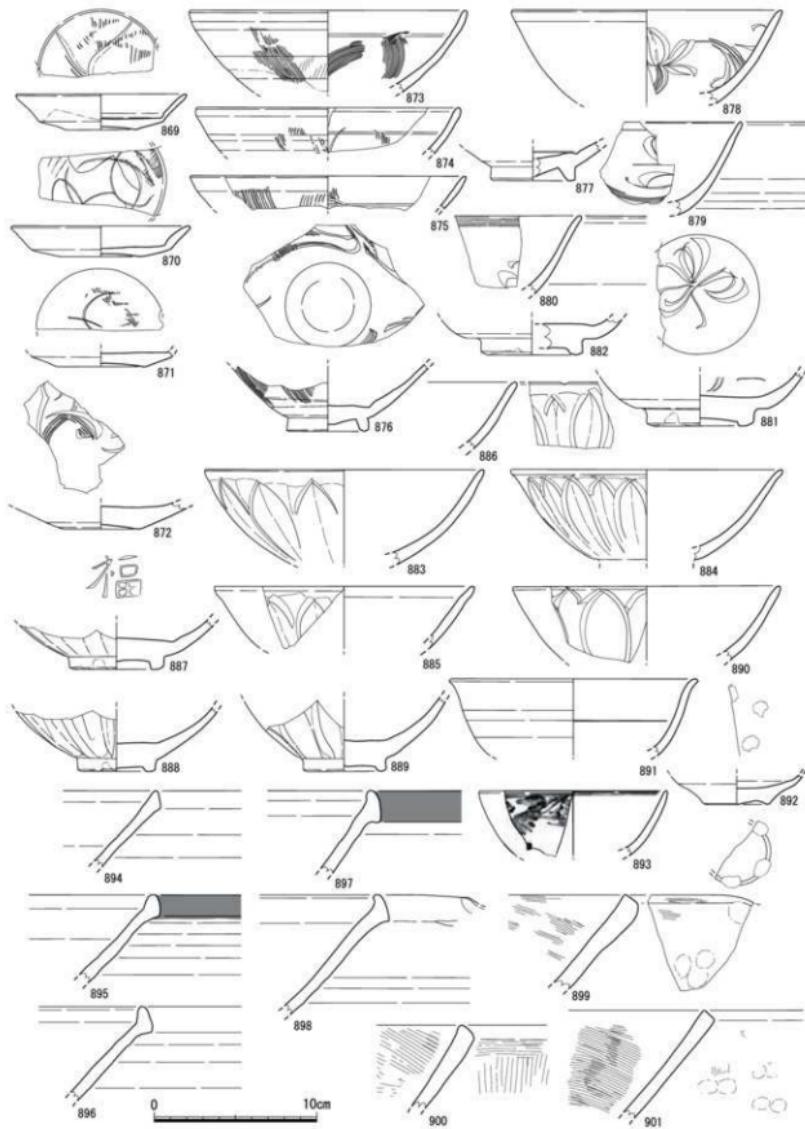


図3-75 1区中世～近世の遺物 遺構外出土2 (1/3)

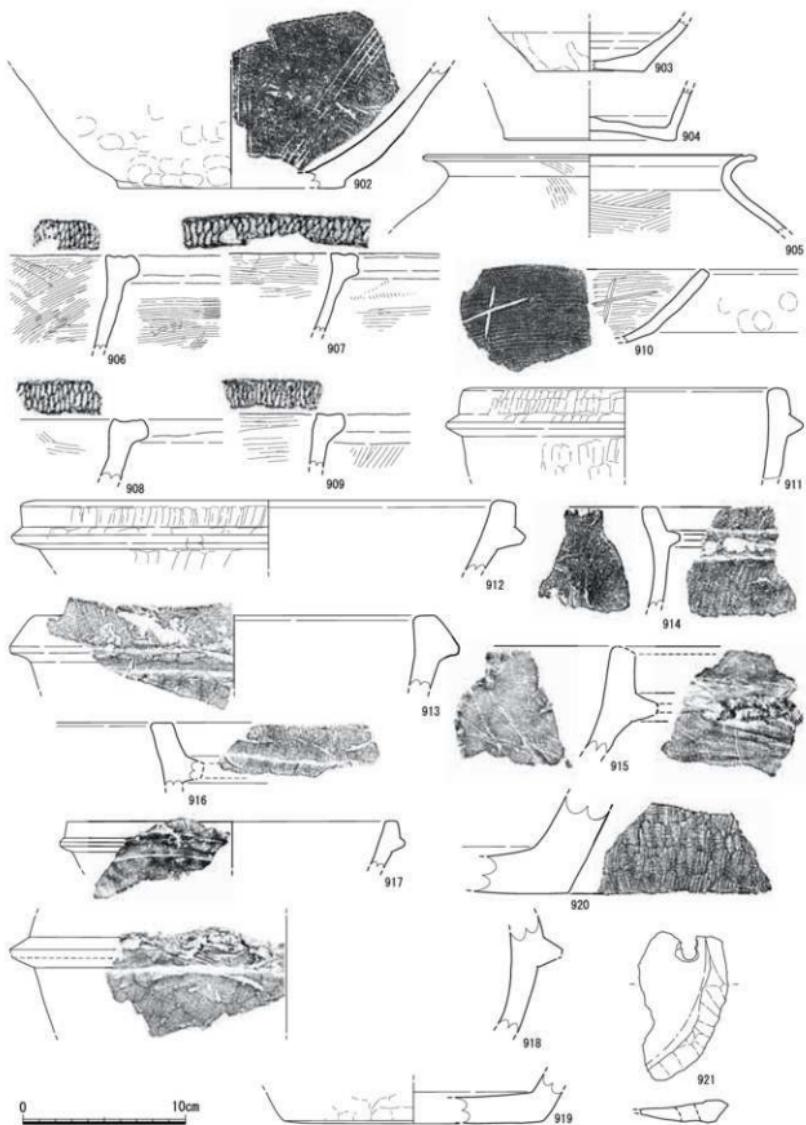


図3-76 1区中世～近世の遺物 遺構出土3 (1/3)

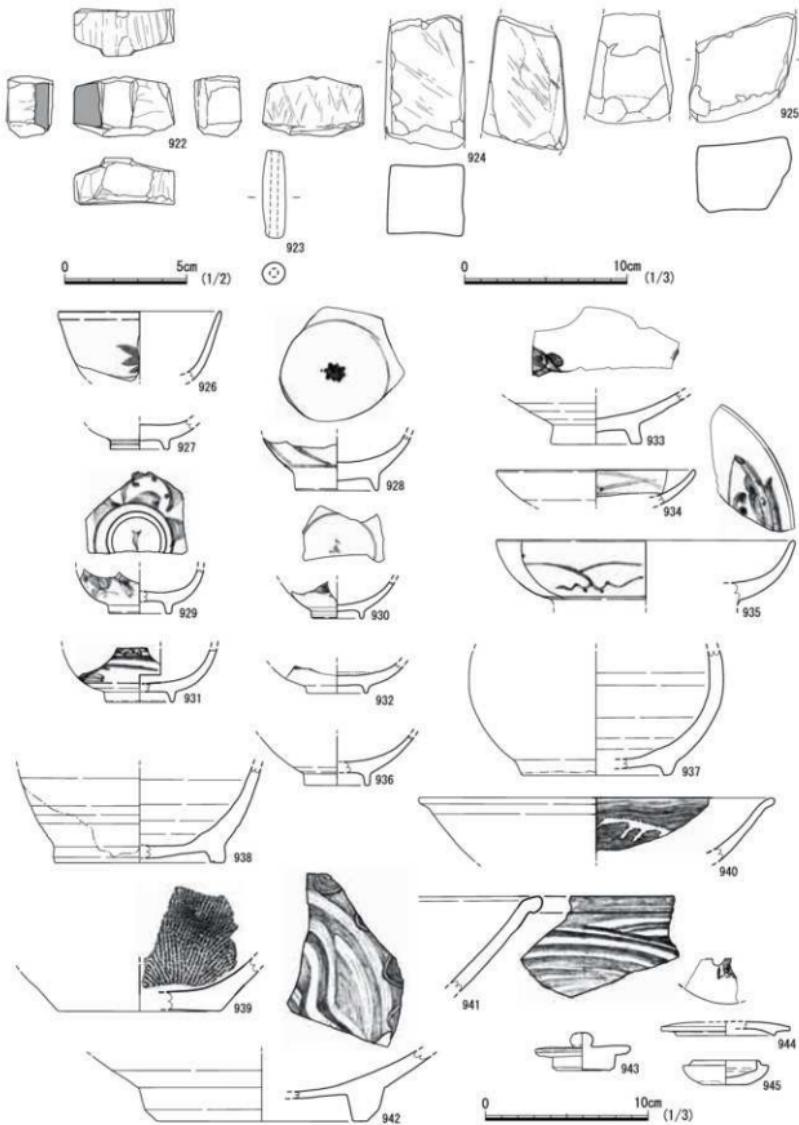


図3-77 1区中世～近世の遺物 通横外出土4 (1/2, 1/3)

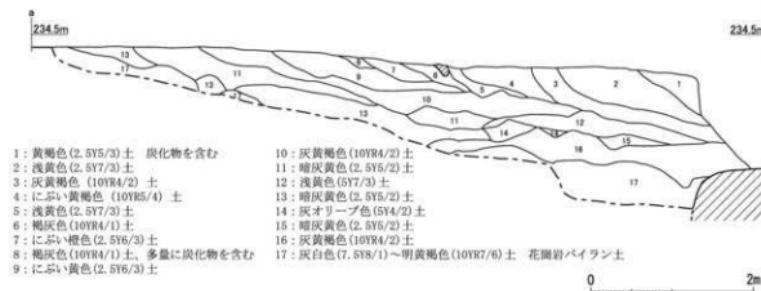


図3-78 3区八龍社跡の整地層 (1/60)

2) 3区八龍社跡の遺構と遺物

八龍社跡としたのは、東畠瀬遺跡3A区南東端の山際に造成された長さ約25m、幅8~11mの狭小な平坦面で、北東側に東畠瀬集落からの小路が取り付いている（図3-53）。この平坦面は斜面を切り盛りして造成したようである（図3-78）。明確な遺構として検出できたのは、南側中央の掘立柱建物1棟に留まる。

この平坦地上と斜面の堆積土中からは中世前期から近世までの遺物が出土したが、主体を成すのは土師器杯・小皿である。これらの土師器杯・小皿は、中世前期から近世までの長期間にわたるもので、完形に近い個体も多く、中世後期から近世初期と見られる資料の量がもっとも多い。土師器杯・小皿以外では、17世紀中頃以降の近世陶磁がやまとまってある他、中世後期から近世初期の瓦器鍋・火鉢・茶釜、近世の土師器焼烙や瓦器風炉・火入等が出土しているが、17世紀前半以前の陶磁器はほとんど無く、通常の集落遺跡と比較すると組成が著しく偏っている。

掘立柱建物SB3001（図3-79）

八龍社跡で唯一確認された建物で、主軸をN20°Eにとる掘立柱建物である。梁行1間（3.1~3.3m）×桁行3間（5.9m）の南北棟で、床面積は直々で18.9m²である。梁行柱間は3.1~3.3m、桁行柱間は1.7~2.1mで、東辺の柱筋は2ほど主軸とずれている。建物を構成する柱穴は独立するものもあるが、各々が浅い掘り込みで繋がる布掘のような構造となっている。また、中央には主軸方向に浅く細長い溝状の掘りこみがあって北側は建物の外に伸びており、排水を意図したものかもしれない。東側と南側はすぐ山際となっており、建物の正面は東畠瀬集落からの小路（参道か）に向いていたと考えるのが素直である。柱穴からは遺物が出土しておらず、建物の時期が周辺から出土した遺物の時間幅のどこにあたるのかは特定できない。

八龍社跡の出土遺物（図3-80~3-82）

946~1026（図3-80）は、土師器杯・小皿で、大部分は八龍社跡南西端部の斜面に堆積した土層から出土したものである。全形を復元できるものを中心図示したが、他にも多くの個体が出土していて、八龍社跡の特徴と言える。中世前期から近世までのかなり時間幅のある資料であるが、層位的に新旧関係を確認できるような状態では出土していないため、遺物そのものの特徴をもって分類・記述する。底部の切り離しは原則として回転糸切りで、回転窓切りを施すものは1例もない。974のみは、静止糸切りが確認できるが、偶発的な資料と考えられる。

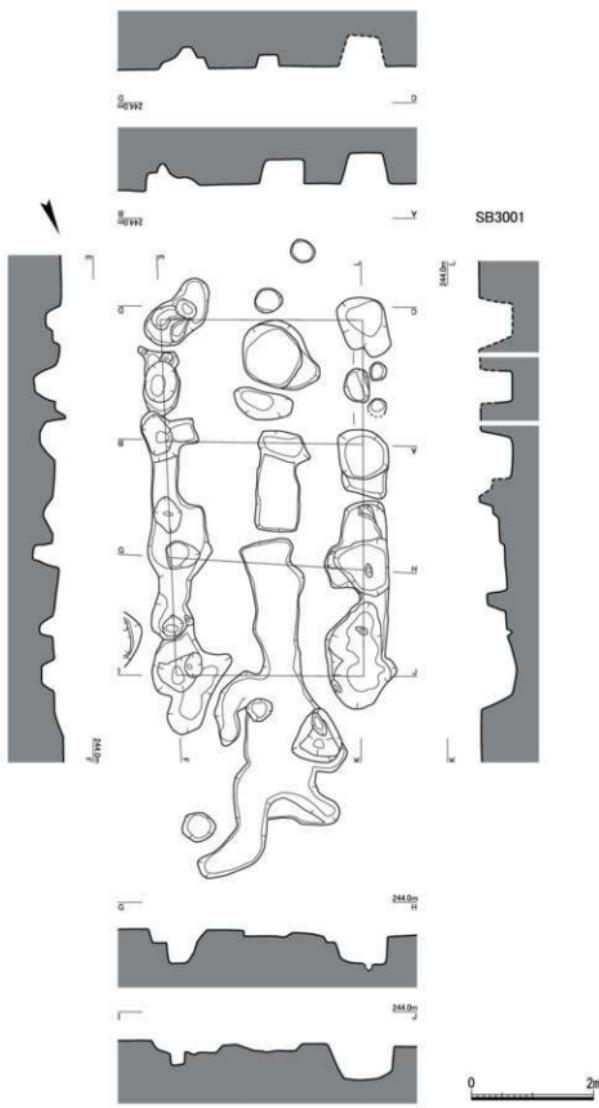


図3-79 3区八龍社跡の掘立柱建物 (1/80)

946～972は小皿と分類したものである。946は中世前期に遡る資料で、口径が大きく器高は小さい。底部糸切で板状圧痕を留める。947～953は中世後期～近世初期と思われる器高が大きい資料で、形態の違いから947・948、949・950、951～953の3群に分けられる。957・958は非常に小型で器壁の厚い一群で、近世のものと思われる。959～972は扁平で器壁が薄い17世紀後半以降と思われるもので、油煤の付いた灯明皿として用いられたものが多い。

973～1026は杯と分類したものである。973～980は中世前期の資料で、973～977が平安末期～鎌倉前期、978～980が鎌倉後期頃であろう。981～1022は中世後期～近世初期と思われる資料で、981～997は南北朝期～室町期、998～1022は戦国期～江戸初期と推定する。998～1007は戦国期の特徴ある一群で、内底に螺旋状沈線を施すものである。同様な資料は佐賀平野を中心に分布する。1023～1026は近世の資料で、1023～1025は杯というよりも皿に近い扁平な形態である。1026は底部切り離しの後にヘラ削りによる調整を施したものである。

1027～1062(図3-81・82)は近世陶磁で、17世紀中頃～19世紀後半のものであるが、17世紀前半以前の資料を欠く。1027～1052は肥前磁器、1053～1062は陶器で、福岡陶器の可能性がある1057を除き肥前陶器である。

1027は白磁杯、1028は粗製の染付小碗、1029は染付仏壇具である。1030～1038は体部が半球形をなす染付丸形碗である。1036～1038は外面二重網目文で、1036・1037が内面一重網目文、1038が内面無文で新相を示す。1039～1041は広東形碗で、1042～1044は小広東形碗である。1045～1048は19世紀前半～幕末頃の丸形碗・端反形碗である。1049・1050は見込み蛇の目釉剥ぎの皿で、波佐見系の粗製染付である。1051～1052は仏花瓶と考えられる染付瓶で、1051は尊形、1052は頸部に耳が付き口縁部がラッパ状に開くものである。1053～1056は灯火具で、皿形のものと受け皿と一緒にものがある。1057は黄色味の強い明るい鉄釉を施し、口縁部の一部を窪ませたところに褐色系の鉄釉を重ねた碗で、福岡陶器の可能性がある。1058～1059は呂器手の碗で、1058は底部外面から高台内に鉄錆を塗る。1060は刷毛目手の火入(線香立)、1061は土瓶の蓋、1062は鉄絵を施す土瓶である。

1063～1075は瓦器・土師器の中大型品で、中世後期～近世初期のものと近世のものとがある。

1063～1065は中世後期～近世初期の鍋で、1063・1064は鍋IVa類、1065は鍋V類である。1066～1068は近世の熔炉で、1068は取手部分の破片である。1069～1070は中世後期～近世初期の茶釜、1071～1072は中世後期～近世初期の火鉢で、1071は浅鉢形、1072は深鉢形である。1073は近世の風炉かと思われる資料で、体部と高台は破片が直接接合せず図上で復元している。外面口縁下に原体を回転させた印刻文がある。1074・1075は近世の線香立ての類かと思われる箱形製品である。

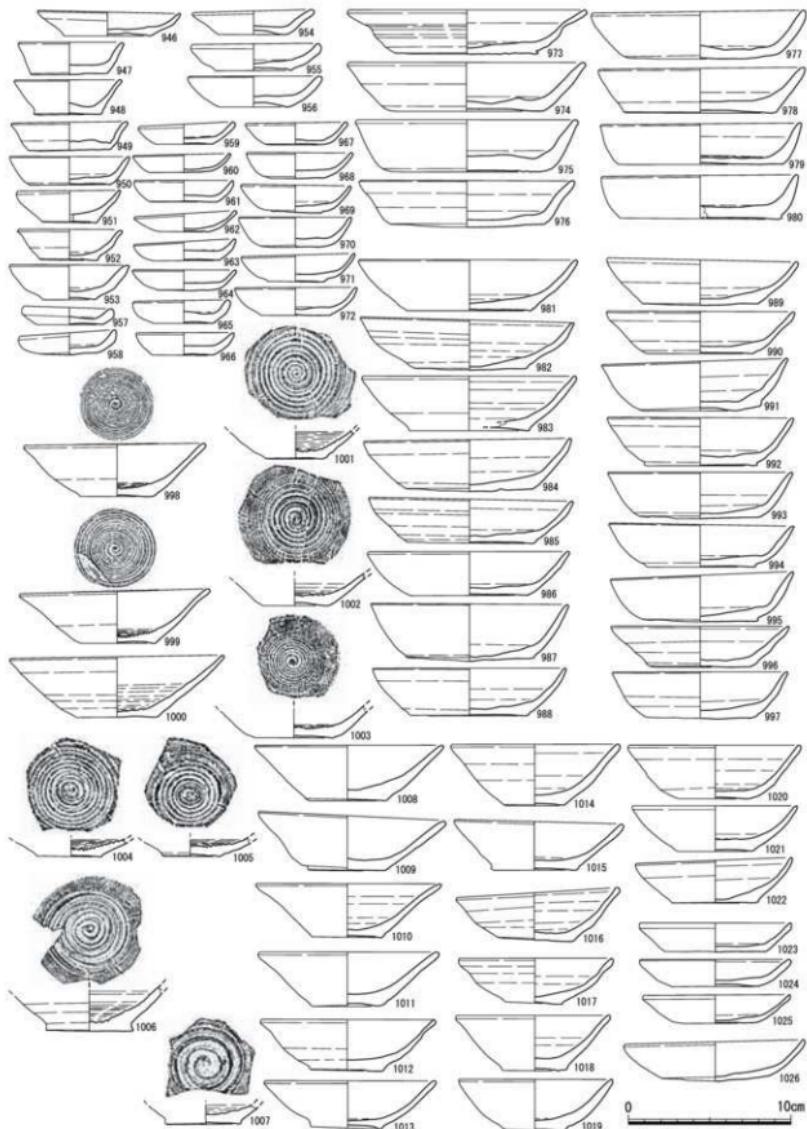


図3-80 3区八龍社跡の出土遺物1 (1/3)

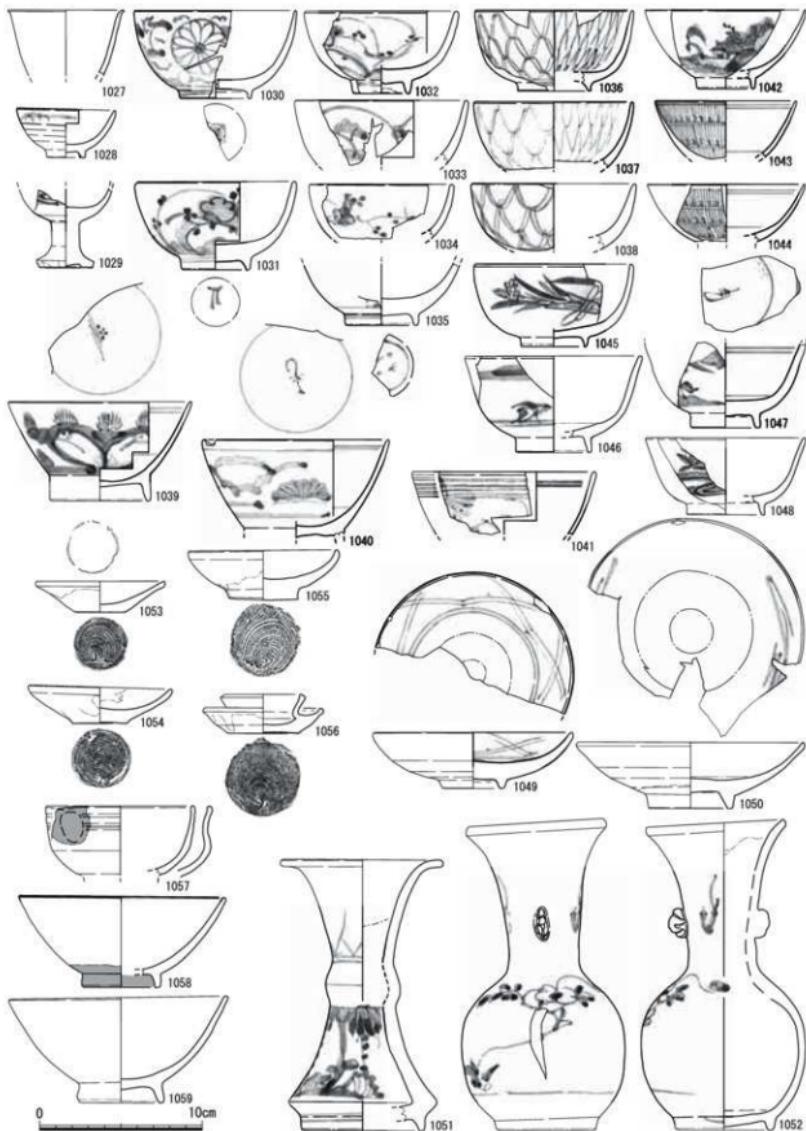


図3-81 3区八龍社跡の出土遺物2 (1/3)

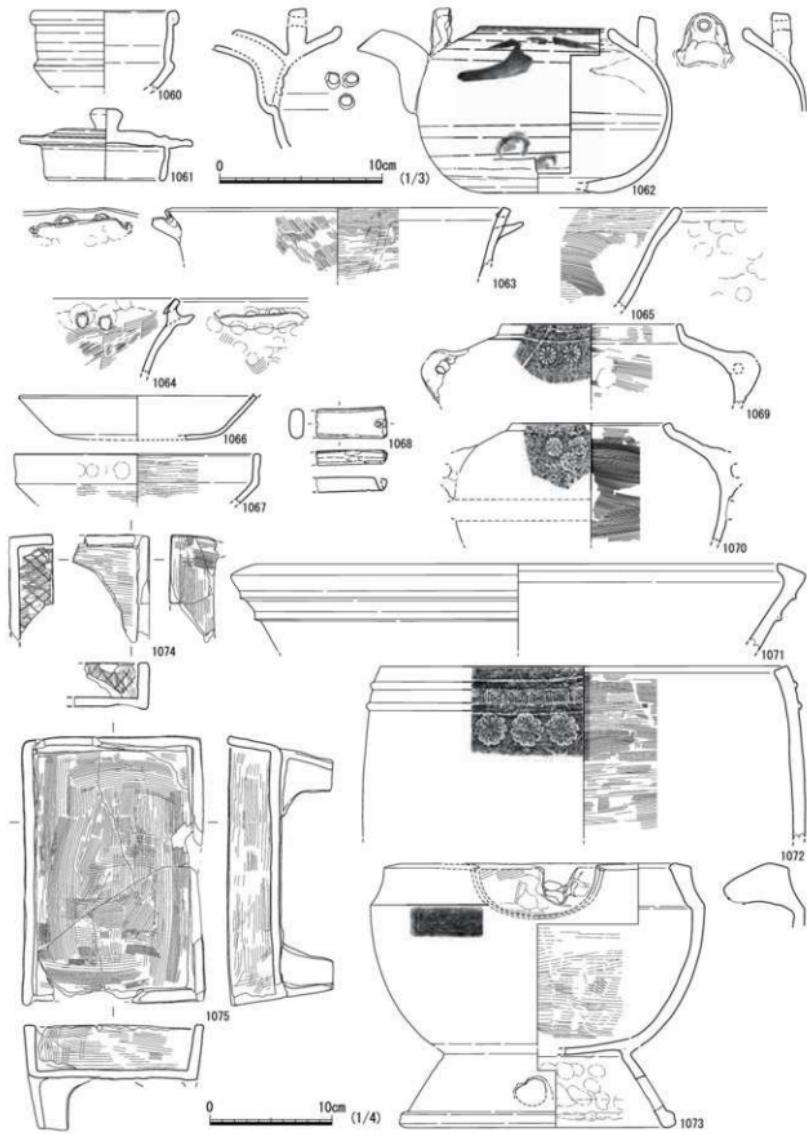


図3-82 3区八幡社跡の出土遺物3 (1/3, 1/4)

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

査定・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			L径	底径	高さ			
3-71-740 05002359	SB1023 PK	白磁 皿	-	-	-	釉調：明暦灰 胎土：灰白	仄頬	3-26 20070998
3-71-741 05002358	SB1023 PK	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オーリーブ 胎土：灰白	竈窓窯系II類	3-26 20070999
3-71-742 05002015	SB1025 PE	土師器 杯	-	8.5*	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	底部糸切	-
3-71-743 05000940	SB1025 PH	土師器 杯	-	9.8*	-	外：灰白 内：灰白	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071000
3-71-744 04002593	SB1027 PD	土師器 杯	12.1*	9.6	2.8	外：浅黄褐 内：浅黄褐	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071001
3-71-745 05002356	SB1027 PB	土師器 杯	12.6*	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	口沿は不確実	3-26 20071002
3-71-746 05002355	SB1027 PC	土師器 杯	12.0*	-	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	口沿は不確実	3-26 20071003
3-71-747 05002024	SB1027 PB	土師器 杯	-	9.6*	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071004
3-71-748 05002022	SB1027 PB	土師器 杯	-	10.0*	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	底部糸切	3-26 20071005
3-71-749 05002023	SB1027 PC	土師器 杯	-	9.2*	-	外：灰黄褐 内：にふい黄褐	底部糸切	3-26 20071006
3-71-750 05000944	SB1027 PB	瓦器 碗	-	5.3*	-	外：灰白 内：灰白	-	3-26 20071007
3-71-751 05002020	SB1027 PB	瓦器 碗	-	6.7*	-	外：灰 内：灰	-	-
3-71-752 05002360	SB1027 PC	白磁 皿	-	-	-	釉調：明暦灰 胎土：灰白	仄頬	3-26 20071008
3-71-753 04002706	SB1027 PJ	滑石製品 石硝	-	18.5*	-	-	外縁煤付着	3-26 20071009
3-71-754 05002357	SB1028 PF	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オーリーブ 胎土：灰白	竈窓窯系II bc類	3-26 20071010
3-71-755 05002014	SB1029 PG	土師器 杯	-	9.3*	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071011
3-71-756 05002016	SB1030 PC	土師器 杯	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	-	-
3-71-757 050002017	SA1031 PG	土師器 杯	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	-	-
3-71-758 05002021	SA1034 PA	瓦器 碗	-	-	-	外：灰白 内：灰白	-	-
3-71-759 04002650	SP1009 PA	青磁 碗	16.5	5.4	6.8	釉調：オリーブ黄 脂釉：灰白	竈窓窯系II b類。完形	3-26 20071012
3-71-760 04002659	SK1006	石製品 砾石	長 12.1	幅 7.4	厚 5.4	-	重量 454.2 g。3面使用	3-26 20071013
3-71-761 05000923	SX1011	土師器 小皿	8.5*	7.0*	1.0	外：にふい粉 内：にふい粉	遺構底面出土。底部糸切	-
3-71-762 04002640	SX1011	青磁 碗	11.3*	4.1*	4.5	胎土：灰白 釉調：明暦灰	竈窓窯系II b類。輪花	3-26 20071014
3-71-763 05000922	SX1015	土師器 杯	-	3.8*	-	外：灰白 内：灰白	内底螺旋状旋線、底部糸切	3-26 20071015
3-71-764 05000919	SX1014	土師器 杯	14.1*	10.0*	2.6	外：灰黄褐 内：灰黄褐	底部糸切、径不確実	3-26 20071016
3-71-765 05000931	SX1016	須恵器系陶器 捏跡	-	11.0*	-	外：淡黄 内：淡黄	束縛系、底部糸切、内面摩滅	3-26 20071017
3-71-766 05000921	SX1016 SX1017	土師器 杯	-	9.5	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	底部糸切	-
3-71-767 04002619	SX1019	瓦器 鍋	30.0*	-	-	外：オリーブ黒 内：糊灰	器面ハラミガキ。石硝模倣か	3-26 20071018
3-71-768 05000936	SX1019	土師器 鍋	-	-	-	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	徳永II b類	-
3-71-769 05000924	SX1019	瓦器 捏跡	-	-	-	外：灰白 内：灰白	-	3-26 20071019
3-71-770 05000918	SX1043	青磁 碗	-	6.2	-	釉調：灰オーリーブ 胎土：灰白	竈窓窯系I類かII類	3-26 20071020
3-71-771 04002588	SX1045	須恵器系陶器 捏跡	-	8.6*	-	外：灰黄 内：灰黄	束縛系、底部糸切、内面摩滅	3-26 20071021
3-72-772 05000928	SX1043	土師器 杯	-	7.0*	-	外：にふい粉 内：にふい粉	底部糸切	3-26 20071022
3-72-773 05000929	SX1043	土師器 杯	-	7.4*	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	底部糸切	3-26 20071023

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

桝固・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	高さ			
3-72-774 05000914	SX1043	白磁か 皿	11.1*	-	-	釉調：灰 胎土：灰白	被熱か	3-26 20071024
3-72-775 05000916	SX1043	白磁 碗	17.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	V類	3-26 20071025
3-72-776 05000915	SX1043	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オーブ 胎土：灰白	竜泉窯系 I 4類	3-26 20071026
3-72-777 05000913	SX1043	青磁 杯	-	6.0*	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	竜泉窯系	3-26 20071027
3-72-778 05000911	SX1043	青磁 碗	-	5.5	-	釉調：灰オーブ 胎土：灰白	竜泉窯系 II b類	3-26 20071028
3-72-779 05000912	SX1043	青磁 碗	-	5.5	-	釉調：にぶい黄 胎土：淡黄	竜泉窯系 II c類	3-26 20071029
3-72-780 06000068	SX1043	青磁 碗	-	-	-	釉調：オーブ灰 胎土：灰白	雷文	3-26 20071030
3-72-781 05000917	SX1043	粗施乳陶器 耳壺	-	-	-	釉調：灰オーブ 胎土：明緑	四耳壺か、波状沈線文	3-26 20071031
3-72-782 05000937	SX1043	土師器 鍋	-	-	-	外：灰黄褐 内：粗灰	徳永II a類	-
3-72-783 05000932	SX1043	土師器 鍋	-	-	-	外：黄灰 内：黄灰	徳永II b類、内外面煤付着	3-26 20071032
3-72-784 05000935	SX1043	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	徳永III a類	-
3-72-785 05000926	SX1043	土師器 鍋か	-	-	-	外：浅黄褐 内：にぶい黄褐	-	3-26 20071033
3-72-786 05000933	SX1043	瓦器 鍋	-	-	-	外：にぶい褐 内：灰黄褐	-	3-26 20071034
3-72-787 05000927	SX1043	瓦器 鍋	-	-	-	外：黄灰 内：灰	-	3-26 20071035
3-72-788 05000934	SX1043	瓦器 鍋	-	-	-	外：灰褐 内：灰黄褐	外面煤付着	3-26 20071036
3-72-789 05000925	SX1043	須恵器系陶器 程跡	-	-	-	外：黄灰 内：黄灰	柳・龜山系か	3-26 20071037
3-72-790 05000938	SX1043	土師器 茶釜	-	-	-	にぶい黄褐。黒褐	印伝花文	3-26 20071038
3-72-791 04002645	SX1043	滑石製品 石鉗	-	26.3*	-	-	-	3-26 20071039
3-72-792 06000065	SX1044	白磁 皿	-	-	-	灰白	-	3-26 20071040
3-72-793 06000061	SX1044	白磁 皿	-	7.0*	-	灰黄	森田E群	3-26 20071041
3-72-794 06000060	SX1044	青磁 皿	-	4.8*	-	釉調：緑灰 胎土：灰黄	河安窯系 I 1類	3-26 20071042
3-72-795 06000067	SX1044	青磁 碗	-	-	-	灰黄	同安窯系 I 1 b類	3-26 20071043
3-72-796 050000878	SX1044	青磁 碗	-	5.2*	-	釉調：灰オーブ 胎土：灰白	竜泉窯系 II c類か	3-26 20071044
3-72-797 06000063	SX1044	青磁 盤	-	-	-	釉調：灰オーブ 胎土：灰	竜泉窯系	3-26 20071045
3-72-798 06000066	SX1044	染付 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、1610～1640年代。天日形	3-26 20071046
3-72-799 06000064	SX1044	陶器 皿	-	-	-	成オーブ	肥前、灰皮、鉄輪	3-26 20071047
3-72-800 050000877	SX1044	陶器 碗	-	5.2*	-	釉調：灰黄褐 胎土：灰黄。にぶい橙	肥前、1590～1630年代	3-26 20071048
3-72-801 06000062	SX1044	瓦器 鍋か	-	-	-	画面：黒 胎土：明黄褐	-	3-26 20071049
3-72-802 04002596	SX1008	陶器 皿	-	4.2	-	釉調：灰白 胎土：淡黄	肥前、1610～1630年代	3-26 20071050
3-73-803 05002019	F13区陶 P1096	土師器 小皿	6.6*	5.8*	1.5	外：にぶい橙 内：にぶい橙	底部切り離し不明	-
3-73-804 04002590	F11区陶 P1305	土師器 小皿	8.8	7.2	1.3	外：にぶい橙 内：にぶい橙	底部糸切、板切直底	3-26 20071051
3-73-805 04002591	H13区陶 P1193	土師器 小皿	8.0*	6.8*	1.3	外：橙 内：橙	底部糸切、板切直底	3-26 20071052
3-73-806 05000943	G12区陶 P1187	土師器 杯	12.0*	-	-	外：浅黄褐 内：浅黄褐	-	3-26 20071053
3-73-807 04002592	G12区陶 P1189	土師器 杯	13.8*	11.6*	2.5	外：にぶい黄褐 内：浅黄褐	底部糸切	3-26 20071054

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

査定・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-73-808 04002641	D15区画	土師器 杯	12.2*	8.0*	3.0	外：浅黄 内：浅黄	底部尖切、板状圧痕	3-26 20071055
3-73-809 04002610	G11区画	土師器 杯	12.0*	8.4*	3.3	外：に赤い黄褐 内：に赤い褐	底部尖切	3-26 20071056
3-73-810 04002615	G12区画	瓦器 碗	15.6	5.7	5.3	外：灰白 内：灰、灰白	外面底部下半に糸切痕	3-27 20071057
3-73-811 04002589	G11区画	須恵器系陶器 涅跡	-	9.4*	-	外：灰黄 内：灰黄	束腰系、底部尖切、内面摩滅	3-27 20071058
3-73-812 04002616	G12区画	土師器 罐	-	-	-	外：に赤い褐 内：暗褐	德永II b類	3-27 20071059
3-73-813 05000939	G12区画	土師器 罐	-	-	-	外：褐 内：淡黄	德永II b類	3-27 20071060
3-73-814 04002649	H11区画	滑石製品 石硝	20.0*	-	-	-	外面煤付着	3-27 20071061
3-73-815 04002602	G13区画	白磁 碗	-	4.4*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	謹類	3-27 20071062
3-73-816 04002600	G12区画	白磁 碗	10.2*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	謹類	3-27 20071063
3-73-817 04002594	F14区画	白磁 皿	11.6*	6.2*	3.0	釉調：灰 胎土：灰白	区I d類	3-27 20071064
3-73-818 04002597	H12区画	白磁 皿	13.2*	8.0*	3.3	釉調：明緑灰 胎土：灰白	区I類	3-27 20071065
3-73-819 04002603	H11区画	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	V～謹類	3-27 20071066
3-73-820 04002601	G14区画	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	V～謹類	3-27 20071067
3-73-821 04002598	G11区画	白磁 碗	16.2*	6.5	5.8	釉調：灰白 胎土：灰白	謹I類	3-27 20071068
3-73-822 04002599	G11区画	青磁 碗	-	-	-	釉調：オーリーブ黄 胎土：灰白	電気・河安窯系O類か	3-27 20071069
3-73-823 04002674	H13区画	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オーリーブ 胎土：灰白	電気窯系I 4類	3-27 20071070
3-73-824 04002673	H11区画	青磁 碗	-	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	電気窯系II b c類	3-27 20071071
3-73-825 04002605	H10区画	滑石製品 石硝	-	5.6	3.4	L.I	-	3-27 20071072
3-73-826 04002700	G12区画	石製品 硯石	長7.6	幅5.8	厚4.2	-	重量 199.1 g、3面使用	3-27 20071073
3-73-827 06002273	G11区画	銅貨	-	-	-	-	天聖元寶、真書	3-27 20071074
3-73-828 06002274	G11区画	銅貨	-	-	-	-	元豐通寶、篆書	3-27 20071075
3-73-829 06002303	G11区画	銅貨	-	-	-	-	元祐通寶（元祐通寶か）、行書	3-27 20071076
3-74-830 05000893	G17区画	土師器 小皿	8.2*	6.0*	1.2	外：灰黄褐 内：に赤い黄褐	底部尖切	3-27 20071077
3-74-831 04002613	F11区画	土師器 小皿	9.2*	7.0*	1.1	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	底部尖切	3-27 20071078
3-74-832 06000069	G13区画	土師器 小皿	9.8*	8.0*	1.3	褐、褐	底部尖切	3-27 20071079
3-74-833 05000906	表探	土師器 小皿	7.9*	6.7*	1.1	外：に赤い褐 内：に赤い褐	底部尖切	3-27 20071080
3-74-834 04002689	G13区画	土師器 小皿	8.5	6.7	1.1	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	底部尖切、板状圧痕	3-27 20071081
3-74-835 05000895	G12区画	土師器 小皿	8.1	6.5	1.7	外：に赤い褐 内：に赤い褐	底部尖切、板状圧痕	3-27 20071082
3-74-836 04002624	F10区画	土師器 杯	14.8*	11.4	2.5	外：に赤い褐 内：に赤い黄褐	底部尖切、板状圧痕	3-27 20071083
3-74-837 04002687	G11区画	土師器 杯	12.3*	9.2*	2.3	外：淡黄褐 内：浅黄褐	底部尖切、板状圧痕	3-27 20071084
3-74-838 05000903	G17区画	土師器 杯	13.8*	-	-	外：淡黄 内：淡黄	-	3-27 20071085
3-74-839 05000894	G12区画	土師器 杯	12.2*	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い黄褐	-	3-27 20071086
3-74-840 04002685	H11区画	土師器 杯	13.4*	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	-	3-27 20071087
3-74-841 05000889	-	土師器 杯	-	10.0*	-	外：灰白 内：灰白	底部尖切、板状圧痕	3-27 20071088

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

査定・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			L径	底径	高さ			
3-7-842 05000901	表探	土師器 杯	-	10.0*	-	外：にぶい橙 内：にぶい橙	底部尖切	3-27 20071089
3-7-843 05000887	F12区画	土師器 杯	-	10.0*	-	外：にぶい橙 内：にぶい橙	底部尖切	3-27 20071090
3-7-844 04002688	F12区画	土師器 杯	-	6.8*	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	底部尖切	3-27 20071091
3-7-845 04002609	J11区画	土師器 杯	11.7*	3.6*	33	外：浅黄橙 内：浅黄橙	底部尖切、底部と口縁部に穿孔	3-27 20071092
3-7-846 05000892	G14区画	土師器 杯	-	5.9*	-	外：浅黄橙 内：浅黄橙	底部尖切	3-27 20071093
3-7-847 05000897	G12区画	瓦器 碗	-	-	-	外：灰白 内：灰白	-	3-27 20071094
3-7-848 04002682	F11区画	瓦器 碗	-	-	-	外：灰黄 内：灰黄	-	3-27 20071095
3-7-849 05000905	表探	瓦器 碗	-	-	-	外：灰白 内：灰白	内面コテ当て痕	-
3-7-850 05000899	表探	瓦器 碗	-	7.1*	-	外：灰白 内：灰白	高台内に板状突痕	-
3-7-851 05000902	表探	瓦器 碗	-	6.8*	-	外：灰白 内：灰白	内面ハラミガキ	3-27 20071096
3-7-852 04002690	G15区画	瓦器 碗	-	6.0*	-	外：灰白 内：灰黄	高台内に脚描記号	3-27 20071097
3-7-853 04002595	表探	白磁 皿	8.0*	4.0*	1.8	釉調：灰白 胎土：にぶい黄橙、灰白	中国、底部露胎	3-27 20071098
3-7-854 04002661	表探	白磁 皿	11.2*	6.6*	2.6	釉調：灰白 胎土：灰白	区I類	3-27 20071099
3-7-855 04002681	G13区画	白磁 皿	14.3*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	区類	-
3-7-856 05000879	表探	白磁 皿	-	3.3	-	釉調：灰白 胎土：灰白	森D系、陶胎	-
3-7-857 05000875	表探	白磁 皿	11.4*	6.4*	2.8	釉調：灰白 胎土：灰白	森E群	-
3-7-858 04002672	表探	白磁 皿	16.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	IV類	3-27 20071100
3-7-859 05000870	表探	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	V～VI類	-
3-7-860 04002638	表探	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	V～VI類	3-27 20071101
3-7-861 05000860	表探	白磁 皿	-	4.6	-	釉調：灰白 胎土：灰白	ⅤⅠ類	3-27 20071102
3-7-862 04002629	表探	白磁 皿	17.0*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：白	区類	3-27 20071103
3-7-863 04002630	表探	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：白	区類	-
3-7-864 04002655	表探	白磁 皿	-	5.4	-	釉調：灰白 胎土：灰白	区Ⅱa類	3-27 20071104
3-7-865 05000863	G12区画	白磁 皿	-	5.5	-	釉調：灰白 胎土：灰白	Ⅵ類	3-27 20071105
3-7-866 05000881	G12区画	青白磁 合子身	4.0*	3.0*	2.1	釉調：明緑灰 胎土：灰白	-	3-27 20071106
3-7-867 04002684	F11区画	白磁 小皿	-	4.5*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	-	3-27 20071107
3-7-868 04002695	F14区画	陶器 小壺	-	2.7*	-	釉調：黒 胎土：赤灰	底部尖切、内面露胎、茎入	3-27 20071108
3-7-869 04002621	G13区画	青磁 皿	10.6*	4.3	2.2	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰黄	同安窯系	3-27 20071109
3-7-870 04002637	表探	青磁 皿	11.1*	4.8	1.9	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	同安窯系	3-27 20071110
3-7-871 05000866	表探	青磁 皿	-	5.4	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系	3-27 20071111
3-7-872 05000867	H10区画	青磁 皿	-	4.6*	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竈窯系、底部露胎	3-27 20071112
3-7-873 04002679	F11区画	青磁 皿	17.2*	-	-	釉調：灰 胎土：灰白	同安窯系	3-27 20071113
3-7-874 05000871	表探	青磁 皿	16.4*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	3-27 20071114
3-7-875 04002636	表探	青磁 皿	17.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	3-27 20071115

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

桝固・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	器高			
3-75-876 04002642	H12区画	青磁 碗	-	5.0	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	3-28 20071116
3-75-877 05000862	表探	青磁 碗	-	5.2*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	3-27 20071117
3-75-878 04002678	H13区画	青磁 碗	16.7*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰	竈窯窯系I 2類	3-28 20071118
3-75-879 04002660	表探	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竈窯窯系I 2類	3-28 20071119
3-75-880 04002680	F11区画	青磁 碗	-	-	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	竈窯窯系I 4類	3-28 20071120
3-75-881 04002651	表探	青磁 碗	-	6.6	-	釉調：緑灰 胎土：灰白	竈窯窯系I 4類	3-28 20071121
3-75-882 05000861	G12区画	青磁 碗	-	6.3*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	竈窯窯系I 1類	3-28 20071122
3-75-883 04002633	表探	青磁 碗	17.1*	-	-	釉調：オリーブ 胎土：灰白	竈窯窯系II b c類	3-28 20071123
3-75-884 04002658	表探	青磁 碗	16.8*	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竈窯窯系II b c類	3-28 20071124
3-75-885 05000876	G12区画	青磁 碗	16.0*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	竈窯窯系II b c類	3-28 20071125
3-75-886 05000872	G12区画	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	竈窯窯系II b類、口縁部輪花	3-28 20071126
3-75-887 04002656	表探	青磁 碗	-	5.8	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	竈窯窯系II c類	3-28 20071127
3-75-888 04002657	表探	青磁 碗	-	4.8	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰黃	竈窯窯系II b類	3-28 20071128
3-75-889 04002632	表探	青磁 碗	-	5.2	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	竈窯窯系II b類	3-28 20071129
3-75-890 04002634	表探	青磁 碗	16.4*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰黃	竈窯窯系II a類	3-28 20071130
3-75-891 04002659	表探	青磁 碗	15.4*	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	高麗か	3-28 20071131
3-75-892 04002662	表探	陶器 皿	-	4.1	-	釉調：灰 胎土：灰	朝鮮王朝、灰青沙器。砂目	3-28 20071132
3-75-893 04002666	表探	青花 碗	11.5*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	瀋州窑	3-28 20071133
3-75-894 04002683	G11区画	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	灰白	東播系	3-28 20071134
3-75-895 04002617	表探	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	外：灰 内：灰	東播系	3-28 20071135
3-75-896 05000885	H12区画	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：灰黃	東播系	3-28 20071136
3-75-897 04002668	表探	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	灰	東播系	3-28 20071137
3-75-898 04002669	表探	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：浅黄褐	東播系、やや燒成不良。	-
3-75-899 05000884	G14区画	瓦器 捏跡	-	-	-	外：灰 内：灰		3-28 20071138
3-75-900 05000891	G17区画	須恵器系陶器 捏跡	-	-	-	外：灰白 内：灰白	やや燒成不良	3-28 20071139
3-75-901 04002691	F11区画	瓦器 捏跡	-	-	-	外：灰黃 内：灰黃		3-28 20071140
3-76-902 04002696	H13区画	瓦器 捏跡	14.0*	-	-	外：灰白 内：灰白	内面摩滅	3-28 20071141
3-76-903 04002692	H13区画	須恵器系陶器 壺か 壺	-	6.7*	-	釉調：黑 胎土：褐灰	体部と底部の壜に目跡	3-28 20071142
3-76-904 05000898	G17区画	陶器 壺か 壺	-	10.7*	-	外：灰 内：灰	-	3-28 20071143
3-76-905 04002618	F11区画	須恵器系陶器 壺	20.7*	-	-	外：黄 内：灰黃	-	3-28 20071144
3-76-906 04002694	E16区画	土師器 壺	-	-	-	にぶい褐	徳永II b類	3-28 20071145
3-76-907 05000908	G10区画	土師器 壺	-	-	-	外：灰褐 内：にぶい褐	徳永II b類	3-28 20071146
3-76-908 05000888	G17区画	土師器 壺	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい黄褐	徳永II b類	3-28 20071147
3-76-909 04002693	F11区画	土師器 壺	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	徳永II b類	3-28 20071148

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

岡田・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			L径	底径	高さ			
3-7-910 05000890	-	瓦器 陶	-	-	-	外：灰白、灰 内：灰白、灰	施永M類、内面にヘラ記号	3-28 20071149
3-7-911 04002702	表塗	滑石製品 石硝	19.9*	-	-	-	-	3-28 20071150
3-7-912 04002701	表塗	滑石製品 石硝	30.4*	-	-	-	-	3-28 20071151
3-7-913 04002626	H12区画	滑石製品 石硝	24.6*	-	-	-	外面保付着	3-28 20071152
3-7-914 04002647	F11区画	滑石製品 石硝	-	-	-	-	-	3-28 20071153
3-7-915 04002703	H12区画	滑石製品 石硝	-	-	-	-	再加工途中	3-28 20071154
3-7-916 04002627	表塗	滑石製品 石硝	-	-	-	-	-	3-28 20071155
3-7-917 04002646	表塗	滑石製品 石硝	20.4*	-	-	-	-	3-28 20071156
3-7-918 04002648	表塗	滑石製品 石硝	-	-	-	-	-	3-28 20071157
3-7-919 04002704	H13区画	滑石製品 石硝	-	16.0*	-	-	外面保付着	3-28 20071158
3-7-920 04002643	G12区画	滑石製品 石硝	-	-	-	-	外面保付着	3-29 20071159
3-7-921 04002707	表塗	滑石製品	-	-	-	-	未製品か、穿孔あり、保付着	3-28 20071160
3-7-922 04002708	H11区画	石製品	長2.5 帯4.1	厚1.8	-	-	石硝転用品、保付着、重量31.2 g	3-29 20071161
3-7-923 05000907	G12区画	土製品 陶	長3.6 径0.9	-	にぶい柄	完形	-	3-29 20071162
3-7-924 04002697	表塗	石製品 砾石	長8.2 幅5.3	厚5.0	-	-	重量311.1 g、表裏2面使用	3-29 20071163
3-7-925 04002698	H12区画	石製品 砾石	長6.8 幅6.6	厚5.3	-	-	重量273.4 g、3面使用	3-29 20071164
3-7-926 05000874	染付 陶	-	10.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、1620～1660年代	3-29 20071165
3-7-927 04002663	表塗 陶	染付 陶	-	3.6	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	肥前、淡佐見、18 C後半	3-29 20071166
3-7-928 04002631	表塗 陶	染付 陶	-	5.1*	-	釉調：明緑灰 胎土：白	肥前、18 C第4四半期	3-29 20071167
3-7-929 05000865	表塗 陶	染付 陶	-	3.8	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前、内底蛇の目釉調、18 C後半	3-29 20071168
3-7-930 04002676	表塗 小碗	染付 陶	-	3.2	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、1770～1810年代	3-29 20071169
3-7-931 05000868	表塗 陶	染付 陶	-	4.3*	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前、18 C末～幕末	3-29 20071170
3-7-932 04002677	表塗 小碗	染付 陶	-	3.9*	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前、1820～1860年代、 アルミナ便布	3-29 20071171
3-7-933 04002652	表塗 皿	染付 陶	-	5.6*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、1630～1650年代	3-29 20071172
3-7-934 04002675	表塗 皿	染付 陶	12.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18 C後半	3-29 20071173
3-7-935 04002664	表塗 皿	染付 陶	18.5*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前、18 C後半	3-29 20071174
3-7-936 04002665	表塗 陶	陶器 陶	-	4.1*	-	釉調：灰黄 胎土：灰白	肥前、18 C前半	3-29 20071175
3-7-937 04002628	表塗 陶	白磁 陶	-	9.1*	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前、18 C前半か	3-29 20071176
3-7-938 04002654	表塗 陶	陶器 陶	-	10.6*	-	釉調：黒褐 胎土：にぶい柄	肥前、17 C末～18 C前半	3-29 20071177
3-7-939 04002670	表塗 鐵鋤	陶器 鉢	-	9.8*	-	化粧土：灰赤 胎土：褐	肥前、底部削切、18～19 C	3-29 20071178
3-7-940 04002653	表塗 鉢	陶器 鉢	21.6*	-	-	釉調：浅黄褐 胎土：褐	肥前、二彩手、18 C前～中葉	3-29 20071179
3-7-941 04002667	表塗 鉢	陶器 鉢	-	-	-	釉調：灰白 胎土：明赤褐	肥前、18 C代	3-29 20071180
3-7-942 04002671	表塗 大皿	陶器 皿	-	14.2*	-	釉調：灰白 胎土：にぶい赤褐	肥前、二彩手、18 C代	3-29 20071181
3-7-943 04002620	H12区画	陶器 蓋	径5.9	-	2.3	釉調：オリーブ黄 胎土：にぶい黄褐	肥前、18 C代、小巻の蓋か	3-29 20071182

表3-7 1区中世～近世の出土遺物

井戸・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-77-944 04002622	表探	染付 蓋	6.0*	-	0.9	釉調：灰黄 胎土：灰黄	肥前系、「阿」字あり鳥居彫刻	3-29 20071183
3-77-945 05000880	表探	白磁 合子身	4.0*	2.8*	1.5	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前系	3-29 20071184

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

井戸・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-80-946 05001822	-	土師器 小皿	8.8	5.4	1.5	にぶい 棕	底部絞切、板状圧痕	3-29 20071185
3-80-947 05001856	-	土師器 小皿	6.5	4.8	2.0	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071186
3-80-948 05001858	-	土師器 小皿	6.7	4.2	2.2	にぶい 棕	底部絞切	3-29 20071187
3-80-949 05001857	-	土師器 小皿	7.2*	5.1*	1.8	棕	底部絞切	3-29 20071188
3-80-950 05001827	-	土師器 小皿	7.4*	5.0*	1.8	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071189
3-80-951 05001853	-	土師器 小皿	6.4	3.4	2.0	浅黄棕	底部絞切	3-29 20071190
3-80-952 05001855	-	土師器 小皿	6.5	3.7	1.9	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071191
3-80-953 05001854	-	土師器 小皿	7.4*	3.3*	2.2	灰黄	底部絞切	3-29 20071192
3-80-954 05001828	-	土師器 小皿	7.5	4.4	1.6	にぶい 淡棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071193
3-80-955 05001826	-	土師器 小皿	8.0	4.7	1.7	にぶい 棕	底部絞切	3-29 20071194
3-80-956 05001824	-	土師器 小皿	8.3*	4.4*	1.9	浅黄棕	底部絞切	3-29 20071195
3-80-957 05001838	-	土師器 小皿	5.7	4.1	1.2	外：にぶい 黄棕 内：にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071196
3-80-958 05001832	-	土師器 小皿	6.1	3.6	1.3	にぶい 棕	底部絞切	3-29 20071197
3-80-959 05001837	-	土師器 小皿	6.0	3.5	1.3	浅黄棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071198
3-80-960 05001835	-	土師器 小皿	6.1	4.0	1.2	外：にぶい 黄棕 内：浅黄棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071199
3-80-961 05001847	-	土師器 小皿	6.2*	4.2*	1.4	浅黄棕	底部絞切	3-29 20071200
3-80-962 05001841	-	土師器 小皿	6.4	3.3	1.3	浅黄棕、灰黄	底部絞切、油膜付着	3-29 20071201
3-80-963 05001843	-	土師器 小皿	6.4	4.2	1.3	浅黄棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071202
3-80-964 05001839	-	土師器 小皿	6.4*	3.4	1.3	棕	底部絞切	3-29 20071203
3-80-965 05001834	-	土師器 小皿	6.1	3.7	1.4	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071204
3-80-966 05001836	-	土師器 小皿	6.1*	3.9	1.4	にぶい 淡棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071205
3-80-967 05001833	-	土師器 小皿	6.4	3.6	1.4	淡黄	底部絞切	3-29 20071206
3-80-968 05001831	-	土師器 小皿	6.6	3.7	1.6	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071207
3-80-969 05001840	-	土師器 小皿	6.9*	3.1	1.7	外：にぶい 黄棕 内：浅黄棕	底部絞切	3-29 20071208
3-80-970 05001830	-	土師器 小皿	6.9*	4.5	1.8	にぶい 棕	底部絞切、油膜付着	3-29 20071209
3-80-971 05001852	-	土師器 小皿	7.1	3.6	1.8	外：にぶい 棕 内：棕	底部絞切	3-29 20071210
3-80-972 05001829	-	土師器 小皿	7.6*	4.3	1.7	外：にぶい 黄棕 内：浅黄棕	底部絞切	3-29 20071211
3-80-973 05001883	-	土師器 杯	14.8*	8.8	2.7	にぶい 棕、浅黄棕	底部絞切、板状圧痕	3-29 20071212

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-80-974 05001863	-	土師器 杯	14.7*	9.4*	3.0	外：にぶい柾。浅黄 内：にぶい柾	底部尖切（静止系切）	3-29 20071213
3-80-975 05001862	-	土師器 杯	13.8*	10.4*	3.2	浅黄柾	底部系切	-
3-80-976 05001866	-	土師器 杯	13.3*	9.6*	2.9	にぶい黄柾	底部系切。板状压痕	3-29 20071214
3-80-977 05001875	-	土師器 杯	13.3	9.5	2.9	にぶい柾。黒柾	底部系切	3-29 20071215
3-80-978 05001882	-	土師器 杯	12.8	9.4	2.8	浅黄柾	底部系切。板状压痕	3-29 20071216
3-80-979 05001876	-	土師器 杯	12.4	10.2	2.6	にぶい柾	底部系切	3-29 20071217
3-80-980 05001877	-	土師器 杯	12.2	10.0	2.8	にぶい柾	底部系切	3-29 20071218
3-80-981 05001881	-	土師器 杯	13.5*	7.7	3.1	柾	底部系切。板状压痕	3-29 20071219
3-80-982 05001874	-	土師器 杯	13.2	7.2	3.1	外：浅黄柾 内：にぶい黄柾	底部系切。板状压痕	3-29 20071220
3-80-983 05001945	-	土師器 杯	13.2	7.4	3.4	外：にぶい黄柾 内：にぶい柾	底部系切	3-29 20071221
3-80-984 05001865	-	土師器 杯	12.8*	8.0*	3.2	浅黄柾	底部系切	3-29 20071222
3-80-985 05001873	-	土師器 杯	12.6	7.9	2.7	外：浅黄柾。灰黄柾 内：浅黄柾	底部系切	3-29 20071223
3-80-986 05001958	-	土師器 杯	12.5	7.3	2.7	にぶい柾	底部系切	3-29 20071224
3-80-987 05001870	-	土師器 杯	12.2*	7.9	3.5	浅黄柾	底部系切	3-29 20071225
3-80-988 05001868	-	土師器 杯	12.0*	7.4	2.9	浅黄柾	底部系切	3-29 20071226
3-80-989 05001905	-	土師器 杯	11.8*	7.1	2.8	柾	底部系切	3-29 20071227
3-80-990 05001913	-	土師器 杯	11.6*	6.6	2.6	外：柾。浅黄柾 内：柾	底部系切	3-29 20071228
3-80-991 05001871	-	土師器 杯	11.5*	7.6	3.1	外：浅黄柾 内：浅黄柾。浅黄	底部系切。板状压痕	3-30 20071229
3-80-992 05001906	-	土師器 杯	11.5*	6.9	3.0	浅黄柾。にぶい黄柾	底部系切	3-30 20071230
3-80-993 05001907	-	土師器 杯	11.4*	7.5	2.9	柾	底部系切。板状压痕	3-30 20071231
3-80-994 05001909	-	土師器 杯	11.4	6.7	2.7	外：にぶい柾 内：浅黄柾	底部系切。板状压痕	3-30 20071232
3-80-995 05001915	-	土師器 杯	11.3	7.2	2.9	にぶい黄柾	底部系切。板状压痕	3-30 20071233
3-80-996 05001910	-	土師器 杯	11.0*	6.3	2.5	にぶい黄柾	底部系切	3-30 20071234
3-80-997 05001908	-	土師器 杯	10.8	6.9	2.9	外：浅黄柾 内：柾。浅黄柾	底部系切。板状压痕	3-30 20071235
3-80-998 05001878	-	土師器 杯	11.3	4.6	3.2	浅黄柾。淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071236
3-80-999 05001879	-	土師器 杯	11.8	4.8	3.3	外：浅黄柾。淡黄 内：淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071237
3-80-1000 05001880	-	土師器 杯	13.2	5.0	3.8	浅黄柾。淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071238
3-80-1001 05001927	-	土師器 杯	-	3.8	-	淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071239
3-80-1002 05001926	-	土師器 杯	-	4.2	-	淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071240
3-80-1003 05001929	-	土師器 杯	-	4.9*	-	外：にぶい黄柾 内：浅黄柾	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071241
3-80-1004 05001928	-	土師器 杯	-	4.0	-	浅黄柾	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071242
3-80-1005 05001930	-	土師器 杯	-	3.7	-	淡黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071243
3-80-1006 05001925	-	土師器 杯	-	5.4	-	浅黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071244
3-80-1007 05001934	-	土師器 杯	-	4.7	-	浅黄	底部系切。内底螺旋状沈線	3-30 20071245

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
3-80-1008 05001895	-	土師器 杯	11.7*	5.1	3.4	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071246
3-80-1009 05001897	-	土師器 杯	11.6	4.9	3.4	淡黄	底部尖切	3-30 20071247
3-80-1010 05001890	-	土師器 杯	11.5*	4.4	3.3	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071248
3-80-1011 05001904	-	土師器 杯	11.2*	4.5	3.4	にぶい黄褐	底部尖切	3-30 20071249
3-80-1012 05001898	-	土師器 杯	10.8*	4.5	3.2	外：にぶい黄褐 内：浅黄褐	底部尖切	3-30 20071250
3-80-1013 05001889	-	土師器 杯	10.6*	4.4	3.0	外：浅黄褐 内：淡黄	底部尖切	3-30 20071251
3-80-1014 05001887	-	土師器 杯	10.5*	3.9	3.8	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071252
3-80-1015 05001902	-	土師器 杯	10.5	5.4	3.0	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071253
3-80-1016 05001888	-	土師器 杯	10.2	4.8	2.9	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071254
3-80-1017 05001892	-	土師器 杯	9.6*	3.6	2.8	にぶい黄	底部尖切	3-30 20071255
3-80-1018 05001900	-	土師器 杯	9.5*	4.0	3.4	にぶい黄褐	底部尖切	3-30 20071256
3-80-1019 05001891	-	土師器 杯	9.5*	3.9	3.2	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071257
3-80-1020 05001894	-	土師器 杯	10.7*	4.6	3.3	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071258
3-80-1021 05001825	-	土師器 杯	10.2*	4.7	2.8	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071259
3-80-1022 05001914	-	土師器 杯	9.7*	5.4	2.6	にぶい黄褐	底部尖切	3-30 20071260
3-80-1023 05001823	-	土師器 杯	9.4	6.3	1.8	淡黄	底部尖切	3-30 20071261
3-80-1024 05001820	-	土師器 杯	9.3*	5.4*	1.7	浅黄褐	底部尖切	3-30 20071262
3-80-1025 05001821	-	土師器 杯	9.1	5.4	1.8	外：にぶい黄褐 内：浅黄褐	底部尖切	3-30 20071263
3-80-1026 05001916	-	土師器 杯	11.2	6.6	2.4	外：浅黄褐、黄灰 内：にぶい黄褐	底部ヘラケズリ	3-30 20071264
3-81-1027 05001993	-	白磁 小杯	7.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、17C後半～18C前半	3-30 20071265
3-81-1028 05001999	-	染付 小杯	6.1	2.4	3.0	釉調：明るいグレー灰 胎土：灰白	肥前、18C中期～後半	3-30 20071266
3-81-1029 05001979	-	染付 伝瓶	-	3.3	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C後半	3-30 20071267
3-81-1030 05002000	-	染付 碗	10.1*	4.4*	5.4	釉調：灰 胎土：灰白	肥前、吉田か、18C前半	3-30 20071268
3-81-1031 05002006	-	染付 碗	10.0	4.3	5.4	釉調：明るいグレー灰 胎土：灰白	肥前、18C前半	3-30 20071269
3-81-1032 05001975	-	染付 小皿	9.6*	3.5*	5.1	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C後半	3-30 20071270
3-81-1033 05001995	-	染付 小皿	10.7*	-	-	釉調：灰オーリーブ 胎土：灰白	肥前、18C前半	3-30 20071271
3-81-1034 05001976	-	染付 小皿	9.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C第2四半期～後半	3-30 20071272
3-81-1035 05001977	-	染付 碗	-	4.4*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C第2～3四半期	3-30 20071273
3-81-1036 05002003	-	染付 碗	9.8*	4.6*	5.0	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C後半	3-30 20071274
3-81-1037 05001978	-	染付 碗	9.9*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C後半	3-30 20071275
3-81-1038 05001997	-	染付 碗	10.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C後半	3-30 20071276
3-81-1039 05001981	-	染付 碗	11.3*	6.2	6.1	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、塙田か、19C前半	3-30 20071277
3-81-1040 05001982	-	染付 碗	11.6	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、19C前半	3-30 20071278
3-81-1041 05001998	-	染付 碗	11.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、1780年代～19C前半	3-30 20071279

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			上径	底径	高さ			
3-81-1042 05001974	-	染付 瓶	9.9*	3.6*	4.9	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、1770～1810年代	3-30 20071280
3-81-1043 05001980	-	染付 瓶	8.7*	-	-	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、1770～1810年代	3-30 20071281
3-81-1044 05001996	-	染付 瓶	9.8*	-	-	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、1770～1810年代	3-30 20071282
3-81-1045 05001992	-	染付 瓶	9.9*	4.0	5.1	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、18C末～幕末	3-31 20071283
3-81-1046 05001972	-	染付 瓶	10.9*	4.7*	6.0	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、埴田か、1820～60年代	3-31 20071284
3-81-1047 05001973	-	染付 瓶	-	4.3*	-	黒調：明オリーブ灰 胎土：灰白	肥前、波佐見、1820～60年代	3-31 20071285
3-81-1048 05001994	-	染付 瓶	9.9*	4.8*	4.8	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、1820～60年代	3-31 20071286
3-81-1049 05001971	-	染付 皿	12.4*	3.8*	3.5	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、波佐見、18C後半	3-31 20071287
3-81-1050 05002001	-	染付 皿	14.1*	4.1*	5.2	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、波佐見、17C後半～18C	3-31 20071288
3-81-1051 05002005	-	染付 瓶	10.0*	7.6*	16.7	黒調：明オリーブ灰 胎土：灰白	肥前、17C後半～18C前半	3-31 20071289
3-81-1052 05002004	-	染付 瓶	8.6	6.1	19.0	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、有田か、17C後半	3-31 20071290
3-81-1053 05001985	-	陶器 火道具	8.0	3.1	1.9	黒調：褐 胎土：にふい赤褐色	肥前、18C～幕末	3-31 20071291
3-81-1054 05001986	-	陶器 火道具	8.9	3.4	2.3	黒調：褐 胎土：オーラーブ黒	肥前、18C初	3-31 20071292
3-81-1055 05002002	-	陶器 火道具	9.3	4.3	3.1	黒調：にふい黄 胎土：明赤褐色	肥前、18C代	3-31 20071293
3-81-1056 05001984	-	陶器 火道具	9.2	4.4	2.4	黒調：にふい赤褐色 胎土：明赤褐色	肥前、18C代	3-31 20071294
3-81-1057 05001987	-	陶器 瓶	9.2*	-	-	黒調：褐 胎土：灰黃	褐調か、17C末～18C前半	3-31 20071295
3-81-1058 05001990	-	陶器 瓶	12.8	4.9	5.6	黒調：明赤褐色 胎土：淡黃	肥前、椎の峯か、17C後半	3-31 20071296
3-81-1059 05001989	-	陶器 瓶	13.5	5.2	6.5	黒調：灰白 胎土：灰白	肥前、17C末～18C前半	3-31 20071297
3-82-1060 05001988	-	陶器 火入	9.2*	-	-	黒調：淡黄 胎土：明赤褐色	肥前、17C後半～18C前半	3-31 20071298
3-82-1061 05001983	-	陶器 土瓶蓋	7.4	-	4.5	黒調：暗赤褐色 胎土：淡黄	肥前、18C～19C初	3-31 20071299
3-82-1062 05001991	-	陶器 土瓶	8.6	7.2	11.4	黒調：浅黄 胎土：灰白	肥前、18C代	3-31 20071300
3-82-1063 05001969	-	瓦器 鍋	28.3*	-	-	外：にふい黄褐色 内：黄灰、暗赤黃	徳永IV a類	3-31 20071301
3-82-1064 05001968	-	瓦器 鍋	-	-	-	灰	徳永IV a類	3-31 20071302
3-82-1065 05001967	-	瓦器 鍋	-	-	-	外：黑褐色 内：灰黃、灰	徳永V類	-
3-82-1066 05001965	-	土師器 焰燒	19.6*	13.5*	-	外：にふい黄褐色、黒 内：にふい褐、黒褐色	-	3-31 20071303
3-82-1067 05001966	-	土師器 焰燒	20.3*	-	-	外：灰黃褐色 内：褐灰、灰黃褐色	-	3-31 20071304
3-82-1068 05001970	-	土師器 焰燒	-	-	-	にふい黄褐色	把手	3-31 20071305
3-82-1069 05001962	-	瓦器 茶釜	14.7*	-	-	外：にふい黄褐色 内：にふい黄褐色	-	3-31 20071306
3-82-1070 05001963	-	瓦器 茶釜	13.0*	-	-	にふい黄褐色	-	3-31 20071307
3-82-1071 05001961	-	瓦器 火鉢	47.1*	-	-	灰黃	-	3-31 20071308
3-82-1072 05001964	-	瓦器 火鉢	33.5*	-	-	外：にふい黄褐色 内：灰黃	-	3-31 20071309
3-82-1073 05002012	-	瓦器 風炉	25.2*	22.6*	21.7	雁 外：灰、暗灰 内：灰黃、灰、暗灰	-	3-31 20071310
3-82-1074 05002009	-	瓦器 火入	-	-	-	オーラーブ黒	-	3-31 20071311
3-82-1075 05002008	-	瓦器 火入	21.8	15.1	8.6	外：オーラーブ黒 内：灰	-	3-31 20071312

4 まとめ

東畠瀬遺跡1・3区では縄文時代～弥生時代と中世～近世の遺構・遺物を調査した。以下、今次調査でも特に重要な成果である1区の縄文時代後期末～弥生時代、1区の中世前期屋敷地、3区の中世～近世神社について簡単にまとめておきたい。

1) 1区の縄文時代後期末～弥生時代について

1区で主体を占める縄文土器について時代順に概観すると、まず後期末（御領式～広田式並行）には遺構としてSX1134があり、包含層からこの時期の精製深鉢が出土しており、分離できなかったが、浅鉢・粗製深鉢も存在すると考えられる。ただ、遺物量は少なく、短期間の集落であったと推測される。

晩期初頭～前葉（古闕式～黒川式古段階並行）のものは出土していない。

晩期中葉（黒川式新段階並行）は、遺構・遺物がもっとも多く確認されており、1区で主体を占める時期である。水ノ江和同氏の編年（水ノ江1997）を参照すると、北部九州2期のもの（浅鉢A2類新）が多いが、3期のものもみられ、細分できる可能性がある。特徴的な遺物としてSX1131出土孔列文土器（144）があり、図示していないが包含層からも別に数点出土しているが、対照的に組織痕文土器は出土していない。また、68の浅鉢は北部九州的なものではなく、他地域の系統を引く可能性がある。

刻目突帯文土器は大きな刻目の群と細かく浅い刻目の群に分けられ、時期差を示すものと考えられるが、その差異が大きく、両者の間に断絶があるものと思われる。刻目突帯などの特徴は佐賀平野のものに近く、古い群と同時期と考えられる資料として小城市石木中高遺跡SD01出土土器（三日月町教委1996）があり、中間的な様相を示す資料として吉野ヶ里町寺ヶ原遺跡2区出土土器（佐賀県教委1999）がある。古い群は山ノ寺式、新しい群は夜臼II式に並行するものと考えられる。この後にSH1110出土土器や丹塗磨研壺などが続くものと思われ、板付I～IIa式並行期と推測される。また、朝鮮系無文土器の可能性があるもの（438）が出土しているが、その当否を含め今後の検討課題である。

さて、晩期中葉のSK1133から刻目突帯をもつ土器（99）が出土している。口縁部がわずかに残存するだけであるため、詳細は不明であるが、突帯の貼り付け方は通有の突帯文とは異なるようで、刻目もやや大きく、古い特徴をもつ可能性がある。ただ、浅鉢は突帯文期直前のものではなく、また一括性に欠ける資料でもあるので、混入の可能性が高いと判断したい。なお、時期によって分布域が異なり、出土状況から細かな時期差を抽出できる可能性があり、今後さらに整理・分析を進めていきたい。

石器については、組成が同時代の平野部や海岸部と大きく異なる。打製石器を主とする剥片石器とその製作に伴う資料が大多数を占める一方、石斧・磨石等の磨製石器・礫石器が極端に少なく、磨製穂摘具を初めてとする大陸系磨製石器がまったく存在しないなど、狩猟具に著しく偏っている。

このように、東畠瀬遺跡1区の縄文時代後期末～弥生時代前期の集落は、確實な堅穴住居がほとんど確認されていないことや石器組成の点などからみて、定住生活を営んでいた場所というよりは一時的な居住地であったものと推測される。

2) 1区の中世前期屋敷地について

中世前期の屋敷地が確認された1区一帯の扇地は、約110×25m、およそ1町×1/4町に相当する規模である。検出された建物の主軸もおむねこの区域の方向と合っていて、屋敷地が廃絶した後も大幅な地形の変化は行われていないようである。遺構の広がりや地形の状況からして、東畠瀬遺跡1区では中世前期の屋敷地主要部をほぼ完掘したものと考えられるが、屋敷地を囲繞する区画溝や連続した柵列などは確認されなかった。

1区から出土した遺物の年代は、平安時代末～鎌倉時代初期の12世紀後半頃から鎌倉時代末～南北朝初期の14世紀前半までに集中し、それ以外の資料は僅かである。主な遺構から出土した遺物も中世後期のSX1015と近世の護岸状遺構を除いてこの時期のものであり、鎌倉時代とその前後に営まれた屋敷地であることが判る。

掘立柱建物から出土した遺物は大きく2つの時期に分離でき、SB1025・1026からは平安時代末期～鎌倉時代前期、SB1023・1027・1028・1030からは鎌倉時代後期～南北朝時代初期とみられる遺物が出土している。掘立柱建物には桁行3間以上のもの（大）と桁行2間以下のもの（小）とがあり、主軸方向が判断しやすい桁行3間以上の建物で見ると、平安時代末期～鎌倉時代前期には東西棟であったものが、鎌倉時代後期～南北朝時代初期には南北棟へと変化したようである。土坑墓SP1009は掘立柱建物の配置が大きく変わった鎌倉時代後期～南北朝時代初期と同時期とみられるので、これが屋敷の創始あるいは中興に関わる人物を葬った屋敷墓であるとすると、屋敷地の構造変化は主体者の交替に起因するものと推測できる。

鎌倉時代前後の畠瀬地区は肥前安富荘に含まれていたとみなされるので、東畠瀬1区における屋敷地の盛衰は、宮武（1991）で示された肥前安富荘の領有形態の変遷と連動する可能性がある。「畠瀬」の史料上の初見でもある暦応2（1339）年4月25日石志定阿讓状案（石志家文書）によれば、松浦党一族である石志定阿が嫡子である熙に「安富庄内畠瀬村、同村内火桶」等の田地屋敷を、庶子の披に「安富庄畠瀬村内上於副河」を譲り与えている。これにより安富庄畠瀬村が現在の富士町畠瀬から上小原川までの範囲に及んでいたことが判るが、畠瀬村の中核となる区域はその名が示す「畠瀬」の地であったろう。現在までの調査所見による限り、鎌倉時代前後に営まれた屋敷地は東畠瀬遺跡1区と西畠瀬遺跡4・5区一帯にあり、どちらも鎌倉後期～南北朝初期に盛期があるようである。石志氏は安富庄畠瀬村を「恩賞之地」として獲得しており、元寇恩賞地もしくは鎌倉幕府滅亡後の動乱に際して配分されたものと思われるが、畠瀬地区との関わりはまさに鎌倉後期～南北朝初期に始まるとしてよい。石志氏が拝領した恩賞地に東畠瀬1区が含まれていたと断定することはできないが、鎌倉後期～南北朝初期における東畠瀬遺跡・西畠瀬遺跡の屋敷地が松浦党一族の所領經營と関わるものである可能性は高いものと考えられる。

3) 3区の中世～近世神社について

地元での言い伝えによれば、3A区南東部の平場は八龍社という神社の跡であるとされていた。嘉瀬川ダム建設に伴う民俗調査での聞き取りによると「東畠瀬には元々はお宮が二つあって、一つは現在の豊福さん、もう一つはハチリョウサン（八龍さん）と呼ばれるものであった。現在、ミヤバタケと呼ばれている畠の所にあった。お宮が合祀されたので畠にしていた。」という（嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会2000）。安永3（1774）年に宗源院住職が書き上げた差出（『寺社差出 曹洞宗由緒』所収）には宗源院管下として「八龍神」が記され、江戸時代後期と推定される『佐賀郡佐賀山内図』の畠瀬村には今回の調査区のあたりに「八龍社」の社殿と集落から社に向かう路が描かれている。以上から、八龍社の社殿は遅くとも18世紀後半には存在し、明治から大正頃のある時点豊福宮と合祀され解体されたものなのようである。

出土遺物については、1) 中世前期から近世までの長期間におよぶ、2) 土師器杯・小皿を中心で、特に中世の陶磁器類は欠如する、3) 仏花瓶と思われる陶磁器や線香立ての類かと思われる箱形の瓦器等、神仏に供える器がある、などの特徴がある。こうした遺物の様相から、中世前期から通常の居住空間ではなく神仏に関わる場として使われていたものと判断できるが、近世後期に存在した八龍社の起源を果たしてそこまで遡らせることができるかは判らない。

調査着手前の八龍社跡は、既に耕作が放棄され竹林の一部と化した状態であったため、遺構面の擾乱が著しく各時代の出土遺物が混在していた。また、掘立柱建物の柱穴内から遺物が出土しなかったため、今回の発掘調査で確認された掘立柱建物が、いつの段階の社殿であるかは断定が困難である。ただ、土師器杯・小皿の中でもっとも多いのが中世後期～近世初期とみられる一群であることと、建物の構造が掘立柱である点を考慮すると、中世後期～

近世初期の社殿であった可能性が強い。神崎市横武城跡でも、現存していた神社（乙龍社）の下層遺構として掘立柱建物が検出され、中世後期を主とする大量の土器器杯・小皿が出土している（神崎町教委 1997）。時代相としても八龍社跡に近く、遺構・遺物の様相が類似する事例として挙げておきたい。

第3章 参考・引用文献

- 高瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『高瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会
- 神崎町教育委員会（1997）『横武城跡』 神崎町文化財調査報告書第 57 集
- 九州近世陶磁学会（2000）『九州陶磁の編年』
- 佐賀県教育委員会（1969）『寺ヶ里遺跡 2 区の遺構と遺物』『戦場古墳群』 佐賀県文化財調査報告書第 140 集
- 田中克子（2001）『博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁（その一）博多出土の薄胎施釉陶器（茶入）』『博多研究会』 第 9 号 博多研究会
- 太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡 XV—陶磁器分類編一』 太宰府市の文化財第 49 集
- 柳昌信（1984）『調文時代施釉の石器—西北九州における石器研究一』『史学論叢』 15 号
- 猪头貞昭（1990）『肥前ににおける中世後期の石地土器』『中近世土器の基礎研究Ⅴ』 日本中世土器研究会
- 富士町史編さん委員会（2004）『富士町史』 上巻。下巻 富士町
- 三日月町教育委員会（1996）『石木中高遺跡』 三日月町文化財調査報告書第 7 集
- 宮武正編纂（1991）『肥前國安富莊園原史料集』『本村遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会
- 宮武正登（1991）『本村遺跡をめぐる中世世界—安富庄内村落としての位置付け—』『本村遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会
- 森口勉（1982）『14～16 世紀の伊万里の分類と編年』『貿易陶磁研究』 No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 水ノ江和同（1997）『北部九州の制鉄後・晩明土器—三万田式から劍山突堤土器の直前まで—』『調文時代』 第 8 号 調文時代文化研究会

第4章 大野遺跡2・3区

第4章 大野遺跡2・3区

1 大野遺跡2・3区の概要

大野遺跡は、佐賀市富士町大字大野字一本松および大字下無津呂字一本松に所在する（図4-1）。

大野地区は、嘉瀬川支流神水川の中流域左岸に位置し、東側の山塊と西側を南流する神水川との間に開けた河岸段丘から山麓部の斜面にかけて集落と耕地が展開している。

今回の調査区のすぐ背後にある臨濟宗金福寺は正応3（1290）年創建と伝え、川を挟んだ対岸にあたる中原地区的薬師堂には平安時代後期の作とみられる薬師如来像（佐賀県重要文化財）が安置されている。また、近年の調査により大野遺跡や対岸の中原遺跡・フルタ遺跡で中世集落遺構の存在が明らかになり、大野・中原地区が中世以降における地域の中核的な区域であったことが判明しつつある。藩政期の大野地区は小城鍋島家（小城支藩）領の山内郷に属しており、江戸時代後期には山内支配のための代官所が大野地区にあった。大野代官所跡には支藩の代官所には似つかわしくない規模・構造の石垣が現存するが、代官所設置の経緯や時期などについては不明な点が多い。大野遺跡では、これまでに嘉瀬川ダム建設事業に伴い1～4区の発掘調査を実施し、縄文時代の集落跡・中世～近世の集落跡・建物群などを確認している。これまでの調査所見によると、中世の集落は主として神水川に近い河岸段丘上に展開し、中世後期～近世にかけて居住域の中心が山麓部に移行したものようである。

大野遺跡2・3区は、2区が大字大野、3区が大字下無津呂の範囲にあり、遺跡の北端部にあたる。調査年度が違うため区分しているが、位置的にも遺跡の内容においても一連のまとまった調査区である。神水川に接する河岸段丘上の標高300～303mの区域で、背後には一段高い段丘面があるものの、山崩に張り付いた狭小な場所にある（図4-2）。検出した遺構・遺物は、厚さ50cm前後の無遺物層を挟んで上層と下層に分けられる。

下層からは縄文時代後期の集落跡が見つかった。遺構は、竪穴住居1棟、地床炉の可能性がある焼土遺構21基、土坑5基、集石1基、炭化物集中2箇所があり、3区を中心として2区北東端部までの狭い範囲に集中している（図4-3）。遺物の出土状況（図4-5・6）や周囲の地形を考慮すると、今回の調査により小規模な集落跡をほぼ全掘したものと考えられる。遺構と遺物包含層の層位関係は図4-7に示すように安定しており、後世の土地利用による影響はあまりない。5層～10層が縄文時代の遺物包含層にあたるが、その間に自然災害などの要因によりごく短期間に形成されたとみられる遺物を含まない花崗岩風化土（7層）が部分的に堆積している。出土土器は、後期後葉の三万田式単純に近い様相を示しており、集落の存続期間は短かったと考えられる。石器は、削器などの刃器類を主体として石礫や磨石・石皿などがあるが、器種はやや限られていて出土量も多くない。

上層の主体となるのは近世初期と考えられる企画的な建物群で、軸を揃えた大型の掘立柱建物4棟と柵列2条などからなり、遺構の分布は2区北半部から3区に集中している（図4-31・32）。少量ではあるが遺構内から出土した遺物は16世紀～17世紀初頭のもので、建替えも認められることから、ごく短期間に使用された建物群であることがうかがえるが、その規模や強い企画性を考えると通常の集落・民家とは考えられず、何らかの政治的情図によって設置された役所的な施設であろう。

上層では近世初期の建物群の他に古墳時代の土坑や中世前期の土坑などを検出し、水田の造成土や搅乱などから弥生土器や高麗青磁、近世後期の土器・陶磁器も出土した。特に弥生時代～古墳時代の資料は、脊振山間部における当該期の様相を知る手がかりとして重要である。



図4-1 大野遺跡周辺の地形 (1/5,000)

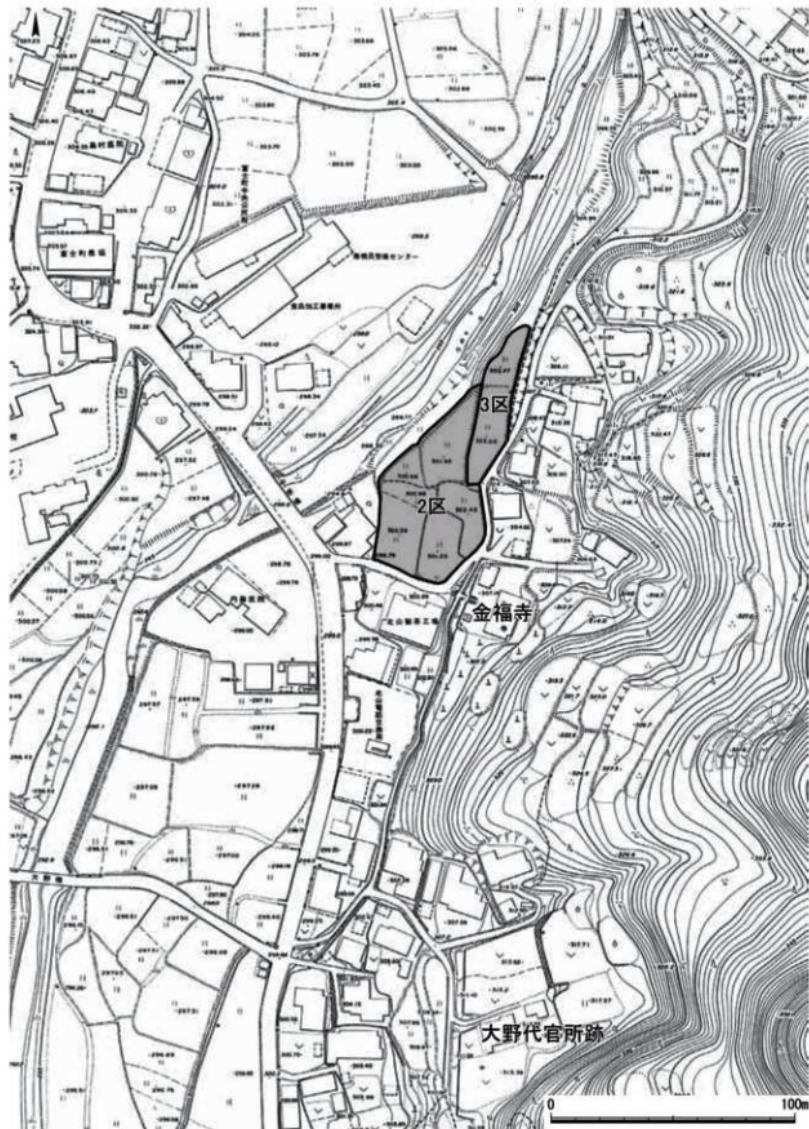


図4-2 大野道路2・3区の位置 (1/2,000)

2 縄文時代の遺構と遺物

1) 縄文時代の遺構と遺構出土遺物

大野遺跡2・3区で検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居1棟、土坑5基、地床炉かと思われる焼土遺構21基、集石1基、炭化物集中2箇所である。縄文時代後期後葉の三万田式期に営まれた集落跡の居住域をほぼ完掘したと考えられるが、石器には同時期としては明らかに欠落する器種があり、当該期における集落の一つのありかたを示すに過ぎない。

竪穴住居（図4-8）

竪穴住居としたのはSH3020の1棟のみである。

SH3020（図4-8）

3区のA2・A3・Z2・Z3区画に位置する。長軸4.60m、短軸3.18mで、平面はやや東西に長い楕円形である。深さは0.08m前後と浅く、壁面は緩やかに立ち上がる。明確な硬化面や主柱穴は検出できなかったが、中央には屋内炉と考えられる長軸0.60mの焼土を含む浅い掘りこみがあり、竪穴住居として報告する。理土は炭化物を多く含むやや粘性の強い黒褐色砂質土である。埋土中から縄文時代後期後葉の土器が多数、削器・剥片少量、両端抉入石器1点が出土した。また、今回の報告には間に合わなかったが、埋土を洗浄して抽出した炭化物の中に種実の可能性があるものがあり、同定・分析を依頼中である。

SH3020出土遺物（図4-13～15）

1～41は縄文土器である。1・2は、外傾して大きく開きながら立ち上がる精製の浅鉢形土器（以下、○○形土器は○○と略す）で、口縁部が内側に強く屈曲して逆く字形をなす。器面調整はヘラミガキで、口縁部外面に3条の並行沈線文を巡らせる。1は並行沈線文に加えて縱長の凹点文を屈曲部に施す。3は、口縁部を緩く屈曲させる無文の精製浅鉢である。器面調整は丁寧なナデで、口縁端部は面取りする。4は、胴部で屈曲した後、口縁部が短く外反して聞く精製浅鉢である。胴部の屈曲部上位に2条の並行沈線文を巡らせ、器面調整はヘラミガキである。5・6は、底部から僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がる無文の精製浅鉢で、器面調整はヘラミガキである。7は胴部で屈曲し、頸部が外傾気味に上方に立ち上がり、口縁部で内折する精製の鉢である。器面調整はヘラミガキで、胴部屈曲部の上位に3条の並行沈線文を巡らせ、その間に羽状細沈線文を施す。口縁部外面の内折部にも2条の並行沈線文と羽状細線文を施し、円形の凹点文と細長い凹点文を縦列に配して、並行沈線文を区切っている。SX3019出土の破片と接合した。8・9は、丸い胴部の上で強く括れ、頸部は開きながら立ち上がり、口縁部が短く内折する精製の鉢である。器面調整はヘラミガキで、口縁は4單位と思われる山形口縁である。8は、口縁部外面の内折部に横走沈線文を巡らせるが、胴部は無文である。9は、胴部上位にX字状文で区画される横走沈線文を巡らせ、更に左下がりの羽状細沈線文を無文部と交互に加える。口縁部外面の内折部にも3条の並行沈線文を施し、山形口縁の頂部には並行沈線文を区切る縱方向の短い沈線文を配す。また、口縁部内面にも1条の並行沈線文を施している。10～29は粗製深鉢で、器面調整は条痕なし粗いナデ調整である。30～41は底部で、30～32は器面調整がナデで精製浅鉢か鉢の底部、33～41は器面調整が条痕か粗いナデで粗製深鉢の底部と思われるものである。

42～48は石器である。42～44は黒曜岩製の微細剝離痕ある剥片、45～47は無斑品質安山岩製の削器である。48は両端抉入石器で、一方の端部を欠失する。両側縁がほぼ並行し、抉りを入れた端部から括れずに続く。横断面は半レンズ状で、図示した左側の面は曲面であるが、その裏面は平坦に作る。曲面をなす側の面には両方の側縁に並行する段があり、研磨による仕上げの途上で折損した未製品である可能性を示している。

大野道路2・3区

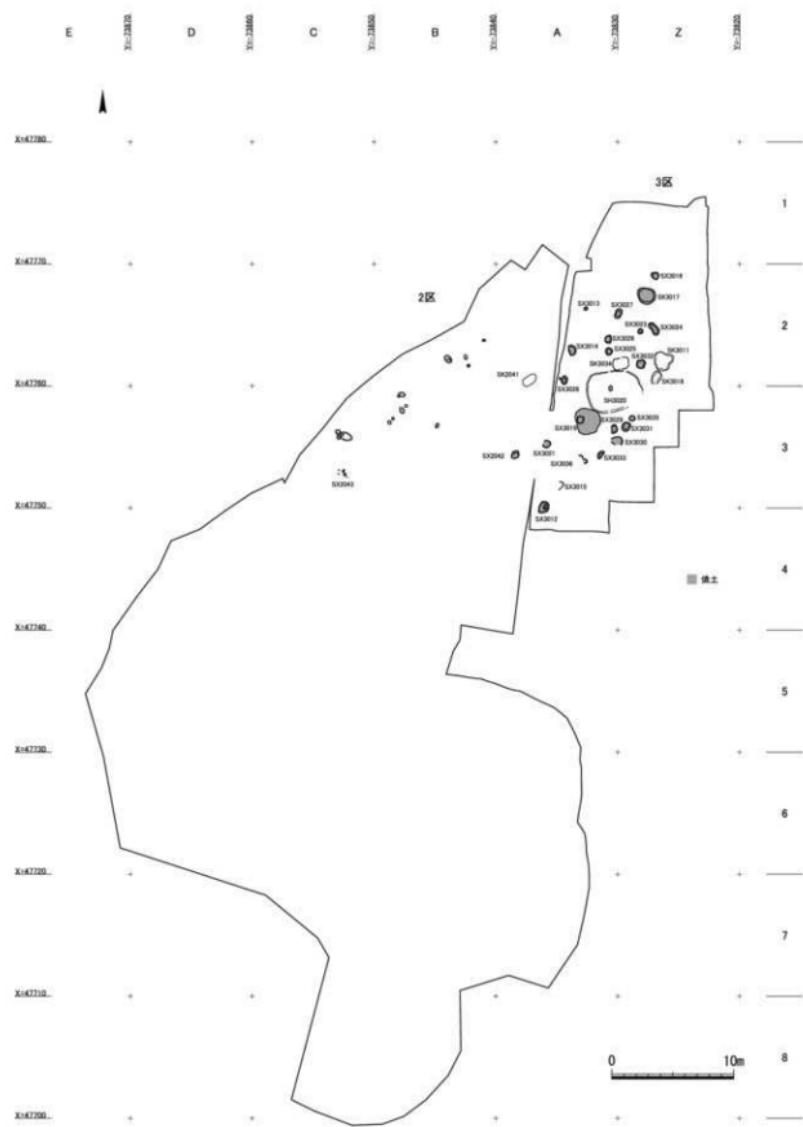


図4-3 2・3区縄文時代遺構の分布 (1/400)

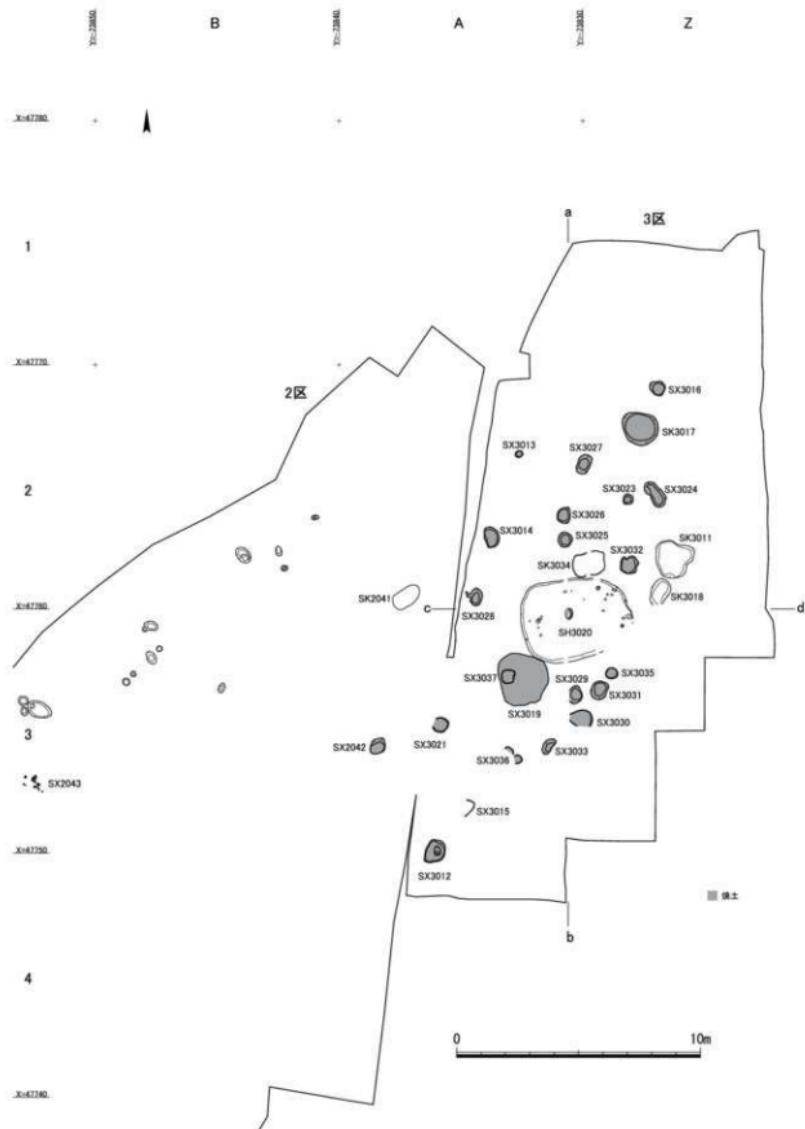


図4-4 2・3区縄文時代遺構の分布 (1/200)

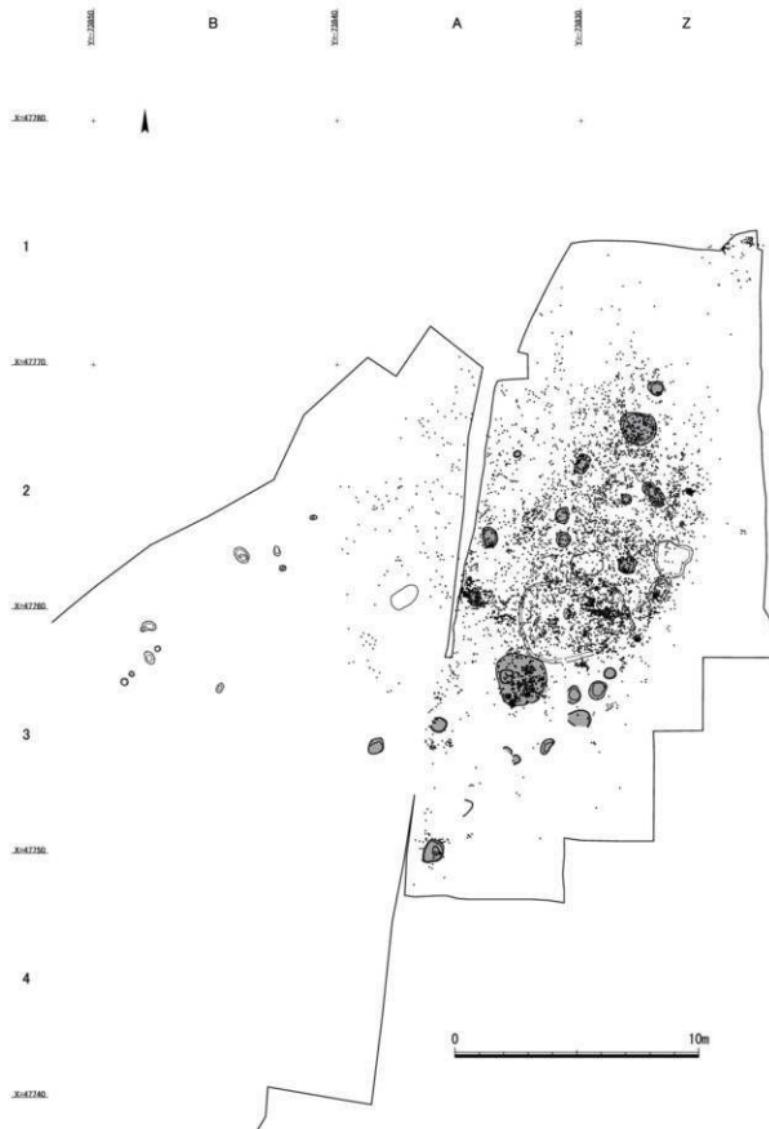


図4-5 2・3区縄文時代土器の分布 (1/200)

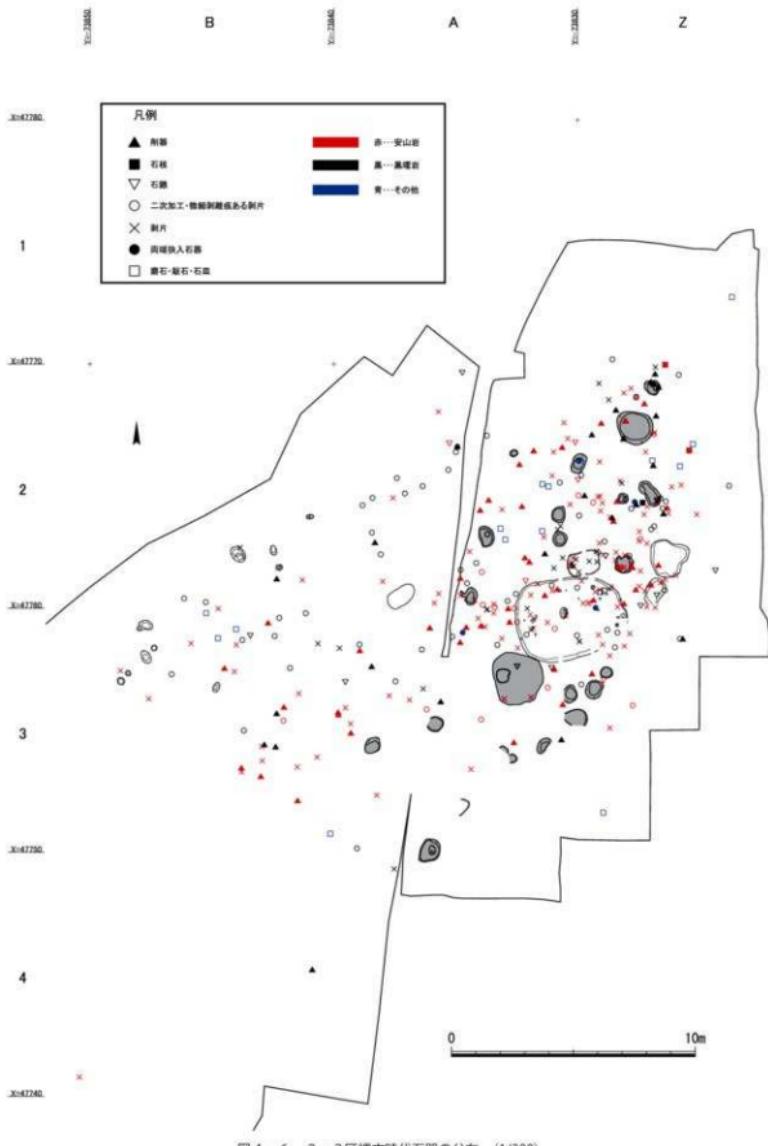


図4-6 2・3区縄文時代石器の分布 (1/200)

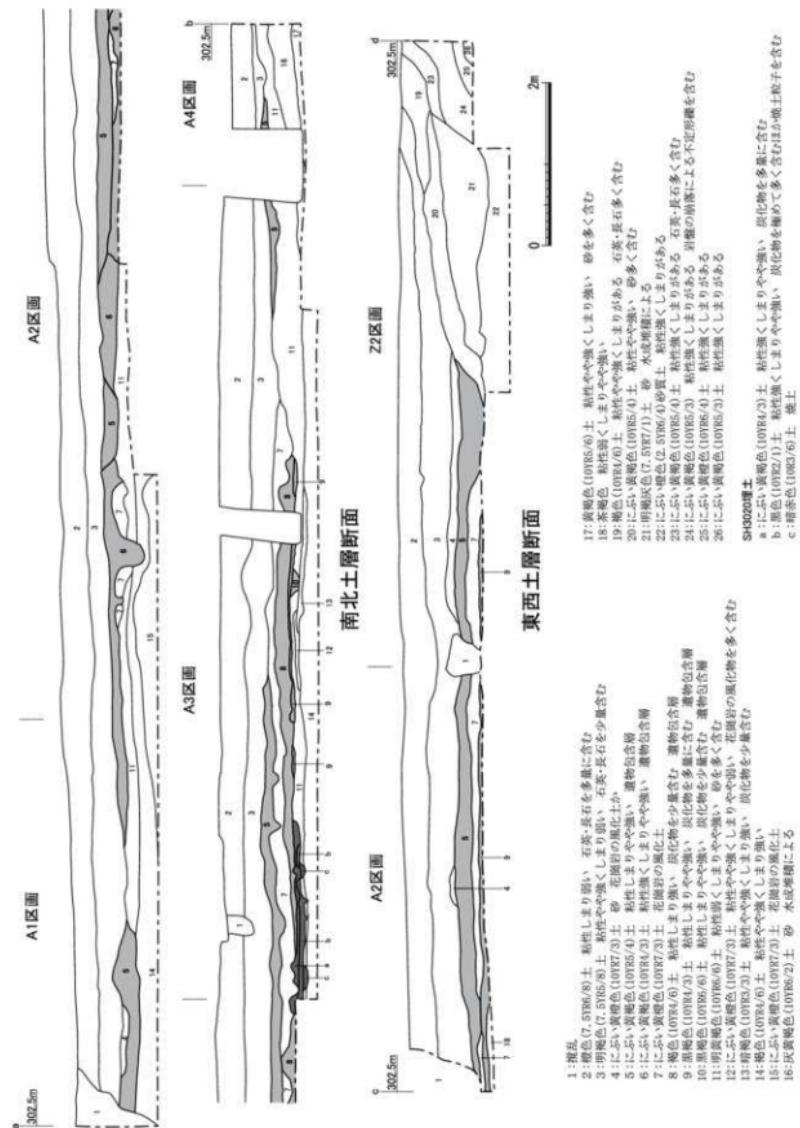


図4-7 2・3区縄文時代の土層 (1/60)

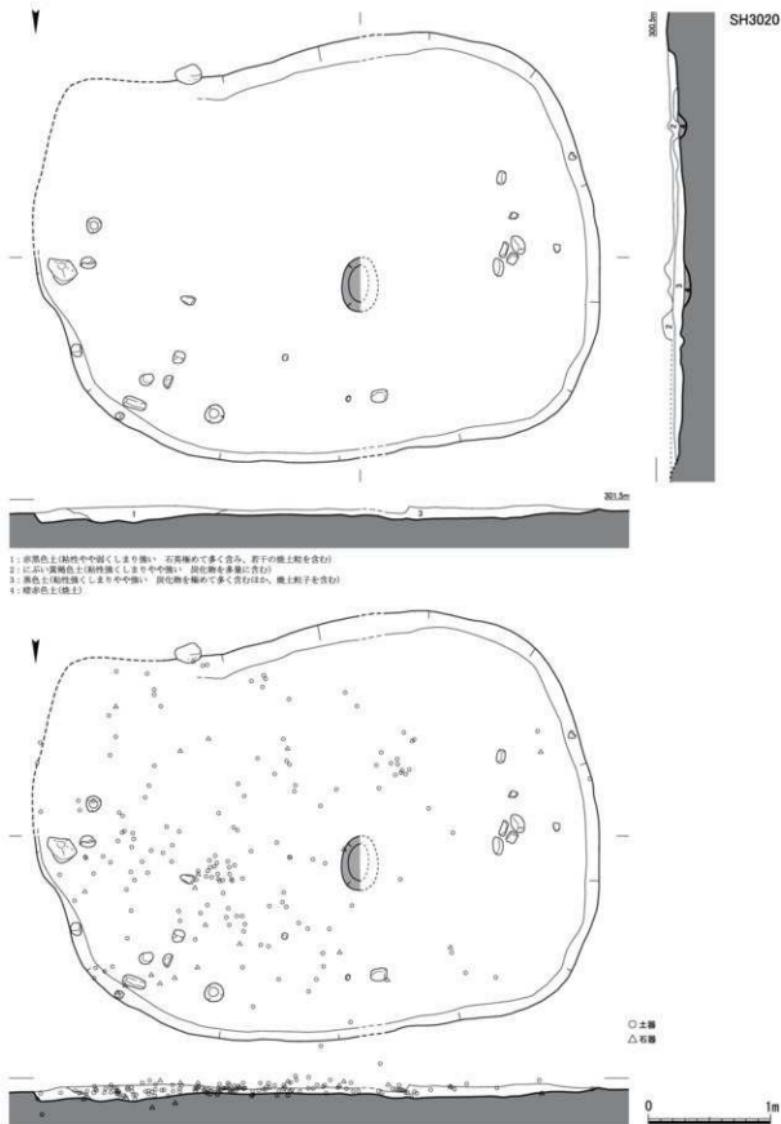


図4-8 2・3区縄文時代の竪穴住居 (1/40)

土坑（図4-9）

土坑としたのは5基である。掘り込みのしっかりしたものと浅いものがある。埋土中には量の多寡はあれ炭化物を含むが、まとまった焼土がみられないことで焼土遺構としたものと区別している。

SK2041（図4-9）

2区北東端部のA2・A3区画に位置する。長軸1.24m、短軸0.72m、深さ0.18mで、平面は長楕円形である。下部は明瞭な面をなさず緩やかに立ち上がる。埋土中にやや浮いた状態で疊があり、更に上部で縄文土器片が散らばっていたが、この遺構に明確に伴う遺物はなかった。

SK3011（図4-9）

3区のZ2区画に位置する。長軸1.54m、短軸1.51m、深さ0.13m前後で、平面は不整円形である。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は炭化物を多量に含む粘性の強い灰黄褐色の砂質土である。縄文土器の小破片・剥片が出土したが、小片であり図示していない。

SK3017（図4-9）

3区のZ2区画に位置する。長軸1.46m、短軸1.35m、深さ0.07m前後で、平面は不整楕円形である。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は灰黄褐色砂質土で炭化物を少量含む。遺物は出土しなかった。

SK3018（図4-9）

3区のZ2区画に位置する。長軸1.14m、短軸0.73m、深さ0.12mで、平面は不整長楕円形である。埋土は2層に分けられ、上層の灰黄褐色砂質土は粘性が強く炭化物を多量に含む。遺物は、上層から縄文土器片・剥片が少量出土したのみである。

SK3018出土遺物（図4-15）

49は無文の精製浅鉢で、器面調整はヘラミガキである。底部から僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がるボウル形である。50・51は粗製深鉢の口縁部である。52は黒曜岩製の微細剥離痕ある剥片である。

SK3034（図4-9）

3区のA2・Z2区画に位置する。長軸1.32m、短軸0.92m、深さ0.07mで、平面は不整隅丸方形である。壁面は東側と西側で明確に立ち上がるが、北側と南側では不明瞭である。埋土は灰黄褐色砂質土で炭化物を多量に含む。縄文土器が少量出土した。

SK3034出土遺物（図4-15）

53は粗製深鉢の口縁部である。

焼土遺構（図4-10～12）

焼土遺構としたのは浅い掘り込みに焼土が堆積した21基であり、熱による硬化のみられるものもあった。焼土の状況は個々の遺構により異なり、個別遺構図中に埋土の所見として記載している。地床炉の可能性が高いと考えられ、今回の調査で検出した縄文時代遺構の大部分を占める。窓穴住居の残骸でもないようで、大野遺跡2・3区において頻繁に設営された屋外炉とみなされる。

SX2042（図4-10）

2区北東端部のA3区画に位置する。長軸0.62m、短軸0.60m、深さ0.08mで、平面は不整楕円形である。

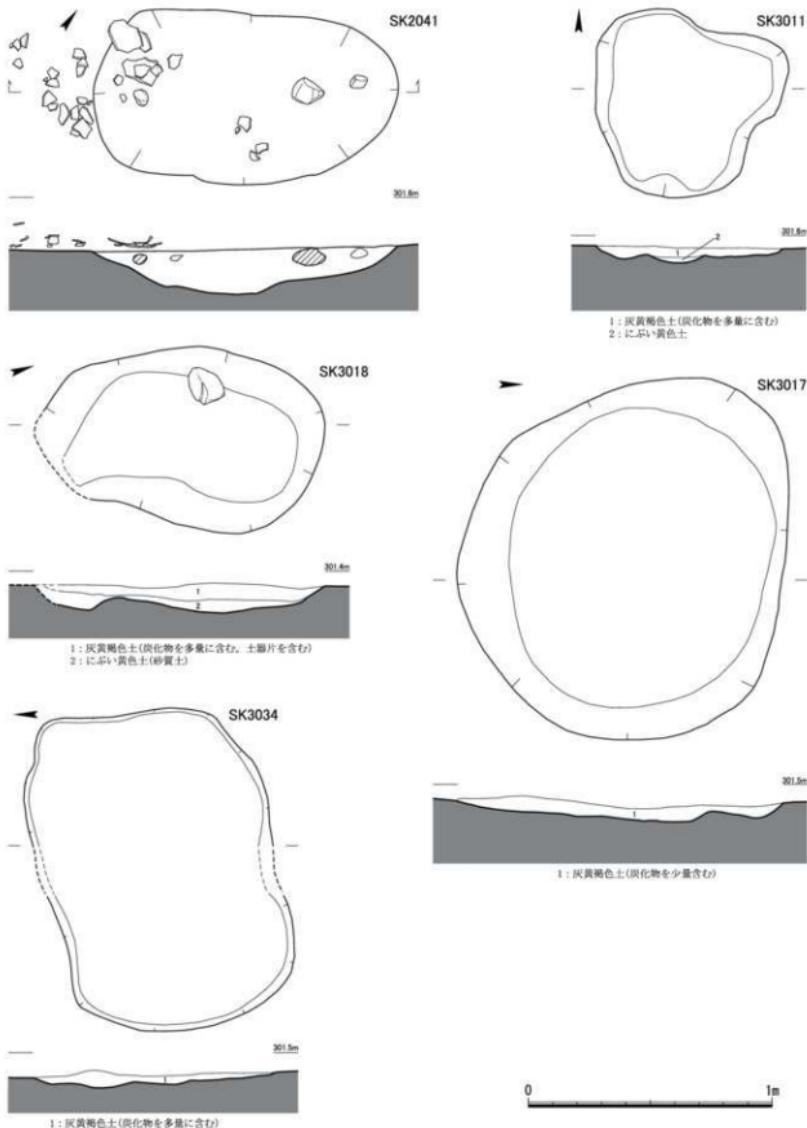


図4-9 2・3区縄文時代の土坑 (1/20)

浅い皿状の掘り込みに焼土を含む層があり、掘り込みを覆うように礫がまとまっていた。また、縄文土器や石器類の破片が礫とともに少量散在していたが、この遺構に伴うものかどうか判らない。

SX3012 (図4-10)

3区のA2・A3区画に位置し、縄文時代遺構分布の南端にあたる。長軸0.90m、短軸0.80m、深さ0.25mで、平面は不整な卵形である。埋土の第2層が被熱により硬化した状態であった。遺物は縄文土器小破片が1層から出土したのみで、小片であり図示していない。

SX3013 (図4-10)

3区のZ2区画に位置する。長軸0.33m、短軸0.29m、深さ0.02mで、平面は梢円形である。遺物は出土しなかった。

SX3014 (図4-10)

3区のA2区画に位置する。長軸0.85m、短軸0.63m、深さ0.20mで、平面は不整な長梢円形である。遺物は出土しなかった。

SX3016 (図4-10)

3区のZ2区画に位置し、縄文時代遺構分布の北端にあたる。長軸0.65m、短軸0.60m、深さ0.10mで、平面は不整梢円形である。内部には焼土が厚く堆積していた。遺物は出土しなかった。

SX3021 (図4-10)

3区のA3区画に位置する。長軸0.64m、短軸0.64m、深さ0.06mで、平面は不整円形である。内部には強く焼けた焼土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

SX3023 (図4-10)

3区のZ2区画に位置する。長軸0.42m、短軸0.40m、深さ0.09mで、平面は不整圓丸方形である。遺物は出土しなかった。

SX3024 (図4-10)

3区のZ2区画に位置する。長軸1.16m、短軸0.46mで、平面は不整長梢円形である。遺物は出土しなかった。

SX3025 (図4-11)

3区のA2区画に位置する。長軸0.62m、短軸0.56m、深さ0.13mで、平面は円形である。遺物は出土しなかった。

SX3026 (図4-11)

3区のA2区画に位置する。長軸0.68m、短軸0.56m、深さ0.20mで、平面は不整円形である。検出面にある礫には赤化など被熱の痕跡は認められなかった。遺物は出土しなかった。

SX3027 (図4-11)

3区のA2・Z2区画に位置する。長軸0.83m、短軸0.53m、深さ0.05mで、平面は不整梢円形である。検出面

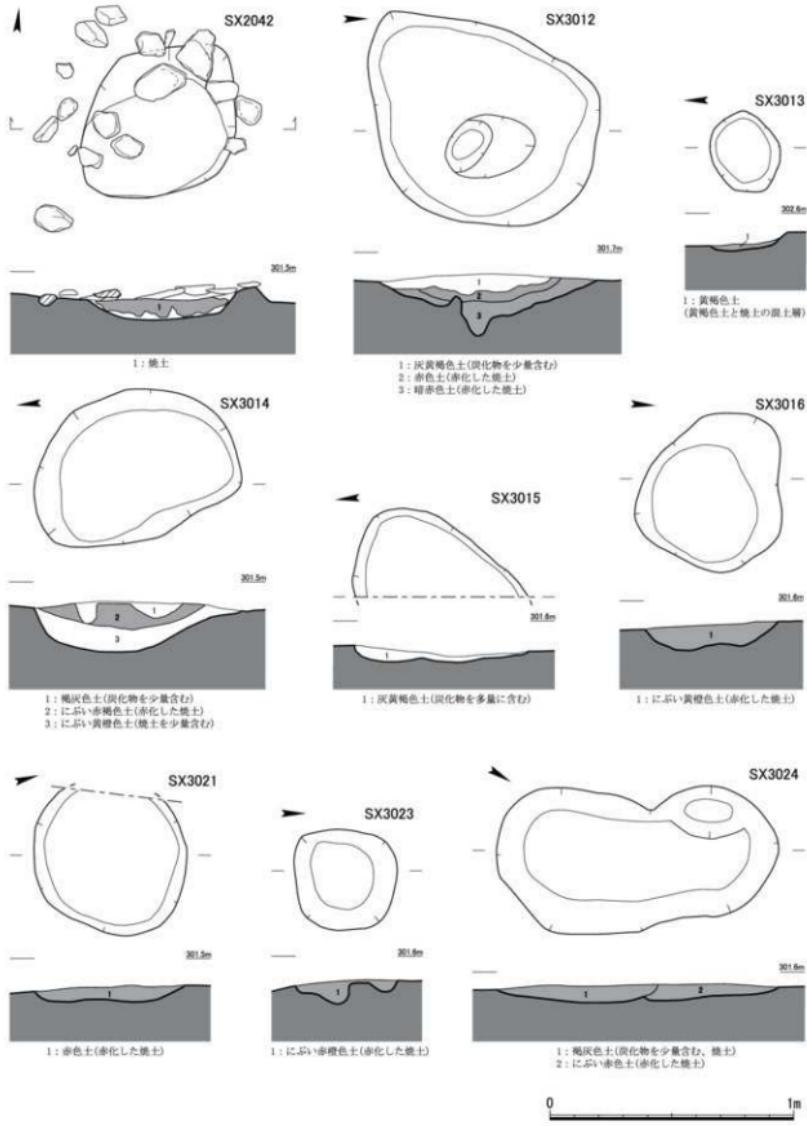


図4-10 2・3区縄文時代の焙土遺構ほか1 (1/20)

にある礫には赤化など被熱の痕跡は認められなかった。遺物は完形の両端抉入石器が出土した。

SX3027 出土遺物（図 4-15）

57 は両端抉入石器である。全体に丁寧な研磨により仕上げられているが、両面とも真っ平らではなく、やや起伏のある面となっている。両端の抉りはやや浅く、端部の角もあり強調されていないが、両端から中央に向かって両側縁が膨らみ中央部付近で幅が最大となる。片側の端部近くに主軸に直行する帯状の異色部が 2 条ほど観察され、使用時の緊縛痕が被熱などの要因で残されたものの可能性がある。

SX3028（図 4-11）

3 区の A2 区画に位置する。長軸 0.73m、短軸 0.70m、深さ 0.10 m ほどで、平面は不整な楕円形である。強く焼けた焼土が堆積していた。遺物は縄文土器片少量と剥片が出土した。

SX3028 出土遺物（図 4-15）

54 は精製鉢の口縁部で、山形口縁の外面端部近くに 2 条の並行沈線文を巡らせる。器面調整はヘラミガキである。

55・56 は粗製深鉢の口縁部である。

SX3029（図 4-11）

3 区の A3 区画に位置する。長軸 0.75m、短軸 0.52m 以上、深さ 0.07m で、平面は不整楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3030（図 4-11）

3 区の A3・Z3 区画に位置する。長軸 0.97m 以上、短軸 0.67m 以上、深さ 0.05m で、平面は卵形である。遺物は出土しなかった。

SX3031（図 4-11）

3 区の Z3 区画に位置する。長軸 0.78m、短軸 0.65m、深さ 0.06m で、平面は不整な卵形である。遺物は出土しなかった。

SX3032（図 4-11）

3 区の Z2 区画に位置する。長軸 0.75m、短軸 0.70m、深さ 0.12m で、平面は不整な円形である。埋土下層は強く焼けた焼土で、上層は炭化物を多量に含む暗赤灰色土であった。遺物は出土しなかった。

SX3033（図 4-11）

3 区の A3 区画に位置する。長軸 0.72m、短軸 0.37、深さ 0.04m で、平面は不整な長楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3035（図 4-12）

3 区の Z3 区画に位置する。長軸 0.52m、短軸 0.40m、深さ 0.07m で、平面は円形である。遺物は出土しなかった。

SX3036 A・SX3036B（図 4-12）

3 区の A2 区画に位置し、中世の柱穴で壊されている。埋土は炭化物を多量に含み 1cm 程の焼土塊を含むなどほぼ同様であるが、隣接する別々の遺構である可能性があるため SX3036 A・SX3036B として報告する。SX3036

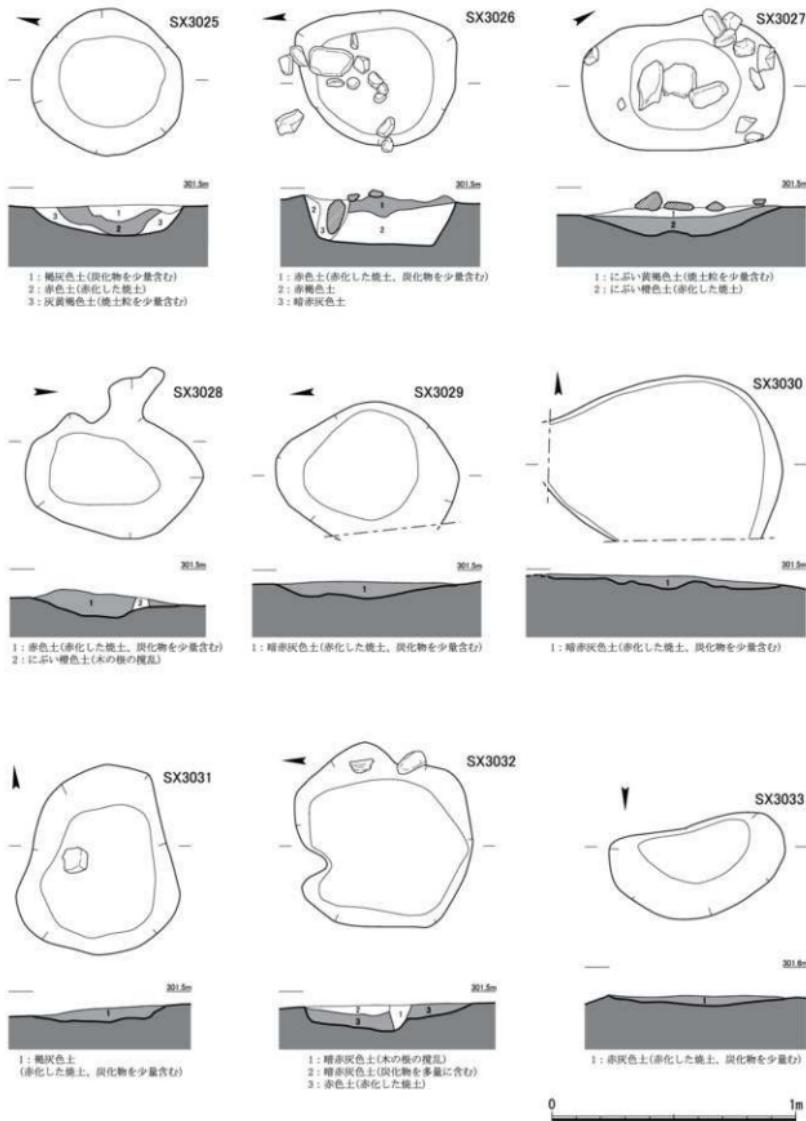


図4-11 2・3区縄文時代の塙土遺構ほか2 (1/20)

A は長軸 0.44 m、短軸 0.17 m 以上、深さ 0.04 m、SX3036B は長軸 0.31 m 以上、短軸 0.37 m、深さ 0.05 m で、平面は円形ないし梢円形と思われる。遺物は出土しなかった。

SX3037 (図 4-12)

3 区 A3 区画に位置する。炭化物集中 SX3019 の下部で検出した。長軸 5.40 m、短軸 5.15 m、深さ 0.05 m で、平面は不整な隅丸方形である。遺物は出土しなかった。

集石 (図 4-12)

1 基のみ検出した。調査時の記録に礫の状態に関する記載がないため、焼礫集積遺構の類であるかどうかは判断できない。

SX2043 (図 4-12)

C3 区画に位置する。東西 0.85 m、南北 0.69 m の範囲に拳大ほどの礫が 20 数個まとまるもので、掘り込みなどは確認されなかった。遺物は出土しなかった。

炭化物集中 (図 4-10・12)

焼土は含まないが多量の炭化物を含む層が広がる 2箇所を炭化物集中として報告する。

SX3015 (図 4-10)

3 区の A3 区画に位置する。長軸 0.70 m 以上、短軸 0.35 m 以上、深さ 0.03 m で、掘り込みが浅いため調査時に遺構の西側を検出できなかった。炭化物を多量に含むが、焼土は確認していない。遺物は出土しなかった。

SX3019 (図 4-12)

3 区の A2 区画に位置し、SH3020 の南西に接する。長軸 2.19m、短軸 2.05m の不整円形の範囲に炭化物を多量に含んだ赤灰色土が土器を伴い薄く堆積するもので、明確な掘り込みは認められなかった。縄文土器片と削片が出土し、SH3020 出土土器と接合するもの（図 4-13-7）もあった。

SX3019 出土遺物 (図 4-16)

58・59 は精製鉢の口縁部である。頸部から外傾して立ち上がった後、口縁部で短く内折する。器面調整はヘラミガキで、口縁部外面に 2 条の並行沈線文を巡らせる。59 は文様帯下端の屈折部に縦長の凹点文を加えている。60～64 は粗製深鉢である。65 は黒曜岩の石鎌で、凹基である。

2) 縄文時代の遺構外出土遺物

縄文土器 (図 4-16～25)

66～77 は、底部から大きく外傾して開き、口縁部が逆く字形に屈曲する精製浅鉢で、器面調整は丁寧なヘラミガキである。口縁部外面に 3 条の並行沈線文を巡らせる。並行沈線文の間に羽状細沈線文を施すものや、縦方向の短沈線文や縦列の円形凹点文で並行沈線文を区切るものがある。69・71～73・75 には赤色顔料の痕跡が観察される。

78～89 は、屈曲する胴部で屈曲して文様帯を巡らせた後、再び屈曲して頸部から口縁部へと外傾ないし外反しながら立ち上がる精製浅鉢である。大きさや器形はさまざまでおそらく数種に分けられるが、一括して説明する。器面調整は丁寧なヘラミガキである。胴部の屈曲部上位に 3 条程度の並行沈線文を巡らせた文様帯があり、並行沈

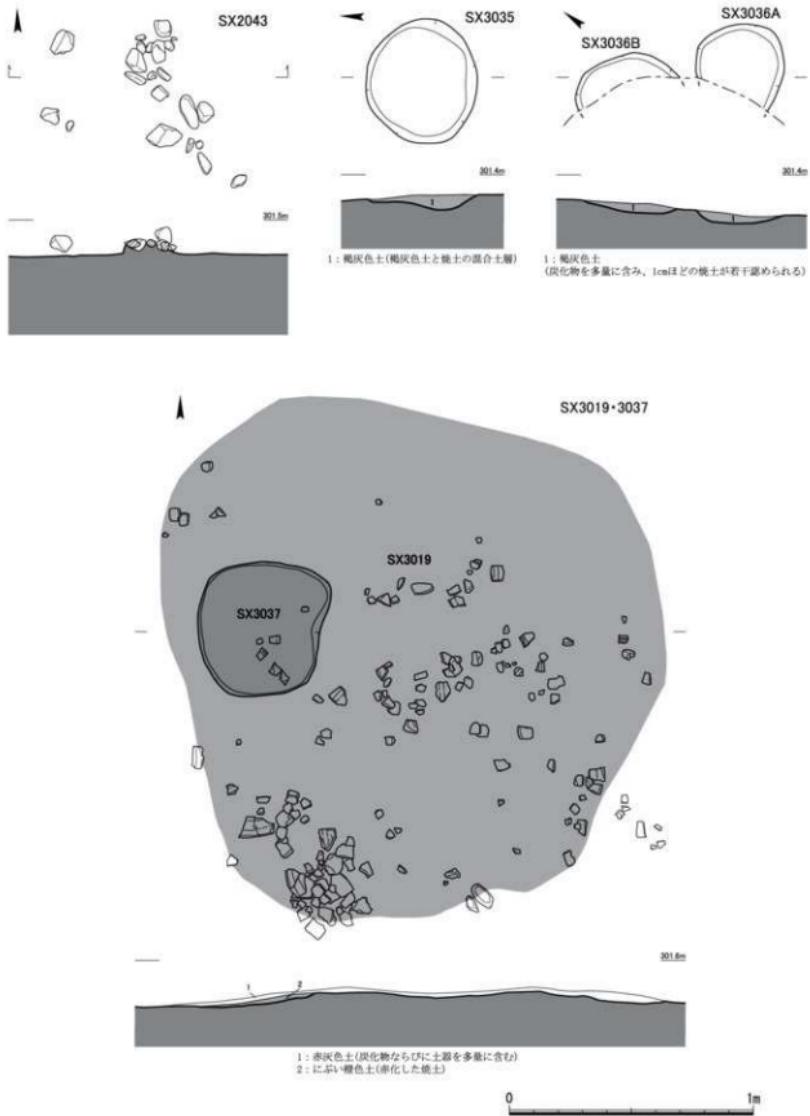


図4-12 2・3区縄文時代の焼土遺構ほか3 (1/20)

線文の間に羽状細沈線文を加えるものや貝压文で区切るものがある。口縁部外面は無文であるが、口縁部内面に1~2条の並行沈線文を巡らせるものがある。79と89、81と86、84と85はそれぞれ同一個体である。78・83・84・86には赤色顔料の痕跡が観察される。

90~102は、やや内湾気味に大きく開きながら立ち上がり、口縁部が短く内湾ないし内折する無文の精製土器で、数は少ないが山形口縁のものもある。浅鉢として図示したが、鉢を含む可能性がある。器面調整はヘラミガキによるものとナデによるものとがある。

103~107は、底部から直線的ないし僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がるボウル形の無文浅鉢である。器面調整はヘラミガキによるものとナデによるものとがある。

108は、ボウル形に近い器形であるが、胴部がやや膨らみ口縁部が僅かに外反する無文浅鉢である。器面調整はヘラミガキである。

109は、胴部で屈曲して口縁部が短く外反する小型の精製浅鉢で、78~89に比べて頸部が短く、屈曲部上位の文様帶は横走沈線文1条のみである。器面調整はヘラミガキである。

110~112は、丸みを帯びる胴部から強く屈曲して口縁部が外方に立ち上がる精製の鉢である。胴部最大径より上位に文様帶があり、並行沈線文とその間を埋める羽状細沈線文が施される。口縁部が遺存する112は短く内折する口縁部外面に1条の横走沈線文を巡らせる。110と112は同一個体である。

113~117は、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる精製浅鉢として図示したものであるが、いずれも破片資料であるため、底部が単純にすぼまるもの以外に胴部が膨らむ浅鉢ないし鉢を含んでいる可能性がある。器面調整は丁寧なヘラミガキであるが、文様は少なく、口縁部内面に横走沈線文を1条巡らせるものがある程度である。

118~125は、丸みを帯びる胴部の上位で緩く括れた後、頸部が僅かに内湾しながら外傾して立ち上がり、口縁部で短く内湾ないし内折する無文の精製鉢である。山形口縁のものが多く、平口縁と見られるものは少ない。器面調整はヘラミガキないしナデである。

126~223は粗製の深鉢である。器面調整は貝殻条痕によるものや板ないし笠状工具の擦過痕を留めるもの、粗いナデを加えるものなどがある。口縁部が外反し、口縁下で緩く括れて胴部がやや張るものと、胴部から口縁部にかけて直線的ないし僅かに内湾気味に立ち上がる砲弾形のものの2種がある。これらの粗製深鉢には基本的に文様は施されず、器形も単純なものであるが、なかには山形口縁に作るもの(126)や口縁端部上面に刻みを施すもの(219~223)もある。129と133、142と222、145と146、166と168、195と199、173と201、206・207・210・217、224~226はそれぞれ同一個体である。

224~226は同一個体と思われる粗製深鉢で、緩く括れた頸部に横長の突起を貼り付けるものである。

227・228は、破片のため不明瞭だが、時期の降る可能性のある資料である。227は狭い口縁部文様帶がほぼ直立し、やや太い沈線文を施す精製土器で、口縁部下で括れる頸部をもつ。山形突起ないし山形口縁の頂部にあたり狭い文様帶に沈線文が巡るが、凹点文や頂部の切り込みは見られない。228は狭い口縁部文様帶が外反しながら立ち上がり、口縁部下で屈折する精製土器で、幅広で稜線を接する浅い平行凹線文と横長の精円形凹点文を施す。

229~280は底部破片である。229は、器面調整がヘラミガキの丸平底であり、精製浅鉢の底部と思われる。230~237は、器面調整がヘラミガキないしナデの平底であり、精製浅鉢ないし鉢の底部と思われる。238~280は、平底で器面調整が条痕ないし粗いナデの平底であり、粗製深鉢の底部と思われる。

石器(図4-25~30)

大野遺跡2・3区で出土した石器類は、既述した遺構出土分も合わせて、総数で322点である。このうち剥片石器とその石核・剥片が303点とほとんどを占め、磨製石器・礫石器は19点と少ない。当該期の遺跡に多い扁

平打製石斧は出土しておらず、嘉瀬川に面しているながら石錘もない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鐵が 17 点（うち黒曜岩 11 点、無斑品質安山岩 6 点）、削器・搔器が 71 点（うち黒曜岩 25 点、無斑品質安山岩 46 点）、微細剥離痕ある剥片・二次加工剥片が 77 点（うち黒曜岩 61 点、無斑品質安山岩 16 点）、剥片が 135 点（うち黒曜岩 29 点、無斑品質安山岩 106 点）、石核が 3 点（うち黒曜岩 1 点、無斑品質安山岩 2 点）であり、剥片石器類に占める剥片の割合が 4 割強とやや低く、削器や加工度の弱い刃器の類が 5 割近くにのぼる。剥片石器に用いられた石材は腰岳産の黒曜岩が 4 割・多久・小城産の無斑品質安山岩が 6 割とほぼ拮抗する。鈴桶型石刃技法（小畠 2002）による石刃とこれを素材にした石器が定量存在し、可能性に留まる無斑品質安山岩 1 例を除き黒曜岩が選択されている。

磨製石器・礫石器は、両端抉入石器と呼ばれる磨製石器が 4 点、磨石が 12 点、石皿が 3 点ある。

打製石器（図 4-25 ~ 30）

281 ~ 293 は石鐵である。平面形も大きさもまちまちだが、凹基のものがほとんどである。285・288 は石刃素材のいわゆる剥片鐵である。290 は表裏両面の中央に摩滅痕があり、部分的に研磨された可能性がある。293 は製作途中に放棄された未製品であろう。294 は両面調整の尖頭部をもつ破片で、削器の可能性もある。

295 ~ 329 は削器・搔器・二次加工ある剥片の類である。296 ~ 310・312 ~ 314 は黒曜岩の石刃ないしそれに類する縦長剥片を素材とするものである。311 は黒曜岩の残核を利用した搔器である。315 ~ 316・318 ~ 319 は無斑品質安山岩の縦長剥片を素材としたもの、317・320 ~ 329 は無斑品質安山岩の幅広・横長剥片などを素材としたものである。刃部の加工の程度はさまざまで、連続する調整剥離による丁寧な作出がなされたものから製品かどうか疑わしいものまである。

330 ~ 360 は黒曜岩の石刃ないしそれに類する縦長剥片に微細剥離痕の見られるものである。361 ~ 363 は無斑品質安山岩の微細剥離痕ある剥片。364 は黒曜岩の石刃。365・366 は黒曜岩と無斑品質安山岩の石核である。

磨製石器・礫石器（図 4-30）

367・368 は両端抉入石器で、367 は中ほどで折れたものが接合している。368 は折損品である。いずれも全面研磨で仕上げられ作りは丁寧である。石材は鑑定を経ていないが、礫石器に用いられる花崗岩とは全く異なり、目の細かい堆積岩かと思われる。367 は図では判りにくいか両端とも抉りの中央部が僅かに盛り上がって稜をなし、2 つの弧が連続するような細部形状である。368 は片方の端部が折れた欠損品で、端部の両角が張り出すように広がり、抉りもやや深い。

369 ~ 371 は磨石、372 は石皿で、いずれも花崗岩と思われる。

SH3020

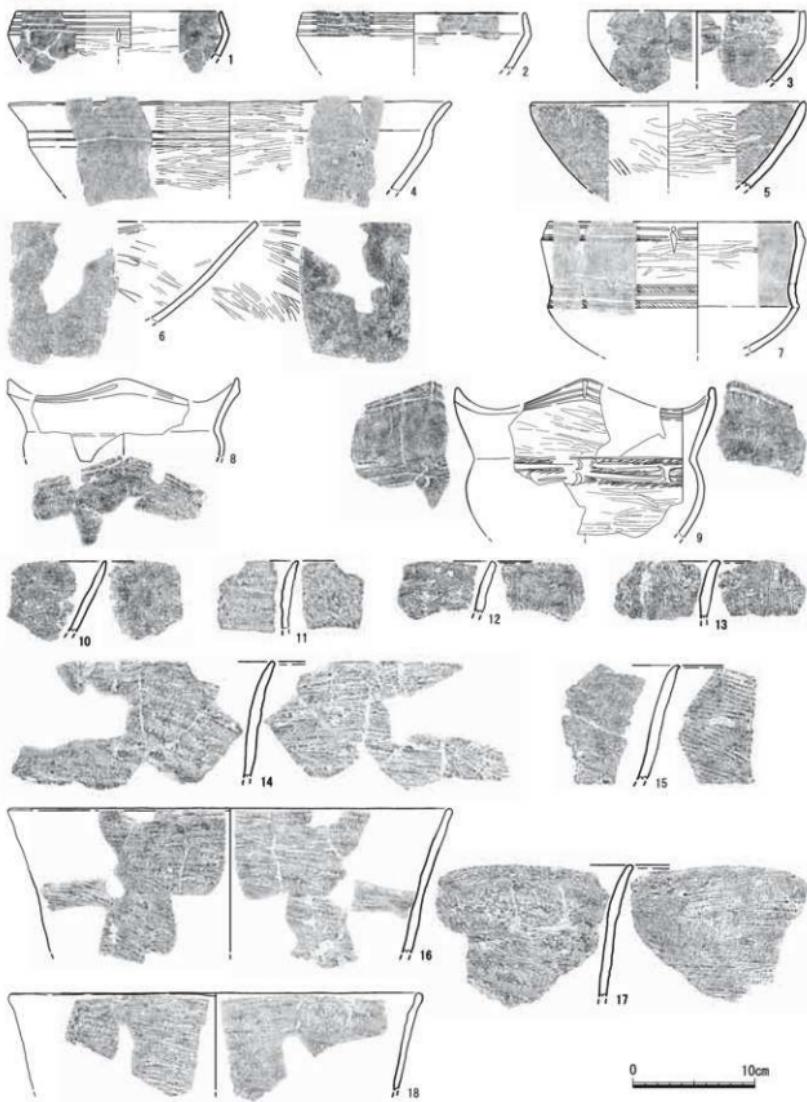


図4-13 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土1 (1/4)

SH3020

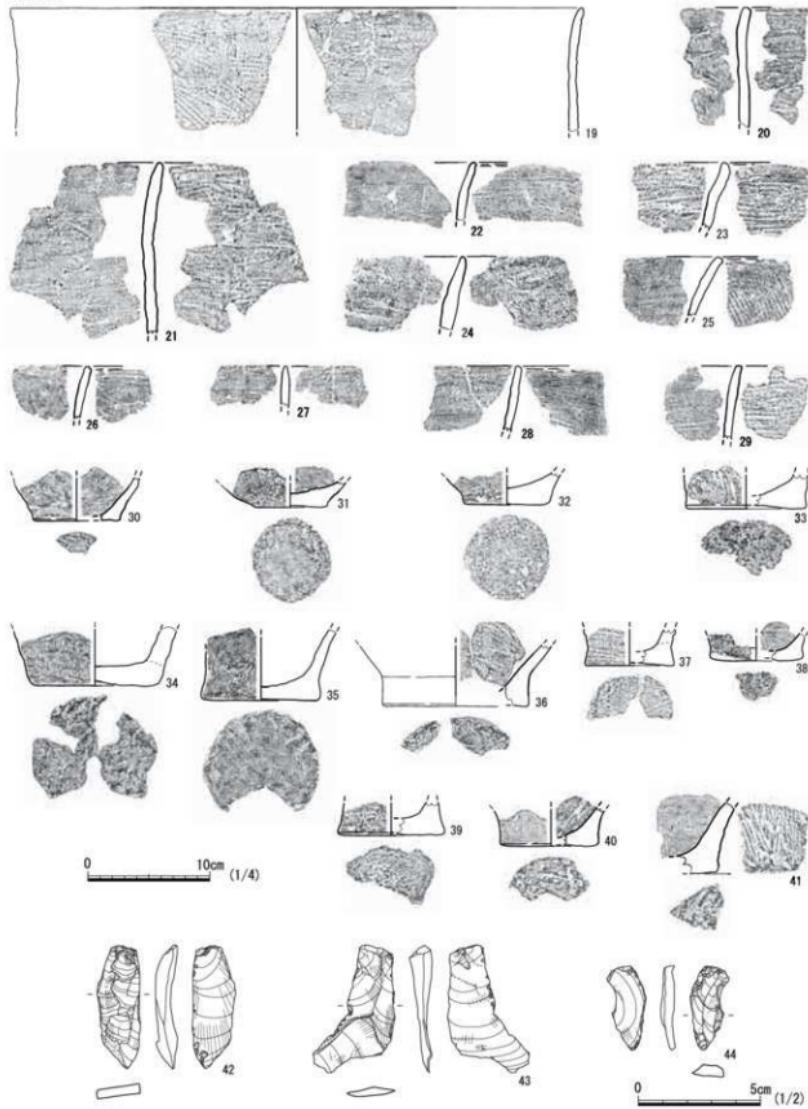


図4-14 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土2 (1/4, 1/2)

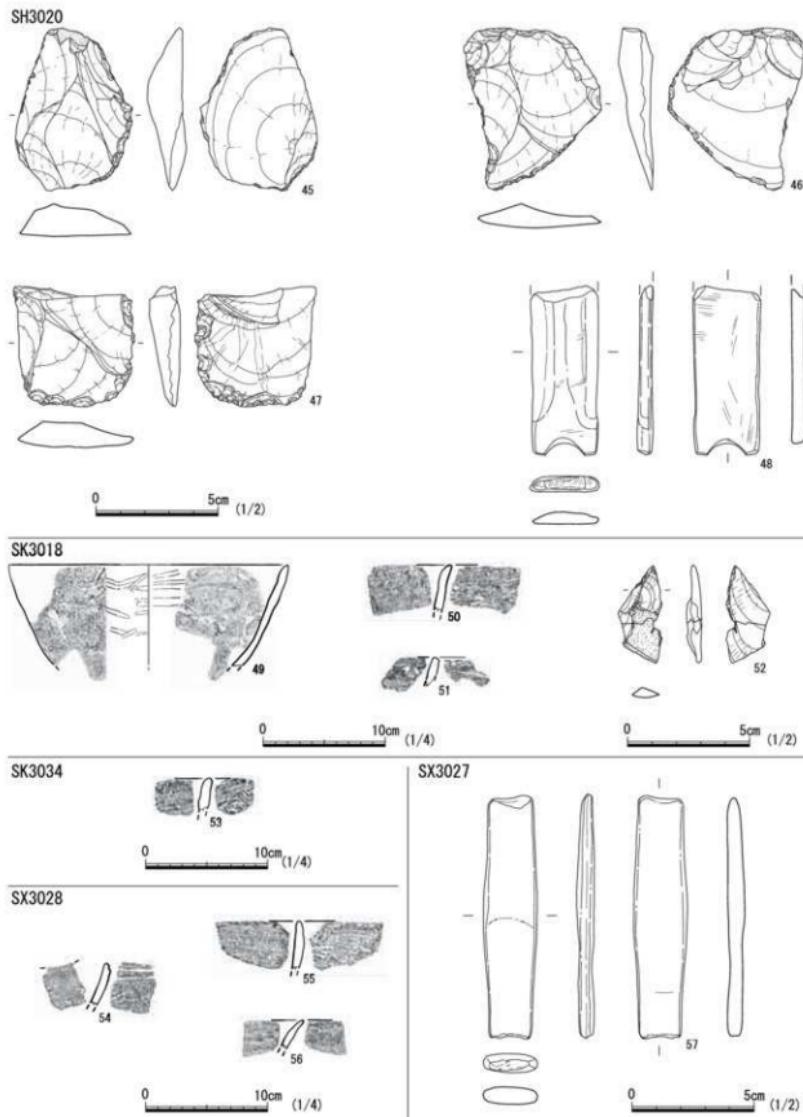


図4-15 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土3 (1/2, 1/4)

SX3019

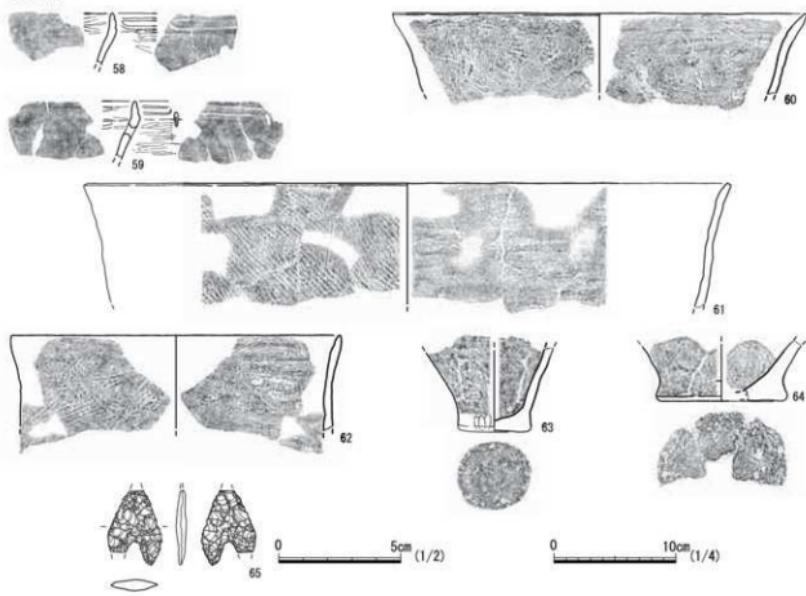


図4-16 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土4 (1/4、1/2)・遺構外出土器1 (1/4)

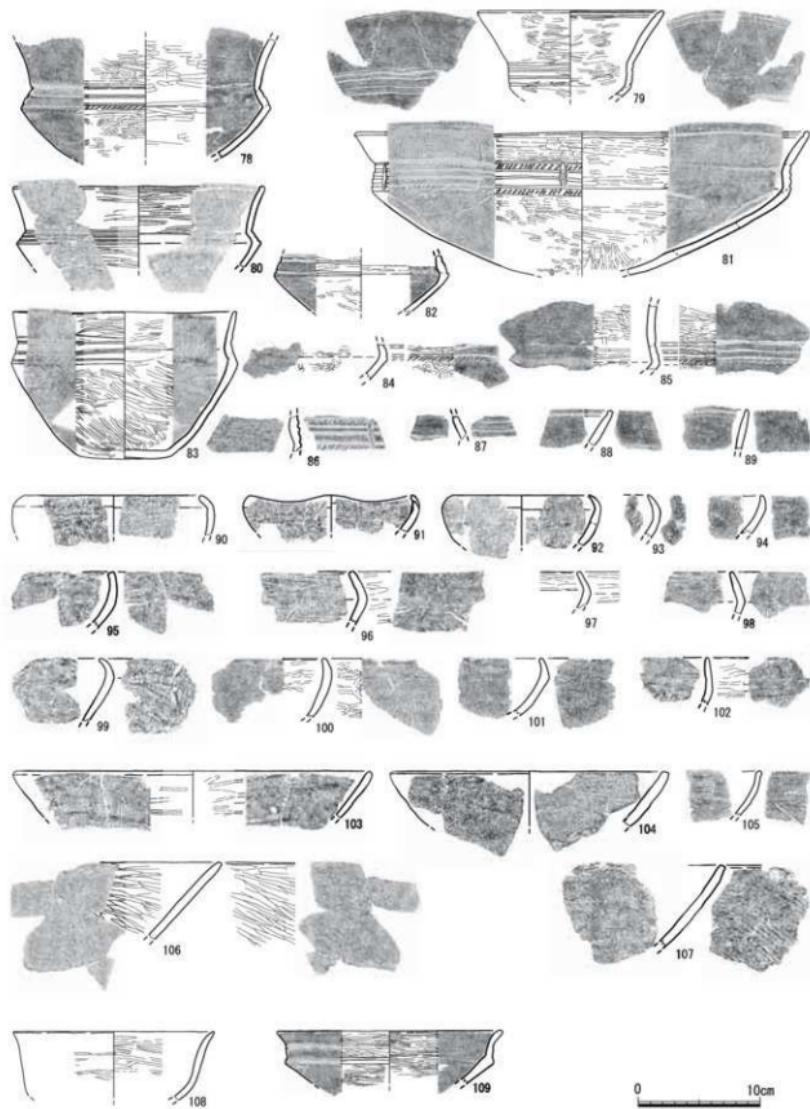


図4-17 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器2 (1/4)

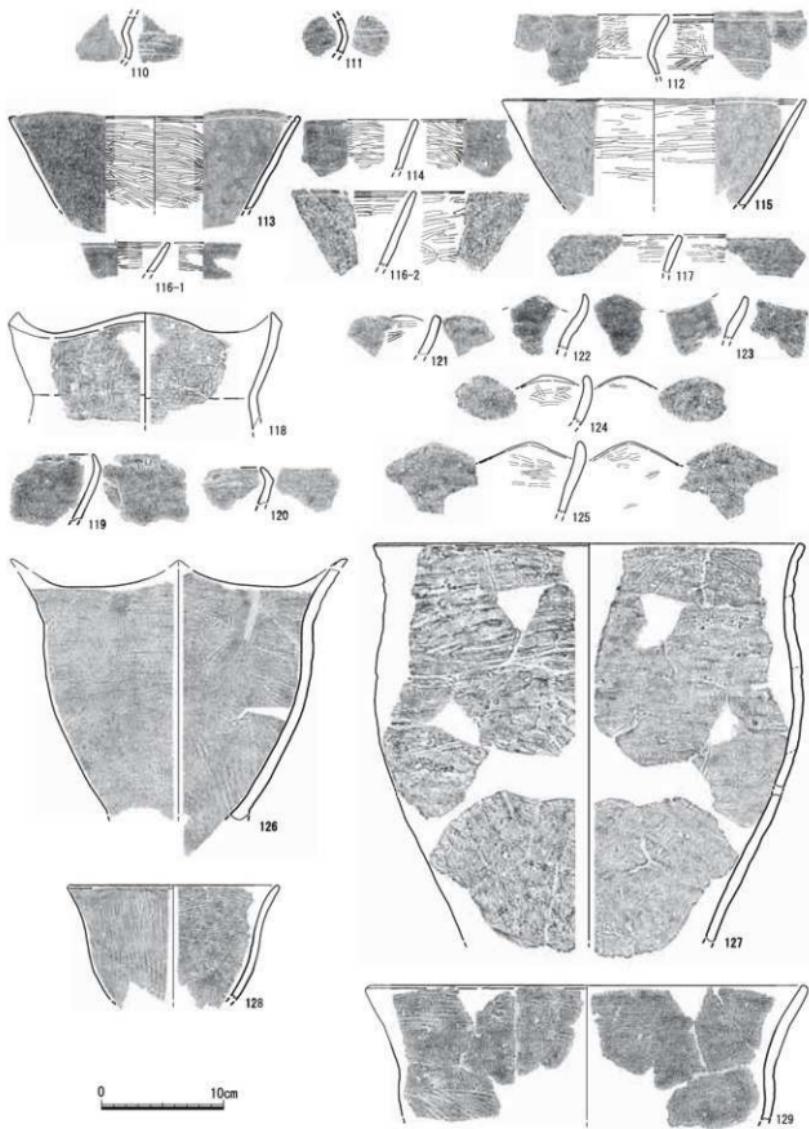


図4-18 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土土器3 (1/4)

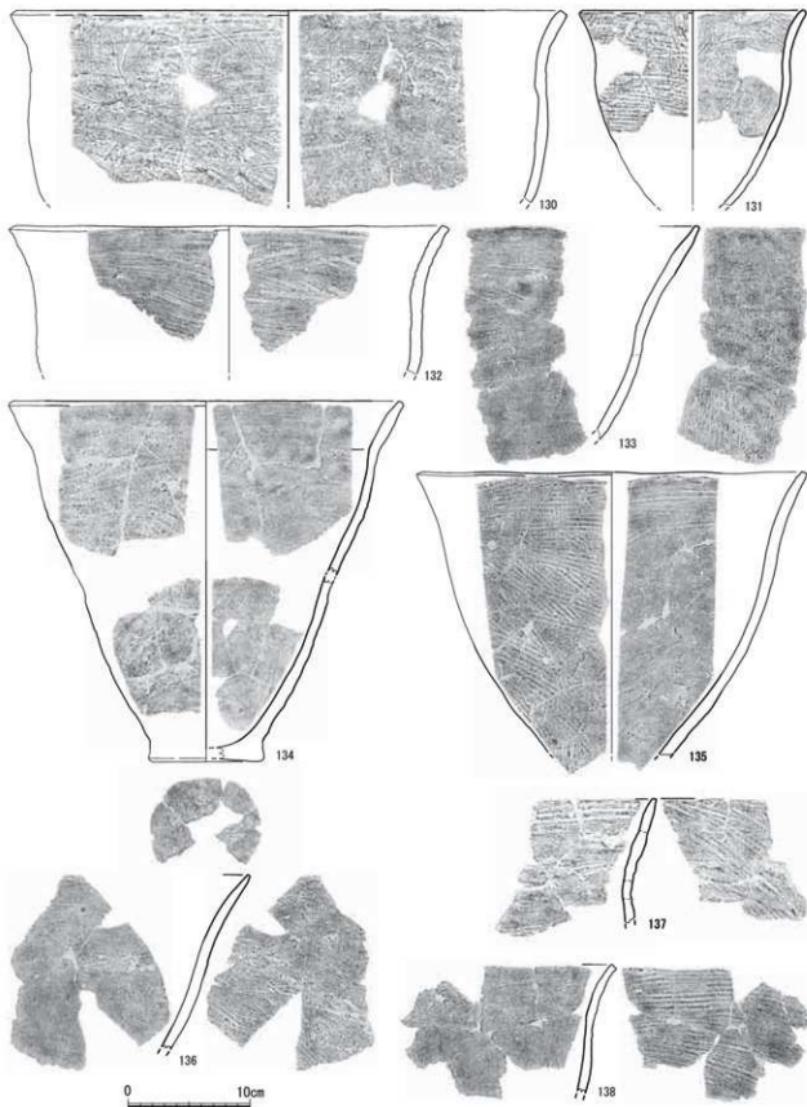


図4-19 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器4 (1/4)

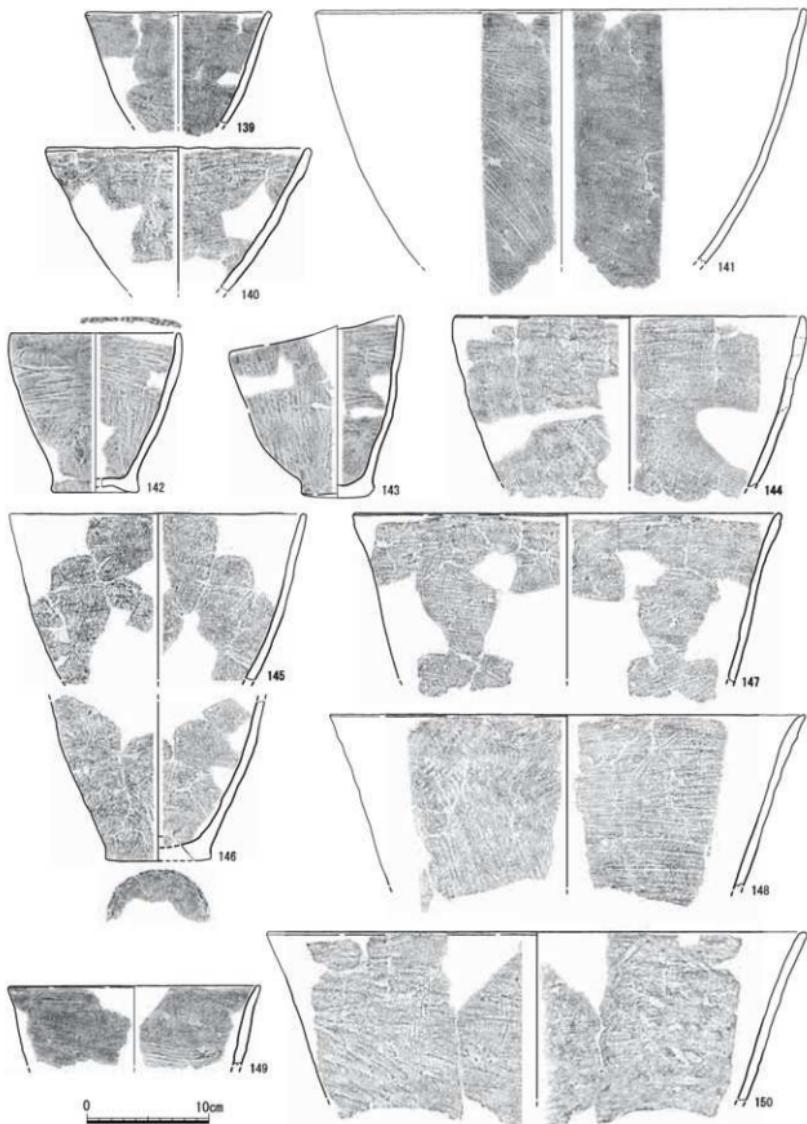


図4-20 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器5 (1/4)

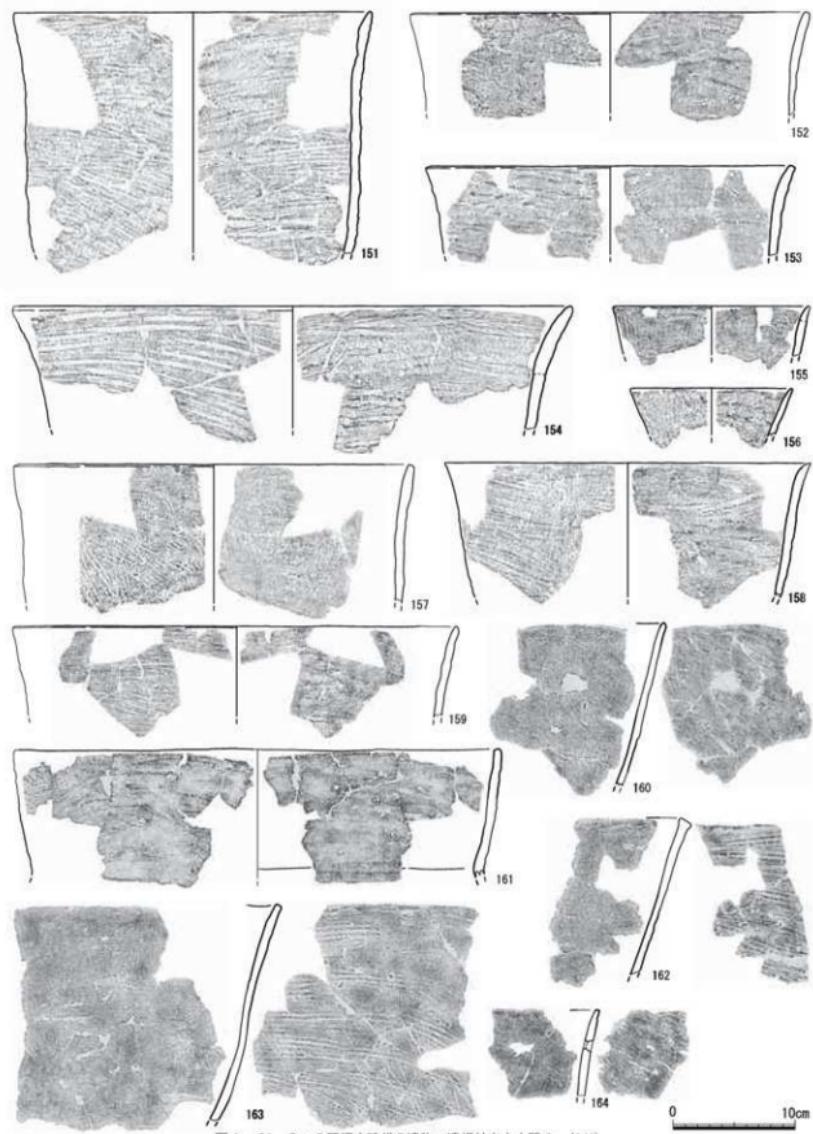


図4-21 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器6 (1/4)

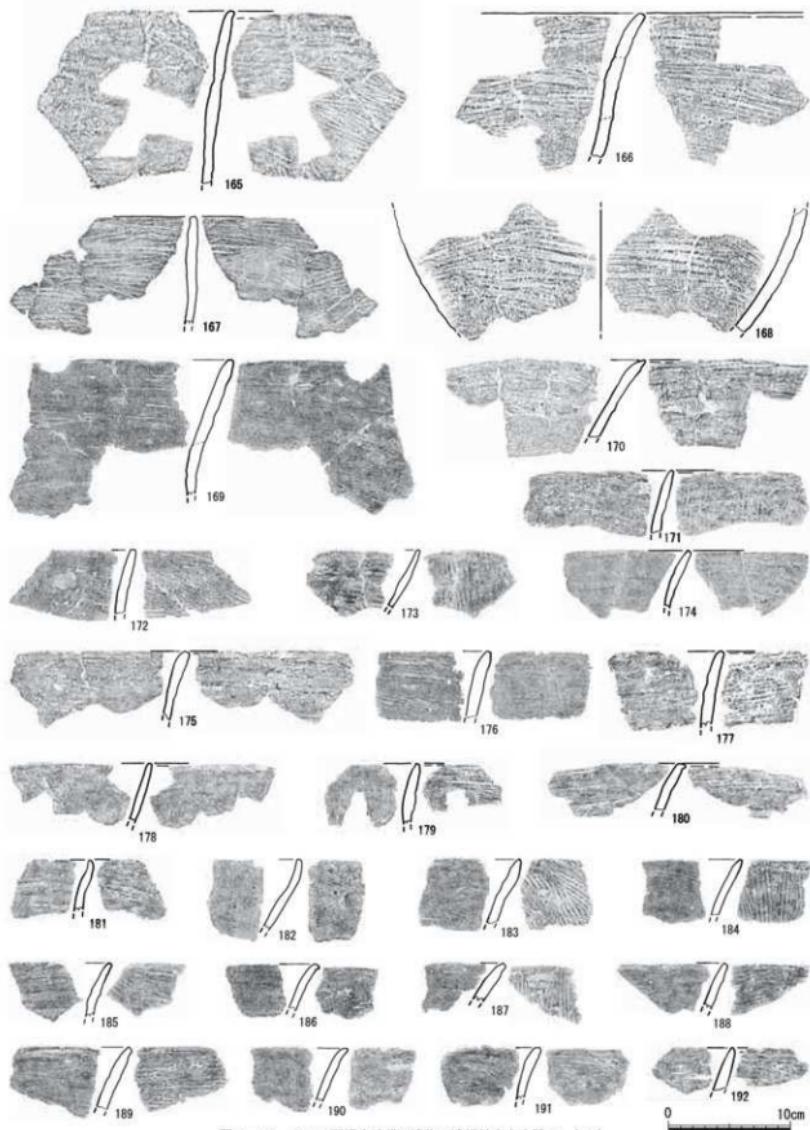


図4-22 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土土器 7 (1/4)

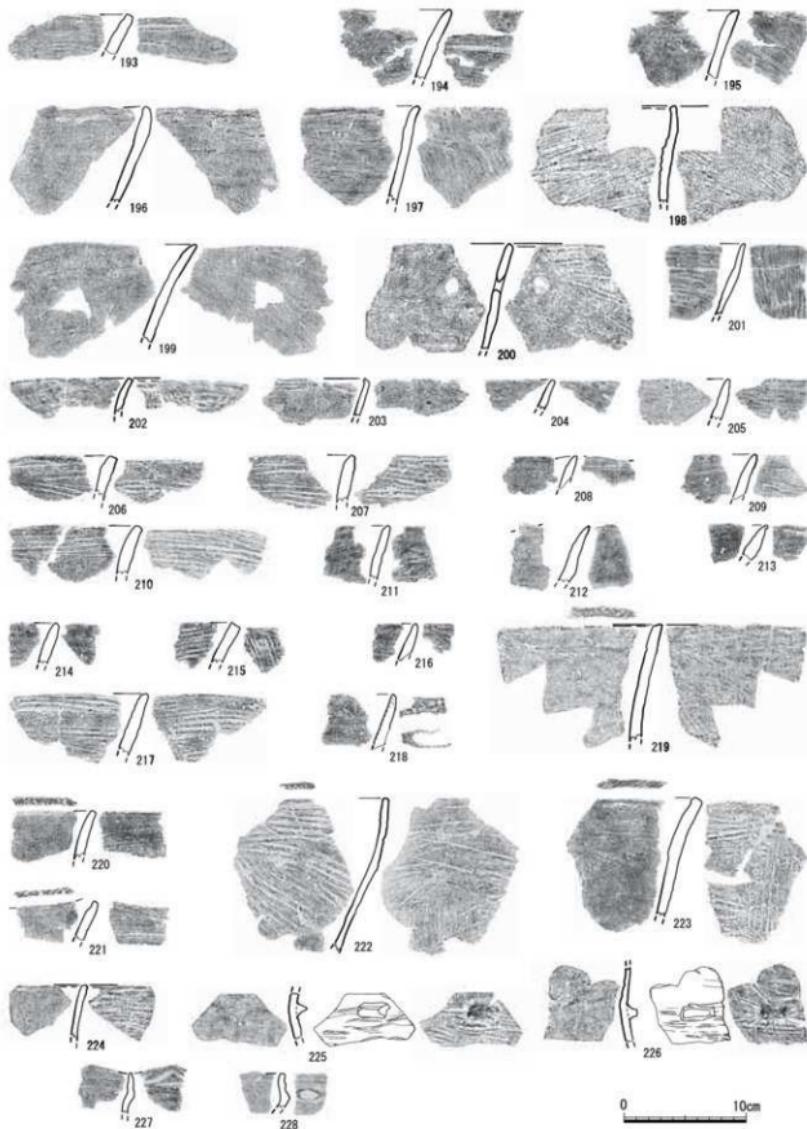


図4-23 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器8 (1/4)

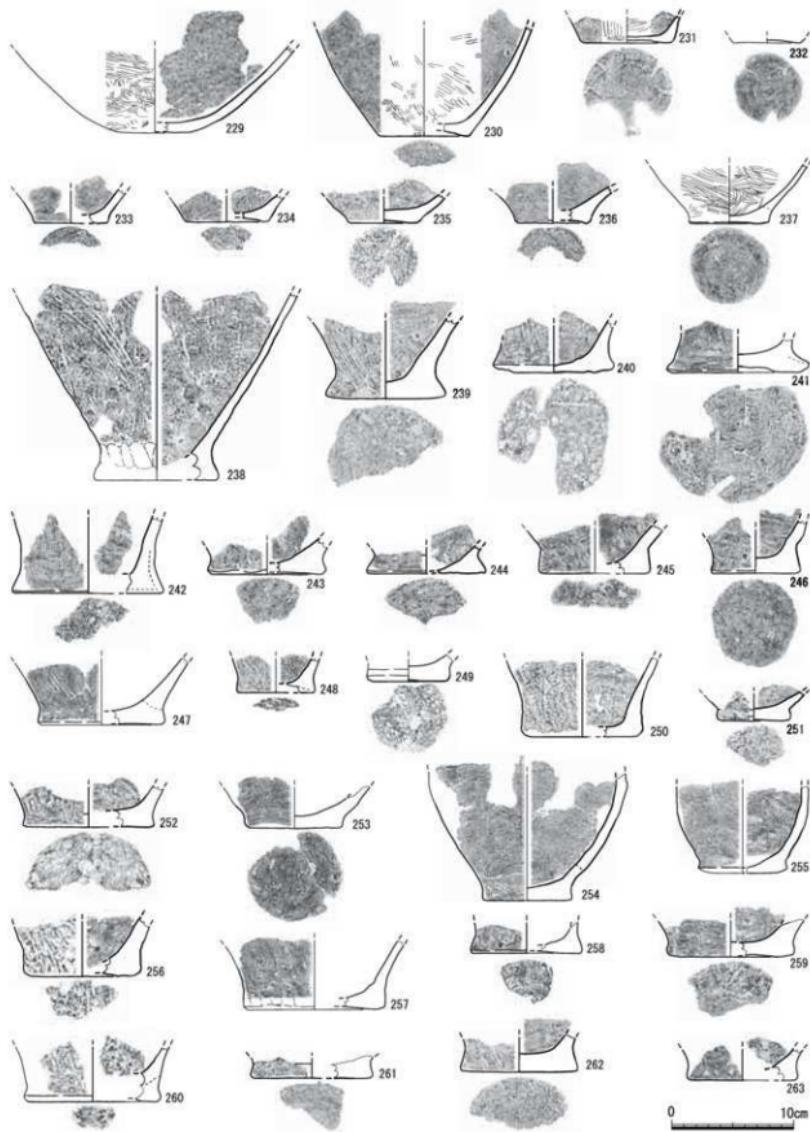


図4-24 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器9 (1/4)

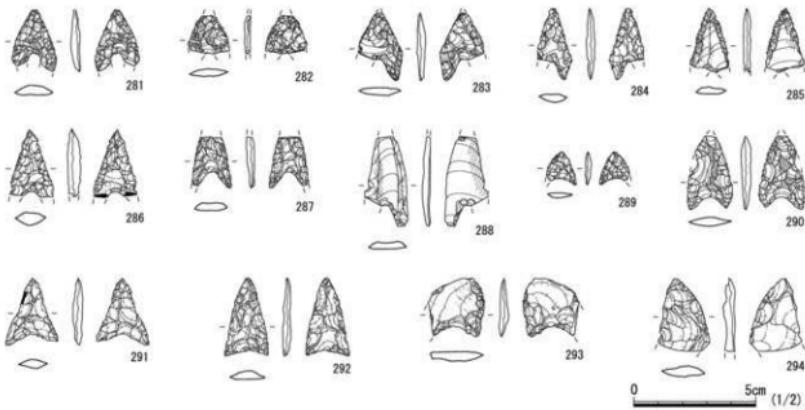
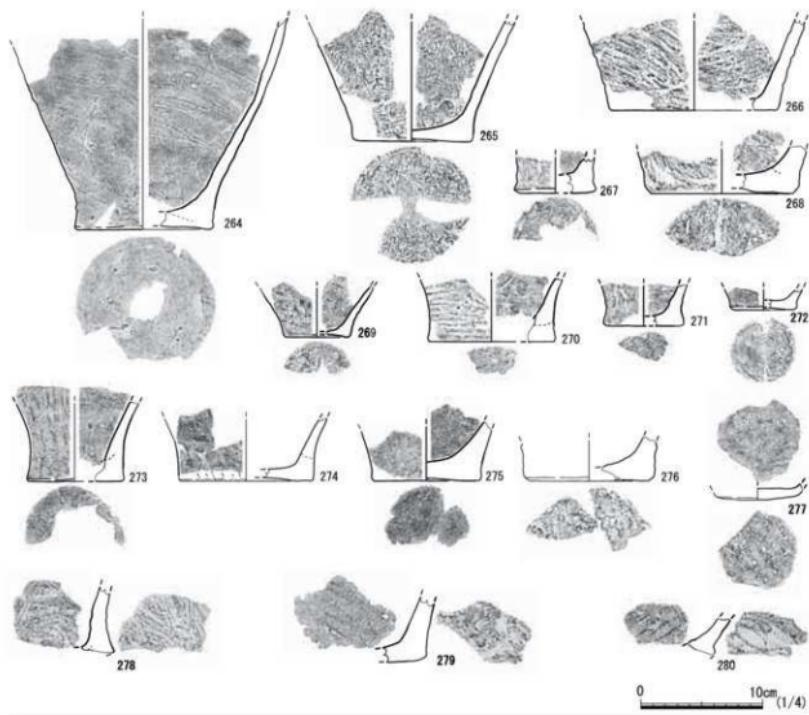


図4-25 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土器10 (1/4)・石器1 (1/2)

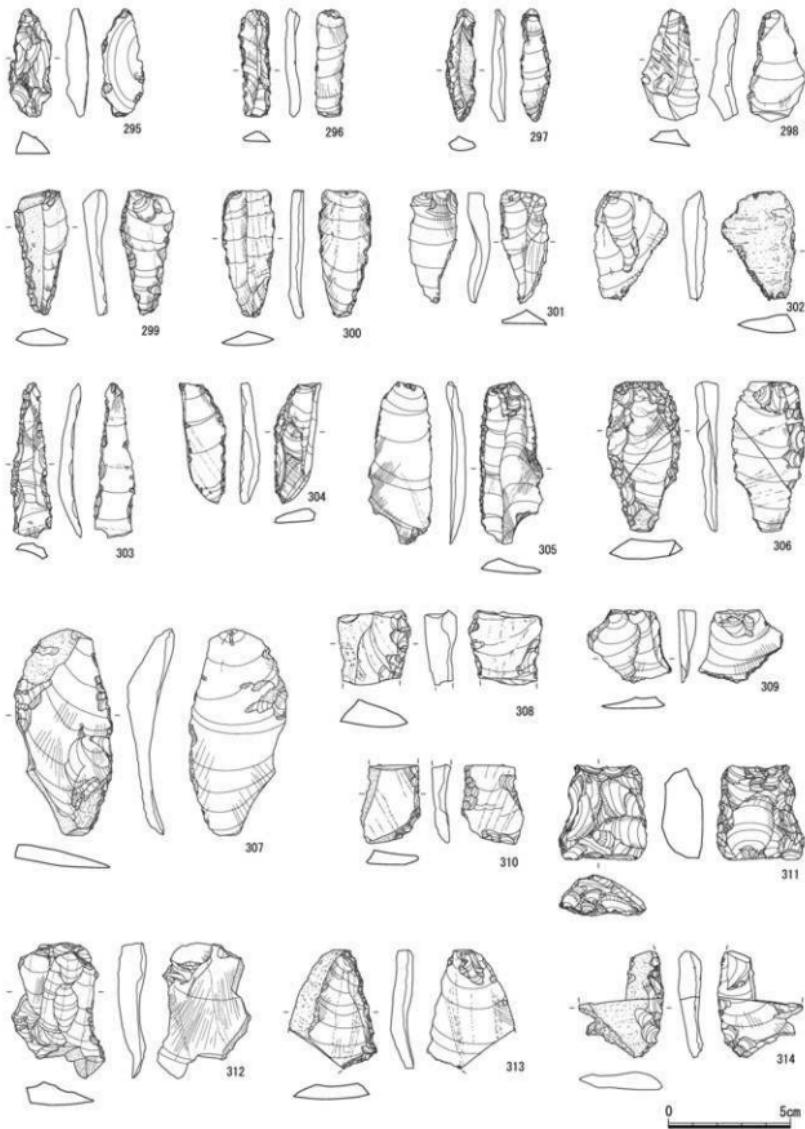


図4-26 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器2 (1/2)

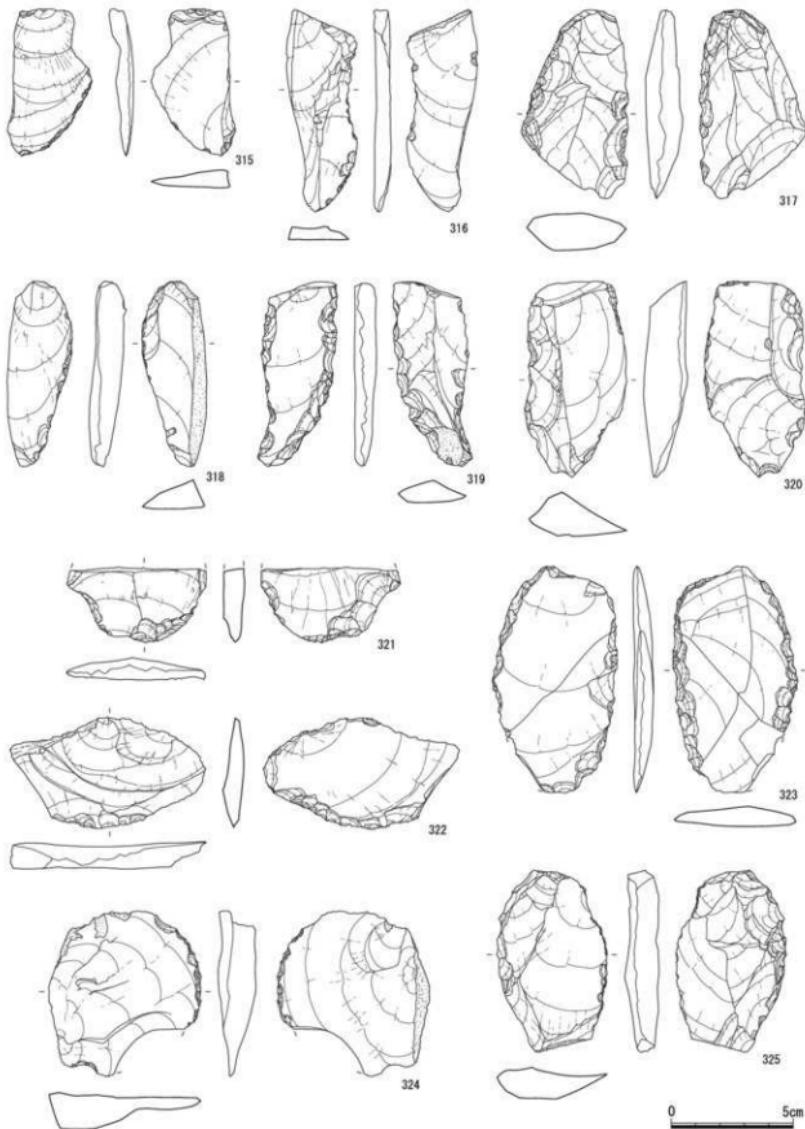


図4-27 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器3 (1/2)

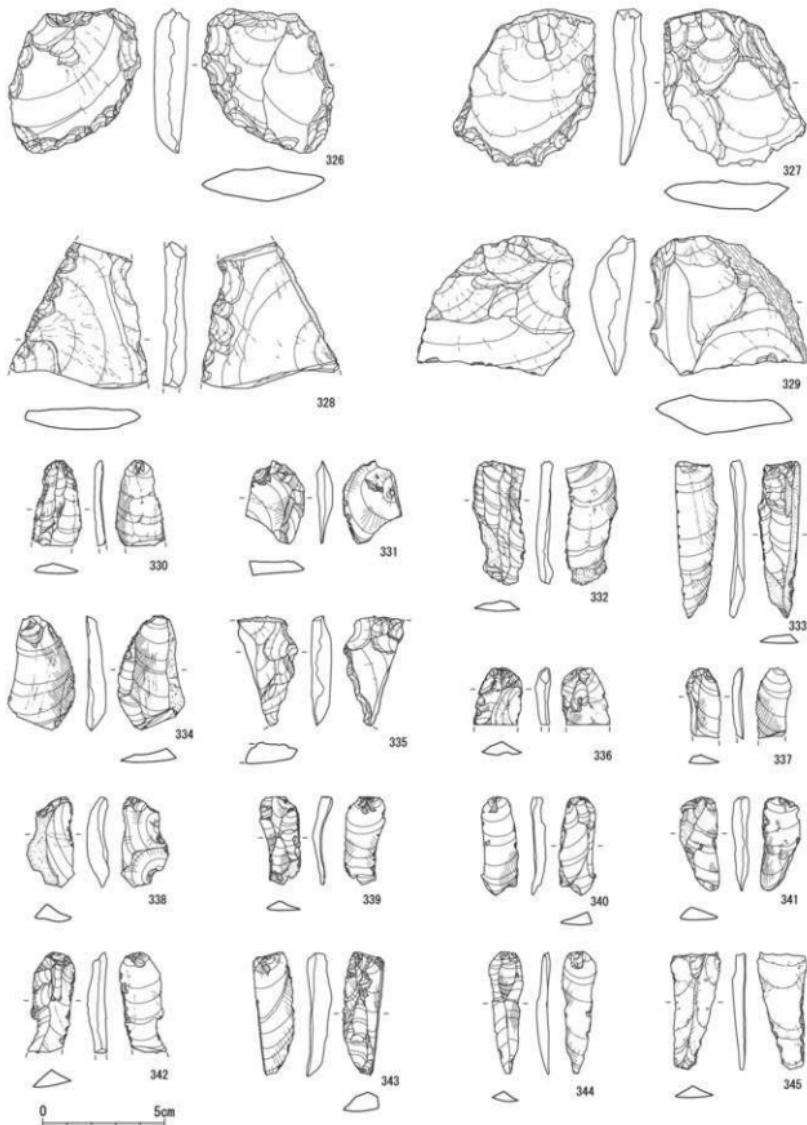


図4-28 2・3区縄文時代の遺物 道模外出土石器4 (1/2)

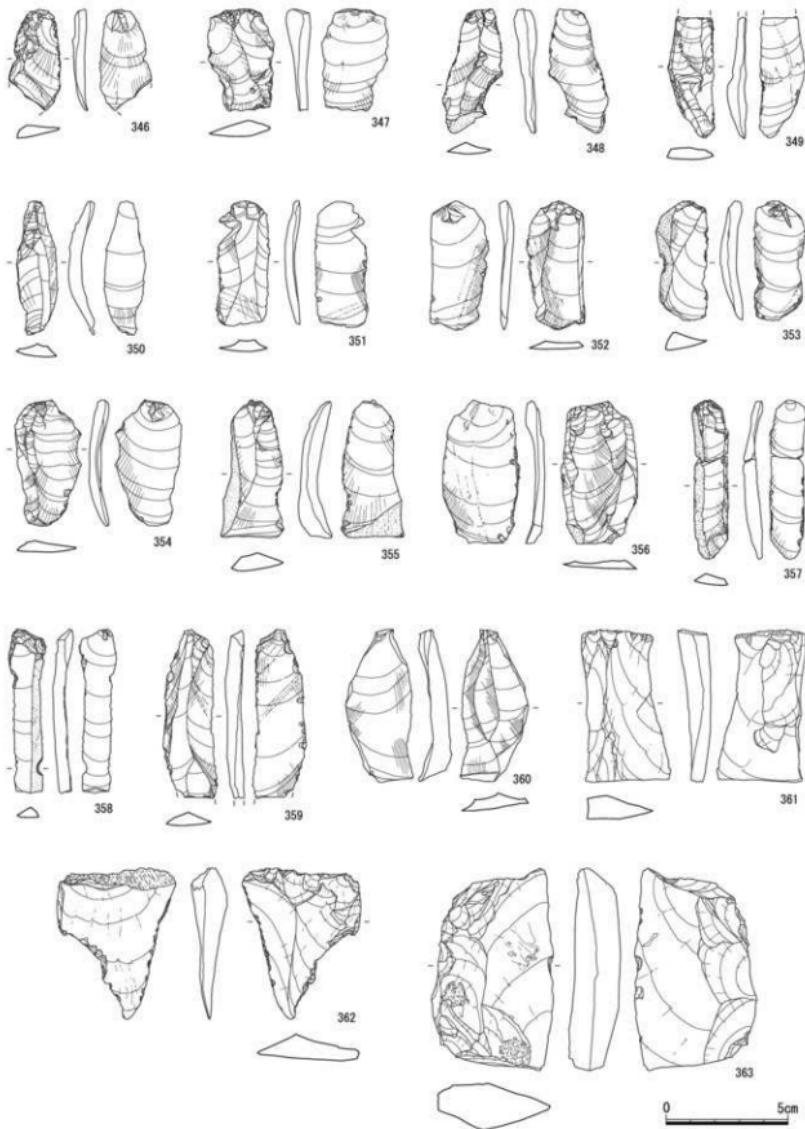


図4-29 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土石器5 (1/2)

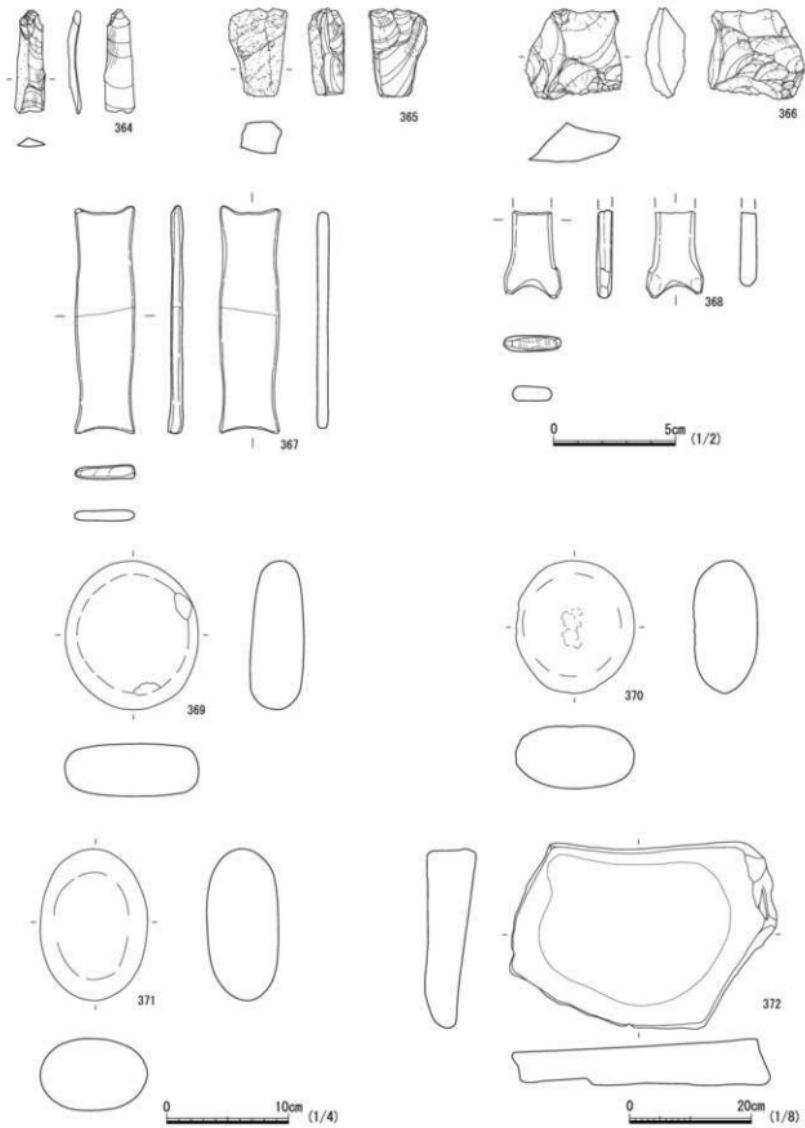


図4-30 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土石器6 (1/2、1/4、1/8)

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-16-66 05000395	A2・Z2区画	縄文土器 浅鉢	19.8*	-	-	外：褐灰・に赤い黄褐 内：褐灰・に赤い黄褐	-	4-5 20070815
4-16-67 01004547	A3区画	縄文土器 浅鉢	20.4*	-	-	外：に赤い黄褐 内：黒褐	-	4-5 20070816
4-16-68 01004546	A3区画	縄文土器 浅鉢	16.8*	-	-	外：灰黄褐 内：黄灰	-	4-5 20070817
4-16-69 02002143	B4区画	縄文土器 浅鉢	20.0*	-	-	外：黒 内：黒	赤色顔料塗布	4-5 20070818
4-16-70 02002169	B3区画	縄文土器 浅鉢	26.0*	-	-	外：褐 内：褐	-	4-5 20070819
4-16-71 05000397	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：黄灰	赤色顔料塗布 外面焼付着	4-6 20070820
4-16-72 01004550	B2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黒褐 内：褐灰	赤色顔料塗布	4-6 20070821
4-16-73 05000401	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	赤色顔料塗布 外面焼付着	4-6 20070822
4-16-74 05000399	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	-	4-6 20070823
4-16-75 05000398	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：黄灰	赤色顔料塗布 外面焼付着	4-6 20070824
4-16-76 05000542	SH3020	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：暗褐 内：褐灰	-	4-6 20070825
4-16-77 05000400	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：灰黄褐	-	4-6 20070826
4-17-78 02002144	B4区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黒褐 内：明赤褐	赤色顔料塗布	4-6 20070827
4-17-79 02002161	B3区画	縄文土器 浅鉢	15.2*	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	89と同一個体	4-6 20070828
4-17-80 05000545	A2・Z2・Z3区画 SH3020	縄文土器 浅鉢	20.7	-	-	外：稍 灰褐 内：稍 褐灰	-	4-6 20070829
4-17-81 01004545	A3・B3・B4区画	縄文土器 浅鉢	37.4	-	-	外：黒褐 内：黒褐	86と同一個体	4-6 20070830
4-17-82 02002166	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い黄褐	-	4-6 20070831
4-17-83 01004544	A3区画	縄文土器 浅鉢	18.4*	7.4*	12.1	外：に赤い褐 内：に赤い黄褐	赤色顔料塗布	4-6 20070832
4-17-84 02002164	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰褐 内：に赤い赤褐	赤色顔料塗布	4-6 20070833
4-17-85 02002165	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：黒褐 内：に赤い赤褐	84と同一個体	4-6 20070834
4-17-86 01004549	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：暗赤褐 内：明赤褐	赤色顔料塗布	4-6 20070835
4-17-87 01004583	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：淡黄	-	4-6 20070836
4-17-88 02002102	A3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明褐	-	4-6 20070837
4-17-89 01004585	SA2036	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：稍	79と同一個体	4-6 20070838
4-17-90 05000451	Z1区画	縄文土器 浅鉢	14.4*	-	-	外：褐 内：褐	-	4-6 20070839
4-17-91 05000452	Z1区画	縄文土器 浅鉢	13.6*	-	-	外：に赤い赤褐 内：に赤い赤褐	-	4-6 20070840
4-17-92 05000453	Z1区画	縄文土器 浅鉢	11.3*	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	4-6 20070841
4-17-93 02002104	A2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：赤褐 内：赤褐	-	4-6 20070842
4-17-94 02002091	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：稍 内：黒褐	-	4-6 20070843
4-17-95 05000457	A2・Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070844
4-17-96 05000458	A2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：褐灰	-	4-6 20070845
4-17-97 05000521	SH3020	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰褐 内：褐灰	-	4-6 20070846
4-17-98 05000456	A2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070847
4-17-99 05000455	A2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	4-6 20070848

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-17-100 01004690	B3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐 内：黒褐	-	4-6 20070849
4-17-101 01004689	A2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：赤褐 内：赤褐	-	4-6 20070850
4-17-102 05000448	Z2区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070851
4-17-103 05000449	Z2区画	縄文土器 浅鉢	29.5*	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	-	4-6 20070852
4-17-104 05000500	Z1-Z2区画	縄文土器 浅鉢	22.9*	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	-	4-6 20070853
4-17-105 02002092	C12区画表採	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰黄 内：黄灰	-	4-6 20070854
4-17-106 05000547	A3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：褐灰・に赤い褐	-	4-6 20070855
4-17-107 05000467	A3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	4-6 20070856
4-17-108 05000491	Z2区画	縄文土器 浅鉢	16.5	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄褐	-	4-6 20070857
4-17-109 01004589	B4区画	縄文土器 浅鉢	18.6*	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070858
4-18-110 01004692	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：褐	112と同一個体	4-6 20070859
4-18-111 01004581	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：褐	-	4-6 20070860
4-18-112 01004691	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：黒褐	110と同一個体	4-6 20070861
4-18-113 01004543	A3区画	縄文土器 浅鉢	24.0*	-	-	外：黒 内：黒褐	-	4-6 20070862
4-18-114 01004579	A3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070863
4-18-115 05000546	Z2区画 SN3011	縄文土器 浅鉢	24.9	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄褐	-	4-6 20070864
4-18-116 01004578	A2-A3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐灰 内：黒褐	-	4-6 20070865
4-18-117 05000450	Z3区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	4-6 20070866
4-18-118 05000423	Z1区画	縄文土器 鉢	21.0*	-	-	外：明赤褐 内：に赤い赤褐	-	4-6 20070867
4-18-119 01004693	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	-	4-6 20070868
4-18-120 01004591	B2区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：褐 内：黄褐	-	4-6 20070869
4-18-121 05000447	Z2区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：に赤い赤褐	-	4-6 20070870
4-18-122 02002099	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：椭圆褐 内：暗褐	-	4-6 20070871
4-18-123 02002105	B3区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：褐	-	4-6 20070872
4-18-124 05000445	Z2区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：に赤い赤褐 内：に赤い赤褐	-	4-6 20070873
4-18-125 05000446	Z2区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：明赤褐	-	4-6 20070874
4-18-126 02002173	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：暗褐	-	4-6 20070875
4-18-127 05000485	Z2区画	縄文土器 深鉢	35.4*	-	-	外：褐 内：褐	-	4-7 20070876
4-18-128 02002139	A2区画	縄文土器 深鉢	17.4*	-	-	外：褐 内：に赤い褐	-	4-6 20070877
4-18-129 02002146	A3区画	縄文土器 深鉢	36.2*	-	-	外：明赤褐 内：赤褐	133と同一個体	4-6 20070878
4-19-130 05000403	Z2区画	縄文土器 深鉢	45.6*	-	-	外：褐 内：浅黄	外面漆付着	4-6 20070879
4-19-131 05000483	Z3区画 SH3020	縄文土器 深鉢	18.6*	-	-	外：に赤い赤褐 内：に赤い赤褐	-	4-6 20070880
4-19-132 02002106	A2区画	縄文土器 深鉢	36.0*	-	-	外：黒 内：に赤い黄褐	-	4-7 20070881
4-19-133 02002148	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	129と同一個体	4-7 20070882

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-19-134 01004555	B3・B4区画	縄文土器 深鉢	32.4*	9.0*	-	外：明褐色 内：黄褐色	-	4-7 20070883
4-19-135 02002149	A3・B3区画	縄文土器 深鉢	32.0*	-	-	外：褐色 内：黑褐色	-	4-7 20070884
4-19-136 02002152	B2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：明褐色	-	4-7 20070885
4-19-137 05000417	Z2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い褐褐色 内：灰褐色	-	4-7 20070886
4-19-138 02002155	A3・B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-7 20070887
4-20-139 01004590	A3・B3区画	縄文土器 深鉢	15.4*	-	-	外：褐色 内：に赤い褐色	-	4-6 20070888
4-20-140 05000389	Z3区画 SH3020	縄文土器 深鉢	21.5*	-	-	外：灰褐色 内：灰褐色	-	4-7 20070889
4-20-141 02002150	A3・B3区画	縄文土器 深鉢	40.3*	-	-	外：黒褐色・明赤褐色 内：黒褐色	-	4-7 20070890
4-20-142 02002159	B3区画	縄文土器 深鉢	13.9*	7.2*	13.1	外：明赤褐色 内：褐色	222と同一個体	4-7 20070891
4-20-143 02002160	B3区画	縄文土器 深鉢	-	6.0	15.0	外：明赤褐色 内：に赤い赤褐色	-	4-7 20070892
4-20-144 05000414	A3区画	縄文土器 深鉢	28.7*	-	-	外：に赤い褐褐色 内：に赤い褐褐色	外面撥付着	4-7 20070893
4-20-145 05000387	A2区画	縄文土器 深鉢	24.3*	-	-	外：に赤い黄褐色 内：灰褐色	外面撥付着 146と同一個体	4-8 20070894
4-20-146 05000388	A2区画 SH3014	縄文土器 深鉢	-	8.6*	-	外：に赤い黄褐色 内：灰褐色	外面撥付着 145と同一個体	4-8 20070895
4-20-147 05000486	Z2区画	縄文土器 深鉢	34.8*	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-8 20070896
4-20-148 05000418	A3区画	縄文土器 深鉢	39.0*	-	-	外：に赤い赤褐色 内：に赤い赤褐色	-	4-8 20070897
4-20-149 02002162	B3区画	縄文土器 深鉢	20.6*	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-7 20070898
4-20-150 05000489	Z2区画	縄文土器 深鉢	44.3*	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-8 20070899
4-21-151 05000488	Z2区画	縄文土器 深鉢	29.4*	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070900
4-21-152 05000478	A2区画	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	外面撥付着	4-8 20070901
4-21-153 05000419	Z2区画	縄文土器 深鉢	30.4*	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-7 20070902
4-21-154 05000487	Z2区画	縄文土器 深鉢	46.0*	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070903
4-21-155 05000495	Z2区画	縄文土器 深鉢	16.2*	-	-	外：に赤い褐色 内：に赤い褐色	-	4-8 20070904
4-21-156 05000492	Z2区画	縄文土器 深鉢	13.3*	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-8 20070905
4-21-157 05000415	A3・Z2区画	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外：褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070906
4-21-158 05000416	Z2・Z3区画	縄文土器 深鉢	30.0*	-	-	外：褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070907
4-21-159 05000406	SH3020	縄文土器 深鉢	36.4*	-	-	外：褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070908
4-21-160 02002168	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070909
4-21-161 05000960	A2区画	縄文土器 深鉢	39.7*	-	-	外：灰褐色・黒褐色 内：褐色	-	4-8 20070910
4-21-162 02002172	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-8 20070911
4-21-163 02002170	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-8 20070912
4-21-164 02002088	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐色 内：褐色	-	4-8 20070913
4-22-165 05000490	Z2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070914
4-22-166 05000393	Z2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	168と同一個体	4-8 20070915
4-22-167 05000959	A2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色・褐灰色 内：褐灰色・に赤い黄褐色	-	4-9 20070916

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

鉢名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-22-168 05000394	Z2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	166と同一個体	4-9 20070917
4-22-169 02002147	A3-B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：稍	-	4-9 20070918
4-22-170 05000422	A2-A3 区画 SH3020	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い褐	外面部付着	4-9 20070919
4-22-171 05000461	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	-	4-9 20070920
4-22-172 02002089	B2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	-	4-9 20070921
4-22-173 02002097	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：明赤褐色	201と同一個体	-
4-22-174 01004688	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	-	4-9 20070922
4-22-175 05000421	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-9 20070923
4-22-176 02002114	A3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	-	4-9 20070924
4-22-177 05000463	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：に赤い褐	-	4-9 20070925
4-22-178 05000462	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い褐 内：灰黄褐色	-	4-9 20070926
4-22-179 05000468	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い相 内：に赤い相	-	4-9 20070927
4-22-180 05000470	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い赤褐色 内：に赤い赤褐色	-	4-9 20070928
4-22-181 05000465	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-8 20070929
4-22-182 02002122	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：に赤い褐	-	-
4-22-183 02002116	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐色 内：稍	-	4-8 20070930
4-22-184 02002101	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：相一部に明赤褐色 内：稍	-	4-9 20070931
4-22-185 02002123	B2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐色 内：暗褐色	-	-
4-22-186 02002108	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：暗褐色	-	-
4-22-187 02002109	C3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐色 内：相	-	-
4-22-188 02002153	A3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗赤褐色 内：黒褐色	-	-
4-22-189 02002126	A4 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：に赤い相	-	-
4-22-190 02002119	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：相 内：に赤い褐	-	-
4-22-191 02002117	C3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐色 内：に赤い黄褐色	-	-
4-22-192 05000464	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	-	4-9 20070932
4-23-193 02002124	B2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐色 内：に赤い黄褐色	-	4-9 20070933
4-23-194 02002131	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：暗赤褐色	-	-
4-23-195 02002125	B4 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	199と同一個体	-
4-23-196 02002118	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗赤褐色 内：稍	-	4-9 20070934
4-23-197 02002115	A3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070935
4-23-198 05000494	Z2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070936
4-23-199 02002140	B4 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：黒褐色	195と同一個体	4-9 20070937
4-23-200 05000460	Z2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：灰褐色	外面部付着	4-9 20070938
4-23-201 02002156	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：稍 内：稍	173と同一個体	-

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-23-202 05000469	A2・Z2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	-
4-23-203 01004694	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	-	-
4-23-204 020002120	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：明赤褐色	-	-
4-23-205 020002127	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	-	-
4-23-206 020002135	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	217・207・210と同一個体	4-9 20070939
4-23-207 020002130	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	217・210・206と同一個体	4-9 20070940
4-23-208 020002134	B4区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	-
4-23-209 020002121	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：明赤褐色	-	-
4-23-210 020002132	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	217・207・206と同一個体	4-9 20070941
4-23-211 020002095	A2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐色 内：明褐色	-	-
4-23-212 020002090	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	-
4-23-213 020002096	C3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤褐色 内：に赤褐色	-	-
4-23-214 020002133	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐色 内：赤褐色	-	-
4-23-215 020002128	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒 内：黒	-	-
4-23-216 020002136	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：に赤褐色	-	-
4-23-217 020002129	A3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	207・210・206と同一個体	4-9 20070942
4-23-218 020002098	A2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：オーリーブ灰 内：赤褐色	-	-
4-23-219 05000496	Z2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070943
4-23-220 020002111	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070944
4-23-221 020002110	B4区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐色 内：に赤褐色	-	-
4-23-222 020002158	B3区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐・に赤褐色 内：褐・黒褐色	142と同一個体	4-9 20070945
4-23-223 020002113	A2区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070946
4-23-224 05000481	A1区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	外面環付着 224～226 同一個体	4-9 20070947
4-23-225 05000480	A1区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	外面環付着 224～226 同一個体	4-9 20070948
4-23-226 05000479	A1区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：褐 内：褐	外面環付着 224～226 同一個体	4-9 20070949
4-23-227 01004587	B4区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：に赤褐色 内：に赤褐色	-	4-9 20070950
4-23-228 01004582	B4区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：灰褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070951
4-24-229 05000961	A2区画	縄文土器	-	6.0*	-	外：に赤褐色 内：灰褐色	-	-
4-24-230 01004548	B3区画	縄文土器	-	7.2*	-	外：明黄褐色 内：黒褐色	-	-
4-24-231 05000423	A3区画	縄文土器	-	7.2	-	外：褐 内：に赤褐色	-	4-9 20070952
4-24-232 01004553	B4区画	縄文土器	-	5.5	-	外：灰褐色 内：-	-	-
4-24-233 01004567	B3区画	縄文土器	-	6.0*	-	外：褐 内：黒褐色	-	-
4-24-234 05000437	Z2区画	縄文土器	-	6.8*	-	外：に赤褐色 内：褐灰色	-	-
4-24-235 05000426	A2区画	縄文土器	-	5.6	-	外：褐 内：に赤褐色	-	4-9 20070953

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

登録番号 持因・番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-2-236 01004552	C4 区画	縄文土器	-	5.5*	-	外：に赤褐色 内：黒褐色	底部に穿孔	4-9 20070954
4-2-237 01004551	A3-B3 区画	縄文土器	-	6.6	-	外：褐 内：明褐色	-	4-9 20070955
4-2-238 05000390	A3 区画	縄文土器	-	10.3*	-	外：に赤褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070956
4-2-239 01004554	A2 区画	縄文土器	-	9.8	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	4-9 20070957
4-2-240 05000502	SX3019 SX3028	縄文土器	-	9.9	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	4-9 20070958
4-2-241 01004560	A3 区画	縄文土器	-	11.7	-	外：褐 内：に赤褐色	-	4-9 20070959
4-2-242 01004559	A3 区画	縄文土器	-	12.4*	-	外：浅黃褐色 内：暗灰	-	4-9 20070960
4-2-243 01004562	B4 区画	縄文土器	-	9.8*	-	外：褐 内：褐	-	-
4-2-244 05000431	Z1 区画	縄文土器	-	9.8*	-	外：褐 内：褐	-	4-9 20070961
4-2-245 01004576	A2 区画	縄文土器	-	9.2*	-	外：褐 内：褐	-	-
4-2-246 01004564	A3 区画	縄文土器	-	7.4	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	4-9 20070962
4-2-247 02002145	A3 区画	縄文土器	-	10.4*	-	外：褐 内：褐	-	4-9 20070963
4-2-248 01004571	B3 区画	縄文土器	-	6.4*	-	外：に赤褐色 内：灰褐色	-	-
4-2-249 05000432	A2 区画	縄文土器	-	6.4	-	外：褐 内：-	内部に傷付着	-
4-2-250 05000424	A3 区画	縄文土器	-	10.0*	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070964
4-2-251 05000440	Z2 区画	縄文土器	-	6.0*	-	外：褐 内：褐	-	-
4-2-252 05000505	A3・Z3 区画 SH3020	縄文土器	-	10.8*	-	外：褐 内：褐	-	4-9 20070965
4-2-253 02002154	B3 区画	縄文土器	-	8.1*	-	外：褐 内：黒	-	4-9 20070966
4-2-254 02002157	B3 区画	縄文土器	-	7.3	-	外：赤褐色 内：暗褐色	-	4-9 20070967
4-2-255 02002167	B3 区画	縄文土器	-	7.3	-	外：明赤褐色 内：褐	-	4-9 20070968
4-2-256 05000429	Z2 区画	縄文土器	-	9.6*	-	外：褐 内：に赤褐色	-	-
4-2-257 02002141	B4 区画	縄文土器	-	11.0*	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070969
4-2-258 05000436	Z2 区画	縄文土器	-	9.1*	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	-
4-2-259 01004565	A2 区画	縄文土器	-	10.5	-	外：明黄褐色 内：黒褐色	-	-
4-2-260 05000442	Z3 区画	縄文土器	-	11.2*	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	-
4-2-261 05000441	Z2 区画	縄文土器	-	10.0*	-	外：褐 内：-	-	-
4-2-262 01004556	A3 区画	縄文土器	-	9.4*	-	外：褐 内：に赤褐色	-	-
4-2-263 01004574	A2 区画	縄文土器	-	9.1*	-	外：に赤褐色 内：褐	-	-
4-2-264 02002171	B3 区画 深跡	縄文土器	-	11.4	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	4-9 20070970
4-2-265 05000391	Z2 区画 深跡	縄文土器	-	9.8*	-	外：に赤褐色 内：に黄褐色	-	4-9 20070971
4-2-266 05000392	A3 区画	縄文土器	-	13.5*	-	外：に赤褐色 内：灰褐色	-	4-9 20070972
4-2-267 05000433	A2-Z2 区画	縄文土器	-	6.6*	-	外：に赤褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070973
4-2-268 05000427	Z2 区画	縄文土器	-	11.8*	-	外：褐 内：褐	-	-
4-2-269 05000438	Z2 区画	縄文土器	-	5.5*	-	外：に赤褐色 内：に赤褐色	-	4-9 20070974

表4-3 2・3区縄文時代の遺構出土土器

登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
4-2-270 05000428	A2区画	縄文土器	-	10.3*	-	外：明赤褐色 内：黒褐色	-	4-9 20070975
4-2-271 05000434	A2区画	縄文土器	-	6.6*	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070976
4-2-272 05000435	A3区画	縄文土器	-	5.4	-	外：明赤褐色 内：明赤褐色	-	4-9 20070977
4-2-273 01004568	A2区画	縄文土器	-	8.0	-	外：黄褐色 内：褐色	-	4-9 20070978
4-2-274 02002142	B4区画	縄文土器	-	11.1*	-	外：橙 内：黒褐色	-	4-9 20070979
4-2-275 01004561	B3区画	縄文土器	-	8.6*	-	外：明赤褐色 内：赤褐色	-	4-9 20070980
4-2-276 05000504	Z3区画 SK3018	縄文土器	-	10.6	-	外：橙 内：橙	-	-
4-2-277 05000430	Z1区画	縄文土器	-	6.6*	-	外：明黄褐色 内：にじいろい・黄褐色	-	-
4-2-278 01004569	B3区画	縄文土器	-	-	-	外：橙 内：黒褐色	-	4-9 20070981
4-2-279 01004577	B3区画	縄文土器	-	-	-	外：橙 内：にじいろい・黄褐色	-	-
4-2-280 01004572	B3区画	縄文土器	-	-	-	外：にじいろい・橙 内：黒褐色	-	-

表4-4 2・3区縄文時代の遺構外出土石器

横岡一番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
4-25-281 05000039	Z2区画	打製石器 石鏟	25.2	18.9	4.4	1.4	黒曜岩	-	4-10 20070262
4-25-282 05000040	Z2区画	打製石器 石鏟	16.2	17.0	3.0	0.8	黒曜岩	-	4-10 20070263
4-25-283 05000041	A3区画	打製石器 石鏟	27.9	18.8	3.7	1.4	黒曜岩	-	4-10 20070264
4-25-284 05000042	Z2区画	打製石器 石鏟	29.5	14.3	3.0	1.0	黒曜岩	-	4-10 20070265
4-25-285 05000043	Z2区画	打製石器 石鏟	25.3	16.0	2.6	1.2	黒曜岩	-	4-10 20070266
4-25-286 03000812	A2区画	打製石器 石鏟	27.5	17.7	5.5	1.9	黒曜岩	-	4-10 20070267
4-25-287 05000045	Z2区画	打製石器 石鏟	21.6	16.1	3.8	1.2	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070268
4-25-288 05000044	Z2区画	打製石器 石鏟	37.4	17.7	3.1	1.6	黒曜岩	-	4-10 20070269
4-25-289 03000819	A3区画	打製石器 石鏟	13.5	12.1	2.5	0.2	黒曜岩	-	4-10 20070270
4-25-290 05000055	B3区画	打製石器 石鏟	29.6	18.6	4.3	2.2	黒曜岩	両面中央に薄瘤あり	4-10 20070271
4-25-291 05000048	Z1区画	打製石器 石鏟	27.5	21.4	3.7	1.3	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070272
4-25-292 05000048	A2区画	打製石器 石鏟	31.7	18.3	3.7	1.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070273
4-25-293 05000047	A2区画	打製石器 石鏟	23.7	23.6	4.1	2.2	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070274
4-25-294 03000823	A2区画	打製石器 石鏟	29.6	20.6	4.9	2.7	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070275
4-26-295 05000031	A3区画	打製石器 搔器?	44.0	17.4	9.2	6.0	黒曜岩	-	4-10 20070276
4-26-296 05000001	Z2区画	打製石器 削器	43.7	12.1	4.5	2.6	黒曜岩	-	4-10 20070277
4-26-297 05000002	Z2区画	打製石器 削器	45.7	12.7	4.7	2.6	黒曜岩	-	4-10 20070278
4-26-298 05000054	A3区画	打製石器 削器	45.4	22.7	9.4	6.7	黒曜岩	-	4-10 20070279
4-26-299 05000005	Z2区画	打製石器 削器	51.4	22.1	9.5	7.2	黒曜岩	-	4-10 20070280
4-26-300 05000004	Z2区画	打製石器 削器	52.5	21.1	5.6	5.6	黒曜岩	-	4-10 20070281
4-26-301 05000053	B2区画	打製石器 削器	46.5	19.6	5.8	5.1	黒曜岩	-	4-10 20070282
4-26-302 05000032	Z2区画	打製石器 削器	45.1	31.2	9.1	9.0	黒曜岩	-	4-10 20070283
4-26-303 05000049	A2区画	打製石器 削器	63.2	16.3	4.9	4.5	黒曜岩	-	4-10 20070284
4-26-304 05000006	A3区画	打製石器 削器	51.1	17.9	6.1	5.4	黒曜岩	-	4-10 20070285
4-26-305 05000008	Z3区画	打製石器 削器	66.5	27.5	5.7	9.6	黒曜岩	-	4-10 20070286
4-26-306 05000007	Z2区画	打製石器 削器	60.6	31.2	8.3	12.8	黒曜岩	-	4-10 20070287
4-26-307 05000010	Z2区画	打製石器 削器	84.9	39.5	10.4	26.4	黒曜岩	-	4-10 20070288
4-26-308 03000824	B3区画	打製石器 削器	30.5	29.9	13.0	10.1	黒曜岩	-	4-10 20070289
4-26-309 05000034	Z2区画	打製石器 削器	30.6	37.0	4.5	4.6	黒曜岩	-	4-10 20070290
4-26-310 05000057	B3区画	打製石器 削器	32.5	24.8	7.7	5.7	黒曜岩	一部欠損	4-10 20070291
4-26-311 05000033	Z2区画	打製石器 削器	39.1	36.1	16.5	22.6	黒曜岩	石核転用	4-10 20070292
4-26-312 05000056	B4区画	打製石器 削器	56.0	38.7	10.9	17.4	黒曜岩	-	4-10 20070293
4-26-313 05000003	Z2区画	打製石器 削器	48.6	35.9	6.3	10.7	黒曜岩	-	4-10 20070294
4-26-314 05000015	Z2区画	打製石器 削器	43.5	35.7	9.5	9.4	黒曜岩	-	4-10 20070295

表4-4 2・3区縄文時代の遺構出土石器

横固一番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
4-27-315 05000054	A2 区画	打製石器 削器	60.6	32.2	6.9	13.0	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070296
4-27-316 05000062	A2 区画	打製石器 削器	82.1	28.4	6.0	15.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070297
4-27-317 05000058	A3 区画	打製石器 削器	74.8	45.4	14.8	44.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070298
4-27-318 05000061	Z2 区画	打製石器 削器	75.4	25.6	12.6	21.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070299
4-27-319 05000060	A2 区画	打製石器 削器	77.0	30.4	9.1	21.4	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070300
4-27-320 05000067	Z2 区画	打製石器 削器	80.5	39.8	17.5	45.6	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070301
4-27-321 03000822	B3 区画	打製石器 削器	30.9	57.0	9.2	15.0	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070302
4-27-322 03000821	A3 区画	打製石器 削器	45.5	80.0	11.0	33.6	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070303
4-27-323 05000063	A2 区画	打製石器 削器	91.9	49.4	7.9	42.4	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070304
4-27-324 05000053	Z2 区画	打製石器 削器	66.4	63.1	16.0	44.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070306
4-27-325 05000059	Z2 区画	打製石器 削器	73.8	45.0	12.7	40.8	無斑品質 安山岩	-	4-10 20070305
4-28-326 05000066	A2 区画	打製石器 削器	58.1	55.5	12.3	41.2	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070307
4-28-327 05000051	A2 区画	打製石器 削器	66.7	56.2	12.0	46.6	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070308
4-28-328 05000052	A3 区画	打製石器 削器	60.7	57.2	8.3	32.4	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070309
4-28-329 05000064	A3 区画	打製石器 削器	57.1	61.2	15.6	52.6	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070310
4-28-330 05000018	A2 区画	打製石器 R F	34.4	19.8	3.6	2.6	黒曜岩	-	4-11 20070311
4-28-331 05000036	Z2 区画	打製石器 R F	34.9	25.7	5.9	3.6	黒曜岩	-	4-11 20070312
4-28-332 03000813	B2 区画	打製石器 R F	50.2	21.0	6.6	5.4	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070313
4-28-333 05000009	A2 区画	打製石器 R F	64.2	17.2	6.0	5.6	黒曜岩	-	4-11 20070314
4-28-334 03000817	B3 区画	打製石器 R F	46.5	27.0	7.5	6.8	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070315
4-28-335 05000065	Z2 区画	打製石器 R F	44.8	24.2	7.9	7.8	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070316
4-28-336 05000019	Z2 区画	打製石器 M F	24.2	18.2	6.0	2.2	黒曜岩	-	4-11 20070317
4-28-337 03000816	A2 区画	打製石器 M F	28.4	14.3	4.5	1.2	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070318
4-28-338 05000035	Z2 区画	打製石器 M F	36.8	19.2	8.3	4.0	黒曜岩	-	4-11 20070319
4-28-339 05000029	Z2 区画	打製石器 M F	36.1	16.4	4.5	2.2	黒曜岩	-	4-11 20070320
4-28-340 05000022	Z2 区画	打製石器 M F	40.1	15.6	4.2	2.8	黒曜岩	-	4-11 20070321
4-28-341 05000020	Z2 区画	打製石器 M F	38.6	16.2	5.9	3.4	黒曜岩	-	4-11 20070322
4-28-342 05000030	Z1 区画	打製石器 M F	42.0	17.9	5.7	4.4	黒曜岩	-	4-11 20070323
4-28-343 05000012	A2 区画	打製石器 M F	50.3	14.8	8.2	7.2	黒曜岩	-	4-11 20070324
4-28-344 03000815	A2 区画	打製石器 M F	49.9	14.2	5.0	2.1	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070325
4-28-345 05000049	Z2 区画	打製石器 M F	48.3	20.0	4.5	4.2	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070326
4-29-346 05000016	A3 区画	打製石器 M F	41.2	21.4	6.1	3.8	黒曜岩	-	4-11 20070327
4-29-347 05000021	A3 区画	打製石器 M F	43.6	27.8	10.9	7.4	黒曜岩	-	4-11 20070328
4-29-348 05000013	Z2 区画	打製石器 M F	52.9	21.3	8.1	6.2	黒曜岩	-	4-11 20070329

表4-4 2・3区縄文時代の遺構外出土石器

横岡一番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 kg	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
4-29-349 05000023	Z2 区画	打製石器 M F	51.2	19.2	6.5	5.4	黒曜岩	-	4-11 20070330
4-29-350 05000050	A2 区画	打製石器 M F	55.1	16.9	5.6	4.5	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070331
4-29-351 05000052	B3 区画	打製石器 M F	51.5	21.5	4.3	5.5	黒曜岩	-	4-11 20070332
4-29-352 03000820	B3 区画	打製石器 M F	52.6	23.7	5.6	4.9	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070333
4-29-353 05000017	Z2 区画	打製石器 M F	49.4	21.1	6.5	6.0	黒曜岩	-	4-11 20070334
4-29-354 05000025	Z2 区画	打製石器 M F	52.0	26.8	4.8	5.8	黒曜岩	-	4-11 20070335
4-29-355 05000027	Z3 区画	打製石器 M F	56.0	26.1	10.8	10.6	黒曜岩	-	4-11 20070336
4-29-356 03000814	A3 区画	打製石器 M F	58.5	31.3	7.6	9.1	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070337
4-29-357 05000028	Z2 区画	打製石器 M F	64.5	14.8	4.3	4.8	黒曜岩	-	4-11 20070338
4-29-358 05000014	Z3 区画	打製石器 M F	67.1	14.9	5.0	4.6	黒曜岩	被熱?	4-11 20070339
4-29-359 03000818	A3 区画	打製石器 M F	68.6	21.7	7.6	9.2	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070340
4-29-360 05000051	B3 区画	打製石器 M F	62.4	27.2	9.3	12.2	黒曜岩	-	4-11 20070341
4-29-361 05000068	Z2 区画	打製石器 M F	61.5	35.5	12.0	25.8	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070342
4-29-362 05000055	Z2 区画	打製石器 M F	62.4	48.7	11.0	21.0	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070343
4-29-363 05000069	A2 区画	打製石器 M F	82.7	49.9	19.0	86.8	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070344
4-30-364 05000945	表層	打製石器 削片	42.4	12.0	5.4	1.5	黒曜岩	-	4-11 20070345
4-30-365 05000946	Z2 区画	打製石器 石核	35.8	23.0	13.5	12.6	黒曜岩	-	4-11 20070346
4-30-366 05000947	Z3 区画	打製石器 石核	36.8	39.6	16.0	21.1	無斑品質 安山岩	-	4-11 20070347
4-30-367 05000384	Z2 区画	磨製石器 両端抉入石器	93.0	24.3	5.8	20.1	-	-	4-11 20070348
4-30-368 05000386	A3 区画	磨製石器 両端抉入石器	36.3	23.3	6.4	7.3	-	-	4-11 20070349
4-30-369 03000825	B3 区画	磨石器 磨石	121.8	108.9	43.5	979.8	-	-	4-11 20070350
4-30-370 03000827	B3 区画	磨石器 敲石	108.8	97.4	51.7	757.1	-	-	4-11 20070351
4-30-371 03000826	B3 区画	磨石器 磨石	123.7	87.7	57.8	965.1	-	-	4-11 20070352
4-30-372 05000958	B3 区画	磨石器 石皿	438.0	307.5	81.0	16000.0	花崗岩	-	4-11 20070353

3 弥生時代～近世の遺構と遺物

1) 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

遺構としては古墳時代の土坑1基が確認され、遺物は弥生土器・土師器がごく少量出土しているだけであるが（図4-33）、これらの資料は脊振山間部での当該時期の様相を知る上で貴重である。

SK3010は3区北部に位置しており、検出面の標高は約301.8mで、近世の遺構面より0.2mほど低い。長軸1.25m、短軸0.9mの不整な隅丸長方形で、遺構の深さは0.3mである。検出面付近と底面付近から土師器が出土した。373はSK3010から出土した土師器小皿で、内面はヘラケズリ、外面は調整不明である。374は検出面から出土した弥生土器底底部で、内面はハケメをナデ消しておらず、底面に何らかの圧痕がみられる。

2) 中世～近世の遺構と遺物

遺構としては中世の土坑1基、近世の掘立柱建物4棟、柵列2条などが確認されたが、ほとんどの遺構が2区北半部と3区に位置している。調査区東側は山裾が迫り、西側には神水川が流れていることから、同時期の遺跡の広がりは3区東側の民家までの狭い範囲に限られるものと推測される。

SK2007（図4-34）

2区東部に位置しており、検出面の標高は約301.4mである。長軸0.95m、短軸0.55mの不整な隅丸長方形で、深さは0.06mである。埋土中から土師器小皿、周辺から土坑に伴う可能性がある土師器小皿・杯が出土しているが、出土状況の記録類がほとんどないため、遺構の性格は不明である。出土土師器から13世紀中頃と考えられる。

SK2007出土遺物（図4-40）

375～380は土師器小皿で、底部糸切り離しである。歪みが大きいものがあるが、口径7.8～9.4cm、器高1.4～1.8cmである。381は土師器杯で、底部糸切り離しである。

SD2022（図4-34）

2区南部に位置しており、検出面の標高は299.3～300.5mである。走行はやや蛇行しているが、ほぼ東西方向で、約32m確認され、最大幅は3.0m、深さ0.8mである。断面は立ち上がりが緩やかなU字形の部分が多く、平面など全体の形状や土層からみて人為的なものではない。長軸の西側延長上は谷地形となっており、自然流路と推測される。遺物は土師器杯・竜泉窯系青磁碗・白磁片などが出土しており、遺物や周辺の状況などから近世には埋没していたと考えられる。

SD2022出土遺物（図4-40）

382・383は土師器杯で、383は底部糸切り離しである。384は竜泉窯系青磁碗III-2C類である。

SB2034（図4-35）

2区東側に位置しており、検出面の標高は301.1～301.6mである。発掘作業時には1間×6間の掘立柱建物で、すぐ東側に平行して10間のSA2035が存在すると考えられていたが、SB2034東辺とSA2035の柱穴の配置がほぼ対応することと、SA2035の主軸がSB2034の南辺に対応する部分でやや変化することから、SB2034を東面に庇が付く掘立柱建物、SA2035を4間の柵列として報告することにする。なお、この周辺の遺構配置は柱穴などの個別図を平板図にはめ込み、全体を図化しているので、正確性をやや欠いている。

SB2034は身舎が梁間2間、桁行6間（11.8m）で東面に1間の庇が付く掘立柱建物で、主軸をN26°Eにとる南北棟である。梁行は南辺4.25m、北辺3.65mで、平面がやや不整形になる。桁行の柱間は6尺5寸と推定される。



図4-31 2・3区古墳時代～近世遺構の分布（1/400）

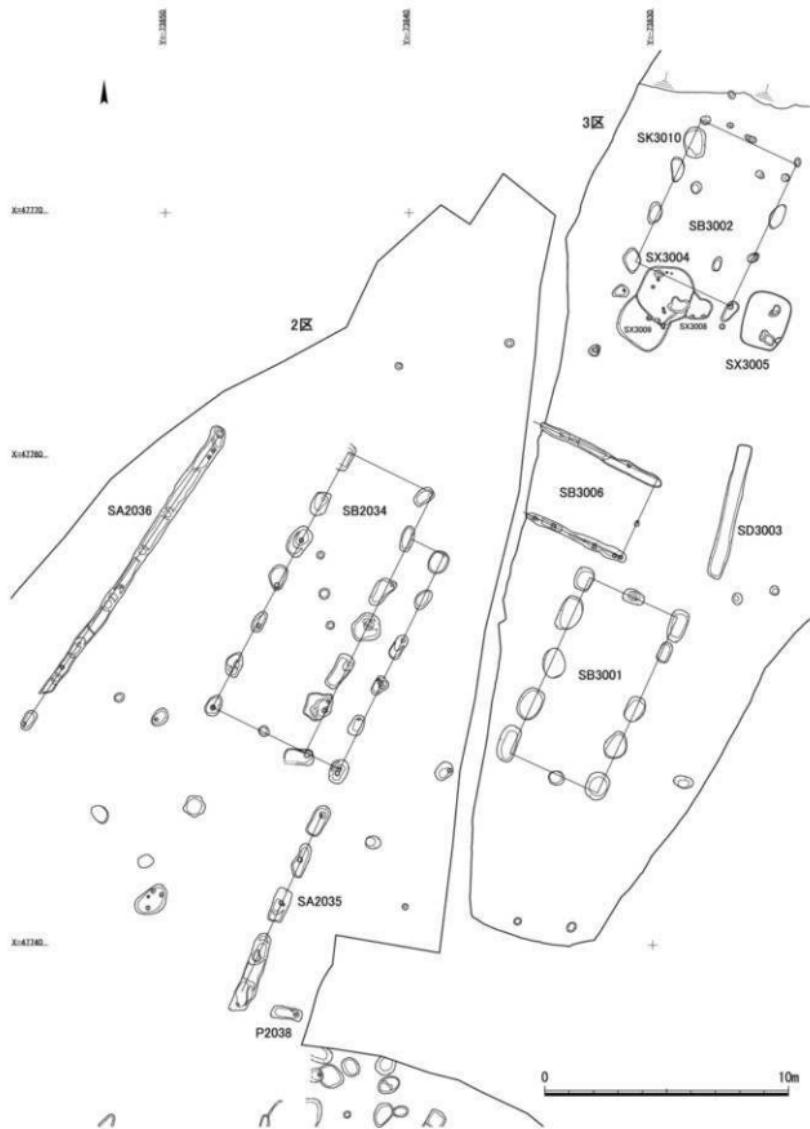


図4-32 2・3区古墳時代～近世遺構の分布詳細 (1/200)

柱穴は不整形のものが大部分であるが、隅丸長方形または梢円形基調と推定され、長軸 0.9 ~ 1.5 m と大型である。ただ、埋土の認識が難しかったためか、掘方はやや不正確で、PA に対応する底の柱穴を検出できなかった可能性がある。確認できた柱痕跡は径約 15 cm である。遺物は瓦器釜・土師器杯が出土した。

SB2034 出土遺物 (図 4-40)

385 は瓦器茶釜、386 は土師器杯で、底部糸切り離しか。387・388 は土師器杯で、同一個体の可能性が高い。底面ケズリで、糸切り痕を残さない。精選された胎土で、器壁は薄く、焼成も良好である。

SB3001 (図 4-36)

3 区南部に位置しており、検出面の標高は約 302.4 m である。梁間 2 間 (3.95 m)、桁行 5 間 (7.9 m) の掘立柱建物で、主軸を N24.5°E にとる南北棟である。柱間は梁行、桁行とも 6 尺 5 寸と推定されるが、PA と PB の間隔は狭い。PB は他の柱穴と比べやや小規模で浅く、上屋構造と関係する可能性がある。柱穴は隅丸長方形基調と考えられ、長軸 1.0 ~ 1.5 m と大型である。柱痕跡は確認できていない。遺物は明青花、肥前陶器が出土した。

SB3001 出土遺物 (図 4-40)

389 は景德鎮窯系青花皿もしくは碗である。390 は肥前陶器で、碗か。鉄釉の上に灰釉を流しかけている。

SB3002 (図 4-37)

3 区北部に位置しており、検出面の標高は 301.8 ~ 302.3 m である。梁間 2 間 (4.3 m)、桁行 3 間 (6.4 m) の掘立柱建物と考えられ、主軸を N25.5°E にとる南北棟である。柱間は梁行、桁行とも 7 尺と推定される。柱穴は梢円形または円形基調で、径 0.4 ~ 1.1 m であるが、北辺の柱穴は小規模で、庇の可能性がある。また、南辺近くに位置する SX3004 は SB3002 に関連する可能性がある。遺物は土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

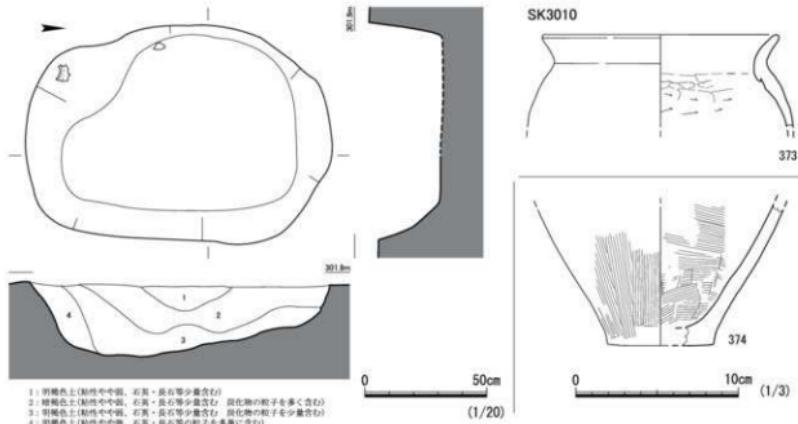


図 4-33 2・3 区弥生～古墳時代の遺構 (1/20)・遺物 (1/3)

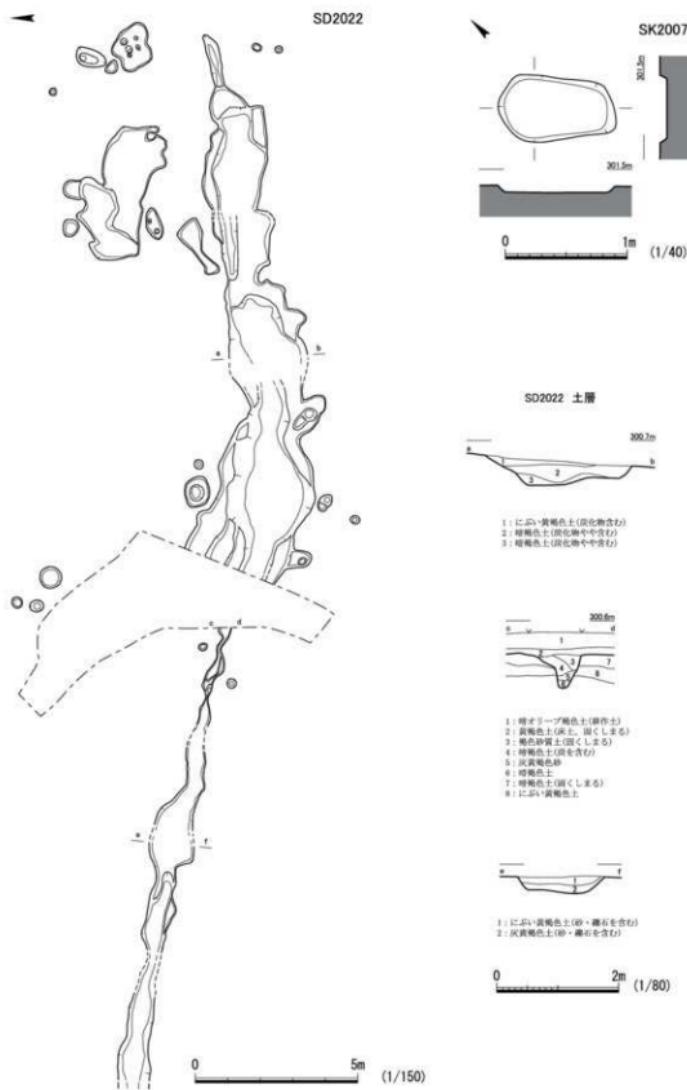


図4-34 2・3区中世の遺構 (1/40、1/80、1/150)

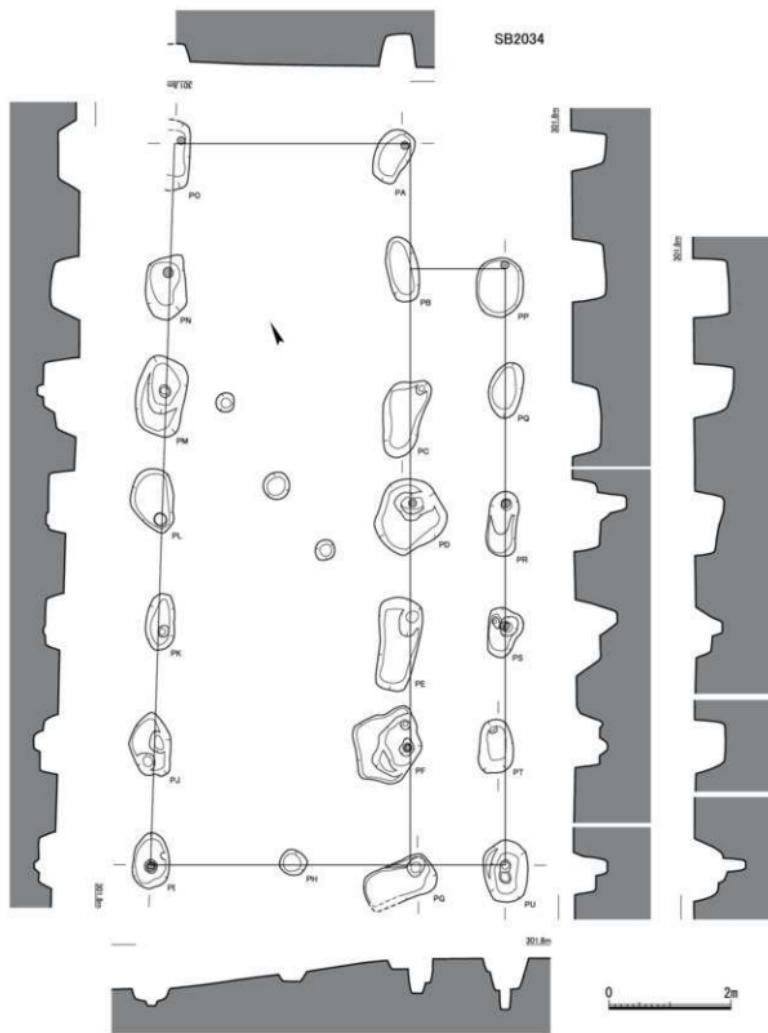


図4-35 2・3区近世の掘立柱建物1 (1/80)

SB3006 (図 4-37)

3 区中央部や西寄りに位置しており、検出面の標高は 302.3 ~ 302.5 m である。幅 0.4 m の 2 条の溝が平行してあり、柱痕などは確認されていないが、形状などから布掘りの掘立柱建物と考えられる。梁間 2 間 (3.54 m)、桁行は 5.2 m 以上で、主軸を N65° W とする東西棟である。遺物は外耳をもつ瓦器鍋、土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

SA2035 (図 4-38)

2 区中央部や北寄りに位置しており、検出面の標高は 301.3 ~ 301.6 m である。SB2034 の項で述べたように、整理段階で 4 間の柵列と判断した。主軸は N24° E で、SB2034 の庇に連続するように配置されている。PA で径 15cm の柱痕跡が確認され、柱穴の形状から柱間は 6 尺 5 寸の可能性がある。柱穴は隅丸長方形基調で、長軸約 1.4 m と大型である。ただ、前述したように埋土の認識が難しかったためか掘方にはやや疑問が残る。また、PD 東側に同様の柱穴 (P2038) が検出されており、関連するかもしれない。遺物は白磁皿が出土した。

SA2035 出土遺物 (図 4-40)

391 は白磁皿で、高台内は露胎である。

SA2036 (図 4-38)

2 区北部に位置しており、検出面の標高は 300.5 ~ 301.1 m である。幅 0.4 ~ 0.7 m の溝状の遺構で、ほぼ一定の間隔で柱穴状に掘り込まれた部分が検出されていることから、溝南西の柱穴を含めて布掘りの柵列で、目隠し柵と推定される。主軸は N34.5° E で、他の掘立柱建物や柵列とやや方位が異なり、地形に沿って建てられたものと考えられる。断面の形状から 7 間の柵列で、柱間は 6 尺 5 寸ないし 6 尺と推定されるが、1 ケ所 8 尺 5 寸ほどと広い部分がある。遺物は出土していない。

SX3004 (図 4-39)

3 区北部に位置しており、検出面の標高は約 302.3 m である。長軸 2.3 m、短軸 2.2 m のやや不整な隅丸方形で、深さ 0.1 m である。埋土には炭化物が多く含まれ、炭化物には竹などが認められた。炭化物上面から完形の土師器杯がふせた状態で出土している。前述のように SB3002 と関連する可能性がある。なお、SX3004 より古い時期の浅い土坑が 2 基 (SX3008・3009) 検出されているが、時期・性格などは不明である。

SX3004 出土遺物 (図 4-40)

392 は土師器小皿で、底部糸切り離しである。油煤が付着しており、灯明皿と考えられる。

SX3005 (図 4-39)

3 区北部に位置しており、検出面の標高は約 302.4 m である。長軸 2.3 m、短軸 1.8 m のやや不整な隅丸長方形で、深さ 0.1 m である。SX3004 と同様埋土に炭化物が多く含まれ、集中する部分もある。遺物は土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

SD3003 (図 4-39)

3 区中央部に位置しており、検出面の標高は約 302.5 m である。長さ 5.7 m、幅 0.65 m、深さ 0.15 m で、主軸は N14° E である。遺物は出土していないが、掘立柱建物などとは方位が異なり、2 区と 3 区の間の段落ちにはほぼ平行することから、近代以降である可能性がある。

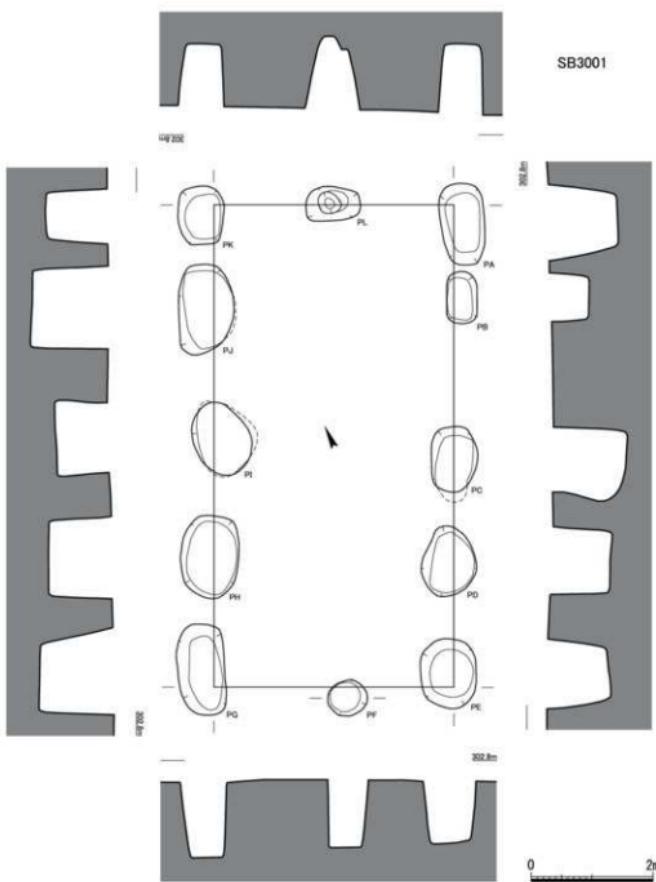


図4-36 2・3区近世の掘立柱建物2 (1/80)

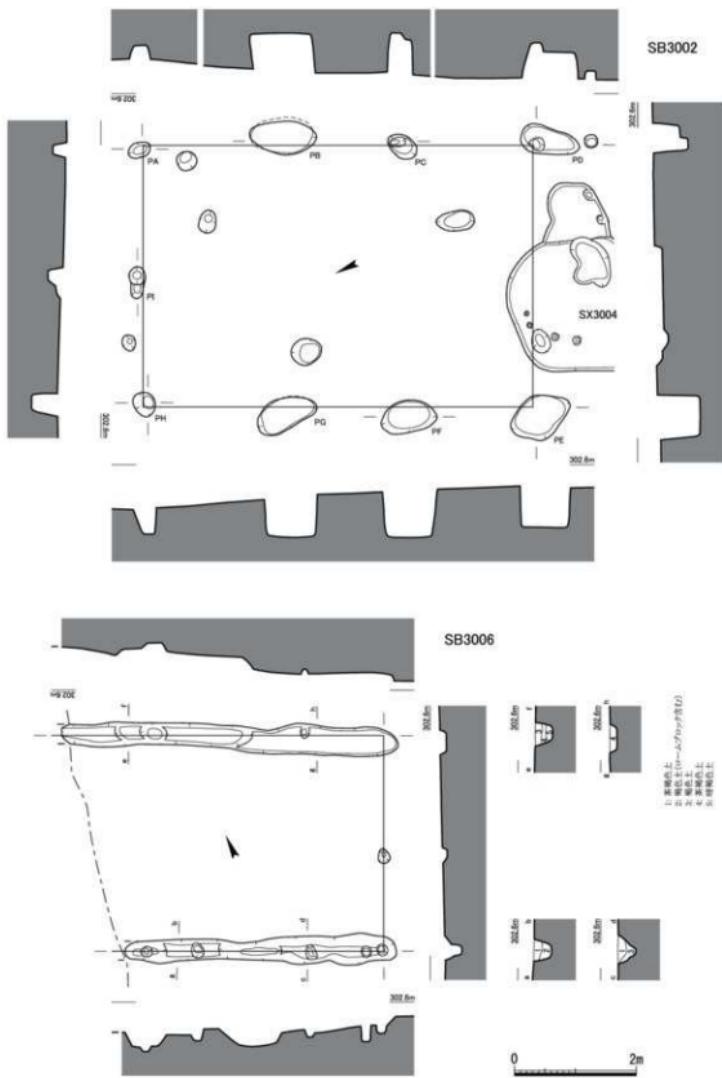


図4-37 2・3区近世の掘立柱建物3 (1/80)

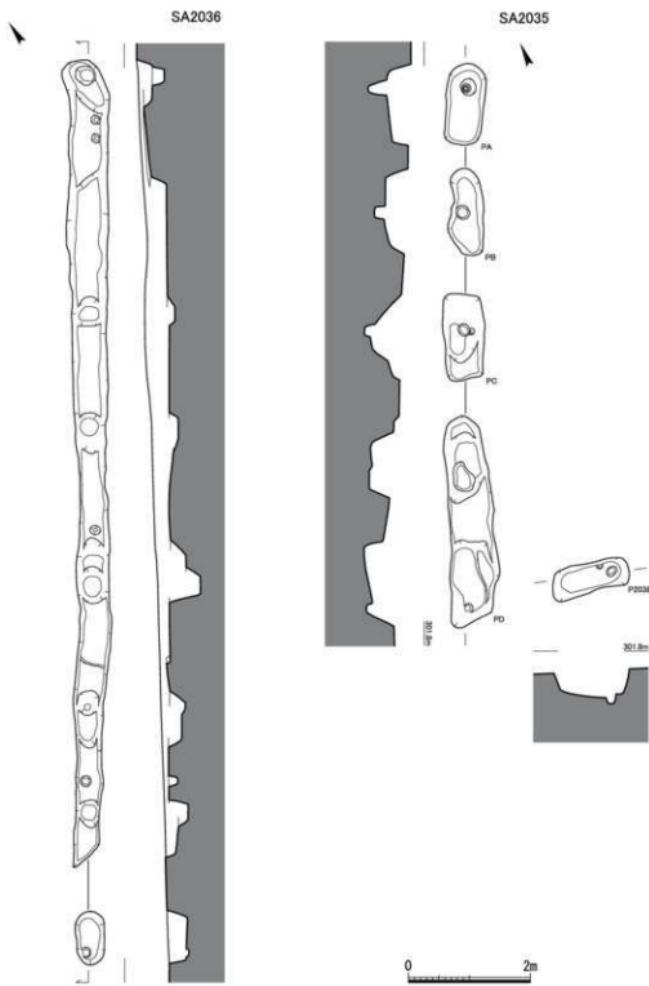


図4-38 2・3区近世の層列 (1/80)

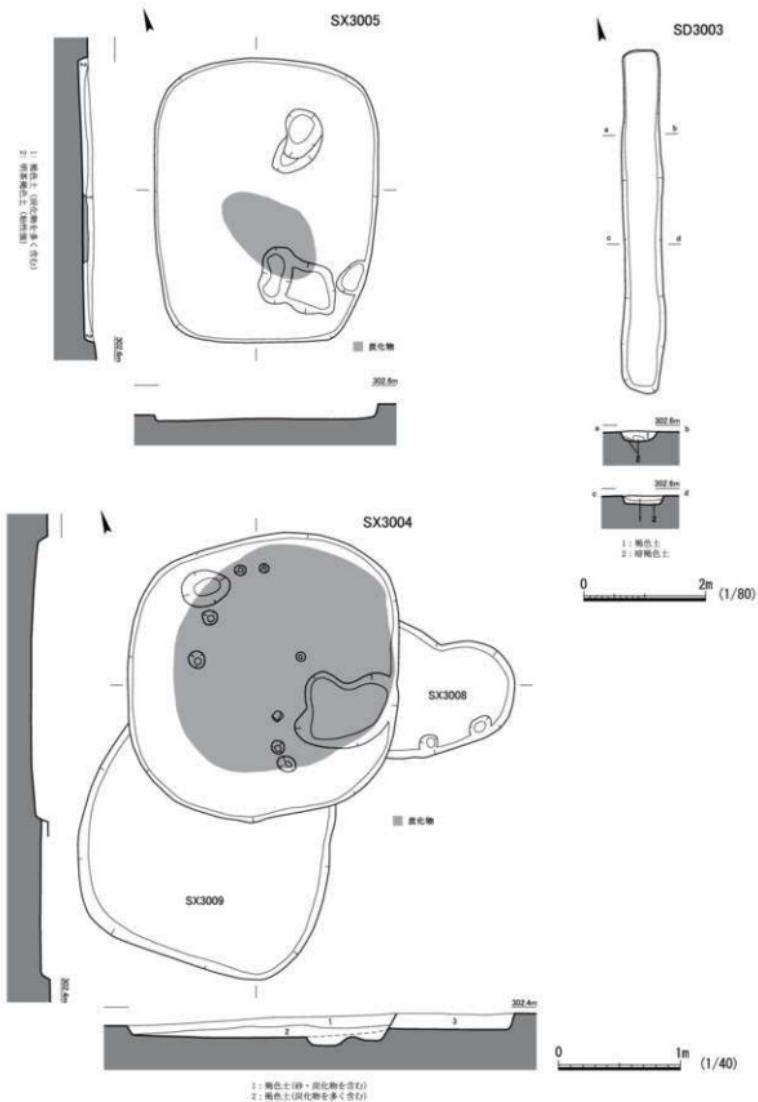
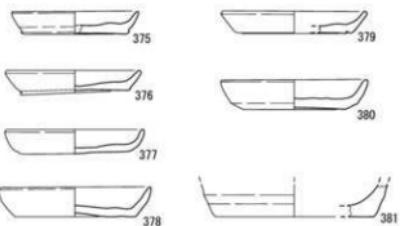
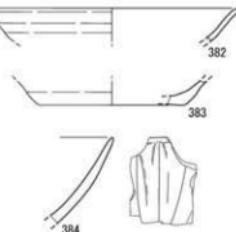


図4-39 2・3区近世の遺構（その他） (1/40, 1/80)

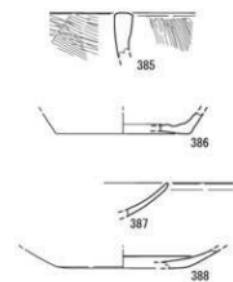
SK2007



SD2022



SB2034



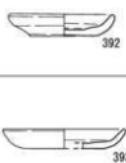
SB3001



SA2035



SX3004



P2016

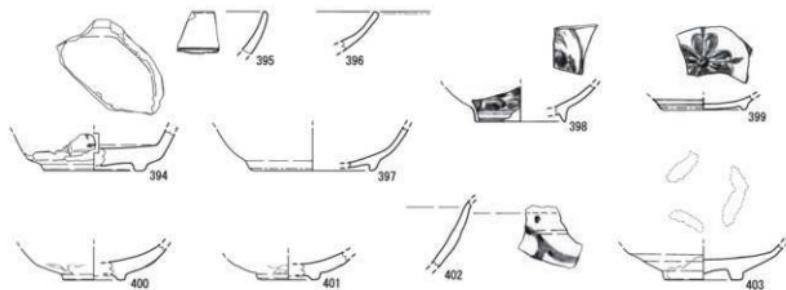


図4-40 2・3区中世～近世の遺物1 (1/3)

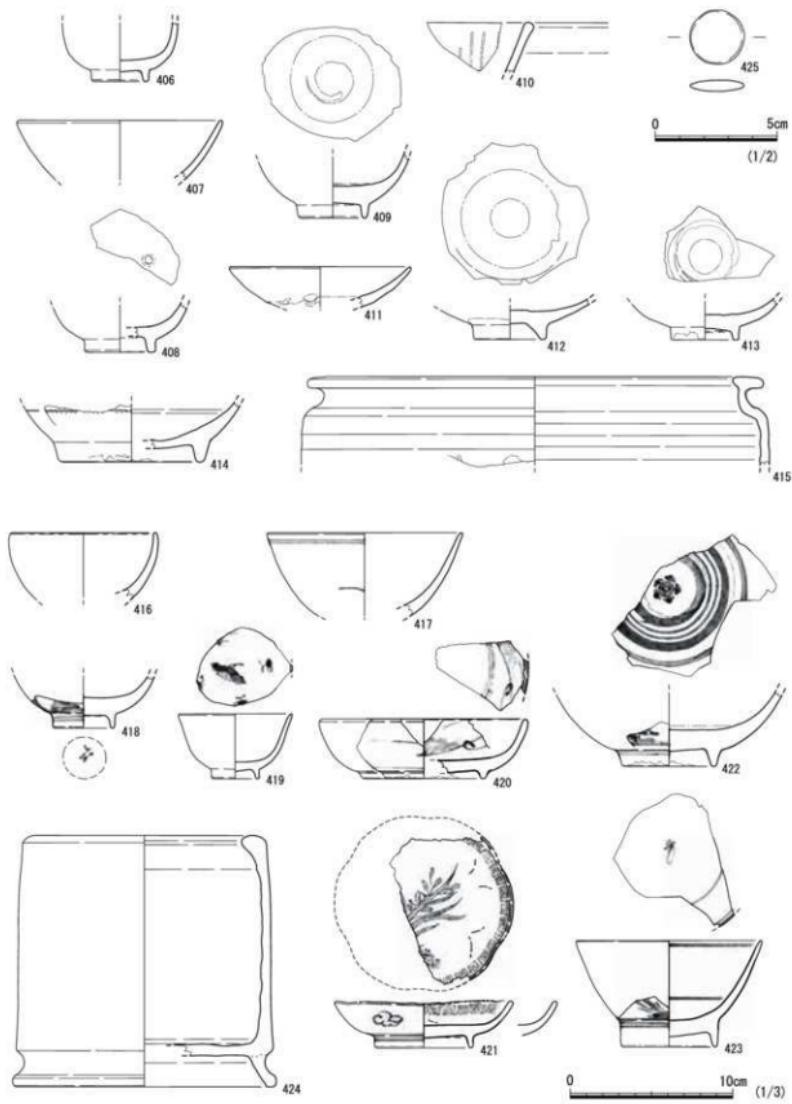


図4-41 2・3区中世～近世の遺物2 (1/2, 1/3)

小穴出土遺物（図4-40）

393はP2016から出土した土師器小皿で、底部糸切り離してある。

遺構に伴わない遺物（図4-40・41）

394は高麗青磁象嵌角鉢で、全面に施釉され、高台に目跡が残る。395は高麗青磁象嵌碗である。396は朝鮮陶器皿で、口縁端部を釉剥ぎしている。397は景德鎮窯系白磁皿で、高台に砂が付着する。

398・399は景德鎮窯系青花皿である。399はやや粗製で、高台と高台内中央に砂が付着する。

400・401は岸岳窯系陶器皿で、薺灰釉を施釉する。402は肥前陶器碗で、外面に鉄釉で文様を描く。403は肥前陶器皿、404・405は瓦器鍋である。

406～423は近世の陶磁器で、水田の造成土や擾乱部などから出土しており、ほとんどが18～19世紀のもので、近世初期の建物群廃絶後の資料である。410は福岡産の可能性がある陶器鉢で、内面に意図的に白色の縱方向の線を施している。422は波佐見系の可能性がある肥前色絵で、大振りの碗もしくは鉢である。見込み蛇の目釉剥ぎ後赤絵を施しており、波佐見でも赤絵が行われた可能性を示す資料である。

424は瓦器火鉢、425は黒の碁石である。

表4-5 2・3区弥生時代～近世の遺物

持因・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	周長			
43-373 07001025	SK3010	土師器 小皿	14.6*	-	-	褐	-	-
43-374 02002186	D4区西	弥生土器 甕	-	6.5*	-	褐	-	-
4-40-375 02002176	SK2007	土師器 小皿	7.8*	6.6*	1.4	にぶい褐	底部糸切	-
4-40-376 02002174	SK2007	土師器 小皿	8.3	6.7	1.5	にぶい褐	底部卒切	4-16 20071313
4-40-377 02002177	SK2007	土師器 小皿	8.5	6.7	1.5	にぶい褐	底部卒切	4-16 20071314
4-40-378 02002180	SK2007	土師器 小皿	9.4*	7.6	1.8	外：にぶい褐 内：褐	底部糸切、赤みが大きい	-
4-40-379 02002179	SK2007	土師器 小皿	9.0*	7.1*	1.4	にぶい褐	底部糸切	-
4-40-380 02002178	SK2007	土師器 小皿	9.0*	6.4	1.8	外：にぶい褐 内：褐	底部卒切、板状圧痕	4-16 20071315
4-40-381 02002181	SK2007	土師器 杯	-	9.7*	-	褐	底部糸切、板状圧痕	-
4-40-382 02002183	SD2022	土師器 杯	15.6*	-	-	褐	-	-
4-40-383 02002182	SD2022	土師器 杯	-	9.0*	-	淡黄	底部糸切	-
4-40-384 02002185	SD2022	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白 釉調：明緑灰	竜泉窯系Ⅲ-2 C類	4-16 20071316
4-40-385 07000994	SH2034	瓦器 茶釜	-	-	-	外：灰 内：淡黄	-	-
4-40-386 07000992	SH2034	土師器 杯？	-	8.1*	-	にぶい黄褐	底部糸切？	-
4-40-387 07000995	SH2034	土師器 杯	-	-	-	にぶい黄褐	胎土精選、388と同一個体か	4-16 20071317
4-40-388 07000996	SH2034	土師器 杯	-	6.8*	-	外：淡黄 内：灰	胎土精選、387と同一個体か	4-16 20071318
4-40-389 07001023	SB3001 PG	青花 皿(碗)？	-	-	-	胎土：乳白 釉調：藍白	景德鎮窯系、16 C	4-16 20071319
4-40-390 07001022	SB3001 PH	陶器 碗？	-	4.7*	-	胎土：灰白 釉調：灰褐	肥前7、1590～1630年代、 灰釉(オリーブ色)波しきけ	4-16 20071320
4-40-391 07000997	SA2035 PD	白磁 皿	-	5.7*	-	胎土：灰白 釉調：灰白	中国、16C	4-16 20071321

表4-5 2・3区弥生時代～近世の遺物

件名・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
4-40-392 07001024	SX3004	土師器 小皿	6.6	4.3	1.4	にぶい緑	底部糸切、油廻付着	4-16 20071322
4-40-393 07000993	P2016	土師器 小皿	7.6*	5.0*	1.2	にぶい緑	底部糸切	-
4-40-394 02002190	造成土	青磁象嵌 角鉢	-	6.1*	-	胎土：灰 釉調：オリーブ灰	高麗、14 C後半	4-16 20071323・1324
4-40-395 02002187	造成土	青磁象嵌 碗	-	-	-	胎土：灰白 釉調：オリーブ灰	高麗、14 C後半	4-16 20071325
4-40-396 07001017	Z1 区画	陶器 皿	-	-	-	胎土：灰白 釉調：灰	朝鮮、15～16 C	4-16 20071326
4-40-397 02002192	造成土	白磁 皿	-	6.7*	-	胎土：灰 釉調：灰白	景德窯系、16 C	4-16 20071327
4-40-398 02002191	造成土	青花 皿	-	5.5*	-	胎土：灰白 釉調：明暎灰	景德窯系、16 C前半～中頃	4-16 20071328・1329
4-40-399 02002189	造成土	青花 皿	-	4.9*	-	胎土：灰白 釉調：灰白	景德窯系、16 C前半～中頃	4-16 20071330・1331
4-40-400 07001014	Z1 区画	陶器 皿	-	3.8*	-	胎土：灰黄 釉調：明暎灰	岸田窯系、1580～1590年代、 葛城釉	4-16 20071332
4-40-401 07001015	Z1 区画	陶器 皿	-	3.8*	-	胎土：灰白 釉調：明暎灰	岸田窯系、1580～1590年代、 葛城釉	4-16 20071333
4-40-402 07001018	Z1 区画	陶器 碗	-	-	-	胎土：灰白 釉調：灰オリーブ	肥前、1590～1610年代、鉄船	4-16 20071334
4-40-403 02002193	造成土	陶器 皿	-	4.7	-	胎土：灰白 釉調：灰白	肥前、1610～1650年代	4-16 20071335
4-40-404 07001020	A3 区画	瓦器 鍋	-	-	-	外：灰黄 内：灰白	慈永V類	-
4-40-405 07001021	Z1 区画	瓦器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄緑 内：にぶい黄緑・褐	慈永IV類	-
4-41-406 07001007	Z1 区画	陶器 小皿	-	3.5*	-	胎土：灰白 釉調：浅黄・灰白	肥前、18 C後半～19 C前半	-
4-41-407 07001006	Z1 区画	陶器 皿	12.7*	-	-	胎土：浅黄褐 釉調：にぶい黄	肥前、18 C前半、口縁部に鉄釉	-
4-41-408 07001008	Z1 区画	陶器 皿	-	4.4*	-	胎土：灰白赤褐色 釉調：にぶい黄褐	肥前、赤褐色の目輪調 見込みみ付ハマの沿着	-
4-41-409 07001010	Z1 区画	陶器 皿	-	4.1*	-	胎土：浅黄褐 釉調：浅黄	肥前、18 C前半、 見込み蛇の目輪調	-
4-41-410 02002194	造成土	陶器 鉢?	-	-	-	胎土：浅黄 釉調：黒	福岡?、江戸後期	4-16 20071336
4-41-411 07001016	Z1 区画	陶器 皿	11.2*	-	-	胎土：灰白 釉調：暗青灰	肥前、娘野?、18 C前半、 見込み蛇の目輪調	-
4-41-412 07001011	Z1 区画	陶器 皿	-	4.4	-	胎土：灰白 釉調：灰白	肥前、波佐見?、18 C。 見込み蛇の目輪調、焼成不良	-
4-41-413 07001012	Z1 区画	陶器 皿	-	4.2	-	胎土：灰白 釉調：灰	肥前?、18 C。見込み蛇の目輪調	-
4-41-414 07001009	Z1 区画	陶器 瓶	-	8.8*	-	胎土：にぶい褐 釉調：灰白	肥前、18 C、刷毛目装饰	-
4-41-415 07001013	Z1 区画	陶器 瓶	28.1*	-	-	胎土：にぶい黄緑 釉調：にぶい黄緑・灰白	福岡か肥前?、19 C 下に灰釉、上に藍釉	-
4-41-416 07000999	Z1 区画	白磁(染付?)	9.0*	-	-	胎土：灰白 釉調：白	肥前、吉田窯?、18 C。 (17 C後半) - 18 C	-
4-41-417 02002188	造成土	染付 碗	12.0*	-	-	胎土：灰白 釉調：灰白	肥前、17 C後半～18 C前半	-
4-41-418 07001002	Z1 区画	染付 碗	-	3.8	-	胎土：灰白 釉調：藍白	肥前、高台内「大明年製」	-
4-41-419 07001000	Z1 区画	染付 小杯	7.0*	3.0	4.0	胎土：乳白 釉調：灰白～藍白	肥前、19 C初～幕末	-
4-41-420 07001001	A2 区画	染付 皿	12.9*	7.6*	3.7	胎土：灰白 釉調：灰白	肥前、18 C後半	-
4-41-421 07001005	Z1 区画	染付 皿	11.0*	6.0*	-	胎土：乳白 釉調：乳白	肥前、1820～1860年代 輪花六弁、焼成不良	-
4-41-422 07001004	Z1 区画	色胎 碗	-	5.7*	-	胎土：白 釉調：藍白	波佐見系?、18 C後半 赤胎、見込み蛇の目輪調	4-16 20071337
4-41-423 07001003	Z1 区画	染付 碗	11.4*	5.9*	6.6	胎土：白 釉調：明暎灰	肥前、19 C前半、見込み「寿」	-
4-41-424 07001019	Z1・ Z2 区画	瓦器 火鉢	15.0*	16.1*	15.5	外：灰・暗灰黄 内：灰・暗灰黄	-	-
4-41-425 07000998	表探	石製品 碁石	径2.3	-	厚0.5	暗灰	-	-

4 まとめ

大野遺跡2・3区では縄文時代、弥生時代～古墳時代、中世～近世の遺構・遺物を調査した。以下、今次調査でも特に重要な成果である縄文時代後期の集落跡と近世初期の建物群について簡単にまとめておきたい。

1) 縄文時代後期の集落について

大野遺跡2・3区下層の縄文時代集落は、後期後葉の三万田式期に形成された小規模なもので、竪穴住居1棟、土坑5基、地床かの可能性がある焼土遺構21基、集石1基、炭化物集中2箇所を検出した。

縄文土器は、器形や文様などから後期後葉の三万田式に比定できる。同様な器形での大小の違いや浅鉢が数種に分化しているなどの三万田式期の時期的特徴と、精製土器と粗製土器の差が比較的明瞭で粗製深鉢の占める割合が高く精製鉢・浅鉢は少ないなどの北部九州の地域的特徴がよく現れている。後続する鳥井原式かと思われる資料が一、二あるものの、先行する太郎追式と判断できる資料はなく、狭義の三万田式単純に近い様相を示す土器群と評価できる（注1）。

石器は、削器や微細剝離痕ある剥片などの刃器類がもっとも多く、黒曜岩製石刃を素材とするものが一定の割合を占める。ただ、石刃やその他の素材剥片を剥ぎ取った石核の数は非常に少なく、多くが遺跡外に持ち出されたものと考えなければならない。黒曜岩製石刃は、打面が小さく細かな頭部調整を施すものが多く、打面と剥離作業面との境にスリガラス状擦痕を留めるものがあることから、この時期に盛行する鈴桶型石刃技法（小畠2002）によるものと判断される。石鎚は刃器類に比べると少なく、両面調整の凹型のものが主体である。剥片鎚の割合は低く、その製作に伴ういわゆる「つまみ形石器」も確認できたのは1点のみである。磨石・石皿も少量で、両端抉入石器が4個体出土したことは特筆されるが、磨製石斧はみられない。後期後葉の遺跡から多く出土する扁平打製石斧は1例もなく、川に近い立地にもかかわらず石鎚も確認されていない。

竪穴住居は1棟のみで埋設土器などもなく、上器の時間幅は狭く、磨製石斧や扁平打製石斧を欠き石核も持ち出されていて、土偶や石棒などの祭祀具も欠くなど、短期間に營まれた臨時のな集落の一例を示しているものと考えられる。同時期の拠点となる集落は、山間部の別の場所か山を降りた平野部・海岸部のいずれかにあったのであろう。地理的位置を考えると、大野2・3区縄文集落の母体は佐賀平野よりも唐津・前原方面が想定しやすい。

両端抉入石器は、縄文時代後期後葉～晩期中葉の遺跡で特徴的に見られる磨製石器で、佐賀県内でも鳥栖市戸藏上遺跡（鳥栖市教委2000）の8例を最多として、基山町白坂遺跡（基山町教委1988）や伊万里市源平岩洞穴遺跡（佐賀県教委1973）などで出土例がある。この種の石器は丁寧な研磨と破損しやすい石材の使用から祭祀具の一種として扱われることが多かったが、中間（1997）では紡織具などの実用品の可能性が示されており、先述した大野2・3区縄文集落の内容は実用品説を支持するものと言える。今のところ具体的な用途は判らないが、SX3027出土の57には不明瞭ながら横方向の帯状の異色部が観察され、使用時の緊縛痕の可能性がある。

2) 近世初期の建物群について

2・3区で確認された建物群は、SB2034・3001・3002・3006、SA2035の主軸がいずれも真北から約25°東に振れており、ほぼ主軸方向をそろえて企画的に配置されている。SA2036は主軸がやや異なるものの、地形に沿って建てられた影響と推測され、単独で存在したとは考えにくいので、以上の建物群は同時期とみてよいだろう。柱間について、6尺5寸を基準としているものが多いと推測されるが、SB3002は7尺と推定され、基準が異なる可能性がある。

このような企画的な建物配置や目隠し塀があることなどから、これらの建物群は一般的な集落ではなく、役所的な性格を持っていたものと推測される。建物のうち、桁行6間のSB2034は長屋的な建物で、詰所のような性格

が考えられる。SB3002の周辺には埋土に炭化物が多く含まれているSX3004・3005が存在しており、SB3002の性格に関連がある可能性がある。

建物群の時期については、柱穴から16世紀代の青花・白磁、肥前陶磁Ⅰ期の陶器が出土しており、1600年前後の年代が推定される。遺構外出土遺物をみると、当該時期の遺物は少量、後続する肥前陶磁Ⅱ・Ⅲ期の遺物はごくわずかで、大多数はIV・V期のものである。このような傾向や建物の建て替えがみられないことから、建物群の存続時期はごく短期間であったことが推定される。

大野地区における近世の役所としては、小城支藩の大野代官所の存在がまず頭に浮かぶ。ただ、大野代官所の設置時期について文献資料では明らかではない。代官所跡の確認調査では出土遺物の大部分が19世紀代の陶磁器で（富士町教委2003）、石垣の構築技術からも江戸時代後期に整備されたことが推測される。また『富士町史』に指摘されているように、江戸時代後期の絵図でも『小城郡山内郷』には代官所が描かれていないが、『小城郡山内郷 大野村見取絵図』には明記されていることからも設置時期が示唆される（注2）。

このように、2・3区の建物群と代官所を直接的に結びつけるのは時期的に難しいが、後世に代官所が置かれるることは示唆的である。大野地区は觀音峯を経て唐津へ、また長野峯を経て前原へ抜ける街道が通じている交通の要所であり、そのような地理的条件から江戸時代後期に代官所が設置された可能性が高い。2・3区で確認された近世初期の建物群も同様に、街道近くに設けられ短期間存続した「出先機関」と推測される。

注

- 1) 三万田式とその後の型式との分離については、富田（1977・1983・1987）による。なお、この時期の精製鉢・鉢については北部九州と中部九州の違いはほとんどないが、深縁の割合と器皿調整に関しては大きな違いがあり、概論すれば地域を異にする別の土器様式とみることもできる。
- 2) 天保9（1838）年に小城支藩領内の山内郷に代官所が置かれたことと関連する可能性がある。

第4章 引用・参考文献

- 小柳弘記（2002）「縄文時代の石刃一鉗柄型石刃技法について」『青丘学術集』第20集。（財）韓国文化研究振興財团
九州近世陶磁学会（2000）「九州陶磁の編年」
佐賀市教育委員会（1988）「白坂遺跡」邑山町文化財調査報告書第11集
佐賀県教育委員会（1973）「金剛島遺跡・源平洞穴遺跡発掘調査報告書」佐賀県文化財調査報告書第23集
太宰府市教育委員会（2000）「大宰府塙跡XV—陶磁器分類編—」太宰府市の文化財第49集
宮川範一（1977）「まとめ」鳥井原遺跡発掘調査報告書 熊本市教育委員会
宮川範一（1983・1987）「太郎追道路の構成土器（1）・（2）—太郎追式土器の認定—」『肥後考古』第4・6号 肥後考古学会
中間研志（1997）「Ⅲ クリナラ遺跡 D 各論 3 縄文晚期石器」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書—43—』福岡県教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』上巻・下巻 富士町
富士町教育委員会（2003a）『富士町内道路発掘調査報告書 平成7年～13年度』富士町文化財調査報告書第2集
水ノ江和同（1997）「北部九州の戰國後・朝鮮土器—三方田式から削り突起帯土器の直前まで—」『縄文時代』第8号 縄文時代文化研究会
森木朝子・片山まび（2000）「博多出土の高輪・朝鮮陶磁の分類試案—牛產地編年を視座として—」『博多研究会誌』第8号 博多研究会
吉留秀敏（1993）「縄文時代後期から鶴形の石器技術砲体の変化とその評価—早良平野を中心として—」『古文化談話』第30集（上）九州古文化研究会

第5章 自然科学分析

1 佐賀市東畠瀬遺跡出土の縄文晩期土器に付着した炭化物の炭素14年代測定

国立歴史民俗博物館研究部 藤尾慎一郎・小林謙一

1) 調査概要

佐賀市（旧佐賀郡富士町）に所在する東畠瀬遺跡の調査によって出土した縄文晩期後半の黒川式に比定される土器3点に付着した炭化物の炭素14年代を測定した結果、以下のような点が明らかになった。

測定したのは黒川式に比定された粗製深鉢と鉢形土器である。いずれも口縁部や胴部外面に付着した炭化物をAMS—炭素14年代測定した結果、 2800^{+14}_{-14} BP年代の測定値が出た。較正年代に直すと前11世紀を中心とし、これまで九州北部で国立歴史民俗博物館（以下、歴博）が測定してきた縄文晩期後半の較正年代と整合的である。

また近接する大野遺跡から出土した縄文後期後葉三万田式の測定値1点もあわせて報告する。

2) 調査の経緯と資料の選定

2003年7月に山の寺式が伴う黒川系土器が出土しているという情報を得た藤尾は、佐賀県教育庁文化課の松尾吉高氏の案内で現地を訪れ、整理担当の秦広之氏に調査内容をうかがった後、土器に付着した炭化物の採取をおこなった。総数は11点に及んだが測定値が出たのはわずか3点である。

以下、試料を採取した土器の説明、前処理、測定方法の順に述べ、最後に得られた炭素14年代について考察する。

3) 測定土器の考古学的位置づけ

包含層や土坑に伴って出土した土器群は、縄文系の粗製深鉢と精製土器、そして山の寺式、弥生化した前期の突帯文系土器である。弥生前期の突帯文系土器の測定値は得られなかつたが、佐賀平野では弥生前期最古段階の突帯文系土器で、板付I式新～板付IIa式に併行すると考えられる。佐賀市磯石B遺跡：SA22上振の砲弾型一条縫の直後にくるものと考えている。

縄文系土器群の位置づけだが、試料採取時には山の寺式が一緒に出土していることから、縄文晩期末～弥生早期の晩期系土器という意味で黒川式新に比定した。この呼び名はその後も最古段階の突帯文土器に伴う晩期系土器群の名称として定着することになった。

写真図版5-1に示したように東畠瀬で測定値が出た資料は3点である。以下、測定した土器の考古学的な特徴を述べる。

資料1 (04001850、FJ154)

包含層から出土した粗製鉢である。縄文晩期末～弥生早期の黒川式新に比定した。口縁部外面に付着した炭化物を採取した。写真中の枠線で囲んだ部分が採取箇所である。外面は貝殻条痕調整である。

資料2 (04001848、FJ149)

縄文晩期末～弥生早期の黒川式新に比定される砲弾型粗製深鉢である。胴部外面の各所に付着した炭化物を測定した。外面は貝殻条痕調整である。

資料3 (0401849、FJ159)

縄文晩期末～弥生早期の黒川式新に比定される砲弾型粗製深鉢である。内外面とも貝殻条痕調整である。胴部中位外面に付着した炭化物を測定した。

資料4 (02002149、FJ160)

東畠瀬遺跡の土器ではなく近接する大野遺跡2区出土の土器である。縄文後期後葉の三万田式に比定されている。



資料 1 04001850 FJ151

資料 2 04001848 FJ149



資料 3 04001849 FJ159

資料 4 02002149 FJ160

写真図版 5－1 炭化物の採取箇所（囲んだところが拡大箇所）縮尺不同

外外面に炭化物は付着していないものの、内面の胎土にかみこまれた3mm大の木炭を数個採取して測定した。外面は貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整のあとナデ消しが見られる。底部だけを欠失していて、胴部下半に二次焼成の痕跡も認められないので、加熱処理をおこなう器種ではない可能性もある。

4) 炭化物の処理と炭化物の状態

炭化物の前処理は、国立歴史民俗博物館でおこなっている通常の手順(注1)で、2003年度に歴博年代測定実験室において小林がAAA処理(酸、アルカリ、酸による化学洗浄)を行った。前処理前と前処理後に顕微鏡下で肉眼観察し、試料が良好なことを確認した(写真図版5-2)。前処理後の二酸化炭素化精製及びグラファイト化は地球科学研究所を通してアメリカのペータアナリティック社に委託した。東畠瀬遺跡6点、大野遺跡1点について行ったが、前処理後の状況で炭素量不足のものがあり、結果的に東畠瀬遺跡3点、大野遺跡1点について年代測定を行うことができた。以下に、炭化物の拡大写真と、炭化物の採取量、処理量、前処理後の回収量、精製用の燃焼量、燃焼後の二酸化炭素の炭素相当量(以上mg単位)および、試料の状況を検討するのに適した二酸化炭素相当量/燃焼量で表される炭素含有率(%)を表示する。2(FJ149)以外は、50%以上と良好な炭素含有率である。2(FJ149)が含有率39%とやや低いが、土器付着物であるため若干のミネラルの混在があったためと考えられ、年代測定用試料としては特に支障ないと考える。

表5-1 試料重量と炭素含有率

試料	採取量	処理量	回収量	燃焼量	炭素相当量(CO_2)	炭素含有率(%)
1(FJ154)	206	81	8.9	6.3	5.09	80.8%
2(FJ149)	62	41	2.0	1.8	0.70	38.9%
3(FJ159)	324	146	10.5	6.2	3.38	54.5%
4(FJ160)	13	13	2.0	1.8	1.07	59.4%

5) 測定結果と歴年較正

年代測定は、2003年度に地球科学研究所を通してアメリカのペータアナリティック社に委託した(測定機関番号Beta)。なお、別に佐賀県教育委員会でも同一試料をパレオ・ラボ社に委託した測定結果があるので、あわせて較正年代を検討する。

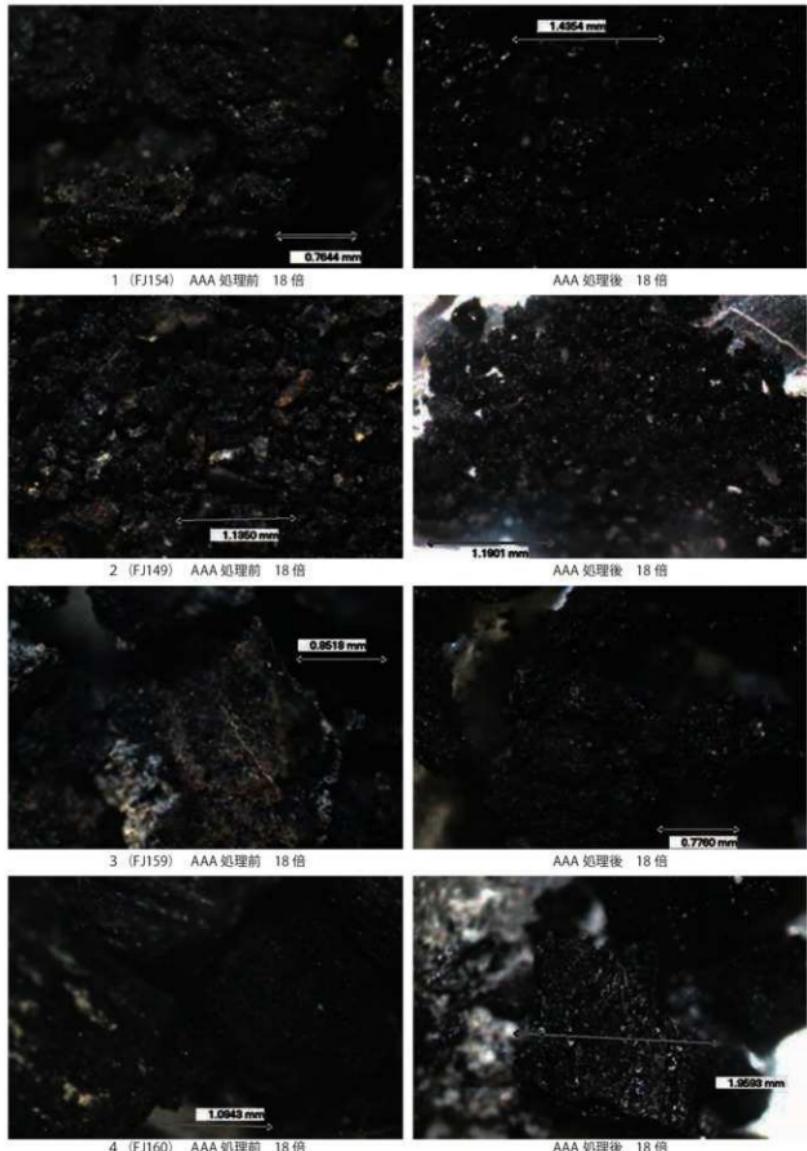
図5-1は、確率密度分布である。我々が測定したものと佐賀県がパレオ・ラボ社に委託したものと比べる。試料1では、 2840 ± 40 ^{14}C BPと 2800 ± 25 ^{14}C BPという測定値であり1σで重なる。試料3は、 2850 ± 40 ^{14}C BPと 2775 ± 25 ^{14}C BPという測定値であり1σで重ならないが、2σでみれば重なるとみることができる。よって、試料3についてはやや誤差が大きくなる可能性があるが、測定値としては大きな齟齬はないといふことができる。したがって以下では、ペータアナリティック社での測定値を用いる。

黒川式新段階の、試料1は較正年代では1125-900cal BC、試料2は1130-905cal BC、試料3は1130-905cal BCの中にもっとも高い確率密度分布が認められ、ほぼ同一の測定結果とみることができる(表5-2)。三万田式の試料4は1615-1435cal BCに含まれる較正年代で、東日本でのこれまでの結果から見ると後期中葉のおわり～後葉の初めごろに相当する年代である。

6) 年代的考察

① 黒川式の編年の位置づけの見直し

佐賀県教育庁文化課では私たちが調査をおこなった後に新たに炭化物を採取して、黒川式新：7点、三万田式：



写真図版 5-2 炭化物の顕微鏡写真（左が前処理前、右が前処理後）

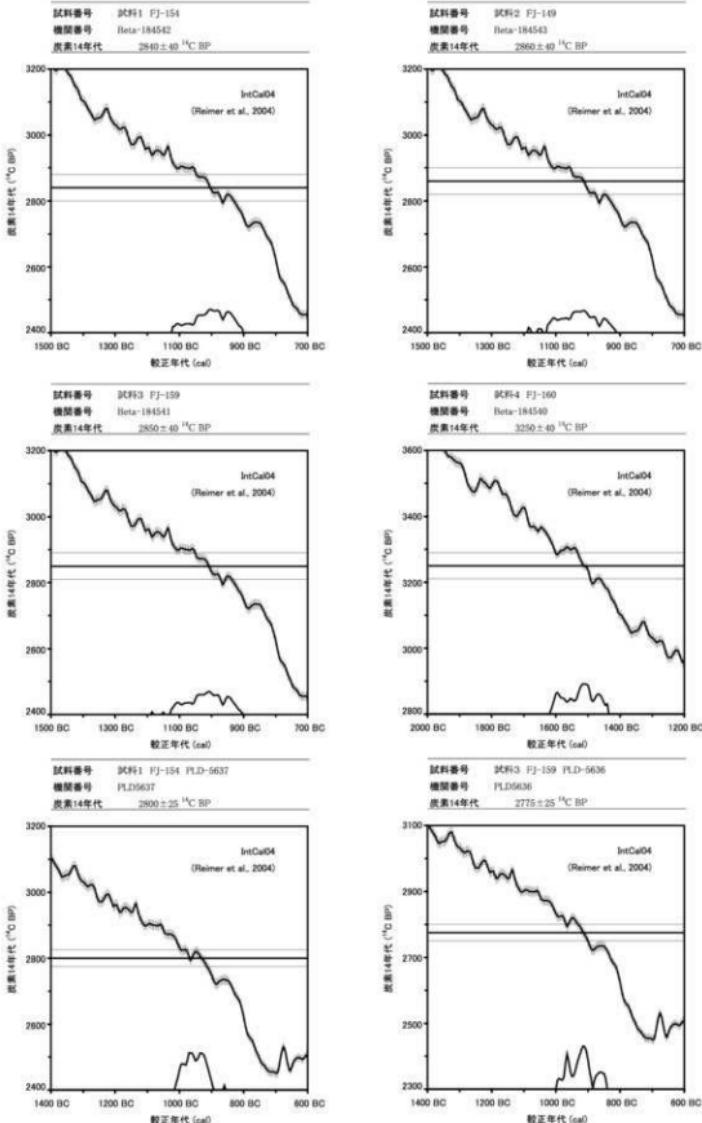


図 5-1 历年校正の確率密度分布図 (IntCal04 による)

2点の測定をおこなった。その結果、私たちが測定した資料1と3については、測定機関が異なる二つの測定値が得られたので、あわせて考察することにする。

2006年12月にこの原稿の執筆打ち合わせもかねて、整理が進んだ東畠瀬出土土器群の調査に呼んでいただいたところ、土器群の考古学的位置づけについて興味深い話を2点、うかがうことができた。

まず山の寺式はわずか2～3点しか伴わず、基本的に黒川式単純の様相を示したことである。伴う壺は3年前と同様わずかしかないものの、精製土器や組織痕文土器が小城市（旧三日月町）石木中高遺跡などに比べて少ないという事実がある。また打製石器がかなり多いこともふまると、突帯文土器出現以前の山間部に位置する集団の土器相という印象を強くした。

2点目に、隣接する西畠瀬遺跡の黒川式土器と東畠瀬の黒川式土器とは型式差が認められるという指摘である。担当の徳永貞紹氏によると、西畠瀬の黒川式には、精製土器の沈線の描き方や口縁部の作りに古い特徴がみられ、突帯文土器もまったく出土していないことを考えると、東畠瀬より古い可能性があるといふ。

もともと黒川式土器は精製土器を基準に2～3に細別されているが、精製土器には炭化物が基本的に付着しないこともある、炭素14年代と黒川式の細別との関係はわからていなかった。西畠瀬出土土器にも炭化物が付着しているうなので、いずれは炭素14年代が測定されようが、これまで歴博が測定してきた晩期土器の炭素14年代を総合して次のように仮定した。

山の寺式の炭素14年代は今のところ $2765\text{ }^{14}\text{C BP}$ が上限だが、これ以降にも数多くの縄文系土器群が存在することが知られている。福岡平野では夜臼IIa式併行期まで、島原半島にいたっては板付I式に併行する原山式まで存続することがわかっている（藤尾2007）。

以上の新しい知見をふまえ炭素14年代が $2800\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年代で、なおかつ山の寺式がほとんど含まれないことがわかった東畠瀬の晩期系土器群を突帯文土器に伴うグループから切り離すことにする。そしてこれまで黒川式新と呼んできた土器群の中から突帯文土器に伴う晩期系土器を分離して山の寺・夜臼I式に本来伴う煮炊き用土器と位置づける。これは山崎純男氏が1980年にすでに示している考え方である（山崎1980）。同じ用語で紛らわしいが黒川式新とは突帯文土器出現以前のものに限定し、仮に $2800\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年代の炭素14年代をもつものとするのである。

一方、付着炭化物を試料とした黒川式の上限は $2910\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年である。同時に九州南部における晩期初頭の土器型式である入佐式土器の炭素14年代は $2990\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年と $2940\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年の二つの測定値をもっているため、 $2910\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年の黒川式は、晩期初頭に直続するといつてもよい様相を呈している。そこでこれらの黒川式を黒川式古と呼んでおき、晩期前半に位置づける。なお古と新の境界がどこに来るかは今のところわからない。

したがって現状では晩期前半に位置し、 $2900\text{ }^{14}\text{C BP}$ 中頃以降の測定値をもつものを黒川式古、晩期後半に位置し、 $2800\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年代の測定値をもつものを黒川式新として、黒川式を二大別して捉えることにする。西畠瀬遺跡の黒川式土器の炭素14年代が得られてから、あらためて古と新の境界について考えてみたい。

② 東畠瀬遺跡出土土器の炭素14年代

以上のような黒川式をめぐる考古学的な位置づけの変更をふまえて、東畠瀬の黒川式新の炭素14年代について考えてみよう。

歴博、県教委測定の黒川式の炭素14年代には $2800\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年代と $2700\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年代の二者がある。バレオが測定した04001642が $2735\text{ }^{14}\text{C BP}$ で山の寺式の炭素14年代と併行するほかは、すべて山の寺式の炭素14年代よりも古い値を示す。山の寺式の上限がどこまで上がるのかは今のところ不明だが、東畠瀬のほとんどは黒川式新段階に位置づけてよいだろう。

歴博と県教委がともに測定したのが資料1と3である。資料1は中心値で $40\text{ }^{14}\text{C BP}$ 、資料3は中心値で $85\text{ }^{14}\text{C BP}$ ずれている。資料1は誤差の範囲で問題ないが、 $85\text{ }^{14}\text{C BP}$ 年ずれた資料3は、また2点しか測っていないので、

表5-2 東畠瀬遺跡(1~3)、大野遺跡(4)出土土器に付着した炭化物の年代(Betaは歴博測定、PLDは佐賀県測定)

資料番号	測定機関番号	炭素14年代 (^{14}C BP)	曆年較正calBC(2σ) (%) は確率密度	$\delta^{13}\text{C}$
1 黒川式新段階	Beta-184542	2840 ± 40	1125 cal BC- 900 cal BC	95.4%
	PLD-5637	2800 ± 25	1020 cal BC- 890 cal BC 870 cal BC- 850 cal BC	93.8% 1.6% -26.5
2 黒川式新段階	Beta-184543	2860 ± 40	1190 cal BC- 1175 cal BC 1160 cal BC- 1145 cal BC 1130 cal BC- 915 cal BC	1.4% 1.7% 92.4% -26.0
	Beta-184541	2850 ± 40	1185 cal BC- 1180 cal BC 1150 cal BC- 1145 cal BC 1130 cal BC- 905 cal BC	0.4% 0.3% 94.8% -25.6
3 黒川式新段階	PLD-5636	2775 ± 25	1000 cal BC- 840 cal BC	95.4% -26.6
	Beta-184540	3250 ± 40	1615 cal BC- 1435 cal BC	95.5% -25.9
4 三万田式				

どちらの値が真的値に近いのか判断することはできない。再測定できればベストだが、どちらの値も黒川式新の測定値の中には入っているので問題は少ないと考えている。

三万田式はハレオが測定した 0500548 も、歴博が測定した 02002149 も、3290 ^{14}C BP と 3250 ^{14}C BP ではほぼ同じ値といえるが、九州北部には確かにこの時期の測定例がないので、測定値が多い南関東と比較してみよう。

後期中葉～後葉の土器は加曾利 B 式～曾谷式で、これらの炭素 14 年代は加曾利 B3 式の炭素 14 年代（約 3300 ~ 3230 ^{14}C BP）～曾谷式の炭素 14 年代（約 3230 ~ 3180 ^{14}C BP）と整合性をもっているので妥当な測定値といえよう。

7) まとめ

東畠瀬の黒川式を新たな黒川式新として、突帯文土器出現以前に位置づけ、2800 ^{14}C BP 年代の値をとるものと仮定した。この見解は長崎県南島原市権現脇遺跡のレポート〔藤尾・小林 2006〕のなかで提唱した考え方で、レポートでは縄文晩期末（黒川式単純）としたものである。

この中で「佐賀県所在遺跡」と記したもののが東畠瀬遺跡の測定値だったのだが、先述した石木中高遺跡、菜畠遺跡 9 ~ 12 層の粗製深鉢もこの範囲に含まれる。

炭素 14 年代が 2700 ^{14}C BP 年代の粗製深鉢は、山の寺式や夜臼 I 式など最古の突帯文土器とともに煮炊き用土器群を構成するグループで、権現脇遺跡、福岡市日佐遺跡、菜畠遺跡、平戸市里田原遺跡の粗製深鉢もこの測定値の範囲に含まれる。権現脇遺跡では I 期とした土器群に相当する。

なお 2006 年 4 月に刊行された学術創成ニュースレター No.4 において「晩期系土器群第一群」〔藤尾 2006〕とした土器群は、今回の再考を受けて黒川式古と新に細別されることになり、晩期前半と後半にそれぞれ比定される。

本報告は 1 ~ 3 を藤尾、4 ~ 5 は小林、6 を藤尾が執筆した。なお本稿を草するにあたり、佐賀県教育庁文化課、松尾吉高氏（現吉野ヶ里公園管理センター）、森田孝志氏、徳永貞綱氏、渋谷格氏、秦広之氏（現久保田町教委嘱託）にお世話になった。また試料の前調整をおこなった歴博年代資料実験室の新免嘉靖氏に記して感謝の意を表したい。

この報告は、平成 15 年度科学研究費補助金「基盤研究(A・I)（一般）縄文弥生時代の高精度年代体系の構築」（代表今村峯雄 課題番号 13308009）、および平成 16 年度文部科学省・科学研究費補助金学術創成研究「弥生農耕の起源と東アジア炭素 14 年代測定による高精度編年体系の構築」（研究代表者西本豊弘）の成果の一部である。

参考文献

- 藤尾慎一郎・小林謙一 2006:「長崎県深江町椎原駿道跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」『椎原駿道跡』深江町文化財調査報告書第 2 集, pp. 623-635.
- 藤尾慎一郎 2006:「九州における縄文晩期から弥生前期の実年代」『ニューズレター』No. 4, pp.8-9.
- 藤尾慎一郎 2007:「土器型式を用いたウイグルマッチング」『国立歴史民俗博物館研究報告』査読中。
- Reimer, Paula J., et al. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0–26 cal kyr BP. Radiocarbon 46 (3), 1029–1058

注 1)

- (1) 前処理: 酸・アルカリ・酸による化学洗浄 (AAA 处理)。
AAA 处理に先立ち、土器付着物については、アセトンに浸漬し、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した (2 回)。AAA 处理として、80°C、各 1 時間で、希塩酸溶液 (1N-HCl) で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去 (2 回) し、さらにアルカリ溶液 (NaOH, 1 回目 0.01N, 3 回目 0.1N) でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5 回行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理 (1N-HCl 12 時間) を行いアルカリ分を除去した後、純水により洗浄した (4 回)。
- (2) 二酸化炭素化と精製: 酸化銅により試料を燃焼 (二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。
- (3) グラファイト化: 蒸触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

注 2)

年代データの “BP” という表示は、西暦 1950 年を基点にして計算した “C 年代 (モデル年代)” であることを示す。“C 年代を算出する際の半滅期は、5,568 年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差 (1 標準偏差、68% 信頼限界) である。

AMS では、グラファイト炭素試料の $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効率を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比により、 $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比に対する同位体効率を調べ補正する。 $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比は、標準体 (古生物 belemnite 化石の炭酸カルシウムの $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比) に対する千分率偏差 $\delta^{13}\text{C}$ (パーセント ‰) で示され、この値を $\pm 2\%$ に規格化して得られる $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比によって補正する。補正した $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比から、 ^{14}C 年代 (モデル年代) が得られる。加速器による測定は同位体効率補正のためであり、必ずしも $^{13}\text{C}/\text{C}$ 比を正確に反映しないこともあるが、ベータアナリティック社では分取した二酸化炭素を用いて安定同位体比を質量分析計で測定しているため、正確な試料の値とみることができる。その結果は、すべて $\pm 25 \sim \pm 26\%$ と、通常の陸生の植物に由来する可能性が高い結果であった。

測定値を較正曲線 IntCal04 (^{14}C 年代を歴年代に修正するためのデータベース、2004 年版) (Reimer P et al 2004) と比較することによって歴年代 (実年代) を推定できる。両者は統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、歴年代の推定確率分布として表す。歴年較正プログラムは、歴博で独自に開発したプログラム RICal (OnCal Program を応用した方法) を用いる。統計誤差は 2 標準偏差に相当する、95% 信頼限界で計算した。年代は、校正された西暦 (cal BC) で示す。○ 内は推定確率である。

2 東畠瀬遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤 茂・山形秀樹・
Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

1) はじめに

東畠瀬遺跡 1 区より検出された土器付着物などについて、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

2) 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表 5-3 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 5-3 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-5637	遺跡: SK1133 試料番号: 200603 測定番号: 04001850	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 製外（江継部の近） 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5640	遺跡: SK1101 試料番号: 200603	試料の種類: 陶化材 試料の性状: 不明 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 1N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5635	遺跡: F14 区画 試料番号: 200611 測定番号: 04001838	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 口縁外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5636	遺跡: F13 区画 試料番号: 200612 測定番号: 04001849	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 製外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.5N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5638	遺跡: F13 区画 試料番号: 200614 測定番号: 04001791	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 製外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5639	遺跡: F13 区画 試料番号: 200615 測定番号: 04001642	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 製外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5641	遺跡: Z14 区画 試料番号: 200622 測定番号: 06002211	試料の種類: 土器付着物・外縁（縁部） 試料の性状: 製外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5642	遺跡: 基床 試料番号: 200623 測定番号: 06000548	試料の種類: 土器付着物・内面（おこげ） 試料の性状: 口縁外 測定: dry 方位: 無	超音波洗浄 アセトン洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 木酢酸ナトリウム 0.2N, 鹽酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH

3) 結果

表 5-4 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図 5-2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行るために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表 5-4 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲	
PLD-5637	-26.48 ± 0.16	2800 ± 25	995BC (4.4%) 985BC 980BC (63.8%) 915BC	1020BC (93.8%) 890BC 870BC (1.6%) 850BC	<u>2800 ± 26</u>
PLD-5640	-25.71 ± 0.15	2875 ± 25	1120BC (7.7%) 1100BC 1090BC (60.5%) 1000BC	1130BC (95.4%) 970BC	<u>2876 ± 23</u>
PLD-5635	-26.59 ± 0.15	2790 ± 20	975BC (68.2%) 905BC	1010BC (93.9%) 890BC 870BC (1.5%) 850BC	<u>2791 ± 22</u>
PLD-5636	-26.62 ± 0.16	2775 ± 25	975BC (18.4%) 950BC 945BC (49.8%) 895BC	1000BC (95.4%) 840BC	<u>2777 ± 23</u>
PLD-5638	-26.39 ± 0.15	2840 ± 25	1040BC (50.2%) 970BC 960BC (18.0%) 930BC	1090BC (95.4%) 910BC	<u>2839 ± 23</u>
PLD-5639	-26.44 ± 0.14	2735 ± 30	905BC (68.2%) 835BC	930BC (95.4%) 810BC	<u>2735 ± 28</u>
PLD-5641	-26.43 ± 0.15	2840 ± 25	1040BC (50.1%) 970BC 960BC (18.1%) 930BC	1120BC (1.1%) 1100BC 1090BC (94.3%) 910BC	<u>2839 ± 26</u>
PLD-5642	-26.73 ± 0.14	3290 ± 20	1610BC (68.2%) 1525BC	1620BC (95.4%) 1500BC	<u>3290 ± 22</u>

4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それより確かな年代値の範囲が示された。

試料 No 200603 の SK1133 土器付着おこげ (PLD-5637) は、 1σ 暦年代範囲において Cal BC 980-915 年 (63.8%)、 2σ 暦年代範囲において Cal BC 1020-890 年 (93.8%) であった。同じ土坑から縄文時代晩期中葉の黒川式が多く出土している。

試料 No 200606 の SK1101 の炭化材 (PLD-5640) は、 1σ 暦年代範囲において Cal BC 1090-1000 年 (60.5%)、 2σ 暦年代範囲において Cal BC 1130-970 年 (95.4%) であった。黒川式期の遺構の可能性が予想されているが、縄文時代晩期中葉の年代値を示す。

試料№200611のF14区画の土器付着おこげ(PLD-5635)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 975-905年(68.2%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 1010-890年(93.9%)であった。縄文時代晩期中葉の黒川式と予想されている。

試料№200612のF13区画の土器付着おこげ(PLD-5636)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 945-895年(49.8%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 1000-840年(95.4%)であった。縄文時代晩期中葉から後葉と予想されている。

試料№200614のE13区画の土器付着おこげ(PLD-5638)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 1040-970年(50.2%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 1090-910年(95.4%)であった。縄文時代晩期中葉から後葉と予想されている。

試料№200615のF13区画の土器付着おこげ(PLD-5639)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 905-835年(68.2%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 930-810年(95.4%)であった。縄文時代晩期中葉から後葉と予想されている。

試料№200622のZ14区画の土器付着煤類(PLD-5641)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 1040-970年(50.1%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 1090-910年(94.3%)であった。縄文時代後期末から晩期中葉と予想されている。

試料№200623の表探の土器付着おこげ(PLD-5642)は、 1σ 暦年代範囲においてCal BC 1610-1525年(68.2%)、 2σ 暦年代範囲においてCal BC 1620-1500年(95.4%)であった。縄文時代後期末から晩期中葉と予想されているが、縄文時代後期中頃の年代値を示す。

参考文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. *Radiocarbon*, 37 (2), 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43 (2A), 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $14C$ 年代, 3-20.
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmeli, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.

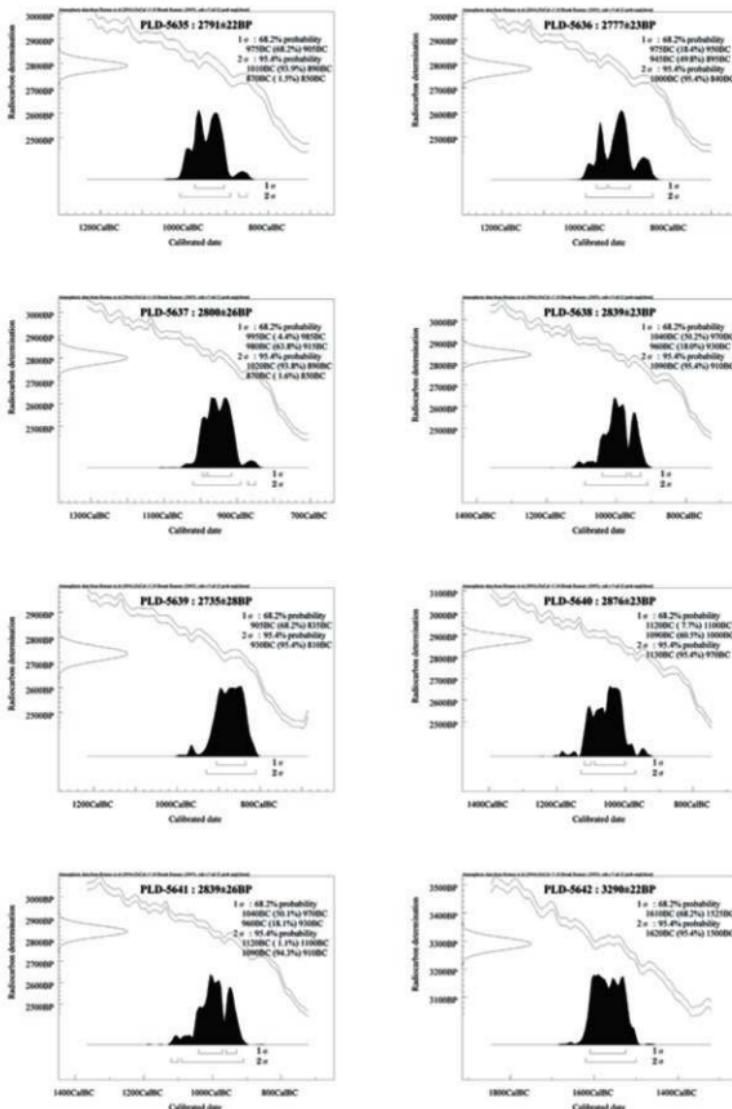


図5-2 年齢校正結果

3 大野遺跡・東畠瀬遺跡出土土器胎土の材料分析

パレオ・ラボ 藤根 久・長友純子

1) はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。

土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される（藤根・今村、2001）。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが予想される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したバレススタイル土器が知られているが、これら3分の1程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが（藤根、1998；車崎ほか、1996）、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層と予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆植物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。

土器胎土については、第一に上器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

ここでは、大野遺跡および東畠瀬遺跡から出土した縄文前期・後期・晩期および弥生前期の各土器について、その胎土の材料を検討した。

2) 試料と方法

試料は、大野遺跡3区、東畠瀬遺跡1区および3区から出土した土器13試料である（表5-5）。

これら試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

表5-5 分析した土器試料とその詳細

試料名	遺跡	出土位置	遺物登録番号	時期	部位	胎土分類
200601	大野遺跡3区	Z2区A面	06000201	縄文後期（二万田式）	口縁部	大野B
200602		A2区面	06000203		口縁部	大野B
200603		Z3区面	06000208		口縁部	大野A
200604		Z3区面	06000204		口縁部	大野C
200605		Z2区面	06000205		口縁部	大野C
200606		Z2区面	06000206		口縁部	大野A
200607		Z2区面	06000207		口縁部	大野A
200608	東畠瀬遺跡1区	F13区面	06000073	縄文前期	口縁部	東畠瀬A
200609		E13区面	06000074		胴部	東畠瀬B
200610		E16区面	06000075		胴部	東畠瀬A
200611		F12区面	06000070		胴部	東畠瀬A
200612	東畠瀬遺跡3区	Z14区面	06000071	縄文前期（曾根式）	胴部	東畠瀬C
200613		Z14区面	06000072		胴部	東畠瀬A

(1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。

(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類（珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴について観察・記

載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

〔珪藻化石〕

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

〔骨針化石〕

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

〔植物珪酸体化石〕

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50 μm 前後である。一般的にプランツ・オ・パールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鉛型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

〔胞子化石〕

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30 μm 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壤中にも含まれる。

〔石英・長石類〕

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が含まれる石英または長石類である。

〔長石類〕

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（バーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。バーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晚期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

〔雲母類〕

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

〔輝石類〕

主として斜方輝石と単斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどの高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を

呈し、柱状である。主として $\text{SiO}_2\%$ が中間から少ない火山岩によく見られ、 $\text{SiO}_2\%$ の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

〔角閃石類〕

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような $\text{SiO}_2\%$ が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

〔ガラス質〕

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや渦りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

〔斑晶質・完晶質〕

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

〔凝灰岩質〕

凝灰岩質は、ガラスや氷物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

〔複合鉱物類〕

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

〔複合石英類〕

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約 0.01mm 未満のものを微細、0.01 ~ 0.05mm のものを小型、0.05 ~ 0.1mm のものを中型、0.1mm 以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

〔砂岩質・泥岩質〕

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約 0.06mm 以上のものを砂岩質とし、約 0.06mm 未満のものを泥岩質とする。

〔不透明・不明〕

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

3) 結果

土器胎土中の微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレバラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や 0.1mm 前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。なお、表 5-6 の微化石類および砂粒の出現頻度は、○が特徴的に多い、○が多い、△が少ない、空欄は検出されないことを示す。鉱物は、+++ が特徴的に多い、++ が多い、+ が少ないが含まれている、である。

No 200601:100-750 μm 、最大粒径 1.7mm。斜長石（双晶）・ガラス付着 斜長石（累帯）・ガラス付着 石英・長石類 複合石英類、斑晶質、凝灰岩質、角閃石類や多い、ジルコン、ガラス質、单斜輝石、雲母類、珪藻化

- 石（沼澤湿地付着生指標種群 *Stauroneis phoenicenteron*、淡水種 *Eunotia biareofera*、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、不明種多産）、骨針化石多産、胞子化石多産、植物珪酸体化石
- No 200602:130-750 μ m、最大粒径 2.2mm。斜長石（双晶）・ガラス質付着 斜長石（累帶）・ガラス質付着 石英・長石類複合石英類、斑晶質、凝灰岩質、角閃石類や多い、ジルコン、ガラス質、單斜輝石、雲母類、珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、不明種多い）、骨針化石多産、胞子化石多い、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
- No 200603: 170-900 μ m、最大粒径 1.7mm。石英・長石類複合石英類）雲母類）斜長石（双晶）、角閃石類やや多い、ジルコン、ガラス質、單斜輝石、植物珪酸体化石少ない（ヨシ属含む）、空隙多い
- No 200604: 170 μ m-2.4mm、最大粒径 3.7mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類やや多い、ジルコン、ガラス質、單斜輝石、珪藻化石（淡水種 *Eunotia biareofera*、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、不明種多い）、胞子化石、植物珪酸体化石少ない
- No 200605:210 μ m-1.3mm、最大粒径 3.4mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類、ジルコン、單斜輝石、植物珪酸体化石少ない
- No 200606:90-750 μ m、最大粒径 2.0mm。石英・長石類複合石英類、雲母類、斜長石（双晶）、斜長石（累帶）、角閃石類、ジルコン、ガラス質、斜方輝石、凝灰岩質、雲母類、表面部空隙多い、黒色不透明粒子多産
- No 200607: 120-750 μ m、最大粒径 1.5mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類、ジルコン、單斜輝石、雲母類、骨針化石
- No 200608:160 μ m-1.0mm、最大粒径 3.3mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類、ジルコン、單斜輝石、[ガラス質]、骨針化石
- No 200609:250 μ m-1.2mm、最大粒径 2.0mm。複合石英類）石英・長石類）複合石英類（微細）砂岩質、斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類、ジルコン、單斜輝石、片理複合石英類、[ガラス質]
- No 200610:120 μ m-1.5mm、最大粒径 1.7mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類、角閃石類、ジルコン、單斜輝石、ガラス質、斜方輝石、凝灰岩質、骨針化石、植物珪酸体化石少ない
- No 200611:150 μ m-1.2mm、最大粒径 2.0mm。石英・長石類複合石英類）斜長石（双晶）、角閃石類、雲母類、ジルコン、斜方輝石、凝灰岩質、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石少ない
- No 200612: 180 μ m-1.1mm、最大粒径 3.1mm。雲母類）雲母複合）石英・長石類）複合石英類（微細）、砂岩質
- No 200613: 120 μ m-1.3mm、最大粒径 2.9mm。複合石英類）石英・長石類）斜長石（双晶）、雲母類多い、角閃石類多い、ジルコン、單斜輝石、ガラス質、斜方輝石、砂岩質、凝灰岩質

4) 考察

i) 微化石類による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が 10 ~ 数 100 μ m（実際観察される珪藻化石は大きいもので 150 μ m 程度）、骨針化石が 10 ~ 100 μ m 前後である（植物珪酸体化石が 10 ~ 50 μ m 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約 3.9 μ m 以下、シルトが約 3.9 ~ 62.5 μ m、砂が 62.5 μ m ~ 2mm である（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。

なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれているものの、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、a) 淡水成粘土を用いた胎土、b) 水成粘土を用いた胎土、c) その他の粘土、に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。

a) 淡水成粘土を用いた胎土（3胎土）

この胎土中には、淡水種珪藻化石の *Pinnularia* 属や *Cymbella* 属などが含まれていた。特に、試料No.1 や No.2 の胎土中には、沼沢湿地付着生指標種群 *Stauroneis phoenicenteron*、沼沢地など見られる *Cymbella* 属、*Pinnularia* 属が多量の破片とともに含まれていた。

b) 水成粘土を用いた胎土（4胎土）

これらの胎土中には、不明種珪藻化石あるいは骨針化石が含まれていた。

c) その他粘土を用いた胎土（6胎土）

これら胎土あるいは粘土塊中には、水成起源を指標する珪藻化石や骨針化石は含まれていなかった。

ii) 砂粒組成による分類

ここで使用した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（表5-6）。岩石の推定は、砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類が深成岩類、ガラス質がテフラ（火山噴出物）、斑晶質が火山岩類、凝灰岩質が凝灰岩類である。推定した起源岩石は、表5-7の組み合わせに従って分類した。

土器胎土中の砂粒組成は、深成岩類を主体としたB群（6胎土）、テフラを主体として凝灰岩類などを伴うGe群（2胎土）、その他堆積岩類を主体としてテフラなどを伴うBg群、凝灰岩類を主体としたE群、堆積岩類を主体として深成岩類などを伴うCb群、堆積岩類を主体としてテフラなどを伴うCg群、堆積岩類を主体としたC群の各1胎土であった。

表5-6 土器胎土中の粘土及び砂粒の特徴

試料番号	粘土の特徴					砂粒の特徴					鉱物の特徴					鉱物注解 体化石	その他の特徴
	分類	種類	淡水成	不明種 珪藻化石	珪藻化石	分類	堆積岩類	深成岩類	火山岩類	テフラ	片岩類	凝灰岩類	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類	
200601	○	淡水成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*	++	*	*	○	
200602	○	淡水成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*	++	*	*	○	
200603	-	その他				B	○	△			*	++	*	***		△	空隙多い、ヨシ根付む
200604	○	淡水成	△	○	○	B	○	△			*	++	*	++	**	△	
200605	-	その他				B	○	○			*	*	*	*	**	△	大型砂粒多い
200606	-	その他				E	△	△			○	*	*	*	*	-	黑色不透明粒子多め、表面空間多い
200607	△	水成		△		B	○				*	++	*	*	*	-	
200608	△	水成		△		B	○	△			*	++	**	*	*	-	
200609	-	その他				Cb	○	○	△		*	++	*	*	*	-	粗粒砂質胎土
200610	△	水成		△		Rg	○	○	○	△	*	++	*	*	**	△	
200611	△	水成		△		B	○			△	*	++	*	*	*	○	
200612	-	その他				C	○								***	-	
200613	-	その他				Cg	△	○	○	△	*	++	*	*	***	-	

Ⅲ) 胎土材料

大野遺跡および東畠瀬遺跡の周辺地域の地質は、いずれも花崗岩類が広く分布する地域である。こうした遺跡周辺の地質学的な特徴から、ここで検討した土器は、大きくは、深成岩類を普遍的に含み、その他起源の岩石を僅かに伴うB群、Bg群、深成岩類以外の岩石を主体とするGe群、Cg群、E群、Cb群、C群に分けることができる。

表5-7 胎土中の岩石片の分類と組み合わせ

岩石の分類群			第1出現群						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片岩類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Ef	Fg	

ガラス質からなるテフラは、遠方から降灰することから、粘土材料とした粘土層中に含まれていることが十分考えられる。深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、在地の材料を用いて作られた土器と考えられる。一方、これ以外の岩石群である堆積岩類や凝灰岩類を主体とした砂粒組成を示す土器は、遺跡周辺の岩石組成とは言えないことから、他地域で作られた土器と考えられる。

なお、深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、試料№200604の胎土のように、淡水種珪藻化石を豊富に含む胎土も見られるが、全体的に微化石類に乏しい粘土を利用していることが理解される。

5) おわりに

大野遺跡および東畠瀬遺跡の縄文および弥生土器の胎土材料について検討した。その結果、遺跡周辺の地質学的な特徴から、ここで検討した土器は、大きくは、深成岩類を普遍的に含み、その他起源の岩石を僅かに伴うB群、Bg群、深成岩類以外の岩石を主体とするGe群、Cg群、E群、Cb群、C群に分けることができた。

以上のことから、深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、在地の材料を用いて作られた土器と考えられる。一方、これ以外の土器は、他地域で作られた土器と考えられる。

引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用。東北地理、42.2.73-88。
- 地質調査研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂 地学事典』。平凡社。1612p。
- 地質調査所（1993）20万万分の1 地質図報「福岡」。地質調査所。
- 藤根 久（1998）東海地域（伊勢-三河-濃尾）の発生および古墳土器の材料。第6回東海考古学フォーラム岐阜大会。土器・墓が語る。108-117。
- 藤根 久・今村美智子（2001）第3回 土器の胎土材料と粘土探源地対象堆植物の特徴。「波志江中宿遺跡」。日本道路公团・伊勢崎市・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。p.262-277。
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用。第四紀研究、27.1-20。
- 車崎正彦・松本 完・藤根 久・夏田 量・古橋美智子（1996）(39) 土器胎土の材料-粘土の起源を中心に-。日本考古学会第62回大会研究発表要旨。153-156。

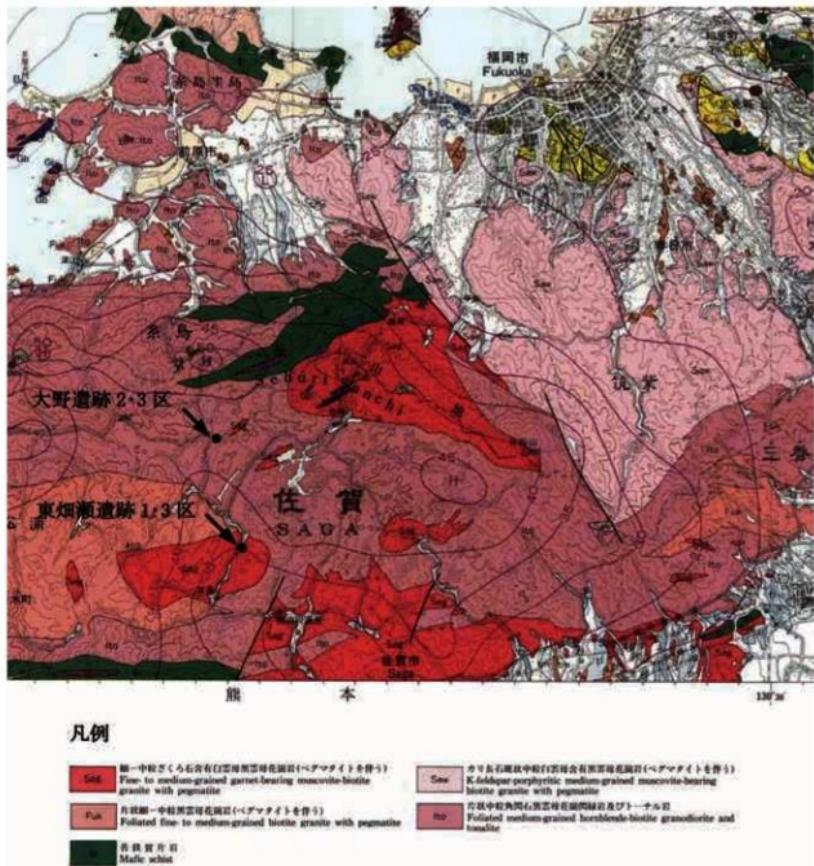
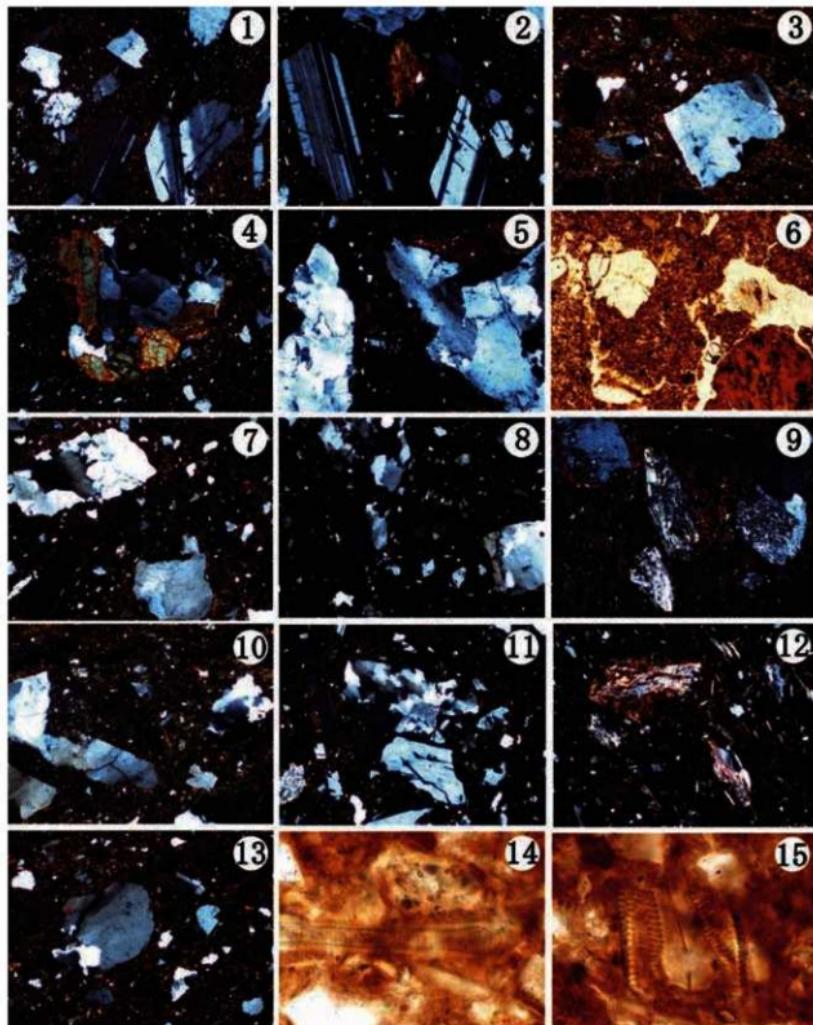


図5-3 遺跡周辺の地質図（地質調査所（1993）を編集）

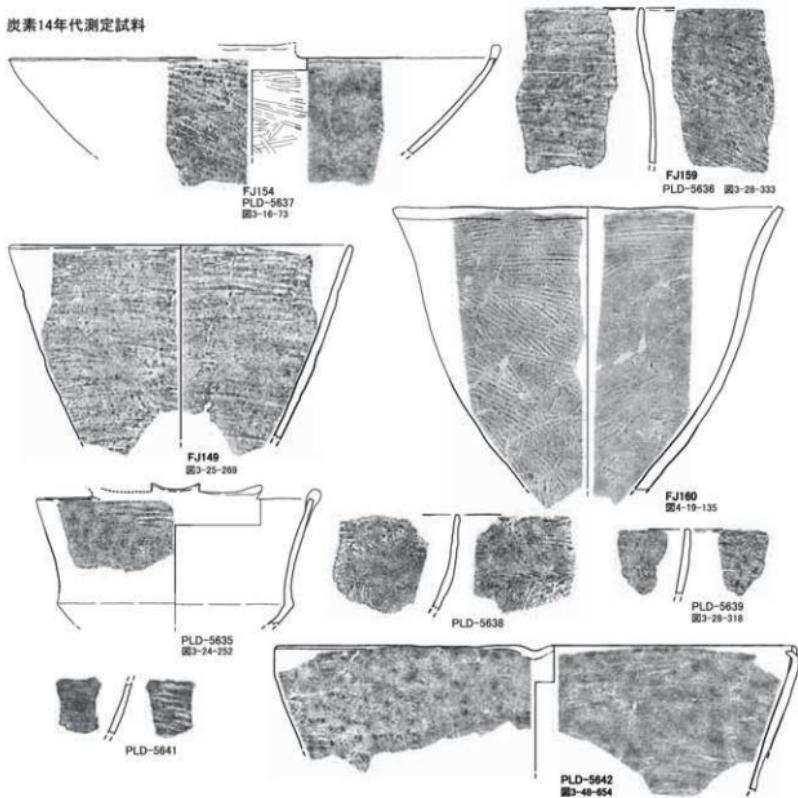


(スケール: № 1-13 が 500 μ m, № 14・15 が 20 μ m)

- | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------------------------------|------------|------------|
| 1. 試料№ 1 | 2. 試料№ 2 | 3. 試料№ 3 | 4. 試料№ 4 | 5. 試料№ 5 | 6. 試料№ 6 |
| 7. 試料№ 7 | 8. 試料№ 8 | 9. 試料№ 9 | 10. 試料№ 10 | 11. 試料№ 11 | 12. 試料№ 12 |
| 13. 試料№ 13 | 14. 淡水種 <i>Eunotia blareofera</i> (試料№ 2) | | 15. 淡水種 <i>Pinnularia</i> 屬 (試料№ 1) | | |

写真図版 5-3 土器胎土および胎土中の珪藻化石の顕微鏡写真

炭素14年代測定試料



胎土分析試料

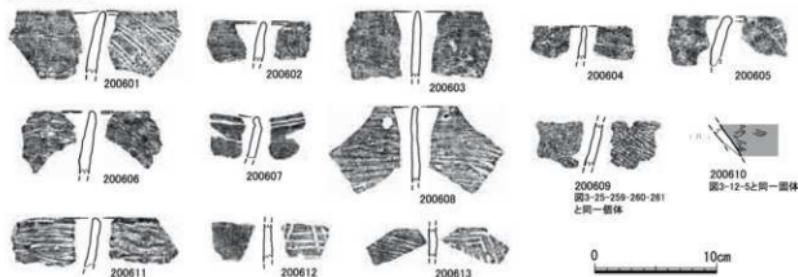
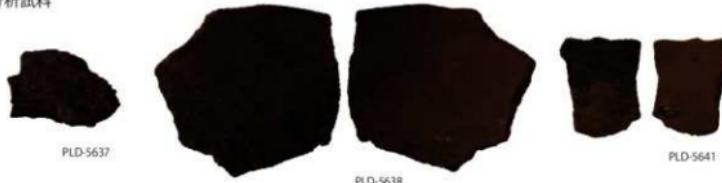
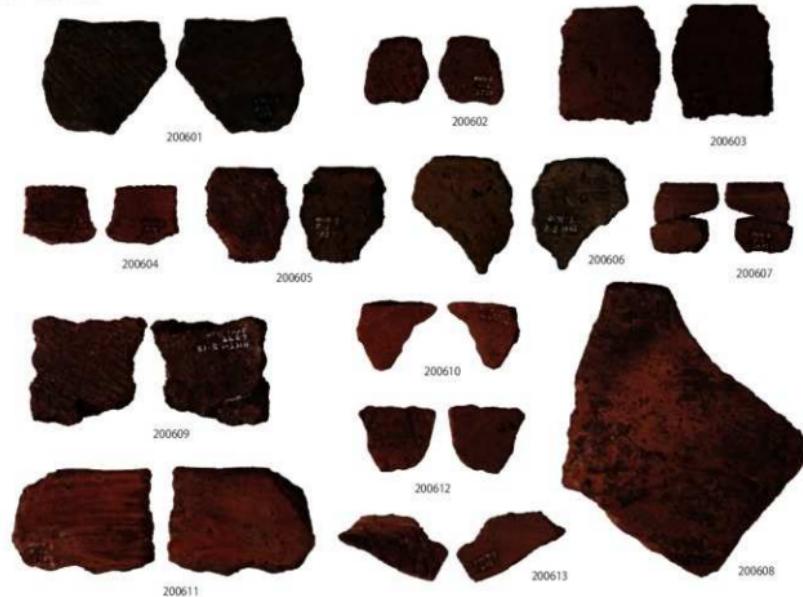


図5-4 付：東塙瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料 (1/4)

年代分析試料



胎土分析試料



東畠瀬遺跡 1・3 区の縄文・弥生土器胎土分類

東畠瀬 A：東畠瀬 1・3 区縄文・弥生土器の大部分。石英・細かい粒子の雲母をやや多く含み、白色の鉱物を少量含む。角閃石を極少量含むものもある。

東畠瀬 B：東畠瀬 1・3 区では少量。石英・白色の鉱物を多く含み、長石・雲母を少量含む。

東畠瀬 C：3 区の前期土器のみ。滑石を多量に含む。

大野遺跡 2・3 区の縄文土器胎土分類

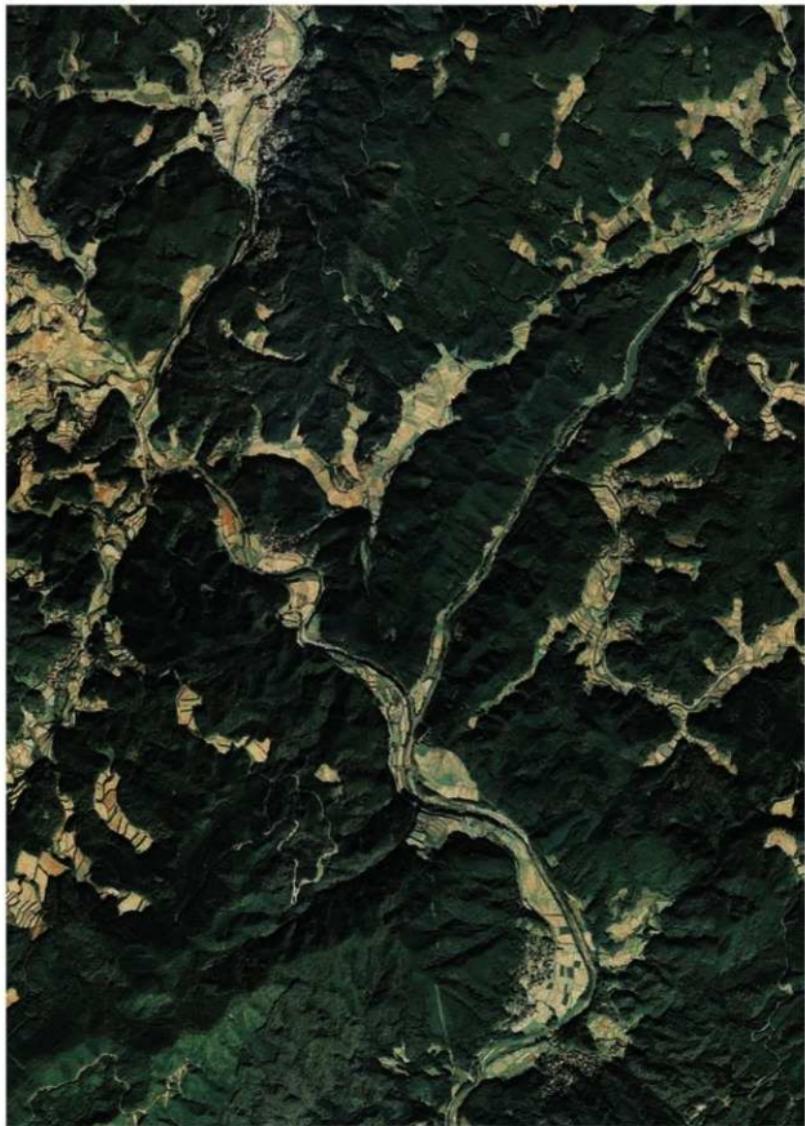
大野 A：大野 2・3 区縄文土器の大部分。石英・長石・雲母を含む、角閃石を極少量含むものもある。

大野 B：大野 2・3 区の 1 割程度。長石を多く含み、角閃石・雲母・石英を少量含む。

大野 C：大野 2・3 区の 1 割程度。石英を多く含み、角閃石・雲母・長石を少量含む。

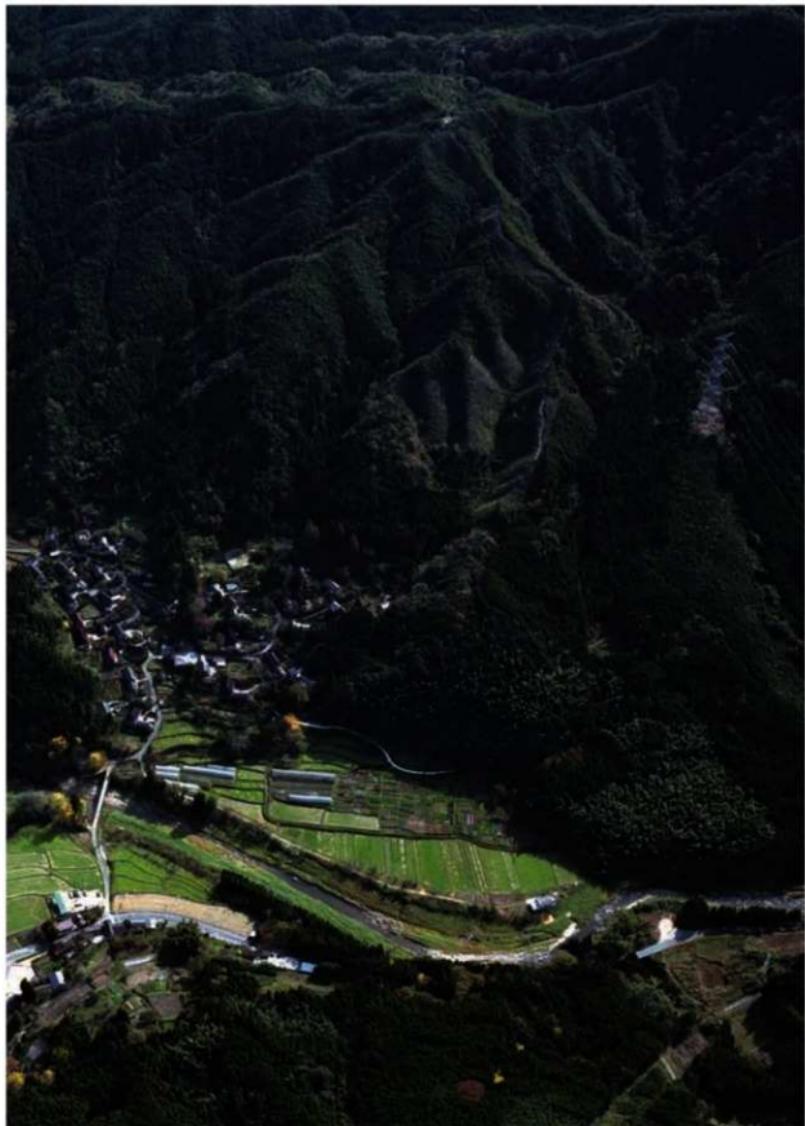
写真図版 5-4 付：東畠瀬遺跡 1・3 区と大野遺跡 2・3 区の分析試料

写真図版



嘉瀬川ダム予定地周辺（眞俯瞰合成）（平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供）

写真図版3-1



東畠瀬遺跡中心部遠景（西から）（平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供）



1区北半縄文～弥生時代調査区全景（北西から）



1区北半縄文～弥生時代調査区全景（南西から）



1区北半縄文～弥生時代調査区全景（西から）

写真図版 3-3



1区F12・13区縄文～弥生時代の調査状況（西から）



1区縄文～弥生時代の調査状況（南から）



1区縄文～弥生時代の調査状況（北西から）



1区F13区縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）



1区F13区縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）



1区G13区縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）



1区F11区縄文～弥生時代の遺物出土状況（西から）



1区E11区縄文～弥生時代の遺物出土状況（北から）



SH1110 棚出状況（北から）



SH1110 完掘状況（北から）



SH1110 完掘状況（西から）

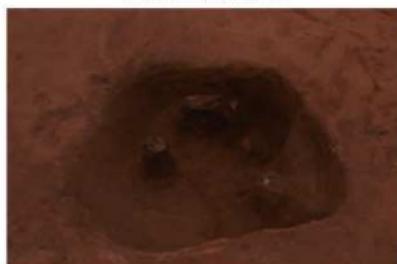
写真図版 3-5



SX1139 完掘状況 (南から)



SX1139 内の石組炉 (南から)



SK1101 (南から)



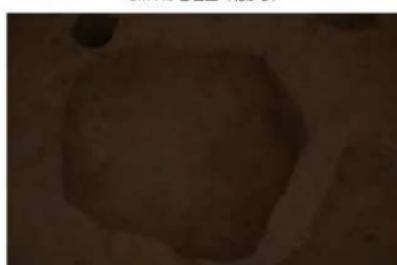
SK1125 (南から)



SK1118 と石皿 (北から)



SK1130 (西から)



SK1135 (北から)



SK1136 (西から)



SK1113 (北から)



SK1129 (北から)



SK1111 + 1112 (西から)



SK1121 (西から)



SK1122 (北から)



SK1137 (西から)



SK1114 (南から)



SK1102 半掘状況 (西から)

写真図版 3-7



SK1123 (北から)



SK1124 (北から)



SX1131・SK1132・SK1133 (北から)



SX1134 (西から)



SX1119 (西から)



SK1115 (東から)



SK3002 半掘状況 (西から)



SK3003 完掘状況 (東から)

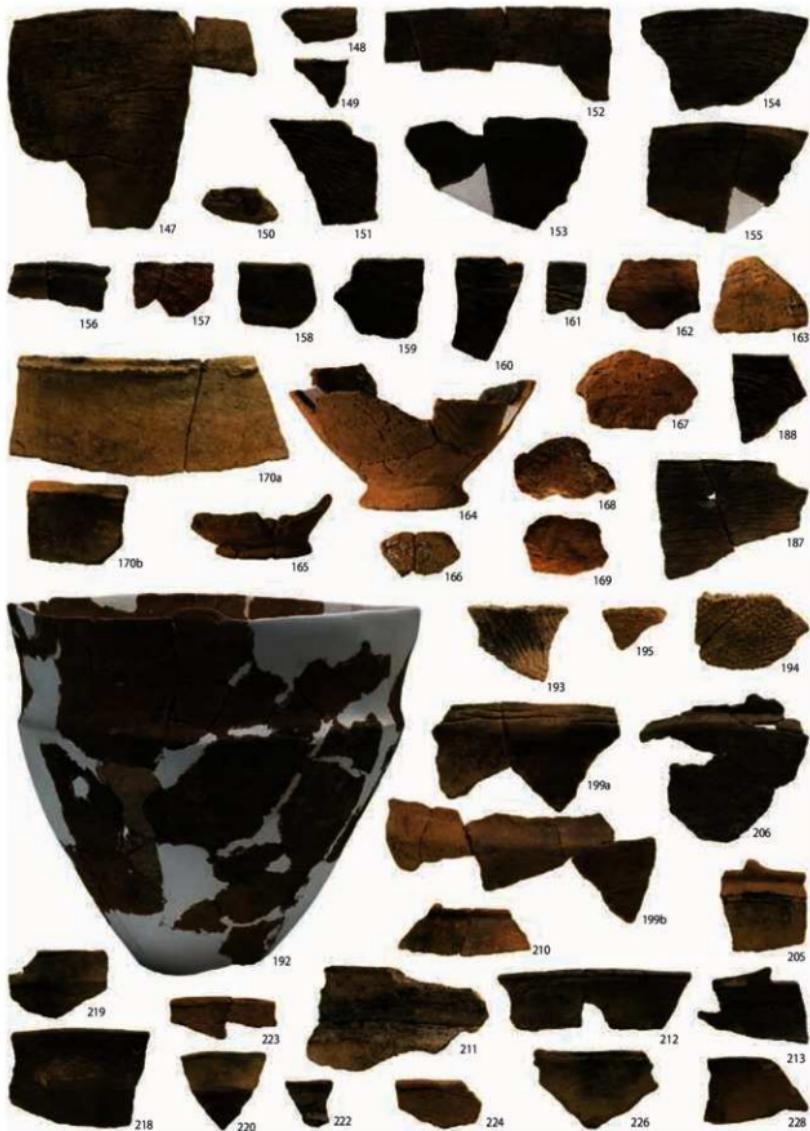


1区縄文～弥生土器 1

写真図版3-9



1区縄文～弥生土器2



1区縄文～弥生土器 3

写真図版3-11



1区縄文～弥生土器4



1区縄文～弥生土器 5

写真図版3－13

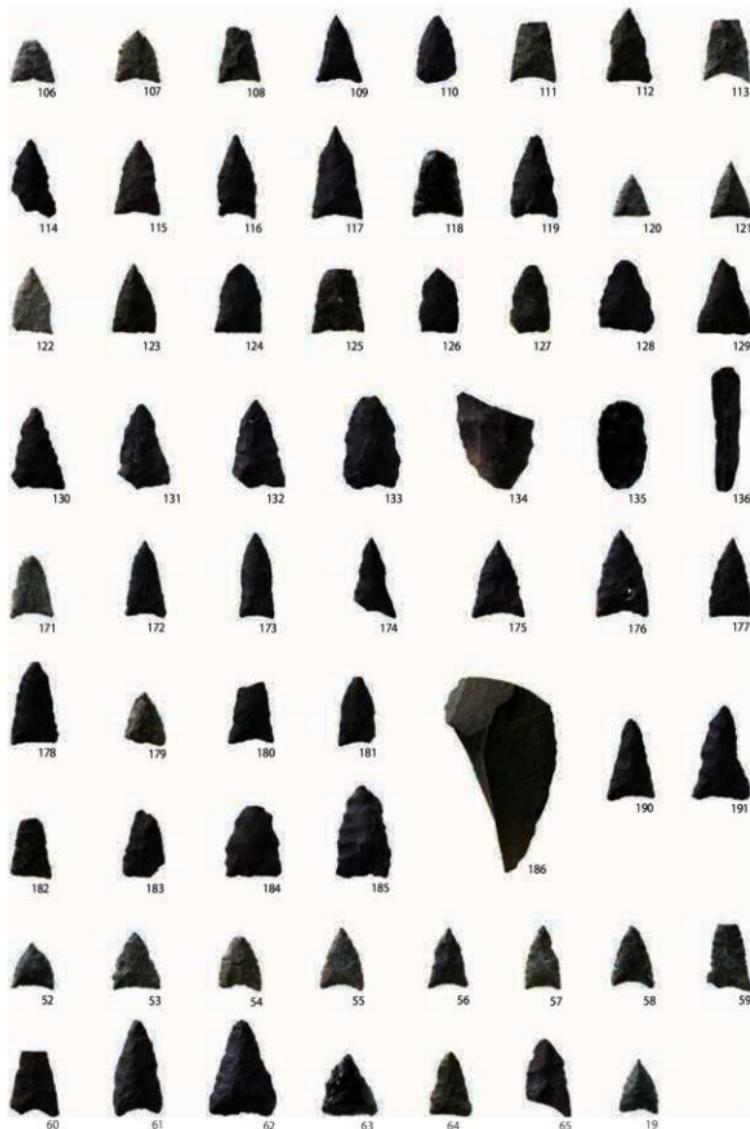


1区縄文～弥生土器6

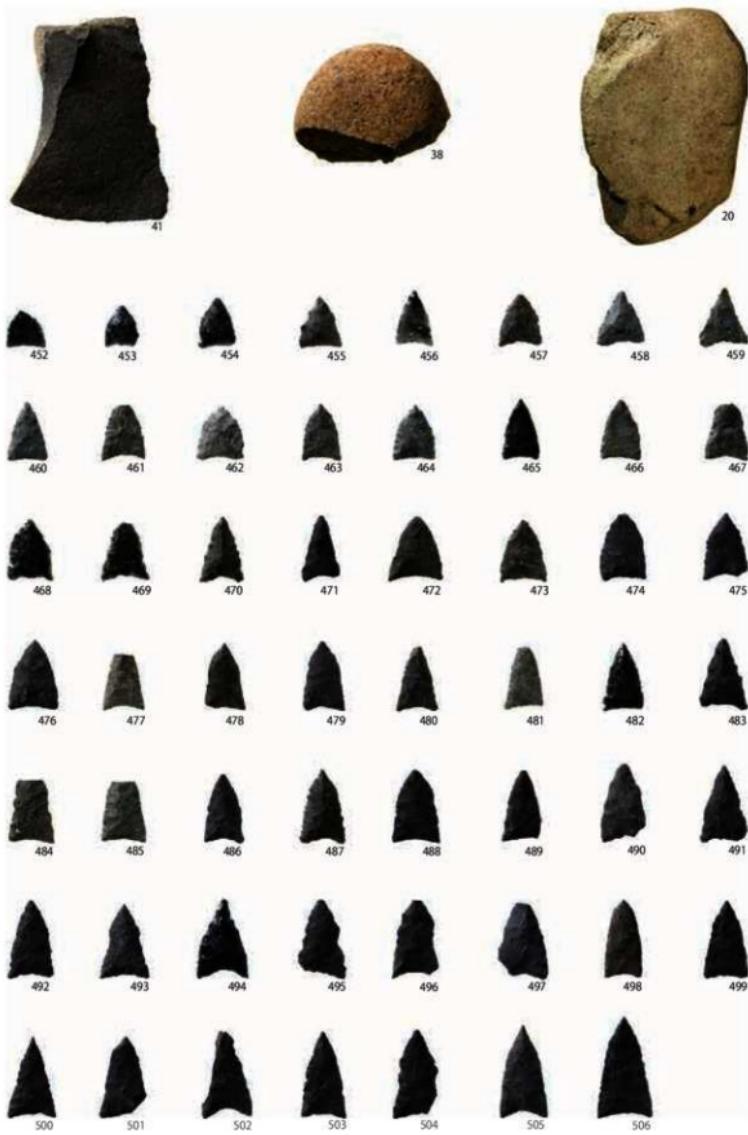


1区縄文～弥生土器 7

写真図版3－15



1区複文石器 1



1区複文石器 2

写真図版3－17



1 区塊文石器 3

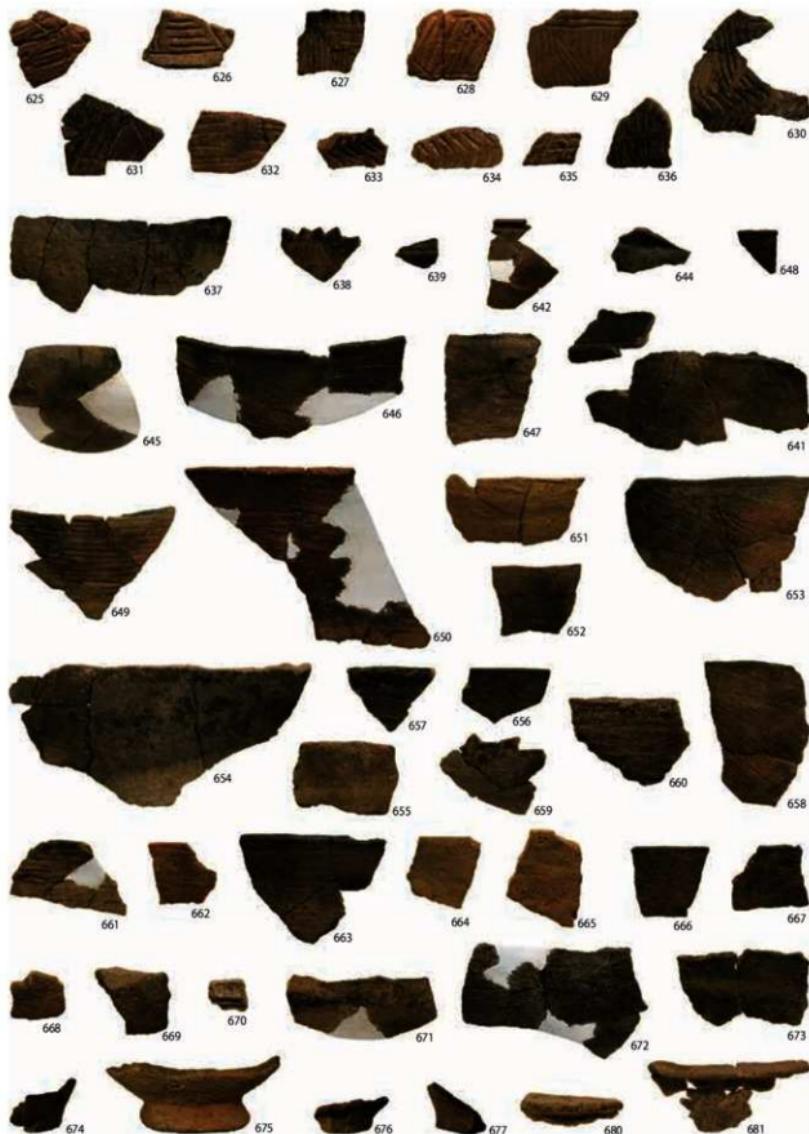


1区縄文石器 4

写真図版3-19

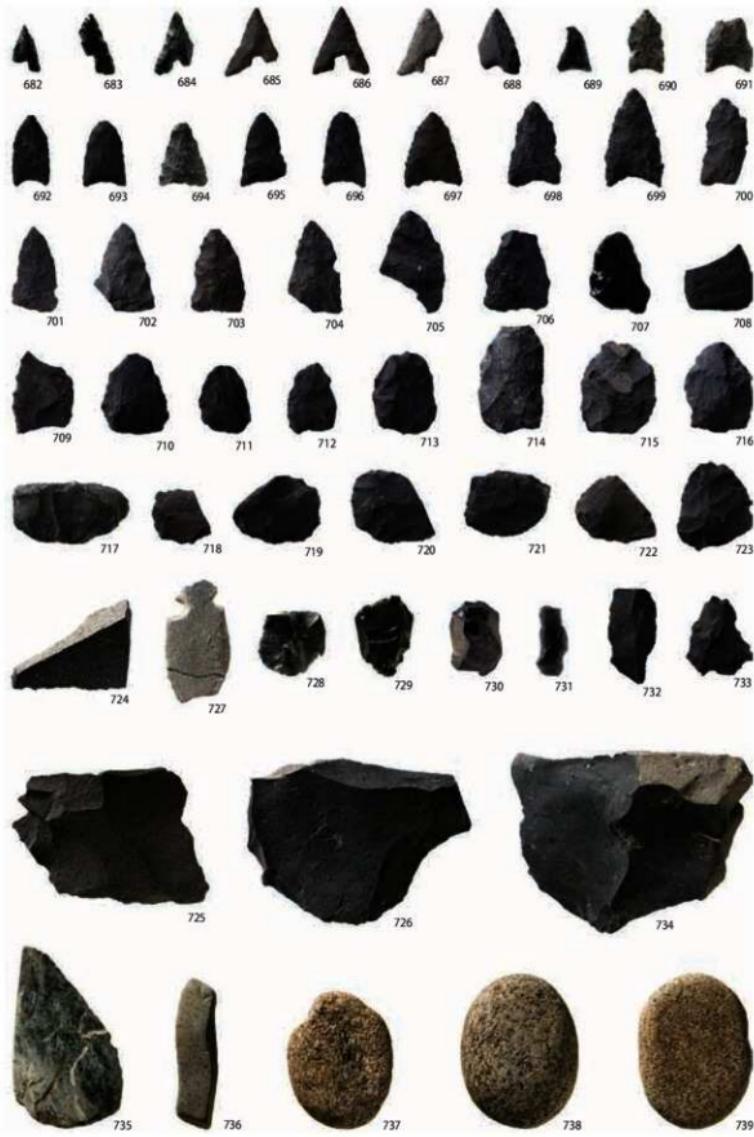


3区縄文～弥生土器 1



3区縄文～弥生土器 2

写真図版3-21



3区縄文石器



1区北半中世～近世調査区全景（北西から）



1区南半中世～近世調査区全景（北西から）



1区北半中世遺構集中部（北西から）



1区南半中世遺構集中部（北東から）



1区中世遺構の調査状況（北から）



SP1009 青磁碗出土状況（北から）



SX1021（西から）



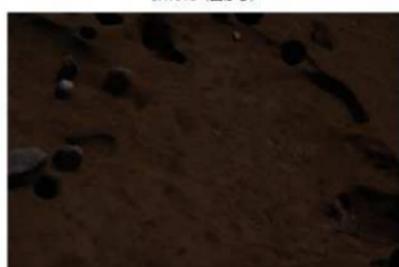
SX1011（西から）



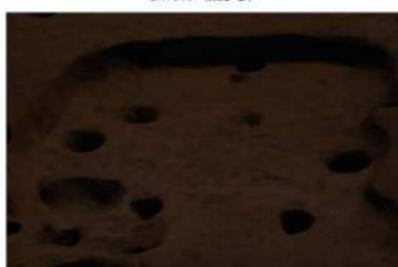
SX1016（西から）



SX1019（東から）



SX1017（西から）



SX1018（西から）

写真図版3－25



SX1015 (南から)



SK1020 (北から)



SX1043 (南から)



P1288 瓦器出土状況 (東から)



3区主要部の調査状況 (北西から)



八龍社跡 SB3001 (北から)



八龍社跡の平坦面 (西から)



八龍社跡の遺物出土状況 (西から)



1区中世～近世の遺物 1

写真図版3－27



1区中世～近世の遺物2



1区中世～近世の遺物 3

写真図版3－29



1区中世～近世の遺物4・3区八龍社跡中世～近世の遺物1

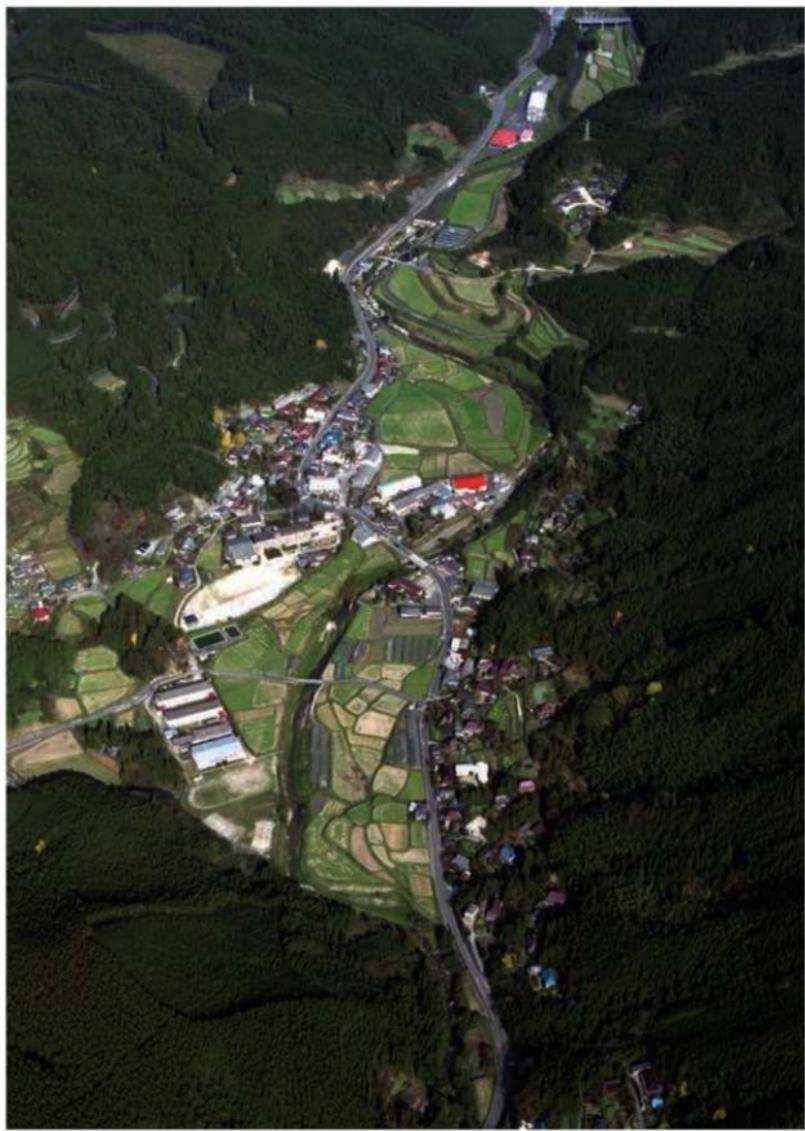


3区八龍社跡中世～近世の遺物 2

写真図版 3 – 31



3 区八龍社跡中世～近世の遺物 3



遺跡全景（平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供）

写真図版 4-2



SH3020(南から)



SX3019 検出状況 (西から)



縄文時代の調査状況（南から）



縄文時代の調査状況（南から）



SH3020 土層（西から）



SX3019（北から）



SX3017 半掘状況（東から）



SX3012 土層（東から）



SX3014 検出状況（西から）



SX3023 半掘状況（東から）

写真図版 4-4



SX3025 半掘状況（西から）



SX3028 検出状況（東から）



SX3026 検出状況（西から）



SX3028 半掘状況（東から）



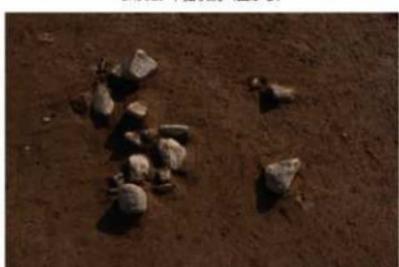
SX3032 検出状況（西から）



SX3029 半掘状況（西から）



SX3032 半掘状況（西から）



SX2043（北から）



縄文土器 1

写真図版 4-6



縄文土器 2



绳文土器 3

写真図版 4-8



縄文土器 4



縄文土器 5

写真図版 4 – 10

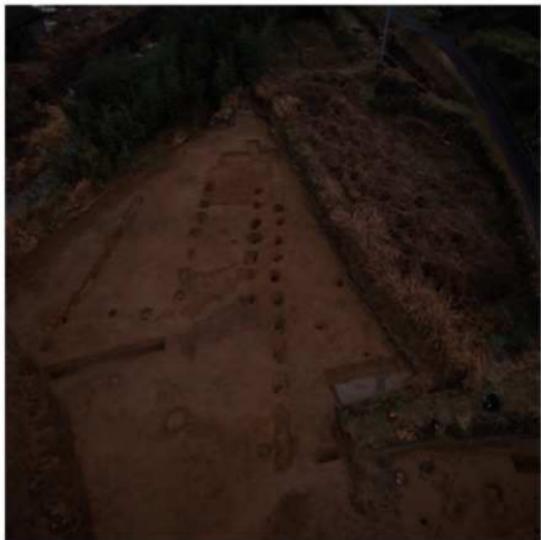


石器 1

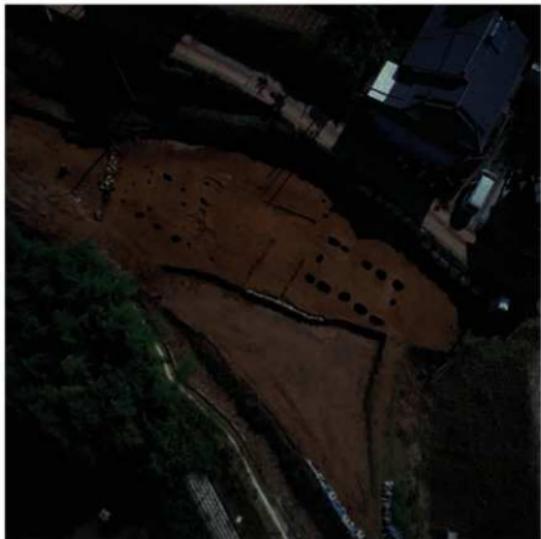


石器 2

写真図版 4－12



SB2034 周辺 (南西上空から)



3 区近世全景 (上空から)



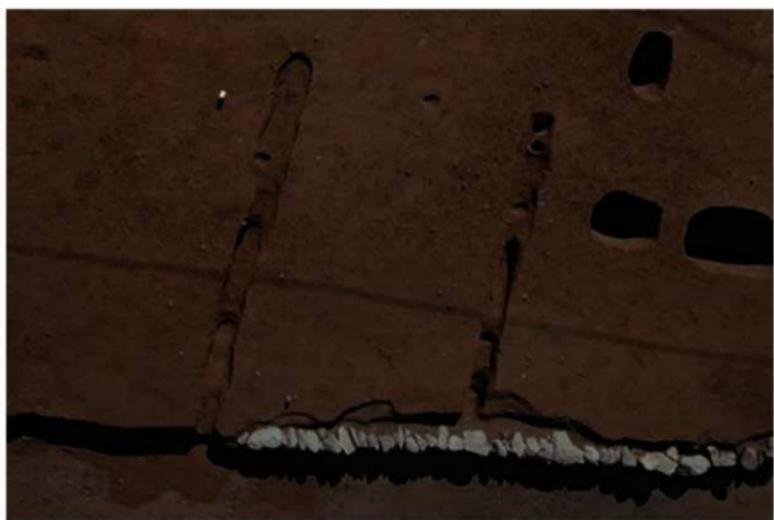
SB2034 (真上から)



SB3001 (真上から)



SB3002 (真上から)



SB3006 (真上から)



SK3010 (東から)



SD2022 (南東から)



SD2022 土層 c - d (西から)



SD2022 土層 e - f (西から)



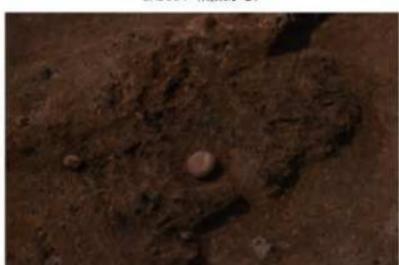
SA2036 (南西から)



SX3004 (南東から)



SX3005 (北から)



SX3004 遺物出土状況 (南東から)

写真図版 4 - 16



中近世遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがしはたせいき 1・おおのいせき 1							
書名	東烟瀬遺跡1・大野遺跡1							
副書名	嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 170 集							
編著者名	徳永貞輔・渋谷 格・濱田美紀・秦 広之 藤尾慎一郎・小林謙一・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ・藤根 久・長友純子							
発行機関	佐賀県教育委員会							
所在地	〒 840-8570 佐賀市城内一丁目 1 番 59 号							
発行年月日	平成 19(西暦 2007) 年 3 月 30 日							
ふりがな 所収跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯 °'\"/>	東 緯 °'\"/>	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
東烟瀬遺跡	佐賀市富士町大字閑原	412045	-	33° 23' 29" (世界測地系) 33° 23' 41"	130° 13' 23" (世界測地系) 130° 13' 15"	1区 20001201 ~ 20020725 3区 20030704 ~ 20040317	1区 6,000 3区 12,000	嘉瀬川ダム建設 に伴う事前調査
大野遺跡	佐賀市富士町大字大野 大字下無津呂	412045	-	33° 25' 41" (世界測地系) 33° 25' 53"	130° 12' 21" (世界測地系) 130° 12' 13"	2区 20000904 ~ 20010227 3区 20030827 ~ 20031222	2区 2,000 3区 500	脊振山間部の 弥生時代開拓期 前後の集落
所収跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東烟瀬遺跡	集落	縄文～弥生	竪穴住居 1 石開炉 1 土坑 25 不整形落ち込み 2 焼土炭化物集中 1 土器片集中 1	縄文土器 弥生土器 石器	脊振山間部の 弥生時代開拓期 前後の集落			
	集落・神社	中世～近世	掘立柱建物 9 櫛列 11 土坑墓 1 土坑 12 竪穴遺構 6	土師器・瓦器 須恵器系陶器 中国陶磁 朝鮮陶磁 近世陶磁 錢貨・石製品	中世安富丘開 墾の屋敷地か 中世～近世の 神社社殿			
大野遺跡	集落	縄文	竪穴住居 1 焼土遺構 21 土坑 5 炭化物集中 2	縄文土器 石器	三万田式期 単純の集落 内端抉入石器			
	集落	弥生～近世	土坑 2	弥生土器・土師器 中国陶磁 朝鮮陶磁 肥前陶磁	脊振山間部の 古墳時代遺構			
	官衙？	近世	掘立柱建物 4 櫛列 2	土師器 瓦器 中国陶磁 肥前陶磁	近世初期の 企画的建物群 大野代官所の 前身遺構か			

佐賀県文化財調査報告書第 170 集
東烟瀬遺跡 1・大野遺跡 1

東烟瀬遺跡 1・3 区 大野遺跡 2・3 区
—高瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1 —

平成 19 年（2007）年 3 月 30 日

発行 佐賀県教育委員会
〒 840-8570 佐賀県佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号

印刷 （株）佐賀印刷社
〒 849-0921 佐賀県佐賀市高木瀬西 6 丁目 11 番 7 号

